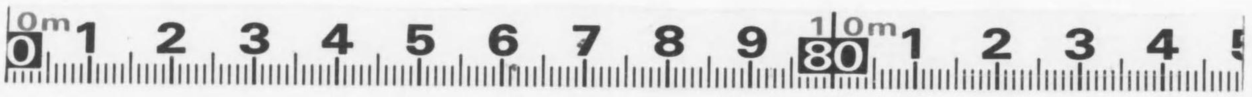
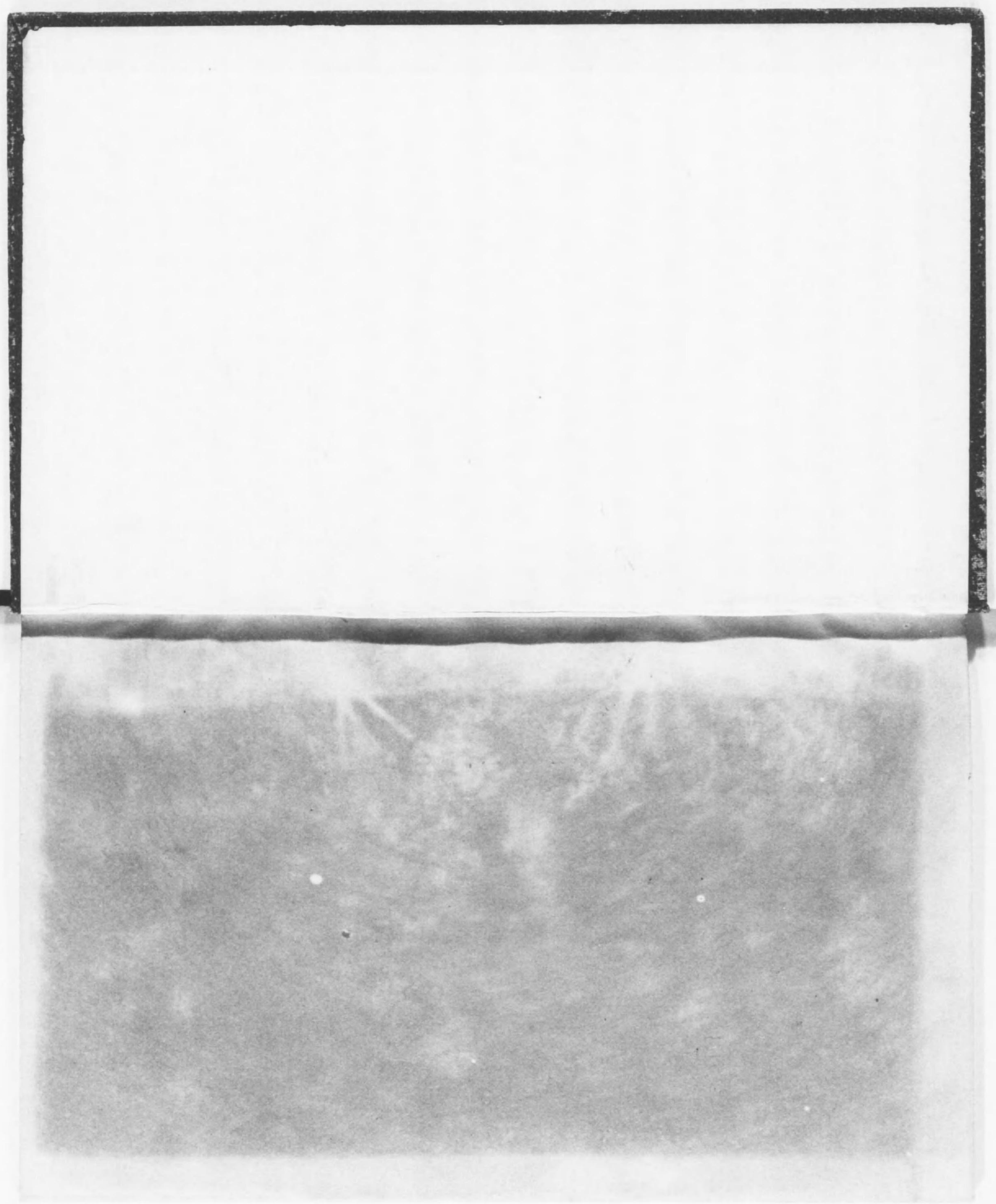


259-503
12006009958 85



文部省中等教員

各科受驗者の手引

文檢研究會

東京神田

大同館藏版

259
503

緒言

本書は文部省教員檢定試驗各科受驗者の完全なる手引たらんことを期して生まれたものである。

編者はこれが爲めに先づ第一章に於て、各科試驗委員が從來發表された談話を悉く蒐集し、その必要なる部分を悉く抽いて以て、從來の受驗者の通弊を示し、今後の受驗者の注意しなければならぬ大綱を說いた。受驗者は何事を措きても先づ本章を熟讀玩味しなければならぬ。

次に第二章に於ては各科合格者の經驗談を出來る限り多く蒐集して以て、必讀參考書、時間の利用法、研究上受驗上の諸注意等苟くも受驗者の心得なければならぬ事項は細大となく說示した。殊に參考書の選擇には最も意を用ひ、最多數の合格者の讀んだもので而も出來るだけ近刊のものを採り、又最新刊であつて未だ合格者によつて讀まれないものでも好評あり信賴し得るに足るものは悉くこれを收めたのである。昨年の震火災によつて從來受驗者に讀まれ來つた良書で復活しないものも少くないことと思ふが、本書に擧げたものは優にそれに代ることが出來ると信ずる。受驗者はその點は安心して編者を信賴して可なりである。其の他の點に於ても急所要所は漏れなく說いたつもりである。

受驗者は本書を手引きとして研究し受驗さるゝならば無駄骨を折るとなくして良果を收め得ることと信ずる。

大正十三年初夏

編者識

I種
W
1200600995885

文部省檢定 中等教員 各科受驗者の手引 目次

第一章　各科の受驗者へ……一

第一節　研究上の諸注意……一

天分と努力……良參考書の選擇が肝心……學科の研究法を工夫せよ……確實に論理的に……

常に教育者たることを忘るゝな……

第二節　試驗場に於ける諸注意……一一

落着くことが何よりも肝心……解答の順序と時間の配當を考へよ……簡潔にして要をつくせ

……知らぬを知らぬとせよ……時間を十分に利用せよ……風采態度言語……

第二章　教育科……二〇

第一節　試驗委員より受驗者へ……二〇

一、受驗者の通弊……(知識が雜駁……理論と實際との關係に無頓着……無反省不徹底)……

二、受驗者に對する注意と希望……(基礎學研究の必要…歷史的研究と第一資料の研究…發表法を練習せよ…口頭試驗に對する準備と注意)…

第二節　合格者より受驗者へ……三七

一、如何なる參考書を讀むべきか……(心理學…論理學…教育學…教育史…教授及訓練…最近思潮…管理及行政…其他)……二、如何なる研究法をとるべきか……(研究の三册…讀書法…ノート記載法)……三、時間を如何に利用すべきか…四、筆答試驗に對する準備と注意…五、口答試驗に對する準備と注意…

第三章　修身科……五七

第一節　試驗委員より受驗者へ……五七

一、受驗者の通弊……(不消化なる亂讀…狹猜なる讀み方…實際問題の閑却…四書の輕視…教案の答案が不良)……二、受驗に對する注意と希望……(歷史的の考察…原書の讀破…

第二節　合格者より受驗者へ……六九

一、如何なる參考書を讀むべきか……(倫理學…西洋倫理學史…東洋倫理學史…日本倫理學史…國民道德實踐倫理及教科書…其他)…二、如何なる研究法をとるべきか…(一般的研究法…四書の研究法)…三、時間を如何に利用すべきか…四、筆答試驗に對する準備と注意…五、口答試驗に對する準備と注意…

第四章　法制及經濟科……八三

第一節　試驗委員より受驗者へ……八三

一、受驗者の通弊……(一般原理の理解が不十分)…二、受驗者に對する注意と希望…(精讀か多讀か…自己の意見を大膽に明瞭に)…

第二節　合格者より受驗者へ……九一

一、如何なる參考書を讀むべきか……(法制の部…教科書及通論…憲法…行政法…民法…刑法等)…(經濟の部…經濟學…財政學…其他)……二、如何なる研究法をとるべきか…三、時間を如何に利用すべきか……(合格者の實行案…如何に多忙でも勉強時間はある)…四、筆答試驗に對する準備と注意…五、口答試驗に對する準備と注意…

第五章　歷史(日東史)科……一〇六

第一節　試驗委員より受驗者へ……一〇六
一、受驗者の通弊……(淺薄散漫……史眼の缺乏……國漢の素養が不十分……答案の記述が拙劣)……二、受驗者に對する注意と希望……(好ましき研究法……如何なる參考書を讀むべきか……他の歷史との關係に留意せよ……教授法の研究も必要)……

第二節　合格者より受驗者へ……一二一
一、如何なる參考書を讀むべきか……(日本史……東洋史)……二、如何なる研究法をとるべきか……(反覆熟讀……失敗三則)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、口答試驗に對する準備と注意……

第六章　歷史(西洋史)科……一三五

第一節　試驗委員より受驗者へ……一三五
一、受驗者の通弊……(地理的知識の缺乏)……二、受驗に對する注意と希望……(生きた教授をなし得る樣に研究せよ……近代史の知識を得るには……外國語の素養あることが望ましい)……

第二節　合格者より受驗者へ……一四〇
一、如何なる參考書を讀むべきか……二、如何なる研究法をとるべきか……(ノートはかくの如く作れ)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、口答試驗に對する準備と注意……

第七章　地理科……一五六

第一節　試驗委員より受驗者へ……一五六
一、受驗者の通弊……(知識が不確實で暗記的……實地の研究が不十分)……二、受驗者に對する注意と希望……(獨學上の心得……外國語の必要……答案の記述法)……

第二節　合格者より受驗者へ……一六三
一、如何なる參考書を讀むべきか……(教科書と地圖……地誌……地文……人文……地理全般……雜誌其他……機械標本)……二、如何なる研究法をとるべきか……(先づ問題を研究せよ……移動事項の集輯……研究材料を蒐集せよ……地圖に親しめ……研究題目帖を作れ……疑問ノートを備へよ……大問題に主力を注げ……實地研究を如何にすべきか……地理研究者の態度)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗にする準備と注意……五、口答試驗に對する準備と注意……

第八章　英語科……一八九

第一節　試驗委員より受驗者へ……一八九

一、受驗者の通弊……(學力が甚しく不足……發音が不完全……文法の知識が不確實……風俗習慣等に關する知識の缺乏)……二、受驗者に對する注意と希望……(發音の練習に就て……文法及作文の練習法……解釋力を養ふには)……

第二節　合格者より受驗者へ……一九八

一、如何なる參考書を讀むべきか……(英文和譯……英文法及熟辭學……和文英譯……會話……發音學……風俗習慣に關する書……雜誌及新聞……辭書)……二、如何なる研究法をとるべきか……(作文讀讀書法をとれ……發音の研究は此の如くせよ……單語は出來るだけ多く記憶せよ)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、口答試驗に對する準備と注意……

第九章　國語科……二二四

第一節　試驗委員より受驗者へ……二二四

一、受驗者の通弊……(常識的非學術的……內容の理解が不十分……現代語に疎い)……二、受驗者に對する注意と希望……(眞面目な研究とは……精讀か通讀か……文典は斯くの如く研究せよ……文學史研究上の注意……作文を輕視するな……答案の認め方に就いて)……

第二節　合格者より受驗者へ……二四二

一、如何なる參考書を讀むべきか……(指定解釋書……指定書以外の解釋書……設問に關する參考書……辭書其他)……二、如何なる研究法をとるべきか(解釋書の研究に就て……設問に關する參考書の研究に就て……作文の練習に就て)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……(豫備と本試驗の程度……答案の認め方)……五、口述試驗に對する準備と注意……

第十章　漢文科……二六五

第一節　試驗委員より受驗者へ……二六五

一、受驗者の通弊……(漢作文の成績が不良……地理歷史の知識がない)……二、受驗者に對する注意と希望……(參考書研究上の注意……設問の準備を如何にすべきか……白文練習の方法如何……問題の主要點に全力を用ひよ)……

第二節　合格者より受驗者へ……二八〇
一、如何なる參考書を讀むべきか……(指定解釋書以外の解釋書……設問に關する參考書……辭書其他)……二、如何なる研究法をとるべきか……(解釋書の研究に就て……時文の研究に就て……白文訓點の方法に就て……設問に關する參考書の研究に就て……漢文の練習に就て)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意
五、口答試驗に對する準備と注意……

第十一章　數學科……三〇〇

第一節　試驗委員より受驗者へ……三〇〇
一、受驗者の通弊……(規則改正の趣意とその結果……徹底してゐない……論理が不正確……計算に不熟練)……二、受驗者に對する注意と希望……(學習の方法に注意せよ……徹底的に理解せよ……全然獨學はむつかしい……外國語を讀めることが望ましい)……

第二節　合格者より受驗者へ……三一九
一、如何なる參考書を讀むべきか……(算術……代數……幾何……三角法……解析幾何學……微分積分學……其他)……二、如何なる研究法をとるべきか……獨力にて問題を解く習慣を養へ……友人と解し合ふも亦一法……三角法の研究に就て)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、口答試驗に對する準備と注意

第十二章　物理科……三三四

第一節　試驗委員より受驗者へ……三三四
一、受驗者の通弊(……實驗が成つてゐない……數學の力が不十分)……二、受驗者に對する注意と希望……(數授法に熟達するには……新事實新現象にも注意せよ……外國語を讀めるが得策)……

第二節　合格者より受驗者へ……三四〇
一、如何なる參考書を讀むべきか……二、如何なる研究法をとるべきか……(理論……實驗)
三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、實地及口答試驗に對する準備と注意……

第十三章　化學科……三四九

第一節　試驗委員より受驗者へ……三四九

一、受驗者の通弊……(不成績な方面……實驗がなつてゐない)……二、受驗者に對する注意と希望……(力の注ぎ所……外國語)……

第二節　合格者より受驗者へ……三五五

一、如何なる參考書を讀むべきか……(無機化學……有機化學……理論化學……實驗及分析化學……雜誌)……二、如何なる研究法をとるべきか……(參考書の研究……實驗及分析)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、實地及口答試驗に對する準備と注意……

第十四章　植物科……三六五

第一節　試驗委員より受驗者へ……三六五

一、受驗者の通弊……(知識が不整頓……實物の研究が不十分)……二、受驗者に對する注意と希望……(かたよるな……答案認め方の注意……學問の進歩におくれぬ樣にするには)……

第二節　合格者より受驗者へ……三七三

一、如何なる參考書を讀むべきか……二、如何なる研究法をとるべきか(參考書の讀み方……採集に就て……組織の研究に就て)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗の準備と注意……五、口答試驗の準備と注意

第十五章　動物科……三九五

第一節　試驗委員より受驗者へ……三九五

一、受驗者の通弊……(觀察力が不十分)……二、受驗に對する注意と希望……(觀察力と推理力……力の注ぎ所)……

第二節　合格者より受驗者へ……四〇一

一、如何なる參考書を讀むべきか……二、如何なる研究法をとるべきか……(實驗觀察を土臺とせよ)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、口答試驗に對する準備と注意……

第十六章　生理衞生科……四一〇

第一節　試驗委員より受驗者へ……四一〇

一、受驗者の通弊……(衞生の成績も案外によくない)……二、受驗者に對する注意と希望……(一般的の事柄を的確に……實際に活用し得ねばならぬ……衞

生の參考書に就て)……

第二節　合格者より受驗者へ……四一八

一、如何なる參考書を讀むべきか……二、如何なる研究をとるべきか……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、口答試驗に對する注意……

第十七章　鑛物科……四二二

第一節　試驗委員より受驗者へ……四二二

一、受驗者の通弊……(むつかしいものと思ひ過ぎる……暗誦本位で實物が分らぬ)……二、受驗者に對する注意と希望……(基礎學科と參考書に就て)

第二節　合格者より受驗者へ……四二八

一、如何なる參考書を讀むべきか……二、如何なる研究法をとるべきか……(參考書の研究……實地の研究)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意五、口答試驗に對する準備と注意……

第十八章　理科……四三五

第一節　試驗委員より受驗者へ……四三五

一、受驗者の通弊……(書物學問に過ぎる)……二、受驗者に對する注意と希望……(必要なる準備……家事的に研究せよ)……

第二節　合格者より受驗者へ……四四〇

一、如何なる參考書を讀むべきか……(植物學……動物學……生理衛生學……鑛物學……物理學……化學……其他)……二、如何なる研究法をとるべきか……(研究上の四大綱領……實地方面の研究について)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、口答試驗に對する準備と注意……

第三節　師範學校・中學校物理及化學實驗要目……四五七

一、文部省訓令第一號……二、師範學校物理及化學生徒實驗要目……(要目實施上の注意……物理男生徒の部……物理女生徒の部……化學男生徒の部……化學女生徒の部)……三、中學校物理及化學生徒實驗要目……(要目實施上の注意……物理……化學)……四、中學校物理及化學教材中省畧し得る事項……(物理の部……化學の部)……五、師範學校中學校物理化學生徒實驗に對する教員の注意……

第十九章　習字科……四七二

第一節　試驗委員より受驗者へ……四七二

一、受驗者の通弊……(書學の知識が無い)……二、受驗者に對する注意と希望……(秩序的に修練し三拍子揃へよ……一流に片寄るな)……

第二節　合格者より受驗者へ……四七六

一、如何なる參考書を讀むべきか……(中等習字帖……千字文……古法帖の類……草書の手引……書論……教授法……雜誌)……二、如何なる研究法をとるべきか……(合格の程度……書風……手本の選定……練習の順序方法……不斷の練習が必要)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、口答試驗に對する準備と注意……

第二十章　圖畫科……四九八

第一節　試驗委員より受驗者へ……四九八

一、受驗者の通弊……(實力のないこと甚しい……念が入らぬ)……二、受驗者に對する注意と希望……(先づ寫生を學べ……中等教員の學ぶべき畫……教授法に熟達するには……圖畫教授の本旨……用器畫の參考書研究法並に答案の認め方に就て)……五二二

第二節　合格者より受驗者へ……五二二

一、如何なる參考書を讀むべきか(用器畫……圖案……鉛筆畫……毛筆畫……其他)……二、如何なる研究法をとるべきか……(用器畫の研究に就て……毛筆畫の研究に就て……鉛筆畫の研究に就て)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、口答試驗に對する準備と注意……

第廿一章　手工科……五三三

第一節　試驗委員より受驗者へ……五三三

一、受驗者の通弊……(豫備試驗に於て不成績なる方面……本試驗に於て不成績なる方面)……二、受驗者に對する注意と希望……(正確にして敏速なるを尚ぶ……練達者の實技を學べ……日常の器具に注意せよ……教授法は實地に就て練習せよ……一般的修養を忘るな……

第二節　合格者より受驗者へ……五四四

一、如何なる參考書を讀むべきか……理論に關するもの……圖案に關するもの……用器畫に關するもの……二、如何なる研究法をとるべきか……(用器畫の研究に就て……理論の研究

に就て……工具及材料の研究に就て……技術の練習に就て）……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試験に對する準備と注意……（用器畫に就て……圖案に就て……工具に就て……理論に就て）……五、實地及口答試験に對する準備と注意……（土京見學……木工に就て……金工に就て……粘土細工に就て……口述試驗に就て）……

第廿二章　手藝科……五六一

第一節　試驗委員より受驗者へ……五六一

一、受驗者の通弊……（試驗の内容……勉强が速成的で粗雜）……二、受驗者に對する注意と希望……（手藝の本質を明瞭に了解せよ……作品の用途を考へよ……實物寫生を練習せよ……綱物練習の心得……用具に就て）……

第二節　合格者より受驗者へ……五七一

一、如何なる參考書を讀むべきか……（刺繍……編物……造花……其他）……二、如何なる研究法をとるべきか……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、實地及口答試驗に對する準備と注意……

第廿三章　家事科……五七五

第一節　試驗委員より受驗者へ……五七五

一、受驗者の通弊……（實地が不成績）……二、受驗者に對する注意と希望……（研究の順序方法……諸方面の知識が必要……諸材料を大目的に統一する見識）……

第二節　合格者より受驗者へ……五八八

一、如何なる參考書を讀むべきか……（中等教科書……衣服……食物……住居……看護……衛生……育兒……作法……經濟……實習……理化學……教授法……其他）……二、如何なる研究法をとるべきか……（理論の研究に就て……實習に就て）……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、實地及口答試驗に對する準備と注意……

第廿四章　裁縫科……六〇二

第一節　試驗委員より受驗者へ……六〇二

一、受驗者の通弊……（研究が系統的でない……研究が狹小……普通學の知識に乏しい）……二、受驗者に對する注意と希望……（教授法の改善に心を用ひよ……人格の修養が大切……合格者に對する希望）……

第二節　合格者より受驗者へ……六一一
一、如何なる參考書を讀むべきか……(和服に關するもの……洋服に關するもの……服地及整理に關するもの……教授法)……二、如何なる研究法をとるべきか……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、實地及口答試驗に對する準備と注意……

第廿五章　簿記科……六一六
第一節　試驗委員より受驗者へ……六一六
一、受驗者の通弊……(一體に成績が甚だ不良)……二、受驗者に對する注意と希望……實際問題を最も重く見る……一般的學問が必要……參考書に就て……
第二節　合格者より受驗者へ……六二七
一、如何なる參考書を讀むべきか……(商業簿記及會計……銀行簿記……其他)……二、如何なる研究法をとるべきか……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……

第廿六章　商業科……六三二
第一節　試驗委員より受驗者へ……六三二
(實際界と關係をつけよ……商業と簿記)……
第二節　合格者より受驗者へ……六三四
一、如何なる參考書を讀むべきか……(商事要項……商業通信……商業各論……其他)……
二、如何なる研究法をとるべきか……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、口答試驗に對する準備と注意……

第廿七章　農業科……六四一
第一節　試驗委員より受驗者へ……六四一
一、受驗者の通弊……(非實際的……師範學校出と實業學校出の長短……教授法の成績が惡い……二、受驗者に對する注意と希望……(參考書は自ら選べ……應用自在たれ……問題は諸方面より考へよ……學問の進歩に留意せよ)……
第二節　合格者より受驗者へ……六五〇

一、如何なる參考書を讀むべきか……(土壤學……肥料學……作物……園藝……養蠶栽桑……畜產學……昆虫學……病理學……品種改良學……經濟及簿記……農具……農業製造……農藝化學……植物生理學……氣象學……土木……林學……其他)……二、如何なる研究法をとるべきか……(理論……實地)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、實地及口答試驗に對する準備と注意……

第廿八章　體操(普通兵式)科……六六五

第一節　試驗委員より受驗者へ……六六五

一、受驗者の通弊……(理論の研究が不十分……研究の順序を顚倒してゐる……女子は男子より不成績)……二、受驗者に對する注意と希望……(普通體操本試の準備……競技遊戲をも重く見る理由……競技遊戲の問題に就て……競技遊戲の豫備成績はよい……本試驗の內容と成績……競技遊戲の研究に就て……兵式教練の成績とその準備に就て……合格の秘訣……

第二節　合格者より受驗者へ……六八〇

一、如何なる參考書を讀むべきか……(普通體操……競技遊戲……兵式體操……生理衛生)……二、如何なる研究法をとるべきか……(理論……實地)……三、時間を如何に利用すべきか……

四、筆答試驗に對する準備と注意……五、實地及口答試驗に對する準備と注意……

第廿九章　劍道科……六八九

第一節　試驗委員より受驗者へ……六八九

一、受驗者の通弊……(劍道科試驗の內容……實力が無い……その他の缺點)……二、受驗者に對する注意と希望……(流派に拘泥せず精神修養を主眼とせよ……日本帝國劍道型……劍道の研究及び練習に對する注意)……

第二節　合格者より受驗者へ……六九八

一、如何なる參考書を讀むべきか……劍道に關するもの……生理衛生に關するもの……二、如何なる研究法をとるべきか……(理論……實地)……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、實地及び口答試驗に對する準備と注意)……

第三十章　柔道科……七〇二

第一節　試驗委員より受驗者へ……七〇二

(柔道の眞の精神を理解することが肝要……精神教育の機會を捕へんとする用意……理論と

實際とに十分通ぜねばならぬ）……

第二節　合格者より受驗者へ……七〇七

一、如何なる參考書を讀むべきか……（柔道に關するもの……生理衞生に關するもの）……

二、如何なる研究法をとるべきか……（理論……實地）……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する注意……五、實地及び口答試驗に對する準備と注意……

第卅一章　音樂科……七一二

第一節　試驗委員より受驗者へ……七一二

一、受驗者の通弊（……技術で落……する人が多い……應用力が無い）……二、受驗者に對する注意と希望……（先づ自己の素質を考へよ……受驗準備に對する一般的注意……理論の研究法……技術の勉強法）……

第二節　合格者より受驗者へ……七二三

一、如何なる參考書を讀むべきか（音樂……器樂……樂理……教授法……其他）……二、如何なる研究法をとるべきか……（音樂に就て……器樂に就て……聽音練習に就て……理論の研究に就て……師につくの必要）……三、時間を如何に利用すべきか……四、筆答試驗に對する準備と注意……五、實地及び口答試驗に對する準備と注意……

第卅二章　教育大意……七三三

第一節　試驗委員より受驗者へ……七三三

教育大意を受けねばならぬ受驗者……教育大意を課する理由……常識的知識ではいかぬ……中等教育本位に研究せよ……

第二節　合格者より受驗者へ……七三九

一、如何なる參考書を讀むべきか……

第卅三章　國民道德要領……七四一

第一節　試驗委員より受驗者へ……七四一

之を受けねばならぬ受驗者……之を課する理由……國民道德の意義と研究法……根本的信念を持て……

目　次

第二節　合格者より受驗者へ……七四七
一、如何なる參考書を讀むべきか……
附　錄
第一　教育免許令……一
第二　教員檢定に關する規定……三

文部檢定 中等教員 各科受驗者の手引

文檢研究會編著

第一章　各科の受驗者へ

第一節　研究上の諸注意

（一）天分と努力　編者が開卷第一受驗者に對して云はんと欲することは『先づ靜かに自己の天分を顧みて受驗科目を選定せよ』といふことである。こは實に合格の最根本的條件とも云ふべきものであつて、何人も必らず守らなければならぬ所である。かのその時々の需要供給の關係や初任給の高低等に心を動かされ、自己の得手不得手といふことを全然度外視して輕々に受驗科目を選定するが如きは、無思慮の甚し

きものであつて、此くの如きは先づ十中の八九まで貴重なる精力と時間とを徒費して失敗に終ると云つて差支ないやうである。偶々人一倍の努力をして成功する者があるとしても、彼は果してその學科に對して洋々として竭きることなき興味を感じ、その學科の進歩的教授者として立派に職責を盡して行けるであらうか。おそらくは彼は十年ならずして老朽乃至若朽教員として教育界から葬むり去らるゝであらうと思ふ。これ彼は單に努力によつて漸く合格したのであつて、本來その學科に對して本統の興味があるのでないから、唯一の目的たる免許狀を得ると同時に研究の努力が消散してしまつてあはれむべき現狀滿足者となることが明かであるからである。これに反して自己の天分に最も適した科目を選ぶ時は、その研究に津々たる興味を感ずる所から、おのづと努力もこれに伴つて、不知不識の裡に學識が高まり、易々として試驗に通過することが出來る。而して彼の學識がその程度にまで進む時は、彼はその學科に對していよ〳〵ます〳〵深き興味を感ずるに至り、層一層の熱心を以て研究に從事するやうになるのである。かくして彼は一かどの專門家としてはづかしからぬ深遠なる學識の所有者となり、學術の進歩の激甚なる今日に於て聊かもこれにおくるゝことなく立派にその職責を盡して行くことが出來、永久に老朽することが無いのである。されば眞の意味に於ける成功者たらんと欲する者は、必らず自己の天分を顧みて受驗科目を選定すべきであつて、決して他の事情によつて心を動かさるゝが如きことがあつてはならぬのである。

次に必要なるは努力である。如何に天分の豐かなものであつても、熱心に努力するでなければ決して何事をも成し得るものではない。豈んや吾々凡庸の徒に於ては、或る一事を成し遂げんとするに當つては、非常なる努力を要するはいふまでもないことである。どんな天才であつても只々その天分をたのんで聊かも努力することの無い時は、一生何事をも成すことなくして終るけれども、凡庸の才能を有するに過ぎない者も努めて怠ることの無い時は、必ずそれ相當の成功を收めることが出來るのである。

されば努力もまた成功の最根本的條件であると云はなければならない。實際吾々は努力さへすればどんなことでも出來ないことが無いと信じて差支ない。此の意味から云へば、文檢の如きは自己の得手不得手を度外視して如何なる科目を受驗するにせよ、相當に努力しさへすれば必らず成功するといふことが出來る。事實從來の受驗者中には或る動機からわざと自己の最も不得意なる科目を選び人並以上の努力をして立派に合格した人が往々にしてあるのである。

しかし努力しさへすれば出來ないことが無いからとて、天分の貧しい學科を選ぶのは馬鹿げたはなしである。これ自己の最も得意な學科を選ぶならば同量以下の努力を以て遙に立派に而も速かに成功し得ることは分り切つたことであるからである。加之只或る動機から發奮して自己の趣味の無いものに向つてなす努力は往々にして中途に於て挫折し易い。然るに本來自己の最も得意とし最も興味を有する學科に向つてなす努力は自然に發露するものであるからしてどこまでも永續するのである。されば受驗

者は必らず先づ自己の最も得意なる學科を選び——技能科に於ては殊に然りである——而して之に向つて全力を傾注する覺悟がなければならない。受驗者にして此の劈頭第一の注意を輕々に看過するならば、必らずや悔いても及ばざる結果にたちいたるであらう。

（二）良參考書の選擇が肝心　受驗科目を決定したならば次にはその參考書を選擇しなければならない。何んと云つても參考書は受驗者が知識を獲得する重要なる源泉であるからして、その選擇の當を得ると否とは、成功不成功に甚大なる關係を有するのである。卽ち參考書の選擇を誤まる時はいくら熱心に勉強したとて結局無駄骨折に終るべきは說明するまでもなく明白なことであらうと思ふ。何回かの失敗を味つた後はじめて通過した過去の合格者中には、その失敗の原因として參考書の選擇を誤まれることを擧げてゐる者が少くないのである。

然らば良參考書を選ぶには如何にすべきであるかといふに、その途の先輩を訪ねて

指導を受くるが最もよい。しかしかゝる指導を受け難い場合には合格者の受驗談を參照して選擇しても大差がない。受驗談は今日大抵の教育雜誌に毎月揭載されるからしてどんな僻地にをる者でも容易に手に入れることが出來る。それを少くも四五篇位集めて彼之比較對照してまづ最も主要なるものを選擇するがよい。主要參考書を十分に研究しさへすれば、その他の必要なる參考書は師友の指導を受くるまでもなく自ら分つて來るものであるからして、そこまで進んだならば自分の信ずる所に從ふのが最もよい。必ずしも合格者の讀んだ本は皆讀まなければならぬといふことはなく、また合格者の讀んでゐないものでも良いのがいくらもあるのである。

受驗者はまた常に新聞雜誌の廣告欄や新刊紹介欄に目を注いで、自己の專門に屬する新刊書を見のがさぬ樣にし必要と思ふものは必ず購讀しておかなければならない。近年は各科共新思潮新研究に屬する問題の出ないことがないと云つてよい位であるから、此の心掛けがない時はとんだ失敗を演ずるのである。また同一著者の同名の本で

も改訂版や增補版があるならば、それは必らず舊版よりもよいに相違ないのであるからして、その邊の注意も忘れぬ樣にすることが肝心である。

昨大正十二年九月の關東地方大震火災の際東京の出版書肆が大半烏有に歸し幾百萬の書籍が白灰と化した。賣行のよい良書は遠からず再生復活するであらうとは思ふが當分は必要なる參考書を手に入れることは中々容易ではなからうと思ふ。さればこゝ數年間の受驗者は此の點に就て從來の受驗者の知らなかつた苦痛を嘗めなければならぬ譯であるが、その心掛けがありさへすれば、おのづと工夫がつくものであるから決して絶望落膽すべきではない。編者また各科の參考書を示すに當つては大に此の點に心を用ひ、出來得るだけ受驗者の苦痛を輕減することに努力しようと思ふのである。

（三）學科の研究法を工夫せよ

參考書を選定したならば、次には如何なる方法によつて研究すべきかてふ大體の方針を熟慮決定することが肝心である。どんなに立派な參考書を選んだとて、何等の方針もなく只漫然と之れを讀下するのみであるな

らば、決して纏まりのある確實なる知識を得ることが出來るものではない。換言すれば無主義無方針で讀んだのでは、たとへ何百冊を讀過したればとて、決して本統の自分自身の知識とはならないのである。

學問の研究法は學科によつてそれ〴〵異なるは云ふまでもないことであるから、受驗者はよく自己の受驗學科の特質を考へて最も有効なる研究法を工夫しなければならない。殊に實驗若くは實地のある學科に於ては、理論の研究を先にすべきか或は實驗實地の研究を先にすべきか、又は兩者を並行に研究すべきか等に就て一段の考慮をめぐらすことが極めて必要である。

編者は第二章以下に於て各科の研究法の大要を述べておいた。同一學科にせよ各人獨自の研究法があるべきであるから、必らずしも本書の說く所に從へとはすゝめないが、受驗者が自己獨得の研究方針を定むるに當つて參考となることが少くないであらうと信ずる。否本書の說く所に從ふ時は大體に於て誤りなきを得るであらうと確信するのである。

(四) 確實に論理的に　各科の試驗委員は十中の八九まで受驗者の知識の淺薄不徹底不確實なることを指摘せらるゝが常である。實際第二章以下に揭載せる試驗委員の談話を一讀する時は、誰しも從來の受驗者の多くが如何に淺薄不徹底不確實なる知識をもつて試驗に臨んだかに一驚を喫するであらうと思ふ。編者はそれが原因として次の二つを擧げ、今後の受驗者の猛省を促したい。

その一は受驗者がとかく事功を急ぐの餘り、何等の主義方針もなく只々多讀亂讀する結果たることが明白である。受驗を目的として勉強する以上は成功を急ぐのは人情の常であるけれども、かくの如きは却て成功をおくらし、若くは不成功に終る所以たることを知らなければならない。實際何事に限らず成功の秘訣は急がば廻るにある。研究の大方針を確立し、それに從つて着々として研究を進めて行く者は、結局晝夜兼行の多讀亂讀者よりも却て速かに却て確實に成功することが出來る。三年計畫者が豫

定通り立派に成功するのに、一年計畫者が五年も六年もかゝつて漸く成功し、若くは依然として不成功たることが多いのはこの實證に他ならないのである。されば今後の受驗者は結局に於て不經濟なる多讀亂讀を避け、飽くまでも徹底した確實なる知識を得ることを眼目として研究せらるゝことを希望する。而して更に一歩を進めて試驗を眼中におくことなく、眞に學問を樂しむ底の態度をもつて研究を進め得るまでに至らんことを切望する。

他の一つは萬一の僥倖を得んとする所謂當て込み的勉强の結果であると云つて間違がなからうと思ふ。此の種の勉强をやつて試驗に臨む者の少くないことは、近年かの集成的參考書類の盛んに賣れることを以ても知ることが出來るであらう。集成書と雖もノート代用位の考で參考にするのなら少しも差支がない。しかし只此の種の本を二三冊丸暗記し若くは試驗に出さうな所を拾ひ讀みしたゞけて、試驗に通過しようとするのは、隨分間違つた橫着な考であると云はなければならない。編者はかゝる人々に對しては、只試驗の性質程度を眞面目に考へよとだけ云つておかう。

（五）常に教育者たることを忘るゝな　中等教員は決してその擔任學科の單なる教授者ではなくして、生徒訓育上の大責任を有する教育者である。されば單に學科の研究に沒頭するばかりでなく、又常に人格の修養に心掛けて生徒の師表として恥しからぬ、人格者たることを期さなければならぬ。又これを實際に徵するも、文檢は決して單なる學術試驗ではなくして、受驗者の人格をも併せて考査し、その合格不合格を決定する試驗であるからして、只此の點から考へても人格の修養の忽にすべからざることが明かであらうと思ふ。要は如何なる場合に於ても常に教育者たることを念頭よりはなさゞる樣に心掛けてゐることが肝心なのである。

第二節　試驗場に於ける諸注意

以上研究上必要なる諸注意を述べ終つたから

（一）落着くことが何よりも肝心

らして、本節に於ては試驗場に於て是非守らなければならぬ事項を說かうと思ふ。

豫備試驗たると本試驗たるとを問はず、試驗場に於て第一に必要なるは冷靜沈着といふことである。受驗者は試驗場に入つたならば直に一切の雜念を去り、人事をつくして天命をまつといふ覺悟をもつて力めて落ちつかなければならない。そして問題が配附されたならば、先づ靜かに少く共二三回は反覆熟讀して、各題の要求する所を誤りなく理解し、而る後おもむろに筆を執らなければならぬ。然るに多くの受驗者は試驗場に入るや否や妙に固苦しくなつて冷靜を失ひ、問題を碌々讀みもせず、あわてゝ筆を執る所から、すつかり問題の意味を誤解して、とんだ見當違ひの答案を認めることが珍らしくない。問題の要求以外のことは幾ら完全に書いたとて點の貰へぬことは分り切つたはなしで、これこそ本當に無駄骨折といふものである。中には甚しく上氣して、試驗場を出て冷靜に考へさへすればわけもなく出來る問題でも、極めて不完全にしか出來なかつたりすつかり間違へたりする者さへもあるといふことである。

殊に口答試驗の際には平素餘程沈着な人でも狼狽し易いものであるから筆記試驗の際よりも一層注意しなければならない。此の場合に於ては人事をつくして天命をまつ覺悟が殊更に必要で、つとめて冷靜な態度を保ち、委員の問ふ意味を間違ひなくきいとりよくそれに合ふ樣に答へなければならぬ。若し委員の問ふ言葉がきゝとれなかつたり、言葉が漠然として問意が不明であつたりする場合には何回でも問ひ返して差支がない。委員は必ず深切に之れに答へるのである。然るに落着きのない人は委員の言葉をきゝ遠ひてとんちんかんの答をなし、委員から反問されゝばされるほど益々上氣して種々と變挺な方向に走り、少しも委員を滿足せしむることなくして退場するやうな醜態を演ずるのである。

此くの如き次第であるから、いくら準備が立派に出來てゐても、試驗場に於て冷靜沈着な態度を保てぬ人は、非常に損であるといはなければならない。されば受驗者は平素此の點にも留意して修養を怠らぬことが極めて肝要であるのである。

(二)解答の順序と時間の配當とを考へよ　問題の意味がよく分つたならば、次には解答執筆の順序と各問に費し得る時間とを決めるがよい。問題はどれを先きにしても少しも差支無いのであるから、よく知つてをつて餘り考へる必要の無いと思ふものを先きにし、むづかしそうなものを最後にまわす方が得策である。むづかしいものから筆を執つてそれに長い時間を費してしまふと、時間不足の爲めによく知つてをるものでも不完全にしか書けなかつたり或は全然書けなかつたりすることがよくあるものである。又豫め時間を割り當てゝかゝらないと或る問題の解答は非常に詳しいのに或る問題の解答は非常に粗略にしか出來ないといふやうになり易いのである。然るに試驗委員は各問に對して平等なる解答を要求してゐるのであるからして、此くの如き解答振りは甚しく不得策であるといはなければならぬ。されば先に述べた通り、問題の數と時間とを考へ、所定の時間を以て書き得る範圍内に於て各問に對して平等に解答するやうに努力するがよいのである。

(三)　簡潔にして要をつくせ　答案の文體や認め方の體裁は各自の得意とするところに從つて少しも差支ないが、委員が一見して直に解答の要點を捕捉し得るやうに、簡潔に而も要領よく認むることが大切である。沉漫にして何處が要點やら分らぬやうな書き振りや、簡潔がよいからとてあまりに簡潔にすぎて解答者の意のある所を知るに苦しむやうな書き振りは大禁物である。

此の簡潔にして要をつくすといふことは中々むづかしいことで、知識がよく整理されてゐなければ到底出來るものではない。それには平素研究の際しばしば擬問擬答を試みるに限る。これ一方に於ては參考書より習得せる知識を整理し得ると同時に、一方に於ては問題解答の有效なる練習となるを以てゞある。

(四)　知らぬを知らぬとせよ　準備の不十分なる人は勿論十分に準備の出來てゐる人でも或は分らぬ問題に遭遇することがあるかも知れぬ。かゝる際に於ては、全然分らぬものならば不能とし、一部分だけしか知らぬものならば知つてゐるだけを書

いて、ごまかしやこぢつけを決して書かぬやうにするがよい。全然知らぬものをこぢつけてごまかさうとするが如き不心得者は論外として、一部分を正確に知つてをりながらそれだけでは何んとなく物足りなく感じ當推量をもつて蛇足を添えることは甚しき不得策たることを知らなければならぬ。これ正確に知つてゐることだけを書いておけばそれだけの點を貰へるのに、蛇足があるために正確に認めた分までも眞に了解してゐるのかどうかと疑はれそれだけ點數に於て加減が加へられるを以てである。殊に口答試驗の際に於ては、知りませんと云へばその事項はそれだけですむのに、一寸横着氣を出してごまかしをやらうものならそれからそれへと反問追究されてとんだ苦い目に會はされるのである。されば試驗に於ては男らしく知らぬを知らぬとするのが一番よいのである。これは分り切つたことではあるが、誰しも一點でも多くと思ふ所から思はず知らずごまかさうとする試驗心理に陷り易いものであるから特に注意してお く次第である。

（五）時間を十分に利用せよ

受驗者は第二項の注意をよく守つて、與へられたる時間を十分に利用すべきである。一體解答時間なるものは試驗委員に於てこれだけの問題を解答するにはそれだけの時間が必要であると豫定して決定されるものであるから、問題の要求する所を正當に了解して執筆するならば、不足になるとも決して餘る譯はないのである。然るに試驗場を早く出ることを名譽の如くに心得、忽々筆を走らして最後の一字を認め終るや否や直に提出し得々として退場する者がある。此の種の人の答案は十中の八九までは文字が亂雜で誤字脫字の多いことは勿論、内容も極めて貧弱であるといふことである。文檢に於ては答案提出の遲速は聊かも點數に關係がない。されば よく落着いて文章も文字も正確明瞭に認め、若し時間に餘りがあるならば必らず讀み直しをして誤謬不明の箇所なきや否やを檢し、同時に誤字脫字にも注意を拂ふがよいのである。此の讀返しの時間をはじめから予定してかゝるのが最もよいのであるが、困難な問題があつたりしてその餘裕のとれない人が多いことと思ふが

しかしともかくも試験場に於ては最後の一分間をも利用して、答案をより完全なものとなすことに心掛くべきである。

（六）風采態度言語　口答試験の際には試験委員は受験者の人格にも綿密なる注意を拂つて見る。しかし試験委員が受験者に接觸するのは極めて短時間に限られてゐるからして、受験者の人物を見るといつても、その風采や態度や言語やを通じて見るほかない。尤も風采態度言語等は人格の反映とも見るべきものであるから、多年の經驗を有する試驗委員に於ては、たとへ短時間の接觸には過ぎぬとは云へ受驗者の人格を見誤まるやうなことは殆んどなからうと思ふ。されば受驗者は試驗場に出る場合には此等の點にも十分注意を拂ふことが必要である。否平素人格の修養を怠らず端正なる風采態度と明晰にして禮を失せざる言語との所有者たることを心掛けることが必要なのである。

以上は各科受驗者の共通に心得てゐなければならぬ事項である。受驗者は更に次章以下に於て說ける所を熟讀して、準備上受驗上些の遺漏なきことを期せらるべきである。

第二章　教育科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

（イ）知識が雜駁　諸教育雜誌に現はれる受驗記を瞥見する時は、從來の受驗者は學者の代表的著述を疎んじてブック・メーカーの手に成れる何々集成と云つた風のものを金科玉條とするか、或は何等の方針も無くありとあらゆる本を片つ端から讀破して足れりとするかの何れかならざるはないと云つて差支ないと思ふ。かゝる勉强方法は如何なる結果をもたらすかは云ふまでもあるまい。卽ち本科受驗者の知識は一般に雜駁にしてまとまりがなく浮薄に流れてゐるとは、多くの試驗委員の常に慨嘆せ

らるゝところなのである。いまその一二を引證すれば吉田熊次博士は『答案を調べる時はいつも受驗者の知識が浮薄といふ趣が多いやうに思はれる正確に教育の知識を咀嚼しないで、只々表面を素通りしたと云ひたい。その正確着實の知識が無い證據を擧げれば、今までの問題の出し方と一寸風を代へて、歷史的の如き問題を出すと、外の問題に比して出來方が著しく惡るいのである』と云つてをられ、また大瀨甚太郎博士も『年々の試驗で感じてゐることは、受驗者の成績で見ると知識が雜駁でまとまりが無いことである。卽ち要點を捉へる力の乏しいことである。故に問題が分てをるかをらないか甚だ曖昧である。云ひ換へれば知識がうはすべりで、要所を確實に把捉し得ぬ傾向がある』と批評してをられるのである。編者をして云はしむれば、受驗者は決して先天的に要點を握む能力に乏しいのではなく、只その勉强法の浮薄輕調なるがために、かゝる結果を招くのであるから、今後の受驗者は何よりも第一にこの點に留意して、勉强に着手しなければならぬのである。

（ロ）理論と實際との關係に無頓着

次に受驗者は單に理論にのみ沒頭して、實際の研究を閑却する傾向がある。偶々實際の研究をなす者があつても、その理論との關係を何等顧慮することのない者が多い。此くの如き研究法は啻に眞の學問研究法に反するばかりでなく、單に試驗勉强としてもまた極めて不適切なるものである。受驗者はこのことに就ての試驗委員の談話をよく肝に銘じて置かなければならぬ。

先づ中島半次郎委員は『教育の理論が實際に如何に關係するかの點が、概して切實に理解され居らず、理論は理論、實際は實際として離れて居り、その實際を如何なる理論的根據に依つて導くか、又理論の正否を如何に實際の上に徵して見るかの點が、明かに答へられぬ傾向がある』と一般的に此の弊害を指摘せられ、また吉田熊次博士は『受驗者の持つてゐる知識そのものは、頗る形式的で着實なる實際上の知識の缺乏を證明するものを多く見受ける。イヤ何々主義が流行したとか、社會を支配したとか、漫然たることばかり書いて、實際どれだけの影響を及ぼしたのかなど少しも眞率に調べてゐない。ほとんど漫然たる放言に過ぎぬ。少しも着實な眞率な研究の跡がない。尙實際上の知識が無いことを度々の試驗に切に感じたことは、例へば教案などを作らして見ると、少しも問題の急所に觸れてゐないのが多い。殆んどどんな被教育者に教へるかと云ふ觀念が全く無いとでも云ひたいやうである。であるから小學校の二三年級に教へる教案も、中學校の生徒に教へる教案も同一形式のが多い。斯かる人に資格を與へて、直に我が青年の教育を托するのは、實に危險とせざるを得ない。彼等には生きた青年を取扱ふ根本の考がないとでも云ひたいのである』と稍具體的に之れを摘發してをられる。何年といふ歲月を費して受驗しながら而も失敗に終れる過去の受驗者はこれを讀まば必らず思ひ當ることがあるであらうと思ふ。

次に前委員稻垣末松氏は受驗者の學力不足を此の欠陷に歸し如何にして之を補ふべきかを懇切に示教してをられるからして、其談話の一節を引證して受驗者の參考に供しやう。氏曰く『教育科の受驗に就て予輩の起す感想は、受驗者は多くの努力こそし

てゐるが、その努力の割合に學力が增進してゐないといふことである。これが原因は單に一に歸着せしむることが出來る。それは卽ち勉學の態度が適切でないといふことである。然らば勉學の態度の適切とは如何なることを指すかと云ふに、書籍に書いてある事柄と現實とを截然區別しないで、兩者を合體一致せしむるやうにするをいふのである。多くの受驗者の知識は試驗勉强的知識であつて、紙の上に書いてあつてこそ間違はないが、少し切込んで問ひ詰められると、その書いてあつた事柄が果して分つてゐるや、否分らぬといふやうな有樣である。これといふのも畢竟下調べをする時に、本の中に書いてある事柄を一々現實に照して見、さうして自己の確信に達するまで推究せざるによるのである。かゝる不適切なる勉學の態度は主として二個の事實となつて現はれて來る。一つはものを凡て個別的に說明し、さうして普遍化するの能力を缺損するといふことである。も一つは說明が常識的であるといふことである。前者は常に個體に止つてゐて、上位の概念に昇達する習慣の缺如より來り、後者は思想の論理的排列の習慣を養はざるよりして來るのである。孰れにせよかゝる態度を矯正して適切なるものとなすことは極めて必要である。これを遂ぐるに就ては少し汗遠であるけれども、效果の永遠に亘つて有效である方法として、先づ認識論を研究するか、又は形而上學に親んで、凡てのものをその根底內面源流から考察する習慣を養ふべきである。受驗者の中には、この樣な研究は、試驗問題にも出ぬから不經濟であると云つて目前の功利的研究のみをなす者が多いが、これが反つて非功利的研究となるのである』と。

（八）無反省不徹底　前述せる所によつて受驗者は一般に反省的努力を缺き徹底的の考へ方に乏しいことが明かである。吉田熊次博士は教育研究上反省力批判力の極めて必要なることを力說して『一般に從來の受驗者は徹底的の考へ方が乏しい。教育は實際の事柄で學級編成、管理、教授の方法の事も入つて來る。而して此等の多くの問題は、實際教育に經驗のある人は、殆ど常識的に或る意見は立つ。然し教育學を教授

する人の資格としては常識的判斷でなく、學術的判斷をせねばならぬことと思ふ。卽ち教育の實際の問題を學術の基礎の上に判斷せねばならぬ。直接に判斷の基礎をなすものには教育學がある。之れを助けるものとして、心理學社會學哲學の根底の下に判斷を下さねばならぬ。世間では教育に關する心念が乏しいといふ樣なことを云ふが、根本原理に關する心念が受驗者の間に十分でない。然し或る教育問題に關する意見は相當に固まつてゐると思ふ。私はむしろ問題に就て自分の意見を固める前に、も少し反省する批判力を養ひたいと思ふ。獨斷の心念と云ふことでなしに、絕えず自ら改善を促す原動力となる反省批判を强くしたい。もつとも教育の大體に關する心念がなくては仕方がないが、これがあるものとして方法に關する部分は殊に絕えず改善して行くだけの反省力を持ちたい。それ故に本を讀むにしても只器機的に暗記するといふのでなく、新しい說でも古い說でも採るべき點は何處にあるか、論據は何處にあるかといふことを十分に考へるやうにしたいと思ふ』と云つてをられる。

また森岡常藏委員も『教育學上の問題は由來異說が多い。或は試驗委員でも必ずしも皆の說が一致してゐるとは云へない。さすれば試驗を受けようと志を立てたほどの人は、その重なる說並に相互の見方の違ひ等は日頃から研究して置く必要がある。詳しく云へば平常から或る問題に對する學者の說の異同を比較研究し、その中のいづれを採るかに就ては、相當の理由を拵へて置かなければならぬ。』と云つて、別方面から反省批判の必要なることを說かれてゐる。序ながら云へばかくして自己の信ずる說が委員の說と一致しないにしても、委員は自分の說に合つてゐるもののみを合格とし、そうでないものには點を與へないといふが如きことは絕對にない。否委員と說が合はないにしても、一通り筋の通つた根據のある答案は、何等の定見なく單に或る學者の說を鵜呑みにした答案、若くは徒に多くの學者の說を羅列したに過ぎない答案に比して、遙かに高點を與へられることは、諸委員の明言してをられる所である。

二　受驗者に對する注意と希望

（イ）基礎學研究の必要　本科の受驗者にしてその基礎學研究の必要なることを知らぬ人は恐らくは無からうと思ふけれども、こゝに吉田博士の言を借りて、その必要なる所以を明かにして置かうと思ふ。教育の原理を論ずるに就ては、これに關係を有する學科として、哲學心理學社會學倫理學等に就て一通りまとまつた考と、又その學問の進歩の狀況を知つてゐることが必要である。さうせぬと教育の根本問題に關係した場合などに根底がなくなる惧がある。我が教育界に於て種々なる一時の流行が行はれるといふことは、教育學に關する研究の根底が確立してをらぬからとも云ひ得る。而して此等の學科の中には、純專門的の部分と、教育に關係ある部分とがある。純專門の部分まで深くやることは到底出來まい。哲學でも深い認識論上のことなどは容易に理解出來ないかも知れぬ。しかし教育の方では人間の生活に關する問題を特に研究せねばならぬ。所謂實踐哲學といふ方面である。もつとも或る人は實踐哲學と理論哲學とは區別出來ないといふがこれは程度問題で全く區別出來ぬにしても、その間に幾分の相違あるは明かである。社會學では種々の方面があるが、近頃研究しかけられた教育的社會學が大切である。心理學でも所謂教育的心理學の研究は深くやつてほしい。心理論理の大體は教育學の中で授けることになつてをるから、此の方は一般普通の概念は有たねばならぬ。その他倫理學美學宗教學に於ても意志及び感情の陶冶に關する方面に於ては徹底した研究をしてほしい』のである。

（ロ）歷史的研究と第一資料の研究　教育上の知識を確實にする爲めには、また歷史的の研究と第一資料の研究とが極めて必要である。これに就ては吉田博士は受驗者に對して次の如く希望してをられる。

受驗者はも少し多く歷史的の研究をやる必要があると思ふ。教育の學說に關しても、ペスタロッチとかヘルバルトとか、スペンサーとかに就ては、と

にかくその人の書いた本を讀んで見ることにせぬと本當の心持が分らぬ。教育史として書いたもので分らぬことはないが、その人の著書に接して見ると大に違ふものである。私は教育の原理實際進んでは各科教授に就ても、一方には歷史的の研究を積むと同時に、その原據に就て必要のある部分を調べて貰ひたいと思ふ。只第三者の紹介で讀むは恰も霞をへだてゝ景色を見るが如く本當に氣分が移らぬまた歷史的研究が十分でないと判斷が偏する惧がある。正確な判斷をなすには、此の二つの事情を盡すことが大切である。かうなると問題は日本人としては原書を讀まねばならぬから非常に困難である之れは如何にも殘念のことであつて、從つて將來は主なる教育資料が正確に飜譯せられねばならぬことと思ふ。しかしながら今日でも既に若干の飜譯書がある。例へばペスタロッチの『リエンハルトとゲルトルード』の抄譯がある。又『ゲルトルードは如何にその子を教ふるか』の飜譯も出てをる。又スペンサーの教育論も飜譯せられてをる。ヘルバルトの重なるものは藤代教授が飜譯してをる。ルソーのエミール

もあればロックのも飜譯がある。また不十分ではあるが幾つかの飜譯書が出てをるのである。夫等を十分に讀んで貰ひたい。且つ又現在生存してゐる人々の書いた本も例へばケルシエンシュタイナーのものの如き幾分飜譯になつてをるのである。かゝる種類の物を讀んで頭を練るといふことが必要である。況んや東洋の方面になると飜譯を待たずして讀めるのである。此の方面のものには教育說はあまり無いが、貝原益軒の十訓でも原書を讀むと大に味がある。又往々時代の學校の有樣を見るにしても、具體的に細かな規定などを見て置かぬとはつきり頭に入らぬことと思ふ。例へば德川時代の學校に於ける訓練の狀態はどんなであつたかと考へて見ると、昌平黌なり或は藩の學校のどれなり一つの規則等を細かに讀んでをればはつきりしたことが分る。奈良平安時代の教育制度の事にしても大寶令の學令を一通り見てをらぬと、明瞭な觀念が入らぬと思ふのである。

（八）發表法を練習せよ

如何に確實なる知識を豐富に所有してゐるにしても

これを正確に發表することが出來なければ、到底合格することが覺束ない。されば受驗者は平素發表法の練習に相當の時間を費さねばならぬことは云ふまでもなく明かである。大瀨甚太郎博士は發表法練習の必要とその練習法とに關して『受驗者は自分の考を發表する仕方に注意する必要がある。發表の仕方が下手な爲めに、折角意味がよく了解されて居つても答案を見る者には通じないことがある。これは學校生活などから離れてをつて、試驗などで自分の思想を發表する樣な機會のない人に多く認められる。そういふ人は特に此の點に注意する必要があると思ふ。それには平常書を讀むに當つても漠然と讀んで行かず、その書いてある所を簡單に總括して、如何に發表するかといふことを考へて讀むやうにしたら有益のことと思ふ。尙その上自分で色々の問題を出して、それに就て簡單に答を書いて見るといふ樣な練習が出來れば一層結構である。問題を選むに就て困難を感ずるならば、すでにこれまで何十回も試驗があつてその問題も分つてをるから、その中から問題を選んでその答案を書いて見るといふ樣にしたならばよい。そして恰も書物の目次の樣に豫め云はなければならぬ論點を簡單な題目で掲げ、それを一つ〳〵論じて行くといふことにすれば割合に思想もまとまつて發表の出來ることと思ふ。』と說かれてゐる。

而して森岡委員は答案を如何に認むべきかに就て『發表の仕方は中々大切である。非常によく知つてをることでも、發表が拙いと答案を見る人をしてその價値を認めしめないで終る處がある。故に書くことに條理を立て、綱目を明かにして、一目瞭然として寸毫も曖昧な所が無いやうにすることが望ましい。のべつに無暗に書くと、同じ知つてゐることでもよく現はれないのみか、場合によつては明瞭な知識の無いものと判定されることもあらう。しかし秩序正しく綱目的に書くと云つても餘り簡單に過ぎては困る。筆者その人には分つてをつても、試驗委員に分らない樣な圖表的な書き方でも困る。必要なことを殘さないで書き、しかも簡潔にして冗漫に流れない樣にするがよい』と教へてをられる。以て發表法練習の目標とすべきである。

（ニ）口頭試問に對する準備と注意

最後に受驗者の最難關とする口答試問を無事にパスするには、如何なる準備と如何なる心得とを必要とするかを述べなければならぬ。

先づ稻垣委員は口頭試問の準備に就て下の如く語つてゐる。『口述試驗なるものは筆記試驗の樣に一度答へた許りで濟むものではない。その答の模樣によつては、あちらの方面からもこちらの方面からも反問されるから、受驗者の知識は最も確實でなければならぬ。若し確實でないと、どこかにボロを出すことになり、折角當つてをつたことも怪しげに解せられる樣になる。此くの如く確實なる知識なるものは、口述試驗に最も大切であるから、受驗者は豫めこれに備へて置かねばならぬ。それにはどうしたらよいかと云ふに、筆記試驗に對する準備の爲めに各問題に對する解答をなし置くに當つて、自己の確信に基づく材料のみを蒐集するといふことである。どの本にかう書いてあるあの本にあゝ書いてあると云つて、自己の確信の無いものを寄木細工の樣に集めるが如きは不完全知識たるを免れない。此の反對に確信に基づいた知識であるならば、よしや肯綮に當つてゐないにもせよ、又それ相當に一貫せるものとなるから餘り見苦しい感を起さしめない。この確信が不十分であつて鸚鵡的知識に止まりはしまいかと思はれることがある。受驗者たる者は此の如き研究的態度に出で、さうして右から問はれても左から問はれても、相當切り開きの出來るやうに平常準備して置くことが最も大切である』と。平素かくの如き心得を以て準備を積むならば、口答試驗と雖も何等恐るゝ必要がないのである。

次に大瀨博士は口頭試問の際に於ける委員の態度に對する受驗者の誤解と應答の心得とに就て『口答試驗は卽坐に答へるのであるから慣れない人は幾分狼狽の氣味がある。なるたけ氣を落ちつけて靜に答へるがよい。餘り遠慮して控目にしてをるのは適當でない。自分の信ずる所は大膽に發表する樣にしなければならぬ。また及第した受驗者が或る雜誌に、試驗官が甚だ深切で自分の知らなかつたことを敎へて呉れたと

か、よく答へられる樣に導いて呉れたとか云つて、さういふことを喜んでゐる樣な風に書いてをるのを見たが、これは甚だ試驗を誤解してゐると思ふ。試驗官は受驗者の學力を見るのが目的であるから、可成受驗者を云はせる樣に考へさせる樣にしようと骨折る。その爲め時には隨分意地の惡るい樣な難かしい問をかけることもある。それは更に受驗者を苦める爲めでなく、なるたけその學力を知らうと思ふからである。左ういふことに激昂してをる樣では本當に自分の學力を示すことは出來ない。又實際意地の惡るい樣に思はれる問をかけることもある。そんな場合には受驗者はそれに答へられなかつたからとて、直に無能な者と判定する樣なことはない。又馬鹿に容易い問題を出すこともある。そんな場合にもこれがうまく答へられたからと云つて、非常によい成績と思つてはならない。種々試みてその中にその人の學力を判定しようとするのである。また答へられる樣に導くといふことは無論しない方が正當と思ふ。學校の生徒の場合などにはそれも必要であらうが、學力を試める場合には獨りで答へさせるのが適當であらう。又試驗官が受驗者を教へるといふのも、偶然にはあるとしても一般から云へば教へる理由は無い。如何に試驗官が冷淡でも、それは試驗官の態度として正當なものと見て答へる方でも冷靜に答へなければならぬ』とねんごろに注意してをられる。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【心理學】

◎渡邊政盛校閲　文檢受驗用　心理學講義　大同館

心理學を研究するには先づ最初に本書を二三回精讀して、それから追々他のものに入つて行くとよいと思ふ。此の書は新刊でそして各學者の說を集成的に集めてそして

受驗者の爲めに平易に講義せるものなれば、本書の精讀で八分は基礎が出來る有益なもので、一名教育的心理學の概論とも云ふべきものである。

◎元良勇次郎著　心理學綱要　弘道館

隨分古くはあるが極めて通俗的で最初に讀むに適當なのである。過去の合格者で本書を讀んでゐない者は一人もないほど受驗者間に有名な本である。

◎速見滉著　現代の心理學　不老閣

合格者中には本書を讀んでゐない人もあるやうであるが、現代各派の心理說の大要を知るに便利であるから是非一讀しておくがよい。本書は容易く求め得ると思ふ。

◎上野陽一著　心理學通義　大日本圖書會社

本書は可なりの大冊であるが類書中の白眉と稱せらるゝものであるから受驗者は是非精讀しておく事をすゝめる。

◎松本亦太郎著　心理學講話　改造社

最近刊行の最良書である。參考的に讀んでおけば益する所少くない。

◎上野陽一著　兒童心理學講義　中文館

本書とは限らないが兒童心理學は必ず一冊讀んでおくことが必要である。本書は四六判約七百五十頁の大冊であるが、これほどよく出來てるものはまづ見當らないから、餘裕のある人は必讀するがよいと思ふ。

【論理學】

◎渡部政盛監修　文檢教育學術會編纂　受驗用　論理學講義　大同館

論理學を研究するには本書を十分精讀すれば事たりる書である。本書の特色は難解なるこの學說を平易に簡明にすら〳〵と了解し得る樣に苦心して叙述せるものである。そして附錄として認識論も一通り說いた便利で有益なものである。受驗者は必ずこれに依つて研究してもらひたい。

◎小川正行等著　新撰論理學　寶文館

教科用書として編纂された小冊子であるが、最新の研究が加味されてをり、練習題も多いから、教科書をよく呑め込めなかつた人が一通りの基礎を作るによい本である。

◎紀平正美著最新論理學綱要　弘道館

◎今福忍著　最新論理學要義　寰文館

本書は從來の受驗者が必ず讀むべきものと心得てゐたほどの良書で、本書がよく分れば論理學はもうそれで十分である。しかし一通りの概念が出來てからでないと理解するに困難である。

【教育學】

◎渡部政盛監修　文檢教育學術會編纂　受驗用　教育學講義　大同館

教育學研究者は先づ第一番に本書を讀むとよい。內容は教科書より少し程度高く平易簡明に一通り詳說せるもので入門書とも云ふべきものである。最新の發行で今後は必ず受驗者間に第一に用ゐられるとの自信を以て出來た良書である。

◎大瀨甚太郎著　新撰教育學　成美堂

◎同　人　改訂教育學講義　同　上

從來の合格者中には前者を讀んでゐる人もあり後者を讀んでゐる人もあつて一定してない。どちらでもよいから大瀨氏のは一冊精讀しておく必要がある。

◎野田義夫著　教育學概論　同文館

◎吉田熊次著　系統的教育學　弘道館

前者は合格者中には讀んでゐる人は澤山ないが中々良書であるから必讀するがよいと思ふ。後者は受驗者間に有名なる本で苟も教育學研究に志すほどの人なら誰しも知つてゐることを思ふ。

◎小西重直著　學校教育　博文館

◎柳澤政太郎著　實際的教育學　同文館

前者は教育理想論の說明に詳しく、後者は實際問題の研究上參考となる點が多い。

殊に前者は多くの合格者が必讀書として推薦してゐるものである。

◎渡部政盛著　集說批判　教育學概論　大同館
◎同　人　日本教育學說の研究　大同館

前者は名の示すが如く諸家の學說を集成して之れに批判を加へたものであり、後者は日本諸教育學者の學說を詳叙し批判せるものである。共に思想を纏める上に參考となる本である。受驗者の必ず一度は繙くべき便利な書である。

【教育史】

教育史には種々の參考書があるが受驗の爲には左の二種だけで十分であると思ふ。

◎渡部政盛著　文檢　日本東洋西洋　教育史　大同館
◎入澤宗壽著　近代教育思想史　弘道館

前者は菊判九百頁の大冊であるが日本東洋西洋と別々の參考書で讀むよりも遙に分量が少く凡てが一冊にとまとまつてゐるから便利である。後者は第十七世紀以後現今までの教育史であつて、殊に第十九世紀末から現今までの分が詳細であるから受驗上甚だ都合がよい。若し本書が手に入らぬ様なら大瀨甚太郎氏の『最近世歐米教育史』でもよいからともかく近代史は詳細に調べておかなければならない。

【教授及訓練】

◎乙竹岩造著　新教授法　目黒書店
◎槇山榮次著　教授法の新研究　同上

教授法に關しては右の二書を精讀し

◎吉田熊次著　教育教授の諸問題　目黒書店

を參照した位で十分である。もとは森岡常藏氏の『各科教授法精義』がよく讀まれたものであるがおそらくは今では求めることは出來ないであらう。

尙多くの教育書の訓練論は甚だ粗略であるから左記の書を見ておくがよからうと思ふ。

◎吉田熊次著　訓練論　弘道館

【最近思潮】

◎乙竹岩造著　現代教育教授思潮　目黒書店
◎同　人　輓近教育事實の進歩　同　上

現代思潮に關しては多數合格者は上記の二書を必讀書として擧げてゐる。

尙現代の教育思潮を研究するには左の品々も餘裕があれば讀んで研究して置くとよい。

◎渡部政盛著　現今改造的教育思潮批判　大同館
◎渡部政盛著　最近教育學說の叙述及批判　大同館
◎稻毛阻風著　現代教育の主潮　大同館
◎稻毛阻風著　創造本位の教育觀　大同館

殊に『叙述及批判』は綱要を作るに便利であつて受驗上直接役に立つことを以て受驗者から喜ばれてゐる。今や精讀書の一つとして數へられて居る程の書である。

【管理及行政】

◎渡部辰次郎著　實驗學校管理法精義　實文館

本書とは限らないが學校管理法は是非一冊見ておかなければならない。

◎武部欽一著　日本教育行政法論　學術普及會

これも必ず本書と限る譯ではないが教育行政に關する本は一通り見ておく方がよい。

【其　他】

單に試驗に及第するを以て足れりとするならば以上の諸書を精讀するだけで十分である。しかし眞に教育を徹底的に研究しようとするならば、その基礎學たる哲學倫理社會生物等の諸學の一斑に通ずることが必要不可缺である。受驗勉强としては此等の諸學に力を費すは一見損の樣に思はれるかも知れないけれども事實に於ては決してさ

うではない。これ教育學の研究に入る前に僅かの日子を割いて此等基礎學の大要に通ずる時は、基礎の知識の皆無なる者に比して、教育學をより明瞭により徹底的に而もより容易に理解することが出來て、結局却て早く目的を達し得ることとなるからなのである。その參考書はこゝに擧げることを避けるが相當なものならば何んでもよいからして、今後の受驗者は是非共基礎學の素養をつけてから教育の研究に入つてほしいものである。

次に本科受驗者の必ず一本を備へなければならぬのは教育辭書である。何學の研究にせよ辭書を利用する者はこれを利用せざる者に比して多大の便益を享受し得るはいふまでもなからう。教育辭書には左の二種あるが、價の點より何人も備へ易きは後者であらうと思ふ。これで十分に間に合ふのである。

◎同文館編輯　教育大辭書　同文館
◎篠原助市著　教育辭典　寶文館

尙受驗者は平素新刊書及び新聞雜誌等を注意して讀み新思潮新研究を知ることの必要なるは云ふまでもあるまい。

二　如何なる研究法をとるべきか

多くの合格者のとれる研究法を綜合する時は、今後の受驗者は左記の如き方法によるが最もよいと思ふ。

（イ）研究の三期　大體次の如く三期に區分して研究するのが最も合理的である。

第一期――まづ中等教科書若くは稍々程度の高き良書を反覆熟讀して心理學、論理學、教育史、教授法、管理法等の大體の概念を正確に頭に入れ、且つ此等各分科相互の關係を明瞭に了解する。云はゞ基礎確立時代とも稱すべき時期である。此の時代に基礎をしつかり築かないと、薄弱な土臺の上に家を建てる樣なもので、後にどんなに

努力しても到底確實精確なる知識を得ることが出來ないのである。

第二期――此の時期には各分科の必讀を要する參考書を次から次と精讀若くは通讀して、第一期に作つた骨組に十分に血肉をつけるのである。云はば前期の演繹時代とも稱すべき時期である。

第三期――此の時期には前期に得た知識を歸納的總括的に研究して出來るだけ簡明ならしむることに力めなければならぬ。こゝまで進めば本統に消化された活用自在な自分自身の知識となるのである。

右の中第二期と第三期との間には截然たる區劃をおく必要がなく、むしろ引きつゞき同時に行ふを便宜とすることが多い。またかの異說の比較研究の如きは第三期に於てばかりでなく第二期に於ても亦行ふ方がよいのである。

（ロ）讀書法　次に箇々の參考書の讀み方を如何にすべきかに就て述べれば精讀を要するものと通讀だけに止むるものとの間には自ら差別がなければならない。

精讀書――精讀を要する參考書は先づ最初に全體を通讀してその概略を會得し、次には精讀熟讀してその骨子を十分頭に入れることにつとめる。此の際色鉛筆を以て要所に點線等の符號を附し、欄外に摘要を記入し、或はノートに拔萃する等の方法をとるのが大に有效である。かくの如くしてその要點骨子のみを拔く時は、どんなに尨大な本でも實に僅かな分量となるものである。しかしこれのみではその內容がまだ系統的に頭に入らないから、更にもう一度全體を通讀して右の要點骨子を系統的に理解する樣にしなければならない。以上三段の方法をとる時は如何に難解の本でも確實に會得することが出來るものである。

通讀書――次に通讀だけに止めやうと思ふ本でも、只すら〳〵と讀過することなく讀過中に注意を要する箇所を發見した時には、その要點を中心精讀書の欄外若くはノートに記入することを怠つてはならない。此の際それを何書の何頁より採つたかを附記しておく時は、後に必要の起れる際容易にその箇所を發見することが出來て非常に

便利なものである。

（ハ）ノート記載法　或る合格者はノートの記載法に就て左の如く述べてゐる。

（甲）尨大な書物の内容をコンデンスして簡明なものとなすこと（乙）多くの著書中からその長所特點や、自己の意見に一致する點を抜き、然らざる點をすてゝ眞に自己の所有となれるものを自己のものとしての組織法に依て記載すること（丙）著書によつて術語譯語の區々なるものをノートに於ては自己として一定して以て研究上便宜ならしむること（丁）特に視覺に訴へて讀解し易き樣記載法を工夫すること。尙記載の體裁は奇數ページにのみ本文を記入して偶數ページは空けておく。そして讀書の進むに從つて異說を書き入れたり補遺したり、奇數ページの要領を更に概括したりする必要の起れる際に使用するのである。

多くの合格者の實驗談を見ると十中の八九まではノートを使用してゐるけれども、中には中心參考書をノート的に活用してゐる人もある。此の方法はノートを使用するよりも時間と精力とが遙かに經濟にゆく。しかし兩法共一長一短あるを免れ得ないので、一概にどちらがよいと決めることが出來ない。故に受驗者は何れなり共、一應實驗の上自己の最も便宜とする方法に從ふが一番よいのである。

三　時間を如何に利用すべきか

眞に勉强する心があればおのづと時間の利用法が工夫され、如何に多忙な職にある者でも必ず日々何程かづゝの研究時間が得られるものである。某合格者曰く『職を持つ人で朝八時から午後の六時までは寸暇もないと云ふ人でも、朝夕の勉强の時間はいくらでも轉がつて居る。朝五時に起れば八時まで三時間、內二時間は心掛一つでは利用が出來る。出勤の途中はよい勉强時間だ。晝食時間の雜談を廢すれば三十分は得られる。歸宅の途中も手持無沙汰に苦む必要はない。夕食後こそ我天地だ。なつかしい

机に端座して美しい金ピカな會心の書籍を向うにまわして、靜に〳〵冥想三昧に入る時は何とも云へぬ氣持ち、若し不幸にして睡軍の襲ある時はそのまゝ机にもたれて眠れば五分乃至二十分位にして誰でも必ず醒るものだ。而も頭は水晶の樣に澄んでくる。これより結構な安眠法はない。又起つて庭をブラツイても可。決してその日の事を終へずしてねてはならぬ。僕はかくの如き決心でかくの如く勉强した』と。これ位熱心な心掛あることは無論賞すべきではあるが、實際に於ては健康問題を顧慮する必要があり一般人には到底實行が出來ないと思ふ。

大多數の合格者の實行せる所を見ると、夕食後短時間の睡眠を試みて一日の疲勞を癒し三四時間机に向へる後床に就いて安眠し、早朝起床して再び一二時間讀書するといふ方法に大體に於て一致してゐる樣である。此の睡眠時間と勉强時間とは人によつて一樣に行かぬことは勿論である。けれども、此の方法は極めて合理的であつて、何人も容易く實行し得る所であると思ふ。要は常に健康の大切なることを忘れず、頭腦の疲勞を十分に休めて經濟的に勉强するにある。工夫して一定の習慣さへつければ餘り無理せざる程度に於て一日四五時間の勉强は確實に出來るものである。只々合格をあせつて滅茶苦茶に勉强しひどく健康を害して、中途に於て挫折したり、合格後斃れたりする人のあることを折々きくことがあるが、かくの如きは無謀の甚しいものと云はなければならない。何某が何科を何年で仕上げたから予も彼におくれをとつてはならないなどいふことを目當てとすることなく、眞にその學科を樂んで研究する學者の心掛けを以て、健康を損んぜざる程度に於て、否一方に於ては大に健康の增進に留意しつゝ、徐々に確實に研究を積むのが最も望ましい。

四　筆答試驗に對する準備と注意

研究が十分に出來てゐさへすれば特別の準備などは不要に思はれぬでもない。しかし試驗に通過するには只覺えてゐただけでは駄目で、覺えてゐる所を明確に發表し得

なければならぬのであるからして、受驗者は特に筆を以ての發表法を練習しておくことが極めて必要である。誰しも一通りの研究が出來上つたといふ自信があるから受驗することであらうが、實際試驗に臨んで見ると、熟知してゐると思ふ問題でも明確に發表することが中々困難であつたり、又は自己の知識の案外淺薄なることを發見したりすることが多いものである。されば一通りの研究が出來上つたと信じ得るまでになつたならば、過去の問題により或は自ら問題を設けなどして、實際試驗場に臨んだつもりでその解答を試みるがよい。殊に豫め解答時間を限定してその時間内に書き上げるやうにするのは一層有効である。この練習は割合に多くの時間を要するので一見不經濟の様に思はれるけれ共、試驗場に於ける問題解答の有効なる練習となると同時に、知識を整理し確實にする最良の練習となるのであるから受驗者は必らず實行せられんことを希望する。

本科は例年豫備試驗に於ては論理、心理、教育、教育史、現代思潮等理論に關するものに重きを置き、本試驗に於ては教育の實際方面と現代思潮に重きを置き論理學の問題は全然課せられない様であるから、受驗者はそのつもりで試驗間際の準備をされるがよい。

次に筆答試驗に於て如何なる注意を要するかは第一章第二節によつて讀者の既に承知せらるゝ所であると思ふ。

五　口答試驗に對する準備と注意

筆の立つ人は必らず口がうまいとは限らない。否往々にして健筆家は口下手なものである。文檢の口頭試問に於ては演說會に臨んだ場合などの様に滔々と辯じる必要は毛頭無いが、一通りスラ〳〵と自己の思想を述べる程度の辯舌は必要である。されば受驗者はまた多少口の練習をしておかなければならない。それには同志會合して問答し辯論し合ふのが最もよいが、友人の無い人は自ら題を設けて口答を試みるがよい。

之亦筆答練習と同じく知識を確實ならしむる上に大に有効なものである。

本科の口頭試驗に於ては主として教育思潮、教授法、管理法、教育行政等に關して設問され、又受驗者の實際研究せる事項を問はるゝことが多い樣である。

次に口答試驗に於て守らなければならぬ事項は第一章第二節に述べた所につきてゐるから、同所を熟讀せらるゝがよい。」

第三章　修身科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

(イ)　不消化なる亂讀　受驗者は一般に多讀亂讀に流れて、その知識が不消化である。これは年々各委員の繰返し注意してをられる受驗者の顯著なる通弊である。卽ち吉田靜致博士は「多くの受驗者は亂讀の氣味があるやうに思ふ。それはどうも答案が練れてゐない。これは蓋し良書の選定を忽にし、同時にその精讀を缺いてをるが爲めと思ふ。此等の亂讀者は中々色々と澤山知つてをるやうであるが、肝心な自分の頭が十分に出來てゐない爲めに、少し續いてきかれると答へられないのである。詰り

知識が雜多に結合して徹底してをらんのである。しかしそんなことではいけない。知識が徹底してゐなければ實際教育が出來ぬ。されば受驗者は良書を選擇して二遍も三遍も解るまで讀むことが大切である。』と云はれ、又服部宇之吉博士も『少し勉強する人は隨分澤山讀んで來るが、讀んだ事は覺えて居るが少し論理的にきかれると直ぐに詰つて了ふ。これではいくら讀んだとて何にもならぬ。そんなに澤山讀まんでもよいから、自分でよいと思つたものを十分に讀んで我がものとして置くことが最も肝要である』と注意されてゐる。功を急ぐは人情の常であるところから、誰しも知らず識らず多讀亂讀に流れ易いのであるが、かゝるは却つて成功をおくらす所以なることを知らなければならぬ。

（ロ）狡猾なる讀み方　次にまた狡猾なる讀み方をする受驗者が甚だ多い。狡猾なる讀み方とは如何なることを指すかは、下に引證する宇野哲人博士の言によつて明かである。博士曰く『答案を見ると、試驗委員の著書を見て置いて、此の問題は多分どの委員が見るのだらうと見當をつけ、該委員の著書から該委員に氣に入るやうに書いてゐる形跡がある。又大勢の人の其の問題に關する著書を見て置いて、その問題に對して諸家の意見を羅列したゞけで、どれが自分の意見か解らぬ書き方をしてゐる者がある。これは二つとも困つたことである。吾々の望む所は自分の思想傾向に基いて意見をこしらへ、問題に就て一家の見を有することである。甲と乙と意見は違つてゐてもよいが、問題に關しては論理一貫して貰ひたい。委員の人は自分の意見と違つてゐるからと云つて落す人は無いことと思ふ。確かに間違つて居れば困るが、論理が一貫して居ればよいのである。他人の說を羅列することは絶對に止めて貰ひ度い。』と。

受驗者に此の通弊のあることは、かの何々集成といつたやうな寄せ集め本が盛んに讀まれてゐることによつても明かである。今後の受驗者はかゝる輕調なる所謂受驗風を棄て、一つの經つた著述を反覆精讀して自己の意見を確立するやうに努力せられた

い。勿論こはより多くの苦心とより多くの時日とを要することは云ふまでも無いが、結局に於てかの狡猾者流よりも大なる成功を收め得るのである。

（八）實際問題の閑却　修身の生命は生きた人生の事實である。されば本科の受驗者は書物の上の研究にのみ沒頭せず、人生各般の事實に留意しなければならぬ。然るに從來多くの受驗者が此の事を殆んど氣付かなかつたらしく思はれるのは甚だ遺憾である。それに就いては多くの委員が注意してをられるのであるが、その一二を左に紹介しやうと思ふ。

先づ服部博士は『修身は生きた社會と關係してゐるのであつて、全く社會を離れて修身を講じて見た所が効能が無い。であるから修身を研究する者は、生きた社會に常に注意して居らねばならぬ。而して只どういふ事があつたと知つてゐるばかりではいけない。その見聞した事柄を倫理の上から考へ、それに對し自分で判斷を與へなくてはならぬ。然るに受驗者はどうも此の方面の注意が足りない。倫理といふ學問と實社會に起る事實とを全く關係の無い二つのものの様に考へてゐる者が多いやうに思はれる。これは筆答試驗の問題には出さぬが、口述試驗の際には、かういふ方面に注意してゐるかどうかと思つて聞いて見ると、注意してゐるものが少いのである。此の點は特に注意を促したい。』と云はれ、友枝委員もまたこれに關し『中等教員の接する所のものは青年少年である。青少年は最も感受性の強い者であつて、日々起りつゝある社會の種々の問題に刺激されることが多い。彼等が實際の人生々活に對してなす判斷は學校よりも却つて新聞雜誌に於て學ぶ所が多い様に思はれる程である。これは一面に於て學校の修身教授の効果の少いことを意味する。されば修身教授に當る者は、常に青少年の思想行爲が、現代當面の問題に觸れることの多いことを考へて、夫等の問題に對する適當の指導を與へることが甚だ必要である。素より日々起つて來る種々の問題は、必ずしも系統的に起つて來るものでないから、餘り夫等の問題に沒頭する時は思想の亂調散漫を來す惧がある。故に一方に於ては根本の一貫した考へ方を教へる事

が必要である。而して他方に於ては現代の思想なり社會問題なりに就て十分なる考慮を拂ひ、夫等の材料を適當に鹽梅する事が必要である。常に新たなる道德的努力がどの方面に向つて行つてゐるかといふ事に就ては十分なる注意を拂はねばならぬ。例へば先年出した奉公心といふ問題に就ても、これを極めて狹く解釋した人が可なり多かつたが、若し之を廣く社會的人道的に解釋したならば一層範圍が大きくなるのである。又口頭試驗で社會奉仕といふ言葉の意味をたづねた時に、その言葉を始めてきいたといふやうな人もあつた。新しい言葉を悉く知らねばならぬといふことは無理な注文であるか知れぬが、現代に於て比較的に廣く使用されるやうな言葉に就ては、その意味を明にして置くことが必要である。卽ち倫理の問題は一方に學究的なることを要すると同時に、他方には極めて實際的なる事を要する。倫理は生命の問題を取扱ふものであるから、其の生命が生きてをつて發達するものであるならば、倫理問題の考へ方もまた同樣に生きて居つて發達せねばならぬと思ふ』と、極めて有益なる注意を與へ受驗者を戒めてをられる。

（二）四書の輕視　次に受驗者は西洋倫理よりも東洋倫理を輕視し、その東洋倫理中に於ても特に四書の研究を輕視する傾向がある。これは甚しき心得違で只自己の好む所に從つて讀書するのなら兎も角、苟も受驗を目的としての研究なる以上は、洋の東西によつて聊かも輕重を附すべきではない。殊に東洋倫理の研究上四書を輕視するが如きは一層甚しき不心得と云はなければならぬ。これ四書は東洋倫理の主流たる儒教の精髓とも稱すべきものであつて、四書を離れては決して儒教の眞髓を會得することが出來ないからである。服部博士曰く『東洋倫理中の儒教の方のがはに就て常に受驗者に注意してゐるが、多くの書物を讀むことを望むは無理であるが、少く共四書位はよく讀んで貰ひたい。解釋の違などを專門に研究することは必ずしも望まない。朱子の註でよいのであるから、それに依て頭にこなして置いて貰ひたい。然るに實際はどうかと云ふと、論語さへ通讀してゐる人が割合に少いといふ有樣である。師

範學校在學中に抄本を讀んだといふ人がある。これは苟も倫理を研究する人にとつては甚だ遺憾なことである。朱子の註に依て、四書だけは全體通じて讀み、それを自分に消化して來て貰ひたい。尚其の他に近來儒教に就て系統的に研究したものが出來てをるから、それを讀むことは望ましいことであるが、そればかりでは困る。矢張り四書を通讀することを希望したい。』と。

（ホ）**教案の答案が不良**　本科の試驗には豫備本試共必ず一題づゝ教案の問題が出る然るに試驗委員は毎年その答案の概して不良なることゝ思ふが、受驗者がこれい。これは此の方面の參考書の缺乏が主因を成してをることゝ思ふが、受驗者がこれを重要視しないこともまた一原因たることが疑ない。今後の受驗者は此の方面に就て一段の苦心をなす心掛けがなければならぬ。これに就て友枝委員は極めて詳細に有益なる批評を加へられをてる。曰く『先年思想の自由に就て答案を書かせたことがある。所が此の題目は二時間で教へる筈なのであるが、多くの受驗者の答へてをるのは甚だ煩雜であつて、十五から二十位の項目を擧げてをる。さういふ風に問題を廣く考へるのはよいとして、それが與へられたる時間内に實際に教授し得るや否やが甚だ疑はしい。元來教案を作るには根本の知識が無くてはならぬのだから、問題に對する學術的基礎を廣汎なる範圍に亘つて明細にするは固より必要のことに相違ないが、併し時間を制限することにも意を留めねばならぬ。ところが多くの受驗者は無暗に多くの項目を並べてをるが、これは聊か考へものだ。例へば思想の意義、國家の權威と思想の關係、宗教と思想の根本義、クロポトキンと思想問題といふ樣な項目をダラ〳〵と並べたに過ぎぬといふ樣なものがある。ところで私の知りたいのはかうした羅列ではなくて項目の内容である。只クロポトキンと思想問題としたのでは、クロポトキンを是認してをるのだか否認してをるのだか解らない。答案の上に於ては之れを是認せるか否認せるかを明確に示さねばならぬ。尤も項目も或る程度までは必要には相違ないが、贊否何れとも決しない項目の羅列であつては、決してそれを以て私の求むる教案

と云ふことは出來ぬ。中には思想の自由とか輿論の制裁とかいふことは、從來使用し來つた教科書中にその項目がないではないかと云ふ人もあるが、私は如何に中等學校の生徒に教へるに當つて考へねばならぬかといふことを問ふのであつて、必ずしも從來の教科書に有るか無いかといふことを問題とするのではない。卽ち絶えず持ちつゝある問題に就て果して如何なる態度を持つてゐるかを見るのである。』と。受驗者は此の談話によつて、從來の教案の如何なる點が不良であつたか、隨つて如何なる點に特に留意せねばならぬかを明瞭に了得せられたことと思ふ。

二　受驗者に對する注意と希望

（イ）**歷史的の考察**　思想問題は歷史的に考察してはじめて全きを得るもので、箇々獨立のものとして取扱ふ時は必らず偏見に陷るのである。卽ち某委員の云へるが如くに『元來倫理は一朝一夕に起つたものでなく、東西何れも數千年前に起つた古い研究であるから、その問題には自ら歷史がある。故に研究者はその思想が如何なる經路を以て發展して來たものかを承知してゐなければならぬ。たとへば快樂說と一口に云つても、其の云ふ所が古今に於て相違してゐる。故にその說は如何に變遷したものか、過去と現在とは如何に異るか、故に將來に於てはどう展開して行くかといふ點にまで考へ及ばなければならない。又道德は社會の變遷國柄の如何によつて變化して來るものである。苟も倫理を研究する者は、此の異同を明かにせねばならぬ。その經濟的發展と倫理との關係の如きは大なる意味を有つのであるから、研究者は十分に之れを討究して置く必要がある。よく研究上突飛な思想を懷く者を生ずることがあるが、あれは全く歷史的の研究が無いためである。歷史的の研究がしてあるならば、その思想が現世に不可能なものか乃至は後退りになるのかゞ明かになるので、決して突飛な思想にかぶれるやうなことが無い。單に名稱が同じであるので、昔のも今のも同一であると考へるが如きことの無いやうに此の歷史的研究は極めて重要である』ので

ある。

（ロ）**原書の讀破**　先にも述べたやうに簡便速成的な集成類を讀んだのでは決して眞の學力がつかない。一時の骨惜しみを避けてしつかりした原書に親しんでこそ、初て根底ある確實なる知識が築き上げられるのである。之は實に各委員が受驗者に對して常々希望してをられる所である。いま宇野委員の談話を紹介すれば、下の如くである『希望としては少し無理かも知れないけれ共、西洋倫理に關する事などは極つたものは英文でゞもよいから知つてゐてほしい。前年の試驗にカントの無上命法が出たが、カテゴリカル、インペラチーブ位のことは獨逸語で知らなくても英語でゞも知つてゐてほしい。又日本及び支那の主なものは原書を少しでも見てゐて貰ひたいと思ふ。將來學校の教師として生徒を指導して行くには、合格後も益々努力して研究して行かねばならぬ。原書でやつて行く習慣をつけて置かぬと、進歩して行く青年を導くには心細き次第である』今後の受驗者は是非此の希望を實現してほしいものである。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【倫理學】

◎中島力造著　教育的倫理學講義　弘道館

◎渡邊龍聖著　批評的倫理學　開發社

◎紀平正美校閲　八木沼源八譯　倫理學綱要　大同館

◎ジーエイジョンストン述　金子幹太譯　倫理學序論　大同館

前者は從來の受驗者が十中の八九まで倫理學研究の入門書として必讀したものである。今尚恰好の入門書たることを失はないが、若しも手に入れ難いなら渡邊氏著によつてもよい。これは二十年ほど前に發行された『倫理學序論』に改訂を施して昨年再

び世に出されたものである。久しく絶版になつてゐた所から、從來の受驗者によつて略んど讀まれてゐないが、入門書としては中々良書である。其他八木沼氏の『倫理學綱要』金子氏の『倫理學序論』も初學者にとつては入門として手頃の著書である。

◎吉田靜致著　倫理學要義　寶文館

本書は前揭入門書の何れか一つを頭に入れてから入ると丁度よいのであるが、直ぐこれから始めても決して分らぬことはない。倫理學の概念を得るによい本で合格者で讀んでゐない者は一人もない。反覆熟讀すべきである。同氏著に『倫理學演義』といふ大冊があるが、內容は『要義』と大差なく、只倫理學上の諸問題を詳細に述べてあるに過ぎないから必ずしも讀むに及ばない。暇があつたら通讀する位でよからうと思ふ。合格者中にも讀んでゐる人もあり讀んでゐない人もある。

◎藤井健治郎譯　リップス倫理學の根本問題　同文館

本書もまた合格者の大多數が讀んでゐる。極めて論理的な書き振りで容易な本ではないが、一通りの倫理的概念を有する者には決して難解ではない。前書の次に必讀するがよい。

◎阿部次郎著　倫理學の根本問題　岩波書店

は全く同一原書によるものであるから受驗者は何れでも手に入れ易い方を求めらるゝがよからう。

次に倫理學は云ふまでもなく人格の研究であるから人格に關して明確な概念を有することが必要である。それには次の書をすゝめる。

◎紀平正美著　改訂人格の力　大同館

◎同　人自我論　同上

倫理學に關しては上揭の諸書をよく理解すれば十分であるが、近年は勞働問題や社會問題等に關する所謂時事問題がよく提出されるから、平素新聞や雜誌に深い注意を拂ふことも必要である。著書としては

◎深作安文著　外來思想批判　　右文館
◎同　人　續外來思想批判
が此の方面の參考として適當であらう。
尙倫理學上の諸學說や諸問題を辭書的に見やうと思ふには
◎萩原擴著　倫理學概論　　寶文館
が便利である。

【西洋倫理學史】

◎中島力造著　倫理學說十回講義　　富山房
本書は平易なよい本で從來の合格者中には西洋倫理學史は本書一冊で間に合せた人がいくらもある。しかし差し當り求め難いなら次の何れか一冊をよく頭に入れておけば十分である。
◎綱島榮一郎著　西洋倫理學史　　早大出版部

◎北澤定吉著　倫理學史綱　　弘道館
◎三浦藤作著　西洋倫理學史　　中興館
三浦氏のは三書中最新刊のものである。分量が稍々大に過ぎるが、眞面目に書かれた良い本である。
若し餘裕が十分にあるならば右のほか西洋哲學史を一冊讀んでおけば益する所極めて大である。相當著名なものならなんでもよい。

【東洋倫理學及學史】

◎宇野哲人著　支那哲學史講話　　大同館
東洋倫理學史としては本書一冊を精讀すれば他を讀む必要がない。之亦合格者で讀んでゐないものがない。尙
◎宇野哲人著　支那哲學の研究　　大同館
倫理學史研究上直接間接參考となることが少くない。前者と共に是非讀むべき書である。

る。

次に東洋倫理學としては合格者の最も多く讀んでゐるのは左記の三書である。

◎服部宇之吉著　東洋倫理綱要　明治出版社
◎同　人　孔子及孔子教　同　上
◎同　人　儒教と現代思潮　同　上

前二書は何んとかして手に入れて精讀する必要がある。

次に『四書』を精讀しておかなければならぬことはいふまでもない。參考書は澤山あるが漢文の達者な人は

◎　漢文大系　四書之部　富山房

によるが最もよいが。漢文の不自由な人は

◎宇野哲人著　四書講義大學　大同館
◎　同　人　中庸　同　上

◎教育學術會著　文檢受驗用論語解義　同　上

等によるがよからう。尙この論語講義は特に受驗者の爲めに白文として力をつけるべく編纂したるものであるがあまり世に用ひて居らぬ樣だからこゝに書添へて注意を引て置く

◎教育學術會著　文檢受驗用四書研究　大同館

も參考となる本である。

【日本倫理學及學史】

◎有馬祐政著　日本倫理學史　博文館
◎大江文城著　日本倫理學史　開發社
◎湯本石川共著　日本倫理學史稿　同　上

從來の合格者は大抵有馬氏のを讀んでゐる。手に入るなら之は最もよいが若し求めることがむづかしいならば、後の二書何れでもよいから一、二回反覆して大體の觀念

を得、而る後次の井上博士の三書を讀むがよい。

◎井上哲次郎著　日本古學派の哲學　富山房
◎同　人　日本陽明學派の哲學　同　上
◎同　人　日本朱子學派の哲學　同　上

いまゝでの合格者で之を讀んでゐない者は一人もない。實際日本倫理に關しては他に良書がないのであるからこれによるほかないのである。

【國民道德】

國民道德に關しては次の三書か若くは井上博士のだけを熟讀しておけば澤山である。

◎井上哲次郎著　增訂國民道德概論　三省堂
◎深作安文著　國民道德要義　弘道館
◎明治教育社編纂　國民道德要領　大同館

前者は從來最もよく讀まれてゐるが後者も中々よい本である。

【實踐倫理及教科書】

◎吉田佐藤共著　實踐倫理講話　同文館
◎中島德藏著　實踐倫理講話　同上
◎豐島要三郎著　實踐倫理學　弘道館

右の中どれでもよいから一冊讀んでおく必要がある。若し何れも無いならば何んでもよいからとにかく實踐倫理學を一冊讀んでおかなければならぬ。

これと同時に誰のでもよいから最新版の『中等修身教科書』を一二種通讀してその內容を知つておくことが受驗上直接に必要である。

【其　他】

以上の諸書を精讀して尙餘力があるならば試驗委員及び著名なる學者の著述を讀破するがよい。かくして出來るだけ廣く諸種の意見問題に接することは思考を練る上に大に效果あるものである。直接の問題の解答書としては左記のものが最近發行された。

◎文檢研究會編　文檢受驗用修身科問題詳解　大同館

又本科受驗者は『哲學』及び『社會學』の大體の概念を有することが極めて必要である。參考書は何と限らないから相當なものを一冊精讀するがよい。

◎市川一郎譯　教育の基礎たる哲學　大同館

◎市川一郎譯　教育の基礎たる社會學　大同館

次に本科受驗者は常に哲學辭書を座右に具へてそれを活用する時は、研究上大なる利便を受けることは云ふまでもない。邦語辭典は既に二三種刊行せられてゐるが、價の點より何人も求め易きは

◎渡部政盛著　最新哲學辭典　大同館

であらう。

尙受驗者は著名なる新聞雜誌に親しんで實際社會の諸問題を倫理的に考察することを忘れてはならない。

二　如何なる研究法をとるべきか

（イ）**一般的研究法**　本科の一般的研究法は前章教育科の部に於て述べた所と大差あり得る筈はない。故に受驗者は前章第二節の二によつて承知せられたい。たゞ本科の必讀書中には受驗者一般の困難とする四書なるものがあるからして、特にその研究法を述べておかうと思ふ。

（ロ）**四書の研究法**　四書はいふまでもなく東洋倫理の基根であるからして、受驗者は十分にこれを研究しなければならない。それには先づ前項に示した參考書によつて一通り研究しなければならぬことは勿論であるが、その眞の意味は單に四書だけを讀んでをるのでは中々分り難い。然らば如何すればよいかといふに、四書以外の東洋倫理の參考書を讀む時、四書より引用せる文句に出會せる場合には、そのまゝに讀過しないで、四書の本文を照し合せ、彼此參照研究するのである。かくの如くす

る時は單にその部分を十分に理解することが出來るばかりでなく、その前後の意味をも明瞭になし得るものである。また東洋倫理書に引用されてある文句は、四書の重要なる部分に相違ないのであるから、その部分には朱點でも施して特に注意を深くし暗記するやうに努むるがよい。

試驗委員の一人は四書は暗記するまで勉強せよと曰はれてゐるが、四書全體を暗記するなどいふことは事實中々出來るものでなく、また文檢にはそれほどの必要が決してない。卽ち編者は前述せるが如く重要文句を理解的に暗記するのみを以て十分であると信ずるのである。しかしながら參考までに一受驗者のとれる機械的暗記法を紹介しておかう。曰く『修身科を受驗する者は東洋倫理には中々困ると誰も云ふ。私は此の困難に應ずるため學庸論語及他一冊の漢文の本文のみの書を佛前に置いて、毎朝食事前に此の中どれか一冊坊さんがお經を讀む形式で讀みました。學庸は共に小冊子でありますから馴れゝば十分乃至十五分で讀まれます。また論語は大部ではあるが此中倫理に關係した所だけを拔萃すると約百二十箇所位でありますから、これを一冊のノートとして讀むことは至て容易であります。又他一冊といふのは詩經や書經或は易等の中の句で東洋倫理學書中に引用さるゝものを全部集めて一冊としたものであります。此四冊を毎日毎日讀んでゐる中に不知不識暗記してしまひますから、答案を書く時などは非常の好都合です。』と。これもたしかに一方法ではあるが、必ずしも眞似るには及ばぬだらうと思ふ。

三　時間を如何に利用すべきか

經濟的により多くの勉强時間を作ることは受驗者の大に苦心する所であるが、これまた前章第二節に於て述べた以外に良法があり得ないのであるからして、受驗者は實行細目は各自に於て工夫せらるべきである。

只四書の研究の如きは斷片的の時間に於ても出來る性質のものであるからして、小

形のものを常に懐中して、十分二十分の零細なる時間を活用することを忘れてはならない。多くの合格者はかゝる研究法の案外に効果多きことを語つてゐるのである。但これは他に活用することが出來ない短時間に於て頭の疲勞してゐない場合に於てのみすべきであつて、身體が著しく疲勞してゐたり頭が不明晰である場合に強てやつたのでは、何等の効果がないばかりでなく夜間の勉強時間にまで惡影響を及ぼすことにるからよく〳〵注意しなければならない。かゝる場合に於ては散歩するか假睡するかなどして疲勞を癒する方が結局却つて得策なることを知らなければならぬ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ

第四章　法制及經濟科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

（イ）一般原理の理解が不十分　本科の合格率は年によつて多少の相違はあるが大體に於て一割前後である。卽ちあまり成績のよい方ではない。これ受驗者の多くが本科試驗の本旨を誤解して無用なところに力を費してゐるがためであらうかと思ふ。それで先づ第一に本科試驗の本旨は奈邊にあるかを明かにせる栗屋木村兩委員の談話を紹介して、受驗者の研學方針樹立上の參考に供しようと思ふ。

栗屋委員曰く『法制科で出す問題の範圍は憲法行政法刑法民法商法より出すのであ

るが大體の根本觀念に就てきくことにしてゐる。殊に予備試驗に於ては廣く一般的の題を出すのであつて、手續に入る細目の問題はあまり出さぬといふ大體の方針である。此の科に合格したものは中等程度の學校の法制科を擔任する者であるから、その資格に應じて一般的の法律の思想を有つてゐるか否かを試驗するのであつて、判檢事辯護士の試驗と幾分區別して詮ずる所法律上の根本觀念を有するや否やを試驗する考でやつてゐる。前年の受驗者の成績から考察して多少注意しておきたいことは、正則な學校教育を受けず講義錄や獨學の結果か法律上の根本觀念の十分修得されて居らぬといふ嫌が大にある。例へば答案に於ても問題に直接觸れてゐないことを書くとか前段に於て明白に矛盾する樣なことを後段に書くといふ缺點が隨分澤山ある。つまり根本觀念を修得せず書物を暗記してをる結果、遠つた著者の學說を混同して覺えてをつて、前段から推論すれば矛盾した結論になる樣なことを書くのではないかと思ふ。そして極めて明白な常識上誤り得ない樣なことを誤つてをる。要するに受驗者は準備する場合に瑣細のことを暗記するに非ずして根本的觀念を體得することを最も必要と思ふ。元來法律學といふものは或る意味では常識の學問で吾人の社會生活に背く事柄や一般の道德に反する樣な事柄を規定するものではないから、常識が完全に發達し又法律の根本觀念を得るならば色々の實際問題は大體に於て解決されねばならぬ筈である。それが講義錄や獨學で不完全の修學をした受驗者はその邊の心得が甚だ足らずしてたゞ學者の說を諳記するといふ弊に陷つてゐる。此の點を大に注意して貰ひたい。』と。

木村委員も亦『以前は中等學校には法制經濟の樣なものは課せられなかつたが、年と共に文化程度が高まり社會が益々複雜になつて來ると共に人間生活は單純に行かなくなつた。自分の生存してゐる社會組織の內容を理解する必要が切實に生じて來た。此くして私人としての公人、公人としての私人の一言一行の社會的意味を完全に理解することによつて公民生活の安定をもたらす結論が生じて、中等學校は勿論將來は小

學校に迄も何等かの方法を以て公民教育としての法制經濟の根本觀念を理解せしめたいと云ふ傾向になつて來た。卽ち既に中學校師範學校では法制經濟は必須科目となり實業學校に於ても今度新たに必須科目となつた。かくの如く公民私育の熱度が高まると共にその根本的基礎となる法制經濟科の敎授者となる者の責任も重大となる譯である。然るに豫備試驗に於ては可なり法の根本觀念を誤つてゐる者があつたが、若しそれかゝる不正な觀念を比較的批判力の乏しい中等學校程度若くはそれ以下の生徒に敎へ込んだならそれは社會的に恐るべきことである。されば文檢の法經科に於てはこの點に留意して、法經の根本觀念卽ち根本原理の理解如何を嚴密に檢定するのである。さればその根本原理の據つて起る眞實な妥當の意味を十分理解することに努めないといけない。卽ち辯護士などの試驗と趣を異にしその實際的方面より法の淵源の徹底的理解を何處迄も要求するのである。私は法制經濟科の中の法制を分擔してゐるのであるが豫備試驗に於て「法人の性質と種類」を問うた。本試驗に於ては「債權の特質を論じて物權と其の效力を說明せよ」を問うた。また口述試驗に於ては「親族家族に就いて」試問をした。しかし法人の種類物權の意義親族家族の定義をさへ確實な槪念を獲得してゐる者は少い樣であつた。苟も法律を學んだといふ者には誰も知つてゐなければならぬ問題であるのである。卽ち文檢の性質として必ず一般的のものであつて而も根本原理を問ふことを考へておくべきであらう。されば公法では憲法で國體政體の觀念私法では民法の總則を十分研究してその原理原則を會得することが受驗の要點とも云へると』と述べられてゐる。受驗者は明瞭に研究の主眼點を了解し得たことと思ふ。

二　受驗者に對する注意と希望

(オ)　精讀か多讀か

參考書は精讀すべきか多讀すべきかは上述せる所によつて既に明瞭であつて改めて說くまでもないと思ふが、參考までにこれに關する委員の

談話を掲げておく。

法制擔任の木村委員は『參考書は誰れ彼れのものといふことは出來ないが要は餘り尨大な著書はつまらないと思ふ。なるべく一册で簡潔に纏つたものを一部選んでそれを深く研究した方が有利だと思ふ。尨大なるもの必ずしも內容が豐富であるとは云へない。寧ろ冗漫の中に正確味が失はれてゐる著書は隨分世に出てゐる。參考書を選ぶことと及び研究の着眼の二つで運命が定まるとも云へるからして此の點は十分考慮すべきであらうと思ふ。』と精讀の有利なることを說かれてゐる。然るに經濟擔任の堀江委員は『或る學科によつては參考書を少くして精讀した方がいゝこともあるが、經濟學の樣な方面の廣い從つて學說なども區々の部分の少くないものとなるべく廣く澤山讀まなければならぬと思ふ。尤も廣く讀んだとしても記憶してゐなければ何にもならない。又統一がついてゐないでしどろもどろになつてゐてはいけない。記憶と云つても盲目的記憶でなく、理解的批判的信賴的記憶でなくてはいけない。意見が委

員と違つてゐても構はない。論脈が整然として理論が徹つてゐればそれでいゝ。故に區々な學說になると、比較研究の結果自己の承認し信奉するものを一つ決定して置いた方が答案作製の場合にいゝと思ふ』と木村委員と反對の意見を述べられてゐる。しかし堀江委員の談話も結局するに精讀を基礎として出來るだけ多讀すべきことを說かれたものに他ならないのである。

（ロ）**自己の意見を大膽に明瞭に**　答案を認むるに當つて最も愼むべきは自己に聊も信ずる所なくて單に學者の說を羅列することである。而して最も採るべきは自己の所信を堂々と明瞭に認むることである。すればそれがたとへ委員の說と違うにしても論旨さへ一貫してをれば必ず高點を與へられるのである。木村委員曰く『表現の方法に就て云へば、勿論一般的といふよりも一部の人々にと云つた方が穩當なのであるが、問題に對して學說を一々列記することは時間の上からでも個人的人格の上からでもつまらないことと思ふ。それよりも自分の信ずる學說を基礎として自己の意見

を堂々と論じた方が遙に優つてゐる。一體個性の強烈な人は反射的な云ひ現はし方をしない。何等か自己獨特の色彩を加へて發表するものであるがそれはいゝ事と思ふ。何となればかくする迄の過程としては是非理解して自分のものとしなければならぬ所謂體得が必要であるからである。次に冗漫の書き方であるが成るべく簡潔に書いた方が得策と思ふ。勿論簡潔と云つたとて盡すべきを盡さないではいけないことは言ふまでもないが、論脈が前後したりくだらないことをだら〳〵と書くことは更に禁物である。されば筆を採る時に先づ書くべきことを綱目的に定めて秩序正しく而も簡潔に書くことを忘れてはならない。表現も一種の術で多少馴れてゐないと筆が鈍るものであり前后するものであるから此の點も留意したら尚更よいと思ふ」と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

甲　法制の部

【教科書及通論】

◎岡田朝太郎校訂　法制經濟教科書　實文館

敢て本書とは限らないが受驗者は第一に中等教科書によつて、教授要目を概觀し研究の範圍を定めるがよい。且又教科書は精髓骨子を拔いたものであるから、初めに概念を得るにも最後に纏めるにも都合がよいのである。本書は法制も經濟も要領よく書いてあり、且重要な所には法文を引用してあつて、教科書中ではよい方であると思ふ。

◎織田萬著　法學通論　實文館

教科書によつて大體の概念を得たならば、次には本書を精讀して法學に關する一般の知識を獲得すべきである。合格者中には通論を抜きにして直ぐ各論の研究に着手する者も見受けるが、それは餘り得策ではないと思ふ。通論は現に二十種近くも刊行せられてゐるから受驗者は必ずしも本書によるを要しない。廣く行はれてゐるものならば何んでもよいのであるが、本書は行文明快にして頗る要を得てゐる點に於て類書中の白眉と稱せられてゐるものである。

【憲法】

◎清水澄著　憲法大意　清水書店

◎同　人　國法學第一編憲法篇　同上

前者によつて大體の概念を得、而る後後者を精讀すれば他書を見る必要はないと云つてよい。後者は千五百頁の大冊で一見ウンザリするが、行文平易引證豐富で津々たる興味を以て讀破することが出來る。加之所說極めて穩健であるから普通教育に從事する人にとつては適當な本であると思ふ。合格するだけなら或は前者だけで間に合ふかも知れぬ、否前者だけで合格してゐる人もあるのであるが、それは本統に辛じて間に合ふのであつて或は間に合はぬこともあるのである。

◎普文學會編　憲法要覽　清水書店

前揭憲法篇を中心とし各異說の要點を網羅せる小冊子で眞に要覽の名に背かない好著である。法學研究生にして本書を懷中しない者はおそらく一人もないであらう。

憲法は以上の三書だけで十分であるが、餘力があり且つ求めることが出來るなら左記を通讀しておかるゝがよい。

◎伊藤博文著　帝國憲法皇室典範義解　丸善書店

著者は帝國憲法の草案起稿者であるから、本書の憲法に於けるは、恰も國定教科書

編纂趣意書の國定教科書に於けるが如きものであつて、昔の憲法研究者は必ず讀んだものである。實に明治二十二年の出版に係るものであるが今日に於ても一讀の價値はたしかにある。憲法の部は僅に四六版で百四十二頁に過ぎないから容易く讀過することが出來る。

◎穗積八束著　憲法大意

本書もまた隨分古い本で、且說く所は所謂官僚式で、今日に於てはどうかと思はれる節が多い。しかし現行中等教科書は本書の說によつてゐるらしいからして一讀しておくも宜しからうと思ふ。

【行政法】

◎清水澄著　日本行政法大意　清水書店

◎普文學會編　行政法要覽　同　上

前者は三百頁足らずの小冊子であるがよく要を得てゐる好著である。行政法は本書を精讀して後者で補つておけば受驗には十分である。しかし餘力のある人は次の書を通讀參照するがよい。

◎織田萬著　行政法講義　有斐閣

【民法】

◎梅謙次郎著　民法講義　有斐閣

本書は教育者の爲めに講述されたもので、特に親族篇が詳密である。しかし受驗にはこれだけでは不十分である。殊に文檢に於ては總論、物權法、親族法等に關する問題が多く提出されるから、左記の書によつて補つておく必要がある。

◎今井嘉幸著　民法學通論　有斐閣

◎川名兼四郎著　日本民法總論　金刺書店

或は以上の書に代ふるに早大その他の講義錄を以てするも差支がない。或は又左記の書にても十分間に合はすことが出來る。

◎普文學會編　民法要覽

【刑　法】

◎普文學會編　刑法要覽

刑法は本書によつて大體の概念を得ておけば別に單行本を見なく共よいと思ふ。從來の合格者は大抵これで間に合はせてゐる樣である。しかし單行本を見たいと思ふなら左記がよい。

◎泉二新熊著　刑法大要

其の他『訴訟法』『國際法』『商法』等は法學通論の程度で十分である。尙『六法全書』を座右に備ふるを要することは云ふまでもない。』

乙　經濟の部

【經濟學】

◎金井延著　社會經濟學

清水書店

清水書店

有斐閣

金港堂

中等教科書で大體の概念を得たら本書を熟讀反覆するがよい。可なり古い本で隨て學說も古いといふ人もあるけれ共、今日に於ても依然として斯界の權威たるを失はない。殊に經濟學の沿革の如きは是非本書によらねばならぬと云はれてゐる。從來の受驗者で本書を讀まぬ者は一人もないのである。若しも本書を最初に讀むに困難を感ずる場合には

◎小川鄕太郎著　經濟學通論

を豫備として見るがよい。本書は特に教育者の爲めに講演せるもので、中等經濟教科書の註釋書參考書たらんことを期したものであるから、教科書の直ぐ後に讀んで分り易い。

◎山崎覺次郎著　經濟學原論

金井博士の本のみでは受驗には不十分であるから本書によつてその不足を補はねばならぬ。本書は純正經濟學に關する殆どすべての問題を要領よく擧げてあつて都合が

金港堂

法政大學

よい。しかし合格者中はに本書の代りに田原博士の『最近經濟論』河上博士の『經濟原論』等を見てゐる人もある。受驗のためには上記の本だけで十分であるが、餘力を以て更に本書を讀んで行けば益する所が少くない。

【財政學】

◎堀江歸一著　財政學　寶文館

九百餘頁の大冊であるが、本書一冊を精讀すれば財政學は十分である。合格者の八九分までは讀んでゐるやうである。次の本もまた中心參考書とするに適當である。

◎馬場鍈一著　財政學講義　中央大學

しかしこればかりでは不十分で、やはり前書を讀まなければならない。

【其他】

◎寶文館編輯局編　法制經濟大資料　寶文館

法制及經濟の大要を稍々詳しく說き毎回の試驗問題を對照させたもので受驗には便利であらう。

◎吉田舜天丸著　經濟學問題解說　巖松堂

文官高等試驗、東西兩帝大及私立諸大學の經濟に關する問題を集め、これを分類して解說を施したものである。本科問題の大勢及その解答要領を知るに都合がよい。

本科の受驗者は又常に新聞雜誌に現はるゝ學者の論評を精讀して時事問題に對して一隻眼を養ひおくことの極めて肝要なることは、毎年の試驗問題が明かにこれを證明してゐるのである。これに就て一合格者は次の如く趣味深く有益なる經驗を述べてゐる。

法制經濟科の受驗者にとりて最も肝要なるは平常新聞官報雜誌等の法令や經濟に關する記事に注意を怠らざることである。私は新聞は國民と東京日々との記事に注意を拂ひ、雜誌は法學協會雜誌と經濟論叢との讀者たる外に、太陽や中央公論の經濟に關する記事は大概之を一讀するやうに心懸けた。之に就て私の豫備試驗に

遭遇したる實際の事實を記述し一笑に供しやう。私は豫備試驗の前日地方廳に出頭すべく汽車に乘り込める處、私の前に座せる一青年が一冊の雜誌を取り落し之を拾ひて座側におくを瞥見した。雜誌は中央公論にして此の中に堀江博士の米價調節に關する論文の記載しあることは承知しゐたれども、未だ之を讀むにその機會を得ざりしものなれば一見識もなき人なりしが、請ひて該雜誌を借覽し車中にて堀江博士の論文のみを讀過した。然るに論文中に貨幣數量說なる語あり、半ケ月許前に讀みたる貨幣論に記述しありたることの記憶のみは殘存してゐるけれども、その細目の詳論等に至りては甚だ朦朧たりしを免れざる故種々の方法により て印象復現を試みた。然るに何ぞ測らんその翌日の試驗問題中に數量說の說明論評あらんとは。問題を手にして實に愕然とした。若しも雜誌の記事を見ることなかりしならば私は實に豫備試驗に於ての落伍者たりしやも知れず。これ實に一面より見れば奇遇とか天祐とか稱すべく他面より見れば平常自己の向學心の然らしめし自助とも稱することが出來ると思ふ。かの口述試驗に於ける小額紙幣の性質及び發行の理由等に至りては、新聞の記事に眼を曝さゞりし者は恐らく一言も答へ得ざりし事と思ひ、實際問題研究の疎かせにすべからざることを深く感じたのである。

尙本科の參考書は他科のそれよりも一層速かに逐年改訂されて行くから、受驗者は常に最新版のものによることを心がけなければならない。

二　如何なる研究法をとるべきか

本科の研究法もまた第二章教育科の部に述べた以外に何等特殊なる方法がない。只本科は他科同樣良書の精讀は勿論必要であるけれども、それだけでは兎角固陋偏見に陷り易い傾があるから、つとめて多くの學者の說（單行本につかずとも新聞雜誌等でいくらも讀める）に目を曝らし、彼之比較考察して自己のよるべき所を定めるこ

とが極めて肝要である。

三　時間を如何に利用すべきか

これまた第二章第二節の三に述べた以外に良法がない。重複の嫌があるけれども最近本科に合格せる某氏の實行せる所を參考までに掲げて見よう。

一、學校の仕事は絶對に學校で了ることにせねばならぬ。どんな事があつても家へ持ちかへることは禁物だ。

二、學校から歸つたら先づねることだ。つまらぬ他人の訪問を受けて時間を費すことは馬鹿氣切つて居る。睡眠は疲勞回復には唯一の方法だ。それから目覺めたら夕食をして勉强にとりかゝることも時間利用法の一である。規則だつた法制經濟

三、心意の轉換をやつて見ることは一番よいと思ふ。

をやるには是非必要だと思ふ。それには神戸博士や堀江博士の經濟政策や社會問題などに目を通すのは苦痛なくどんな疲れた時でも面白く讀まれる。一擧兩得だ。

尙時間が無くて勉强が出來ぬといふ人の爲めに極めて多忙複雜なる境遇にあり三十八才で本科に合格せる人の受驗記の一節を紹介しておかう。此の人は先きに數學科と脩身科の免許狀をとり、當時中學校に奉職して一週二十一時間の授業を受持つてゐたのである。一週二十一時間の授業と云へば小學校教員に比して可なり少い樣であるけれ共、中等教員としては多い方であつて下調やら何やらで中々多忙なものである。曰く、

生活の本據たる家には下男を置いて祖先傳來の農業を營んでゐる上、家族には八十歳以上の老親もあり三才と五才の小供もあつて隨分用事は多い方です。學校は自宅を距つること二里餘の處であるから毎日の往復に三時間を要します。その上自宅からの通勤であるから隣里鄕黨との關係も頗る複雜で、或は總代に選ばれ又

は委員に擧げられることなどもあります。また親戚間の往復も中々に繁くそれやこれやで日曜などは寧日無しといふ有様です。かくの如き境遇ですから讀書するのは大概夜間子供等が寢についた後であります。世には妻帶したから又は子持となつたから餘裕なくて勉强が出來ないなどいふ者もありますが、志さへ玆にあれば決して出來ないことはないものと私は信じます。」

と。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第二章第二節の四及び第一章第二節を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

第二章第二節の五及び第一章第二節を參照せよ。尙一合格者は口答試驗の所感を次の如く述べてゐる。

一、知らぬことは知らぬといふこと、卽ちごまかす勿れ。

二、委員に反抗的なる勿れ。

三、知つて居ることは悠々と知つて居る範圍を詳しく述べること。

四、言葉尻を取られぬ樣に言語に注意すること。

五、分らぬことは猶豫を賴み熟考して答へること。

第五章　歴史（日東史）科

歴史科は『日本史及東洋史』と『西洋史』とを別々に受驗することか出來る而して『日東史』に於ては全體としての成績が不良でも『日本史』若くは『東洋史』のどちらかの成績の佳良なる場合には、其の部の『佳良證明書』を下附されることになつてゐるから、次回には成績不良の部だけを受驗すればよいのである。

第一　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

（イ）淺薄散漫　本科の試驗委員もまた受驗者の知識の餘りに淺薄散漫なることを指摘してゐる。卽ち市村博士は『單に教科書にある位のことを知つてゐる位で受驗するものであるから、少し深くつつこんで行くと殆んどその先きは答へることが出來ぬやうな者が多い。總じて實力が足らないと云ふことと、研究の方法が宜しきを得てゐないといふことが著しく感ぜられる』と云ひ、桑原委員もまた『受驗者多數の準備の方法は餘りに試驗勉强に傾き過ぎぬかと思ふ。卽ち試驗問題ばかりを氣にして成るべく廣く各方面のことを一時に無理に詰め込む結果、その知識は淺薄で散漫で一も取らず二も取らずの不成績を招く者が少くないやうである。』と云つてをられる。要するに從來の受驗者中には試驗の程度を誤解し且つ餘りに功を急ぎ過ぎた者が多かつたのである。

（ロ）史眼の缺乏　事實の暗記は勿論必要であるけれども、史眼卽ち歴史家としての見識が伴はなければ、それは不完全知識たるを免れない。然るに受驗者は前者にのみ力を注いて後者を忽にする傾がある。受驗者は先づ下に引證する萩野博士の言をきかなければならぬ。曰く『受驗者は近世の編纂物に依て其の中に書いてある事實のみを暗記することにつとめ、それを消化してその事の得失を考察する力が足りない。例へば院政の得失とか江戸幕府の鎖國政策の利弊とか云ふやうなことである。書物に

書いてある事を覺えてをるのみで、その起つた事件の是非を考察し之れを判斷することに考へ及んで居らないものが多い。事實は勿論基礎であるから之れを知ることは必要であるが、單に之れを暗記するだけでは不十分である』と。市村委員も亦實際問題を擧げて受驗者は暗記的を脫して史家としてその見識を高めなければいけない。單なる暗記では何んにもならぬ。暗記さへすれば事足りると考へるなら大なる間違である。例へば日本史の方では源賴朝とか天智天皇とか云つた風な誰にでも知れ切つてゐる問題を出してゐる。思ふに出題の意味は、此の問題を如何なる程度の史的見識を以て筆を下すかを見る魂膽かも知れぬ。さうだとすればこゝに氣付かなかつた者は多分失敗したであらう。此の見識たるや云ふまでもなく、十分研究を積んで知識が深くなつて來ないと生じないものである。云はゞ研究の結晶自己自信の認識で、此の自信が無ければ力強い明確な解答は出來ない。また東洋史では明州と云ふ地名を出したことがあるが殆ど出來た者はなかつた。勿論中等程度の教科書には見えないであらう。し

かしながらもとより中等教員志望者が中等教科書位の研究に止まることを許さぬ。明州の如きは東洋史研究者が日唐交通てふ史實に遭遇する限り必然的に氣付かねばならぬ地名である。これ東洋史研究の頗る淺い證左であり、又これに氣付かぬほど史眼が開けてゐないことを示すものである』と史眼の缺乏を說いてをられる。

更に下村委員は右のことを稍々懇切に說示してをられるからしてそれをも併せて紹介して置かう。氏曰く『何學科でも同じことであるが殊に史眼の如きは、參考書に書いてある事を暗記するだけではいけない。或は之れを分解して見るとか或は之を綜合して見るといふ事が必要である。普通の參考書に書いてあるのは事實が列擧してあるに止まり、分解綜合と云ふ方面に心を用ゐたものが割合に少い。故に此の方面のことは自分でつとめてなすよりほかに仕方がない。歷史の事柄は一見した所では何れも箇々分立して更に關係が無い樣に見えるが、深く考へて調べて見る時はそれが互に連絡してゐる。歷史を研究する者は特に此の點に注意しなければならない。又色々な事柄

が集つて或る時期と云ふ様なものゝ特別の有様を現はすことになるのであるから、分れ分れになつてをる様なことをひきまとめて全體にどういふことが現はれてをるか、その時代の趨勢がどうであるかといふ様なことに注意して見ねばならない。そしてそれが次に如何に連續して行つたか、如何に變遷して行つたかを常にたどつて失はない様にするのが肝要である。歴史の大切な點は其處にある。もとより一つ〳〵の事柄を正確に又詳細に認める事は必要であつて此の基礎が無ければ問題にならない。參考書を只讀過したとか暗記したのみではかういふ方面の事が十分に分らない。これに反し頭腦を働かして史實を記憶すると同時に之れを分解綜合して研究して行つたならば、只一時覺えるとか或る事柄が一時解つたと云ふのでなく、歴史を理解し實際の力が養はれるのである。』と。

（ハ）國漢の素養が不十分　日東史を眞面目に研究するには國語と漢文との素養が十分にあつて、第一資料を自由に讀みこなせることが必要である。然るに近來平易な國文で書かれた參考書が相當にあつて一寸の間に合ふ所から、受驗者はとかくそれにのみ賴り國漢の修養を忽にして、平易な國漢の史書をさへ讀み得ない者が多い。日本史の萩野委員はこれに就て『受驗者は一般に國文の力と漢文の力が足りない。卽ち豫備知識が足りないのである。その爲め今日盛んに出る薄つぺらな教科書や參考書ばかりを讀んで、國文や漢文で書いた根本史料を讀むことが出來ない。これは甚だ遺憾に思ふ所である。日本の歴史は古い所は重に漢文で書かれ平安朝以後は國文でも書かれてをる。然るに國漢文の力が十分ないため大日本史や四鏡をさへ讀んでをらぬ者が多い』と慨嘆せられまた東洋史の桑原委員も『眞面目に東洋史を研究するには漢文と外國語との力を要する。少しく立ち入つて或る問題を調査するには、是非漢文の資料を參考しなければならぬ。又東洋史の研究は隨分以前から歐米で發達してをる。單に塞外のみならず支那内地の史實でも歐米の學者の著書論文を參考せねば十分これを了解することが出來ぬ。勿論受驗者は眞の研究者でないがその半面で研究者た

る方が望ましい受驗用の參考書以上の史料をも必要に應じて利用する位の心がけがあつてほしい。たとへ半面は研究者たらずとも東京の『史學雜誌』や京都の『史林』に發表さるゝ東洋史に關する論文には、相當の注意を拂ひその大體なりと會得して置いてほしい。漢文の力が不足であり外國語の素養が全然ないと夫等の論文を參考することも出來ぬ。外國語はしばらく措き差當り漢文の學力でもいま少しく十分にするが必要と思ふ。「十八史略」などは適當な註解もあつて自習に便であるから、これを通讀すると歷史と漢文との二方面に稗益が少くないと思ふ。』と教へてをられる。日々僅少の時間でも一二年位繼續的に研究する時は相當な學力をつけ得るものであるから、今後の受驗者は試驗委員をして再び以上の嘆聲を發せしめざるやうに努力してほしい。

（ニ）答案の記述が拙劣　受驗者は一般に答案の記述が拙劣である。詳言すれば、問題の要求を誤解して見當はづれのことを書くか、或は故意にごまかしを長々と書くかする人が甚だ多い。之れは要するに知識の不確實なるが爲めに他ならない。確實なる知識を有つてゐるならは、決して問題の主意を誤解するやうのことなく要領を得た答案を認めることが出來べき筈である。これに就ては**中村久四郎委員**は『或る問題に對する知識の不十分な場合に、問題それ自身に關する記事少くて、問題外に亘り或は非常に間接か若くは僅かな關係のある事項のみ記して、徒に答案を長からしめんとする者がある。又比較的短き答案の末に筆を改めて、之を要するにといふ書き出しを以て全答案の半以上も記す者がある。かゝる答案はたとへ如何に長くあらうとも問題の要點に觸れること少く、長い割合に効の無いものである』と一般的に此の弊を指摘せられ、**萩野委員**は日本史の答案に就て『受驗者は答案の記述の仕方が拙い。大方は知つてゐることをすべてさらけ出して書かうとするから要領を得なくなるのである。問題に必要なことだけを書いて置けば濟むことを餘分のことを澤山書くからいけない。大切な所は二行か三行しか書けないで、書く必要の無い所を二十行も三十行も書いてある答案がある。これは先づ以て問題を解釋する力も無いものと云はねばなら

ぬ。近年の問題に例をとつて見れば、姉川の戰に就てもその起つた原因經過結果を書けばよいのである。それを信長の桶狹間のことから書きはじめたら本題の姉川の戰に至つては書き切れないで空疎なものになる。受驗者中には往々かやうな者がある。故に受驗者はすべて此の點に注意して問題の要求してゐる所に答へる樣にしなければならない。』と注意されてゐる。

また桑原委員は東洋史の答案に就て下の如く懇切なる指導を與へてゐられる。曰く『受驗者諸君は試驗問題の主意即ち問題提出者がその問題を提出した主意を十分會得し、その問題の中心點に解答の全力を注ぐことが肝要である。たとへば先年の春秋時代と戰國時代との大勢の比較の問題の如きは、兩時代の大勢比較といふことが眼目である。故に春秋時代には周の王室は已に實力を失ひしも尙名義上の尊嚴を有し、覇者となる者は多く尊王を看板として諸侯を糾合し、楚吳越の如き所謂蠻夷の君を除き中國の諸侯は一人も王號を僭する者なかりしが、戰國時代となりては周の王室はいよいよ勢微して天下に尊王を說く者なく諸侯は皆王號を僭するに至りしこと、又は春秋時代の勢力中心は楚に在りて秦晉の覇等も楚の北上を防壓するにありしが、戰國時代の勢力中心は秦に在りて六國の合從は秦の天下併合に對抗するを目的とせし等の事實を比較列記することが必要である。徒に春秋時代の事蹟や戰國時代を平板に煩瑣に述べるが如きは問題の主意を失つたものといはねばならぬ。』と。

二　受驗者に對する注意と希望

（イ）好ましき研究法　受驗者が餘りに試驗勉强に走る結果その知識が淺薄散漫なることは既に述べた通りである。然らば眞の學力をつけるには如何なる研究法をとるべきであるか。これに就ては桑原市村兩委員がほゞ同樣の注意を述べてをられるからして此處にそれを紹介して見よう。市村委員曰く『受驗者は調べるのに順序を立てたならよいと思ふ。毎年東洋史全體を通じて淺く調べて來るから少しも進歩しない

のである。毎年受験してをるが更に進境を認めぬ人などは此の弊に陥つてをる爲めであると思ふ。之れに反したとへば三年計畫で東洋史をやるとすれば、最初の年は上代次の年は中世、最後の年は近世といふ順序を立てゝ研究し、全體のことが分つたといふ自信が出來てから受驗した方がよい』と。桑原委員曰く『先づ支那内地の歴史を十分會得して次に塞外に及ぶとか、又は先づ古代中世の歴史を專心準備して、その餘力が出來てから近世の歴史に及ぶといふ風に、着實に歩を進めて漸次に準備の範圍を擴めて行く方がよいと思ふ』と。日本史の研究に就てもかゝる計畫的研究の好ましきことは云ふまでもない。

（ロ）**如何なる參考書を讀むべきか**　良參考書の選擇は受驗者の最も苦心する所であるが、これに就て本科の試驗委員が大體のヒントを與へてをられるのは受驗者にとつては大なる幸福と云はねばならぬ。日本史の參考書に就ては萩野委員は『受驗者はも少し專門的の本を讀んで來てもらひたい。檢定試驗といふ關門を通ればもう專門の教師となるのであるから、或る程度までは專門的の本に就て研究して置くことが必要である。今の受驗者は大概は日本史講話だの日本歴史集成だのと云ふ樣な此頃の本ばかりで準備してをつて昔の有名な書を知らない。讀むのには少しは骨は折れやうが、大日本史や日本外史等は一通り如何なるものであるかを知つてゐなければ困る。山陽が外史を書いたと云つても日本外史がどんなものか知らない樣では甚だ拙い。近頃の試驗でも此等の本に就てきいて見たがどうも讀まない人が多い。これは受驗者の缺點であつて近頃の本のみを讀むことは準備として不十分である。』と大體の方針を示されてゐる。

東洋史に就ては桑原委員は『西洋史や日本史に比して東洋史には良參考書が無い。必ずこれと指定して推薦する程の良參考書が少い。これは吾輩も受驗者諸君と共に平常甚だ遺憾とする所である。今日の所では故那珂通世博士の「那珂東洋史」等を熟讀して東洋史の大體に關する知識を固め、次に同博士の「支那通史」を精讀するが最良

の方法と思ふ。その制度文物に關する記事は然るべき人に就いて質問して知識を確實にするがよい。伊藤東涯の「制度通」も一應參考に供すべきであらう。「支那通史」は南宋以前に限り元以後の記事を欠いてをる。支那でこの「支那通史」を補綴した「歷代史略」といふ書がある。これは宋以前は全く「支那通史」により、同樣の體裁で元明二代の記事を添增したものである。漢文の力ある人は之をも參考に供するがよい。たゞ元代明初の西域の記事には往々間違があり、又漢字のみで外國の地名人名を綴つて不便が多いから、此の時代の塞外に關する史實は河野元三學士の「蒙古史」(早稻田大學出版部)等を參考した方が利益が多い。清朝時代の參考書としては稻葉君山氏の「清朝全史」がある。隨分浩瀚で記事も稍煩細に過ぎ初學者には如何と危まるゝ點もないではないがとにかく一應通讀の價値があらう。」と語られ、中村委員は受驗者の大體讀むべき參考書として市村讚次郎著『東洋史要』那珂通世著『支那通史』高桑駒吉著『東洋歷史通覽』大村西崖著『支那繪畫史』伊東忠太等著『東洋藝術史料』東亞同文會編『東亞關係特殊條約彙纂』井上哲次郎堀謙德共著『釋迦牟尼傳』境野黃洋著『印度支那佛教小史』『十八史略』『二十二史劄記』を擧げ、地圖及び年表としては外交時報社『國際關係地圖』三省堂『世界年表』雜誌としては『史學雜誌』『歷史地理』『歷史と地理』『考古學雜誌』等をすゝめてをられる。

(ハ) 他の歷史との關係に留意せよ

中村久四郎委員曰く『歷史事實は如何なる國も決して孤立するものでなく、それ〳〵他の國と相關係してゐる。東洋史また然り。從つて東洋史の準備にも常に國史西洋史との聯絡を保ち、殊に最近に至つては世界共通の關係多きに就き尚更此の點の注意が必要である』と。當然のことながら受驗者からとかく忘られ勝であるから特に注意を促して置く。

(ニ) 教授法の研究の必要

下村委員は教授法研究の必要なることに就て下の如く述べてをられる。『受驗者は中等教員にならうといふために試驗を受けるのであるから、自分が學習して試驗を受ける準備をなすと同時に、自分の學び得た所を如何に

敎授したらばよいかといふことを考へて行かなければならぬ。尤も受驗者は多く小學敎育に從事してゐる人が主であるから、その點に就ては彼此云ふ必要がないかも知れないが、あまり知識を得るといふ方面に力を用ゐるために此の方面が動もすれば忽にされる憂がある。それでは困る。その方には手が廻らぬといふ者もあるかも知れないが、學習して行く所を一方に之れを中等敎員となつた時に如何に敎授すべきかといふ事を考へつゝ研究して行けばよいと思ふ。さうすれば又自分の知識も確實となるのであつて一擧兩得な譯である。しかも受驗者の多數は此の點に就て都合のよい位置にあるのであるから、學習と敎授といふことを密接な關係に置く樣つとめなければならぬ。』と。此の方面も前項同樣多くの受驗者の輕視するところであると思ふから特に附記して置く。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【日本史】

◎萩野由之著　註釋日本歷史　博文館

本書は從前の受驗者の必讀した『中等敎育日本歷史』及び『日本歷史要解』（共に絶版）の二冊を纏めて一冊となし、新に前二書に漏れたる最近の重要史實を附加し、且必要な箇所に增補修正を施せるものである。簡潔にして要を得てゐるから最初に讀んで基礎を作るに好適である。受驗者は宜しく本書を中心精讀書とすべきである。

◎青木武助著　參考日本大歷史　寶文館

本書は多數の合格者に讀まれてゐる好著で、受驗者は第二に必讀すべきである。編

章は中學校教授要目によつて區分し、叙述が繁簡宜しきを得てをるから、讀んで頭に入り易く文檢には手頃のものである。只文化制度の方面が不十分であるからそれは他書によつて補はねばならぬ。

以上二書がよく分つたら七八分の準備が出來たと云つてよい。

◎有賀長雄著　大日本歷史　博文館

◎新井白石著　讀史餘論　大同館

前者は下村委員が必讀をすゝめられてゐる位の好著で上下二冊から成つてゐる。容易に求めることが出來るから精讀しておくがよい。後者は新井白石が幕府の命で殿中で諸侯に古今の大勢を說きし時の草稿で本邦國史本の粹を書き拔いたもので白石が心血を濺いで成つた書である。未だ一般の研究者には知られて居らぬが國史研究者には重要なる參考資料である。價も安く容易に求められる良書である。

◎大森金五郎著　國史概說　三省堂

本書の價値あるはその大半を占めてゐる國史問答で、例年の問題を見るとそれが大に役立つことがわかるのである。

◎黑板勝美著　國史の研究　目黑書店

書中の史籍解題と史論とは熟讀を要する。舊版（一冊）と新版（上下二冊）とあるがどちらでも差支がない。

◎重野久米星野共著　國史眼　目黑書店

漢文直譯體で頁數の割合に多くの史實がつめ込めんであるからして通讀して他書に無い所を補ふに都合がよい。

◎岡部高橋共著　文部省檢定受驗用　大日本歷史　大同館

文檢參考書たることを當面の目的とせるものであるから、史實は合格に必要なる程度に詳しく、且つ初回以來の問題を悉く解答してあつて受驗者にとつて至極便利な本である。合格者は大抵これを參考してゐる樣である。

◎萩野由之著　日本制度通

◎小中村清矩著　官職制度沿革史

年々の試驗問を見れば分る通り制度のことは特によく調べておくことが必要である。それには前書は最もよいのであるが絶版で求め難くからうから、後書によつて大體調べておくがよい。

受驗準備としては最早これで十分である。風俗史宗教史等の特殊史を讀んでゐる合格者もあるが、此等は餘力があれば讀むのは結構であるといふまでゝ、是非讀まねばならぬといふことはない。しかし日本文學史は暇があるなら芳賀矢一氏の『國文學史十講』位で見ておくが得策である。

尚口答試驗の際有名な根本史料を讀んだかどうかをよく問はれるから、「神皇正統記」位を通讀し『大日本史』『野史』『本朝通鑑』『古事記』『日本書記』『六國史』等有名なものは、本試驗前圖書館でなりと編述の體裁だけでも見ておくがよからうと思ふ。

吉川弘文館
誠之堂

終に日本史研究上地圖年表等を常に座右より離すべからざるはいふまでもない。左記は最も多く從來の合格者によつて利用されてゐるものである。

◎河田他二氏著　日本讀史地圖　富山房
◎三省堂編　最新世界年表　三省堂
◎大森金五郎著　日本讀史年表　弘文館
◎八代他二氏著　增訂國史大辭典　同上

【東洋史】

◎中村久四郎序閲　文部省檢定　高橋與惣著　受驗用　東洋史の研究　大同館

は中等教科を一通り讀了後は先づ最初に本書を二三回精讀するがよい。本書は中等學校の教授細目を基礎として通說せるもので紙數約九百頁。那阿博士市村博士桑原博士等の學說も重要なる點は要所に拔萃して叙述せる外、文檢の第一回よりの問題は盡く解答して入れて居る。試驗委員を初め其他有名なる學者の說も悉く取

入れてあるし史實の記述も中々詳細で受驗者にとつては頗る便利重寶な本である。

◎高桑駒吉著　中等東洋歷史詳解　三省堂

表解的書き方で頭に入り易い、大體の概念を作るべきで書である。巻末の系圖と年表と傳記は研究上頗る便利である。

◎那珂通世著　那珂東洋小史　日本圖書會社

記述が極めて要領を得てゐる。程度から云へば前書に次で讀むべきであらう。

◎桑原騭藏著　中等東洋史　日本圖書會社

◎同　人　東洋史教授資料　開成館

◎市村瓚次郎著　東洋史要　吉川弘文館

以上三書は從來の受驗者が皆讀んだもので、これさへ讀めば東洋史は八九分通り準備が出來上るのであるが、惜い哉今は皆絶版である。(尤も東洋史教授資料は非賣品で同氏の教科書を使用してゐる中等學校教員に配つたものであるから今でも借覽出來ぬことはあるまい)震火災以前には東京の古本屋に幾らもあつたものであるが只今では求むることは非常に困難であらう。しかし前述せる通り極めて價値ある本であるから讓受又は借覽の便ある人は是非精讀するがよい。

◎河野元三著　改訂東洋歷史講義　金刺書店

上下二巻九百頁の大本である。史實は可成り精細であるが頭をまとめるに一寸難がある書である。

前記の諸書を讀めば先づ八九分の力がつくが制度學術宗教風俗等に關する點が聊か不安であるから左記によつて補ふ必要がある。

◎那珂通世著　支那通史　日本圖書會社

◎市村瓚川共著　支那史　弘文館

前者は漢文史で非常に有名な著述である。後者はまた制度文物等を調べるによい本であるが今は絶版である。昨年までは古本屋に澤山あつたものであるがいまは古本で

求めることもむつかしからうと思ふ。

◎松井等著　支那現代史　明善堂

本書は支那に關する現代的の生きた知識を得るために必讀の好著である。

◎林泰輔著　朝鮮史　富山房

◎同　人　朝鮮近世史　同

次に朝鮮に關することはよく問題に出るから是非調べておかなければならぬ。殊に支那との交渉點に就ては年表と對照して研究しておくことが必要である。參考書は前者でも後者でも一種だけで十分であらう。

◎曾先之撰　十八史略

これは口答試験の際よく讀ませられるから必ず一讀しておかなければならぬ。

地圖は從來の合格者は多く左記のものを用ゐてゐる。

◎箭内互著　東洋讀史地圖　富山房

◎重野河田共著　支那疆域沿革圖

尚『史學雜誌』『歴史と地理』『歴史地理』の如き雜誌を讀まなければならぬことはふまでもない。

二　如何なる研究法をとるべきか

（イ）反覆熟讀　某合格者は下の如く述べてゐる。曰く『研究法を一言で云へば反覆熟讀以て豐富なる知識の蘊蓄を期するにある。他學科よりも非常に記憶力を要するけれ共反覆熟讀すれば自然に腦裏に蓄積することが出來る。此の點より見て精讀を要する本は成るべく回數多く讀むことが肝要である。次に「國史概說」中の問答は要點を拔萃し、又通讀書よりは新しく見た人の事蹟や史實等はその要點を拔萃しておくが宜しい。東洋史では「文檢用東洋通史」を原據として「中等東洋史」と對照し同一事項にて「中等東洋史」に詳しきことは悉く之を「通史」中に書き入れ、「通史」に

全く無き事項は白紙を挟んで書き、かくして「通史」と「中等東洋史」とを一冊に纏めたものとした。これは非常に記憶に便であつた。又「東洋史要」の如き記事複雜で記憶し憎きものは同關係の事、例へば匈奴とか突厥とか三韓とか柔然とか契丹とかいふことが處々にあるのを、皆書き拔いて前後連絡せしめて通讀に便にした。且つ段落を細分して記憶を助ける工夫をした。又卷末の索引にある人名地名熟語等の分らぬことは辭典によつて調べるやうにした。次に「國書解題」によつて歷史に關する書籍を調べた。これ試驗問題中に書名を出さるゝことが多いからである。』と。たとへ參考書は別種のものを用ゐるにしても研究の方法に於ては參考となる點が多いと思ふ。

（ロ）**失敗三則**　木試驗の筆記に二度失敗し三回目に合格せる某氏は自己の經驗から後進者に對して次の如き注意を與へてゐる。曰く、

A順序無き研究――私は始め青木武助氏の「參考日本大歷史」と河野元三氏の「東洋歷史講義」とを各中心書と定め、これだけ讀めば大凡の準備は出來るだらうと思つて最初から此の二書を讀みかけた。前者は約千二百頁後者は上下二卷が約一千頁相當大部なものである。日本史は大抵分つたが、東洋史は餘り詳しすぎて初學者には中々頭へは入り惡い。個々の事實は分つても根幹が出來ぬ。知識に連絡がなくて切れ切れである。これでは駄目、寧ろいろはのいよりはじめるに如かずと、うんと考を下げて桑原隲藏氏の東洋史教科書を複習し、次に同氏の初等東洋史を讀み、次に高桑駒吉氏の中等東洋歷史詳解に入り、次に又桑原氏の中等東洋史を讀んだ處容易に了解することが出來て追々奥所に入り大に讀史の趣味を感じた。そこで日本史の方も萩野由之氏の中等教育日本歷史からやり直した。これはほんの一例であるが他にもこれに類した失敗をやつた。これが爲め時間と精力とに於て非常な損をした。成功を急ぐと自己の精力體力腦力に對する自負心から稍ともするとやつてのけるとである。易より難に簡より繁に急がば廻れとは隨分古ひ言ひ草ではあるが文檢受驗者にとつては座右の銘である。

B濫讀――受驗記を見ると多くの參考書が書き並べてある。あれも讀まねばならぬ

かこれも讀まねばならぬのかと思ふと迚もじつとしては居られぬ、唯もう精力に委せて讀みたくなる。その結果に前後の聯絡もなく史實の關係も一向考へず茫漠たる半解の知識を得るに過ぎぬ。かくては的確な答案が書けぬのである。的確な答案を書くにはどうしても知識が確實でなければならぬ。而して確實な知識を得るには精讀よりほかないと思ふ。

C知識の不整理――濫讀すれば無論知識は整理せられてをらぬが、單に讀んだといふ丈けでもまた一理せられてをるとは言はれぬ。甲と乙との關係は如何、異同は如何背景は如何等と史實に考察を加へ書物を我が物としてはじめて知識が整理せられたのである。此の考察がやつてないと平易なことにも敗を取ることがある。書物の題目が出れば幸だが、一寸ひねくつて出されると直ぐ閉口してしまふといふ樣なのはそれである。私の失敗もこれが大にある。

以上述べた順序無き研究、濫讀、知識の不整理これが失敗の主なる原因である。これを裏面から云へば段階的研究、精讀、整理が成功の要訣である。私は苦しい經驗を嘗めてこの教訓を得た。

と尙受驗者は第二章第二節の二を參照すれば得る所が少くないと思ふ。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を見よ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及第二章第二節の四を見よ。

五　口答試驗に對する準備と注意

一般的の注意は第一章第二節及び第二章第二節の五を見よ。本科に於て特に注意す

べきは『十八史畧』を讀みおくことと、筆答試驗の答案の不備なりし點を十分に調べておくことである。

第六章　歷史（西洋史）科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

（イ）地理的知識の缺乏　歷史研究上地理的知識の必要なることは云ふまでもないが、此の當然なることが從來多數の受驗者によつて忘られてゐたことは、下掲村川委員の談話によつて明かである。曰く『歷史の研究には地理の知識が必要であつて、地圖の如きは始終頭の中に入つて居て、必要に應じては何時でも地圖を黒板に書くだけの力がなくてはならぬ。然るに受驗者の答案に依つて想像すると、受驗準備の際十分に地圖と本文とを引き合せないで或る重要なる地點の如きも確にその位置を知ら

ない程度のものが少くないことが分る。此等は西洋史科としては許すべからざる弱點と思ふ。」と。

二　受驗者に對する注意と希望

（イ）**生きた教授をなし得るやうに研究せよ**　磯田村川兩委員は本科研究の目標を何處に置くべきかに就て極めて有益なる談話をされてゐる。村川委員曰く『中等學校の西洋史科を擔當する教員は、現在の世界が如何にして吾々が今日見る樣に發展して來たかといふことに就て最も明確なる知識を有し、生徒をして世界現勢のよつて來る所以を十分理解せしめねばならぬ。それには過去に於て起つた事件、過去の西洋の經濟政治の變遷、過去に現はれた偉人の行動に就て明確な知識を有することが必要である。卽ち中等教科書に現はれる箇々の事實に就ては教科書の本文に數倍する詳細の知識を有することは無論必要であるが、それと同時に箇々の事件の關係連絡に就ても明確な知識が無ければならぬ。それで檢定試驗の問題は此の二つの方面の知識如何を見る樣に選ばれるのであるから、單に器械的に參考書に記載してある事實を暗記するだけでは十分でない。必ずや自分で十分の考察をして社會の變遷をちやんと頭の中へ疊み込んで置いて、問に應じて適切な答解說明を行ひ得る樣に用意して置くことが必要である。試驗の答案を見ると箇々の事實や年代等に就ては偶然か知らぬが中々よく暗記してゐる割に、全體の記事が連絡に於て缺くる所があり大勢に就ての了解如何が疑はるゝものが少くない。此の點は受驗者に於て特に注意せられたい』と。

・また磯田委員曰く『檢定試驗に於ては教科書に書いてある事が十分に教へられるかどうかといふことが分ればよいのである。教科書に短かく書いてあることがよく分り、それと同時に教科書に書いてある事が教育上どういふ意味があるかといふこと卽ち教科書の文句と事實の價値が分ればよいのである。故に教科書の樣なものを幾ら暗記して來ても試驗を受けるには役に立たない。或る事柄に依て重要な事柄とそれほど

でない事柄との見分けがつかなければならぬ。重要な事は精密な事までもはつきりと知らねばならぬ。骨董屋の様に細かい小さいことまで知つてをる必要はない。一方に於ては細かいことを見ると共に、一方に於ては大體の糸筋を握んでゐなければならない。事實と事實との間の關係をよく知り、大小輕重がはつきり分つてゐないと教授の効果がなくなる。要するに歷史でもつて色々な事を知るといふよりもどういふ風に生徒に授ければその生徒が一生涯の役に立てることが出來るかといふことをやつてもらひたいのであるから、受驗者もさういふ心掛けで準備をして貰はぬと困る。隨分此の頃は受驗者も多く中々よく調べてゐる人もあるけれども、又一方の缺けてゐる人もあるから兩方やつてもらはぬといけぬと思ふ』と。

右兩委員の談話を熟讀する時は、如何なる點に主力を注がなければならぬかゞ判然すると思ふ。

ロ　近代史の知識を得るには

近代史研究の必要なることは誰しも知つてゐるが、その參考書が殆ど無いので困らされる。然らば如何にして之れを研究すべきであるか。故箕作博士曰く『昔の事ばかり知つてゐて近代のことを知らぬのも困る。最近の事など少しも知らぬ人がある。これは新聞の外國電報を注意して見る樣にせねばならぬ。外交のことは外交時報、國際法學雜誌、外交史等を見て居ればわかる。新聞等を一々注意して讀んで居らぬと極つまらぬ事を知らないでまごつくことがある。それに就て歐羅巴の地圖位は大體のことは頭に浮ぶ位になつて居らぬと困る。例へば新聞にヴエルダンが出ればその位置簡單な歷史等を地名辭書で見ておくがよい。もう一歩進めば何故ヴエルダンがさう屢々歷史に出て來るかといふ事を考へて見る必要がある。』と相當骨の折れることではあるが受驗者は必らず此の心掛けあることが必要である。

（ハ）　外國語の素養あることが望ましい

西洋史研究上外國語の知識の必要あるは云ふまでもないが、受驗者の八九分はこれが修養を怠つてゐる。それでも試驗に合格する事は出來るが、外國語の本を讀めなければ、それで研究の心が止まつて後々

退歩するほかないのである。受驗者は下揭村川委員の談話を必ず實行せらるべきである。博士曰く『受驗資格として規定せられてはをらぬが受驗者に於て相當英語の素養あることが最も望ましい。ほとんど凡ての中等學校に於て英語が必修科となつて盛んに課せられてをる。その生徒に對つて西洋史を說く教師が若し地名人名の原語の綴りを誤ることがある樣では到底教授の任を完くすることは出來ない。加之日本文の參考書のみを賴つてゐては將來自修に依て益々學殖を豐富にする方便が甚だ少い。西洋史に關しては邦文でも既に數種の著述があるけれども、これを外國の著述の豐富なるに比すれば眞に九牛の一毛ともいふべきほどの貧弱であるから、少く共一外國語だけは相當に理解するでなければ完全なる中等教員たることは望み難いと思ふ。』と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

◎龜井高孝著　參考西洋史　博文館

中等教科書（普通村川堅固博士六訂のもの）を三四回繰返して讀んだなら、受驗の底本とも云ふべきものを、本書にとるのが好適である。本書は中等教科書と西洋史講話級の大書との中間にあり、しかも割合によく精練された句で、其內容の如きも、他の大書に見當らぬ貴重なことが記してある。五六回は必ず讀まねばならぬ。

◎箕作元八著　西洋史講話　開成館

何しろ大家の著述である。內容も史眼（博士獨特のもの）も現今行はれてゐる書では第一である。併し受驗向には決して作られ居らぬので、其邊の取捨が頗る難かしい千何百頁の大冊を屢々繰返すことは、たとへ趣味の學科としても、實力養成とは云ふものゝ、時間上の問題として許されないが、三四回は、是非繰返して見ることが必要

である。

◎重田勘次郎著　詳說西洋歷史

これは史實に於て既に如何と思ふ節もあるが、實によく整頓されてゐる。頁數は西洋史講話と伯仲の間にあるが、上古、中古とも詳密で、西洋史講話の上、中古の簡略を補ふことが出來る。讀みよいことも他書に勝り、受驗用としては本書の右に出づる書はあるまい。

惜い哉、今は絶版なので、求め難い。神田あたりでも、古本屋は、法外な七八倍の高價を稱へてゐる。併し最近は、本書の閱者磯田委員が交迭されたので、問題の出かたが少ないと、口善惡なき京童の話も聞くことがある。

◎村川堅固著　西洋上古史

上古を窺ふには、本書に勝るものはない。記事詳精、史眼も又非凡である。上古より出題される、三分の一の問題は、極端に云へば、本書より出づると云ふも不可なき有樣である。本書の精讀は大勢を左右にするものである。三四回の必讀は勿論である。併し本文は、實に讀惡い、隨つて頭に入り惡い。根氣と努力が專一である。

◎村川藤井共著　最近西洋史講話

上下二冊、詳細なる點に於ても史實の新らしい點に於ても良著である。受驗參考用としては、目今詳說西洋史に代はるべきものと思ふ。ただ活字も少さく、ギッシリと頁を塞いで、讀惡い事前同樣。三回以上は讀まねばならぬがなか〳〵骨折りである。

受驗用としては、第一に章句、事件、人名、地名等は、其の配列が第一である。活字の字體を違へたり、圈點を附する等に至る迄の工夫が大切である。事小に似たれど我々の頭に何萬の記事を遺すには、見易いことゝ、變化が記憶上に第一である。

小型の極く薄い冊子ではあるが、大戰は一通り纏つて、書いてある。二三時間で興味を以て讀むことが出來る。

◎村川堅固著　世界改造の史的觀察　右文館

大戰及び、最近を窺ふ良著、必讀の書である。近來この中より、口述に質問されることがよくある。

◎小林博著　文部省檢定受驗用　西洋通史　大同館

最近大同館より刊行さるると聞いてゐるが、氏の多年の研究は、新事實の翻譯、と俟ち、且つは受驗の實經驗に鑑み、排列其他編纂法にも苦心の存する所があると云ふ。詳密で大冊に近い樣であるが、或は斯界に多大の便益を與ふる好著であらうと信ずる。

◎板垣鷹穗著　西洋美術史要　岩波書店

美術に關する問題は筆答にも出るから本書を見ておくがよい。最新刊で分量が少く内容がよく整つてゐる。

其の他以上の外、瀨川博士の西洋通史、同全史、結構ではあるが、受驗用としては感服出來ぬ。只間口を擴げるに過ぎない感がある。寧ろ他書を繰返すに如かずである。

齋藤氏の西洋文明史觀は文藝方面につき一讀の價値があるが、何分大冊である。本多氏の新式西洋史、妻木、藤林兩氏の西洋史詳解何れも小型で、受驗用と見えて、其の實、讀惡い事に驚く、蓋しポケット用として外出、通勤時に讀む時間利用としては宜しい。

◎マイヤー氏　ゼネラルヒストリー　丸善

洋書では普通のもの、高等學校などで教科書或は參考書に用ひられてゐる。讀易いものである。

◎ブッツゲル氏　西洋歷史地圖　丸善

地圖としては最上のものである。英獨兩版あるが自分の心得て居る方がよろしい。

◎齋藤清太郎著　西洋歷史地圖　明治書院

日本製としては、悲しい哉本書位かと思ふ。齋藤教授は西洋史の新委員で氏の著述

せられた西洋史も二三あると覺えてゐる。又教科書もある。併し何れも大部の著ではない。本地圖も簡略で逸してある地名が多い。地圖は外國のものに限る。口述の時、外國地圖で研究した爲め、委員に譽められた合格者もある。日本製の地圖では逸が多い爲めである。

二　如何なる研究法をとるべきか

次の三項は某合格者の筆である。

イ、**多讀主義**　多讀は、最も受驗に必要なる條件である。これなくては、受驗其のものゝ立志が出來ぬ譯である。合格は水も洩らさぬ。多讀の人でなければ、三回の試驗中には、必ず篩はれるは明かなることである。委員の方が吾々を見るのは、吾々が小學校兒童を見ると同樣かも知れぬ（稍〻當を外れた比喩だが）たとへ正面から答られたにせよ、少し怪しいと見れば裏面、側面から、言葉をかへて聞かれる。未熟ならば馬脚を現はすと云ふ次第である。實力養成主義の多讀も亦捨難い哉である。

ロ、**精讀主義**　吾人の記憶に幾多の困難があり、時間に於て許されぬものがあり且つ又、チラと見た問題（多くは單語）ではあるが、曖昧で筆が下せぬとなれば、精讀主義に限るのである。精讀主義に於ては

第一、中心參考書の嚴選と其の精讀暗記。

第二、大綱把捉（小々の犧牲單語の如きは止むを得ぬ）

とする主義に歸着する。

ハ、**ノート主義**　記憶本位の打算から出發してゐる。一面運動覺にも訴へるので銘記することが確實である。時間不經濟の如く見ゆるも、後はノートによつて、要約した所を見るので却て經濟である。如上の二主義に比しても毫も遜色なき確實の勉強法である。

參考書の地名人名事件等の記載については互に一長、一短があり且又、記事の出入

してゐる所も多い。ノートとなせば、これらを網羅することが出來得る特長がある。これと云ふ定つた形式もないから、自己流でよろしい、其の自己流も後になると、自分で、訂正工夫し、其の人獨特のものが出來る。何々博士の著も及ばぬ貴重なものである。單に自分丈けの覺であるが、一例を擧げて見ると、獨佛戰爭の條約ならば、

一、佛蘭西はエルザス州並にロートリンゲン州を割讓す。
二、佛蘭西は五十億法の軍費を、三ヶ年間に獨逸に支辨す。
三、ベルフォールを占領せる、獨逸軍は、軍費賠償金の支拂に伴ひ、撤退す。

とあれば

一、エ、ロ二州　二、五十億法(三年)　三、ベルフォール償還→撤退

の程度で自分だけには、よく解るものである。

以上の三主義は、要するに一長一短があるが、適當なる、ノート式ともなり、又更に詳密を極めた、要約のみの、受驗的參考書が現はれる迄は、暫くこの主義に從はねばならぬ。二主義を併用するなり、或は三主義を折衷するなりは各自の任意である。

尙某合格者は下の如き方法をとつた。日く『ノートの上欄に空所を設けて地名人名等の他書に出て居るものを拔き出して朱書し、他の頁を容易く見出す爲めその頁數を記して置きました。例へばヴエルサイユといふ地名がノートの五頁と八十頁とにある時は五頁の上欄にヴエルサイユと八十とを朱書し、八十頁の方にはやはりヴエルサイユ五と書いておくのです。これは非常に便利ですから是非さうした方がよいと思ひます。』と。なるほどこれは頗る調法なノートの作り方である。

尙第二章第二節の二と前章第二節の二とを參照せよ。

三　時間を如何に利用すべきか

イ、予の時間節約法　某合格者曰く大多數の受驗者は、小學校の敎員で、中には、

中學校卒業後、官省に勤められる方もあらう。自分も小學校教員の一人であつたのである。事務の多い小學校に於て、自己の本務に忠實にして、其の上如何に時間を節約して、餘分の研究に從事するか。これ一面至難の問題ではあるが『彼も人なり吾も人なり』幾多先輩はこれを成遂げてゐるのであるから奮起せざるを得ないのである。通勤中、或は少しの暇を偸みつゝ讀むこと。これはノート或は小形の冊子でポケットに納められる程度のものである。早寢早起主義を採用する人も、遲寢遲起主義を採用する人も、各自の身體、習慣との相談である。要するに、惰眠より遠かることは同一である。

宵張りの人は、これを延長して、夜の靜寂に猛烈に勉強するがよし、（自分はこの主義である）又朝起のものは、新鮮なる氣分の裡に、床を蹴るのも可なりと信ずる。一日平均、四時間以上を讀書に費す樣に、餘暇を得る。これを規則として、止むを得ない、交際の時などは、日曜、土曜日から埋め合はせ、平均四時間は、嚴守する。四時間では百五十頁位の所と思ふ。最初は百頁位。讀むだけならよいが覺えねばならぬ。小說本と違ふ。苦しさも、又滿足される知識慾も交々である。

周圍の喧しい時の音讀と、暗記し憎い時の音讀は相當な效果を收める。

ロ、早寢早起主義で僅七ケ月に　某合格者曰く『僕は元來西洋史には趣味を有して居たが何も特に研究したことはなかつた。受驗を志した年の二月になつて箕作博士の西洋史講話を求めて讀みはじめた。最初のほどは中々進まぬまた面白くもないしかし三月になつて二回目にかゝると此度は朦朧とした點も大分明白になり苦しき中に愉快な點も出來て來た。僕は當時小學校に奉職してゐたので宿直室を獨占してゐた。僕は朝は必ず一時二時頃から起きて學校の初まる前まで讀書する。此の間は僕の世界である。しかし自炊と來てゐたから、始業前の世話しいことお話にならぬ。大急ぎで自炊をやらかし飯をかきこみ蒼惶として授業へ出る有樣であつた。しかし午後と夜とは殆ど勉強せずして夜はなるべく早く床につく樣に

した。三月の休暇には歸郷もせず宿直日直引受けで學校へ籠城した。この間重田勘次郎氏の詳說西洋歷史をやり出した。始めは馬鹿に精しい樣な氣がした。休暇中最大速力で讀んだが半分ばかりしか讀めなかつた。殘りを四月に續いて讀んだ。四月末激烈な赤痢に犯され傳染病院へ送らるゝ身となつた。それでもう今年の文檢は水の泡と諦めてしまつた。中々苦しかつた。その中に少しく快方に赴きかけるとまたやりたくなつた。その時先きの詳說西洋史と坪井九馬三氏の西洋史要とが隔離室の棚の上にあげられた。しかし頭も疲れてゐるので了解出來る筈がない。入院すること二十日ばかりして歸宅を許された。歸宅早々また勉强にとりかゝつた。まだ足も十分に立たない中に轉任を命ぜられ山間の小學校へ奉職する身とはなつた。そこは某川の上流で頗る清楚の地であつた。また宿直室獨占を申込んだ。しかし飯は今度は近所の農家へ食べに行くから自炊の手間は省けて非常に嬉しかつた。不相變朝勉强主義をとり大抵一時より起きて奮闘し、頭疲れては清流の籠橋の上を逍遙しかくすること五六分にしてまた讀書にとりかゝつた。かくて八月の豫備試驗までには西洋史講話を五回詳說西洋史を四回讀了することが出來、基礎的の頭が大分作られて來た。勿論その間に箕作博士の南亭史說集、同氏西洋史話、村川博士西洋上古史その他の書物を補助的に讀み、分らぬ固有名詞等は市の圖書館や中學へ行つて地名人名の辭書を引いた。』と。これを讀んで奮起せざる人はおそらくなからうと思ふ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

某合格者曰く『問題は一、二は半ば應用的に、長い世紀に涉つた所を纏めさせる樣なのが多く、史眼を見る目的も含まれてゐる。三、四の單語は、研究の間に、奥行を見る問題、單語が一つ不能とすれば、それだけ間口が狹められ、書足りないと、奥行の程度を測られる。單に記憶方面の實力は、遺憾なく發揮せられるの

である』。

尙第一章第二節及び第二章第二節の四を見よ

五　口答試驗に對する準備と注意

某合格者曰く『口述は、如何なやさしい、問でも、決して反射的に答へず、一應は考へて、雜然と浮上つて來るのを、整理して出すべきである。不確實なことは、答へぬがよい。委員の方にヒントを與へられて答へる時も、又スラ〳〵と答へる時も、愼重を要し、不必要なことは附加せぬがよい。問はれる問題については、委員の方も十二分の用意がある筈である。最近の時事問題はよく聞かれるから、新聞紙の記事は受驗中、ことさらに注意研究を怠らぬ樣にしなければならぬのである』。

某合格はまた口答試驗のはじまるまでの間上野の圖書館やその他の圖書館に通つて疑問とする點を調べ、口答試驗に於て非常に利益を得たと語つてゐる。

尙一般的の注意は第一章第二節及び第二章第二節の五を見よ

第七章　地理科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　知識が不確實で暗記的　西村委員は本科受驗者の通弊につき『地理科の受驗者は適當にまとまつた參考書が無い爲めに、速成的準備が出來ず頗る不便を感ずることでせう。しかし元來學問に速成を望むことは人情でありながら考へて見ると變な話でどうしても相當な時間や秩序立つた準備や努力が必要なものです。秩序的の準備に就ては獨學者は可なり困難を來たす筈で何うしても亂讀をまぬかれぬ傾向があるやうです。從つて知識が不確實で機械的である樣です。學問上では勿論暗記は重要な基礎には違ひないが、併し近代諸學の傾向は益々論理的になつて來てゐます。從來暗記專門の如く考へられてゐた地理科の如きも決してさういふ風に片付ける譯には行かなくなつた。何故かといふとが直ぐ出て來る。大都市の名稱は大抵知つてゐるが此の現象は何故かといふ問題大都市が並んでゐる。大都市の名稱は大抵知つてゐるが此の現象は何故かといふ問題になると行詰つて仕舞ふのです。これでは地理學の價値が失はれて仕舞ひます。地理學上の諸問題が如何に吾々人類の實生活に深い關係があるか、卽ち地人相互の因果關係を研究しなくては地理學は枯死してしまうのです。かういふ點に對する注意は受驗者には不十分の樣に認められます。殊に獨學者にはそれが甚しいのです』と受驗者の知識が餘りに器械的暗記的で且つ不確實なることを戒めてゐられる。

ロ　實地の研究が不十分　本科は歷史科と異つて實地研究といふ極めて厄介なものがある。豫備試驗を通つて本試驗で失敗する受驗者は大抵この實地でやられてしまう。されば厄介であるからと云つて決してその研究を粗略にすることが出來ないのであ

る。山崎委員はこれに就て『實地の問題特に器械の問題に就ては書物や人からきいたばかりで、自らその器械を用ゐたともなく試驗を受ける人があるがそんなのは試驗の際すぐ分る。こんなことで他日教壇に立つてどうしてよい結果を收めることが出來よらか。嘘か本當か知らぬが器械の目錄を或る先輩へ持つて行つて之れを說明して貰ひ得たりかしこしと試驗を受けた者があるといふことである。これでは及第する氣遣はない。器械の樣なものは直接これに觸れて根本的に理解しなくては駄目である。よし試驗場でごまかして及第したとしても教師になつた場合に良心が咎むることがないだらうか。甚だ疑ふのである。』と云はれ、また西村委員は『受驗者は標本を多く見て置かなければならない、寫眞繪葉書類も同樣である。そして只見たのではいけぬ、十分その特質を會得して居らねばいけぬ。地圖も同樣である。器械類も同樣使用法を知るに止らず使用して會得して居らねばならぬ。器械は珍らしい樣では使用は出來ぬものである。次にまた山を見ても川を見ても都邑を見てもその要所の腦裡に早く入る樣にする練磨は中々時を要するが、これが出來ねば机上の空論となるのである。要するに書物と實地との經緯で立派な知識といふ織物が出來るのである。』と親切な注意を與へられてゐる。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　獨學上の心得　受驗者は多く獨學者である。主として獨學によつて地理を學習するには如何なる注意を要するかに就て大關委員の語られた所は受驗者に對する好指針たるを失はない。氏曰く『先づ中等學校の教科書を熟讀すべきである。また日本の統計書を讀まなければならない。Year book 卽ち年鑑を讀まなければならない、又新聞雜誌官報に現はれることは悉く自分自身で學び得るものであるから、此等のものをよく讀まなければならない。受驗者の中官報を讀む者が幾人あるか。恐くは甚だ少ないであらう。又限られた題目に關してゞあるが立派な研究である農商務省地質調査

所の研究報告、震災豫防調査所の報告及び大學紀要、其の他此の如き種類の原據となる知識の發表機關があるから、此等によつて研究すべきである。次に正則の養成機關に於て教育を受けた人々が、中等學校に於て實際如何なる授業をしてゐるかを參觀しその實力を窺ひ、又なるたけ早く專門の人人が知つてゐることは知つて置かねばならない。たとへば先年の試驗に出た海蝕輪廻などいふ言葉は誠にありふれた言葉であるけれども書けた者はほとんどなかつたのである。また傾斜器の使用法を知つてゐたのは實に一人もなかつたのである。しかし全然獨習だけでは駄目であつて自分以上の者によつて指導されなければならない。そのためになるべく多くの機會を作らなければならない。東京や京都に出で又地方の講習等に出席して直接間接に指導を受くべきである。又常に自分の知識には誤が多いだらう。自分の考へ方は間違つてゐはしないかといふことを恐れる心がなくてはならない。又その度毎にそれを明かにする方法を講じなければならない。」と。

外國語が必要　本科の受驗者もまた外國語を知つてゐることが甚だ必要である。山崎委員曰く『外國地誌を見るには、どうしても英語を知つてゐる必要がある。日本にもよい參考書はないでもないが外國のことをやるにはどうしても外國語でやるが都合がよい。始終日本のものを相手にしては仕方がない。殊に教へる生徒が英語を知つてゐるのであるから、生徒からロンドンとどう綴るかときかれてそれさへ出來ぬ樣では困る。檢定試驗はどの位の程度で行はれるかといふことはしば〳〵人からきかれることであるが、それは高等師範學校の卒業生と同等の學力を備へてをればよいのである。言葉をかへて云へば高等師範學校に於て四年間どれだけのことをやつてゐるかそのやつてゐる事だけをやればよいのである。只ほんの一時の僥倖を望んで十分の素養を作らぬ者はたとへ及第しても將來の望はないと思ふ。外國語で書物を讀むといふことは試驗に及第するといふことよりも將來教師として立つて行く上に必要なことと思ふ。受驗者は試驗に及第するといふやうなことは餘り考へずに、完全な中等教員と

なる心掛けが必要である。委員もまたその考でやつてゐるつもりである。」と。

ハ　答案の記述法　知識が確實で豐富でさへあれば完全な答案を書けるわけであるが、その作製上の要領を知つてゐるともまた必要であるから、こゝに西村委員の談話を紹介して置かう。氏曰く『答案は問題の意を間違はない様にして餘計のことは書くことは要らぬ。あまり關係の無い事柄をくだ〳〵しく書いても何の用をなさぬ。字數の多いのはよい答案といふ事にはならぬ。また秩序なく書くべきものではない。同じ事を書いても秩序のあるのと無いのとでその人の頭腦の善惡を示すものである。式圖略圖斷面圖等は丁寧に書いて貰ひたい。器用と不器用とがあるが不器用なれば一層丁寧に描かなければならぬ。無秩序な答案と雖も一字一句も看過はせぬが秩序ある答案は如何にも心地よい。尚知らぬ處から無理に書き列べ問題にあまり關係のないことまで書くのは男らしくない仕方である』と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

イ　教科書と地圖

◎山崎直方著　普通教育　日本地理教科書　開成館
◎同　人　同　外國地理教科書　同　上
◎同　人　同　地理學通論　同　上
◎文部省　高等小學地理第三學年用

山崎氏教科書と小學校教科書とを熟讀精査して眞に我がものとする。これをよい加減にしては決して深く研究が意のまゝに進まないのである。中等教科書は誰のでもよいが山崎氏のは小學教科書との連絡がありその他の點に於ても一番すぐれてゐるとい

ふことで多くの受驗者が用ゐてゐる樣である。」

この際

◎山崎直方著　普通教育　日本地圖　開成館

◎同　人　同　外國地圖　同　上

◎文部省　高等小學地理附圖

を常に手より放さず、瞑目すれば此等の地圖が明かに腦裡に浮び出づる位までに精査しなければならぬ。

研究が此處まで進めば、何人も地圖の讀み方描き方を知る必要に立ち至るからして、

◎拓植高野共著　地圖描寫法　誠之堂

◎山上萬次郎著　地圖製作法（新選大地文學卷五）　富山房

◎小林又七編　地形圖の讀み方　小林又七

の中主として『地圖描寫法』によつて詳に確實に描き方讀み方を覺えるがよい。然して更に

◎富山房　最新日本地圖　富山房

◎同　上　最新世界地圖　同　上

◎開成館　ポケット世界地圖　開成館

等を用意して深き研究に進むべきである。一般研究用の地圖としては此の三者で十分であるけれ共、富山房の地圖に附せる產業の統計は新聞雜誌官報諸統計年鑑等によつて補充することが必要である。又『ポケット世界地圖』の卷末にある地名索引は必らず活用しなければならない。次には

◎參謀本部陸地測量部編　二萬分の一地形圖

◎農商務省地質調查所編　地形圖及地質圖

◎海軍水路部編　海圖

◎フイリップ著　ハンデイ、ポリウム、アトラス　丸善書店

等の專門的地圖によつて、地文人文地誌その他各方面の研究を深むべきである。但地形圖や海圖は自己の住む附近又は研究旅行に便ある地方の分だけを求めて平面圖や斷面圖の讀み方描き方を實習すれば十分である。

【地　誌】

◎栗原寅治郎著　教材研究　改造世界地理精說　大同館

◎栗原寅治郎著　教材研究　大日本地理精說　上卷　大同館

◎栗原寅治郎著　教材研究　大日本地理精說　下卷　大同館

◎栗原寅治郎著　教材研究　大日本地理精說　大同館

中等教科書を十分に消化したならば前書を精讀するがよい。本書は最近の著述で一通り詳細に叙說したもので現今これ程完成したものは他に一寸出來て居らない。

尙日常新聞、雜誌、官報、諸統計、案內記類に注意を怠つてならぬことは勿論である。

【地　文】

◎三村信男著　地文學通論　地文學の部　大同館

本書は最近の發行で地文學研究の入門としては最も適當である。內容は著者自らが文檢に合格せる經驗より考察してなれるものであるから記述も平易簡明にして要領をつくし材料は最も新しき說をとり入れ且つ研究者の便を計り要所に插圖及統計を入れし等用意を努せしものである。地理學通論の教科書の次ぎには必ず本書から入つて行くとよいと思ふ。

◎橫山又次郎著　改訂天文講話　早大出版部

平易なる中によく明確にして要領を得たる知識を與ふ定評ある好著である。是非一讀するがよい。

◉岡田武松著　氣象學講話　丸善書店

著者は氣象學の大家で本書は氣象學の參考書として最も價値あるものである。物理

學の概念さへあれば興味を以て讀むことが出來る。本書はよく改訂されるから最新版を見るやうにしなければならぬ。

◎山崎直方著　岩石學教科書　金港堂

地質學に入る階梯として讀んがおく必要がある。或は中等鑛物學教科書でもよい。

◎横山又次郎著　普通地質學講義　富山房

歐米の新學說を網羅し、解說平易にして了解し易い。是非精讀しなければならぬ。

◎横山又次郎著　陸文學講話　早大出版部

前者の姉妹篇とも稱すべきもので一讀の要がある。

◎横山又次郎著　天文地學講話　早大出版部

天文學者の見地より地球の諸現象を說明したもので前揭『天文講話』と併せて精讀を要する。平易にして解し易い。

◎横山又次郎著　海洋學講話　早大出版部

海洋研究に關する唯一の良書である。一讀を要する。

◎三澤力太郎著　天界の現象　光風館

一讀すれば得る所が少くない。

【人　文】

◎野口保興著　地理汎論人文學　目黑書店

可なり大部の本であるけれども精讀するがよい。

◎長谷川賢一郎著　人文地理學　金剌芳流堂

本書中の水陸相關界と人類及陸界と人類の部を精讀し他は通讀に止めて差支ない。

◎牧口常三郎著　人生地理學　文會堂

地と人との關係を詳述せるもので、本書を讀んではじめて地理學の人類に對する効果を明かに知ることが出來るのである。精讀を要する良書であるが今入手し得るや否やは明かでない。

◎三村信男著　地理學通論　人文學の部　大同館

本書は文檢に合格せる氏が目下地文學の部に引續き原稿を執事中であるから遠からず發賣の上は研究者を益する事大なる事をこゝに附記する次第である

尙左記の諸書を一通り參考すれば人文方面の研究は十分である。

◎野口保興著　世界物産誌　目黒書店

◎栗原寅次郎著　日本産業地理精說　大同館

【地理全般】

◎野口保興著　最近地理要報　目黒書店

氏の地理汎論の補錄であつて、汎論の材料の異動を誌したものである。いまとなつては本書も古くなつたが一通り參考にする必要がある。

◎山上萬次郎著　最新批判地理學　育英書院

本書は單に地理的事項を說明するのみに止まらず、著者獨得の見解を披瀝せるものである。地理眼養成上必讀の良著である。

◎西田與四郎著　中等教育地理教授要義　三育社

中等諸學校に於ける地理教授の目的教材方法設備に就て論述せるものである。緒論の『中等教育に於ける教授法研究の趨勢必要並に價値』は殊に精讀の要がある。

尙次の書も參考となる點が多い。

◎文部省　小學日本地理教授資料報告書　共同販賣所

◎栗原寅次郎著　鄉土地理の研究　大同館

◎三村信男著　地理學習便覽　大同館

【雜誌其他】

本科研究者は常に左記の雜誌年鑑類に親しまなければならない。

◎月刊　地學雜誌　東京地學協會

◎月刊　地質學雜誌　東京地質學會

◎月刊　教育畫報　同　文　館
◎内閣統計局編　日本帝國統計年鑑
◎同　上　國勢一斑　丸善書店
◎伊藤祐穀著　世界年鑑　博文館
◎鐵道院編　鐵道旅行案内
◎國民新聞社編　國民年鑑（其他のものにてもよし）
◎官報
◎一流新聞一二種

雜誌では『地學雜誌』が最も必要である。出來るなら圖書館に於て初號から目を通すがよい。又『教育畫報』は本試驗に於て提出せらるる寫眞繪葉書等の解說に良好である。受驗者はその他出來る限り實物寫眞繪畫等の研究を勵んで單なる紙上の知識とならぬやう深く注意すべきである。統計書類中の高價なるものは隔年位に求めてもよい。

尙新聞官報雜誌は日々月々注意して目を通し、必要なる事項は參考書若くはノートに記入するか或は切り抜いてスクラップブックに貼りつけることを怠つてはならない。

ト　**機械標本**

◎城野龜吉著　實習を主としたる最新地理教授精義　目　黒　書　店

によつてその要領を會得し、又中等以上の諸學校、天文臺、測候所等を參觀して指導を受け、更に島津製作所標本部、農商務省商品陳列所、同鑛物陳列所、帝室博物館、教育博物館、植物園等を參觀して、參考書で研究した事項を實物に就て正確にしておくことは極めて必要である

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　先づ問題を研究せよ　多くの合格者は一通りの研究が出來上つてから過去の問題を研究するのが普通であるが、某合格者は自己の經驗から、問題の分類的研究は地理研究の最先きに行ふの得策なることを主張してゐる。曰く『先輩の受驗記を讀んで方針を確立したら先づ過去の問題を研究すべきだ。我々獨學者は學科の要點をつかんだり研究の程度や範圍を知るといふ事は最もむづかしい事だ。その唯一の方法は問題研究だ。文檢は主義方針が一定不變だから問題を研究すれば、委員の要求する點即ち地理科として力を注ぐべき點がわかる。僕は第一回以來の問題を悉く集め『問題分類集なるノートを一冊つくり。

自然地理
- 地球星學
- 地形學
- 火山學
- 地震學

人文地理
- 一般人文地理
- 人種學
- 政治地理學
- 產業地理學

海洋學(動的靜的)
- 氣象學
- 生物地理學

聚落地理學
交通地理學

等の部に分ち問題を書き、その下に（第何回豫）（第何回本）等と書きつけた。これを靜かに眺めると主要點がよく分る。そして例へば海洋學の部なら動的方面（海流潮汐等）と靜的方面（深度沈澱物等）に分てば何れが多く出題されてゐるか、動的方面では殊に何に關した問題が多いか等を研究した。このノートは色々の事を教へて呉れる、海洋學の問題は如何なる年でも必ず一題は出るとか、人種では出る處がきまつてゐるとか政治では各國の政體に注意を要するとか、產業では重要產物の生產需要の關係を研究すべきだとか、實にこれが參考書を讀むに當つての唯一の指針だ。殊に本科の樣に委員の著書や良參考書に乏しい科では全くこれに賴るよりほかは無い。勿論はじめには何の部に屬する問題か不明なものも澤山あるから、研究が進むにつれて問題分

類のノートを訂正整理しなければならない」と。相當時間のかゝる仕事ではあるがそれだけの効果があるに相違ない。

ロ　移動事項の集輯　元來地理は地球の回轉と共に人文上の大變動をなしつゝあるものであるから、常に新聞雜誌新刊書等に目を通し又は講演講習などへ出席してその移動を知り、ノート又は中心精讀書或は地圖等へ訂正增補を行ふことを怠つてはならない。某合格者曰く『僕は最近變動地理記錄なるノートを作り、新聞雜誌官報などを見た時に重要なことを書き拔いた。僕は文檢に志さぬ數年前からこれを繼續してゐる。本試前に此のノートに一回目を通す積りだつたが忙しかつたのでつひ復習しなかつた。そして試驗が濟んでから開いて見たら、僕の失敗した地名イムイデンがちやんとあつたので實際は惜しかつたと共に此のノートの有効なるを感じた。又僕はスクラップブックを一冊備へ、自分がとつてゐる新聞記事で參考になることを切り拔いて年月日を記入して貼付してをいた。僕が桃沖などの問題に功を奏したのはこれによるのである。更に又新聞に戰局地圖が出ると必ず切り拔いて月日を書き入れて自分の地圖に挿んでをいた。戰局の進展は外國製の細かな地圖を見ても中々分らぬが此の方法が一番よかつた。本試のムルマンなどは此の切拔き地圖によつて僕の頭にその位置が明確だつたのだ。』と。一寸の暇で容易くやることが出來而も受驗上研究上非常に便宜があることであるから、受驗者は必ず實行すべきである。

ハ　研究材料を蒐集せよ　前項と關連してゐることであるが、本科受驗者は常に心掛けて出來るだけ多くの研究材料を蒐集するやうでなければならない。これに就て某合格者は『僕の本箱には雜誌の口繪の地圖や朝鮮案內滿蒙案內北海道移住手引などいふ種類のものが澤山ある。共進會で貰つたのや人から貰つたのである。こうしたものを集めることは大に必要だ。思ひがけぬ研究の便宜を得ることがある。僕が曾て外國航路のことを研究しようとしたが官報には命令航路だけだし、新聞の切拔きはまとまりが無いし大に弱つたことがある。地理の本などは勿論古くて駄目である。困つた

末日本郵船會社の船舶切符賣捌所と大阪商船會社東京支店とに葉書を出して航路案内を懇請した。會社の番地は旅行案内の廣告で探したのである。然るに兩社共直に航路案内を惠んで下さつた。僕は非常に嬉しかつた。そして研究の材料を得たと共に小學校の教材としても中々貴重なことを見出した。郡役所に僕の友人がゐて殊に圖書館の係だつたので案内記などの小冊子の寄贈になつたもので郡役所では誰も一瞥を與へぬものをよく僕に見せてくれた。僕はその爲めに意外な貴重な材料の多くを得た。」と。此の合格者の蒐集したのは地圖案内記類だけであるが、その他繪葉書寫眞類標本類なども心掛さへすれば隨時蒐集することが出來研究上得る所が少くないと思ふ。

ニ　地圖に親しめ　地理研究者は日常地圖に親しまなければならぬことはいふまでもないが、一合格者が如何に地圖に親しんだかを記して受驗者の參考に供しやうと思ふ。彼曰く『僕は常に地圖を離さない。山崎の普通教育世界地圖と紳士必携ポケツト世界地圖とハンデイ、ポリウム、アトラスとを毎日持つて歩く。そして新聞雜誌

その他苟も地理に關係した記事を讀むには必ず地圖を參考した。それをおつくうがる人は地理研究の資格がないと僕は思つてゐる。そして他人との對話中や便所の中などでふとあれは何處だつけ地と名を思ひ出すことがある。僕は二十一二才以後記憶力が非常に減退したので地圖を開いて見る必要がある。僕は二十一二才以後記憶力が非常に減退したので地名を一心に暗記しても直に忘れる。だからどんな時でも地名を思ひ出したら必ず地圖を開く。これが僕の地名暗記法だ。ハンデイ、ポリウムに色鉛筆で印をつけたが細かで込み入つて分りにくいから山崎氏の地圖に重要な點を書き足してそれを記憶した。と誰しもこれ位の熱心が無ければ合格が覺束ないと思はなければならない。

ホ　研究題目帖を作れ　これは一合格者の實行せる所であるが一般受驗者にも勸める價値があると思ふからこゝに紹介しておく。『私は研究題目帳なるものを作りこれは研究せねばならぬと思つた事を忘れぬ樣に書きつけておいた。そして少しでもそれが鮮明の助になることを見つけたら、その側に本の名と頁とを書いておく。試に人

穩地理の部を見ると「世界に於ける支那人の分布大に研究の要あり」など書いてあるこれは試驗の期日が迫つて忙しくてあれも復習の必要があるこれも調べておきたいなどゝいふ時にとかく重要なことは忘れ勝ちだ。此の際大に役に立つた。』と。

ヘ　**疑問ノートを備へよ**　これも一合格者の實行せる所である。曰く『表紙の厚いノートを求め地理の分科に之を分けて疑問の點を書きつけた。之を常に離さず勉強する時分らなかつた點は勿論、新聞などを見て疑問に感じた點を書きつけた。そしてあらゆる方面から之が解決を計つた。市の本屋の店頭で本をあさつた時一つ解決したことがある。又母校の先生に照會したりした。とにかく始終注意してゐると何時か解決されるものである』と。

ト　**大問題に力を注げ**　某合格者は『問題集を求め初回から現今までのものについてその提出の變遷範圍などを推定することも又大切である。そして十分擬答を試みることは最後の實力を檢定するための當面の仕事と考へる。そして七八分位まで解答が可能であるならば受驗を決定してよいと思ふ。それから本科の問題は今までは一番から八番までは大問題で九番は小問題が十ある。此の小問題は半分位出來る人は上等と思ふ。それよりは大問題に不能の無い樣に最も全力を注ぐべきものではないかと考へる、人によると小問題に全勢力を入れるが、それは完全でも大問題に不能や間違があり不完全極まる時は合格覺束無いと思ふ。要は小を輕んじ大を重んずるが人情と考へる。實際の實力は大問題で勝負がつくやうに想像される。』と云つてゐるが、これは間違の無い考であると云つてよい。

チ　**實地研究を如何にすべきか**　實地研究に就ては參考書の部に極めて簡略に記しておいたが、あれだけでは獨學者には不十分の感があるからして、こゝに更に詳細に述べやうと思ふ。左記は某合格者が編者の求めに應じて執筆せられたるものである。

本科は机上の學問のみでは決して試驗にパスすることが出來ない。必らず實際的方

面の研究にも力を注がなければならない。予は次の如く分類して各部分に研究した。

第一　地　圖

1、模型の實習――模型地圖、地球儀、三球儀等。

2、地圖上の實習――地形圖々式、地形圖、全景圖實習、切拔地圖、斷面圖、海圖氣象圖等。

3、製圖實習――透視圖法、展開圖法、便宜圖法…野外實習、地圖複寫、略圖法等。

右の研究には西村氏の最新地理實習、拓植吉野兩氏の地圖描圖法が最良の參考書である。地理は實習が重要なにも拘はらず實習地理に關する參考書は極めて少い樣に思ふ。(編者曰くこゝに揭げた兩書は絶版で求めることは出來ないと思ふから、先に揭げた城野氏の著によるがよい。)

既製地圖では山崎氏の日本及外國地圖、開成館の模範日本及外國地圖、フイリップのハンデイ、ポリウム、アトラス、陸地測量部の地形圖(二萬、五萬、二十萬、百萬分の一)海軍水路部海圖などがよろしい。

第二　地文人文地理の實習

天體觀察、氣象觀察、修學旅行及標本採集、統計實習、交通に關する實習、物産鑑識等。

第三　研究的實習

鄕土研究、學說の比較研究等。

以上は研究の順序とこれに關する參考書であるか中でも重要な器械類は次の如きものである。

天球儀、三球儀、地球儀、星座早見、南日法簡便測緯器、北極星座簡便測緯器、子午儀、セキスタント(六分儀)日時計、最高最低寒暖計、濕度計、水銀晴雨計、アネロイドバロメーター、雨量計、風力計、風信計、風壓計、海底用寒暖計、流速計

測深器、傾斜儀、ベドメーター、測高器、測高寒暖計、方位尺、パントグラフ、プラニメーター、キルビメーター、比例コンパス、プリズマチックコンパス、アリダート、地震計、ビームコンパス、クロノメーター、雲鏡等。

予は地球儀三球儀の如き普通器械はは中學校又は師範學校で研究した。次に測候所に足を運んで氣象學に關する器械の說明をきいた。右に擧げてあるものの外に尙澤山ある。あるばかりではない同じ器械でもその發明者に依て幾分かの差がある。殊に器械が自記的に出來てるるものが多いのは斯界の進歩の絶大なるを嬉しく感じた次第である。特殊の器械になると田舍では見る事が出來ない。だから上京中島津や玉屋や服部商店などで調べたが舶來品は品切れで殆ど皆無といふ有樣。そこで商品目錄を求めて寫眞について研究したが不安でたまらない。此の時晴中に光を得たのは地學協會の小林先生の紹介で農商務省の地質調査局に足を運んだ事である。井上博師は中村技師を して御教示させて下さつたので全部の疑問は解決せられた。大に感謝しなければなら

ぬ。口述試驗の時ハンドレベルやプリズマチックコンパスの使用法などについて間違なく可なりな答が出來たのも矢張り此の研究を忘れなかつたからである。後進者諸君よ先づ商品目錄について研究せられ更に上京の際は實際の御研究あらん事をお勸めする。

り　地理研究者の態度　以上を以て本科研究に對する注意は盡きてゐると思ふが、地理研究者は平素如何なる態度心掛を有することを必要とするかに就て、某合格者は極めて有益なる注意を述べてをられるからして、上記と幾分重複する箇所がないではないけれ共左に紹介して置かう。

地理を研究せんとする人は、自然界の變遷と社會百般の事情の變移に對して寸時も綿密なる注意を忘れてはならない。これには直觀的にその事物又は現象を目擊しながら研究するのと書籍雜誌等の間接物を經て研究するのとの二つがある。先づ前者について述べて見ると、吾々が郊外を散策する際風が吹く。人はこれを形容して微風袖を

拂ふとか、疾風猛虎の如しとかいふ。けれども予は靜に文學的觀察を越えて科學的觀察に入らんとす。曰くこは風の階級の何れに屬するや、方向は原因は更に生物界に及ぼす影響は、又それより明日の天氣は如何に移り轉ずるかなどである。更に眼を空に放てば天の一角に現はれたる一點の雲片、何雲なるか、何程の高さにあるか、水蒸氣なるか氷片なるか、彼によりて明日の天氣又は近き氣象の變化を如何に豫知するか。又朝日夕日の出で沈み行く樣を眺めては、その變化する空色や光學上の諸現象を思ひ浮べ、薄明とは十八度とはと思考を進めるなど……或は旅中にありて到る處の町や市を政治市なるか經濟市なるか、名所古蹟神社佛閣の存在によりて發達せるやなど研究すれば興味湧出し來りて盡きる所を知らない。夕飯の膳に上りし堅魚の刺身は、烏賊は、卵は箸は茶椀は汁椀は飯はと。更に下女の着物は足袋は櫛は盆は茶器は帶はと、その生産地や產出狀況や販路と原料との關係やなど、自然と人文との連鎖に着目考慮すべき等である。

後者については我が國及世界の外交は如何になりつゝありや、何地方には如何なる鑛山が發見せられ又は發達しつゝあるか、或は如何なる工業が如何なる地に起りしかその原料と生產との關係よろしきや、如何なるヒンテルランドを有し居るや等經濟方面にも注意を要するので、予は地方新聞、萬朝報、地學雜誌、歷史と地理、教材集錄天文月報等を親しく研究し、尙圖書館に於て東洋學藝雜誌、人類學雜誌、地質學雜誌その他教育研究とか理學界とかいふ雜誌を毎月繙き、地理に關係深き記事があればノートに漏れなく記入した。これが爲め豫備の第九問など割合に樂であつた。此の方面の研究を大成するには再び大部の參考書を參照する必要がある。

かくの如き心掛があつてはじめてその研究が大成することと思ふ。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を參照せよ

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

第八章　英語科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　學力が甚しく不足　本科の受驗者には學力が呆きれるほど低くよくこれで試驗場に入れた者だと思ふほどの者が多い。されば熊本謙二郎委員の如きは『檢定試驗は豫備本試の二回に分れ種々様々な方面からその學力を試みるのであるから、十分の準備をしない人で僥倖で通過し様と思つても駄目である。それにも拘はらず毎年豫備試驗の時には中學校卒業生否二三年の者でもこんな間違はしないだらうと思ふ様な學力の者が受けに來る。これは思はざるの甚しきでかういふ人は力を十分に養つてから

ら受驗せられんことを切望する。かくの如きは小學校の教員などで殆ど獨學でやつてゐる爲めか、若くは多年東京へ出て來てをつて父兄から學資を貰つてゐる者などが落第は承知で父兄に申譯的に受驗するのではないかと思ふ。餘りひどいのがあるのでかういふ疑を懷かずにゐられないのである。』とまでに批評されてゐる。

市河委員も亦『一番初めに感ずるのは學力の不足である。毎年一人位は圖抜けてよい者があるときいてゐたが昨年はそれもなかつた。よく出來た者と出來なかつた者とならべて餘りよい成績でなかつた。受驗者は英語を以て將來の職業にするのであるからあらゆる方面に亘つても少し勉強したらよいと思ふ。發音解釋文法其他種々なことを試驗するがなべて出來る樣に勉強してほしい。どれが得意でどれが不得意といふ樣なことの無いやうにしたらよいと思ふ。發音のことを矢喧しく云ふと文法解釋が出來なくなり解釋に重きを置くと發音文法がおろそかになるといふ風な傾がある。これといふのも餘裕が無いからである。他に專門のことがあつて思ふ樣に出來ないかも知れないが、將來英語をやらうとする人はどの方面にも氣をつけて進む樣に勉強したらよいと思ふ。その勉強の仕方も單に受驗的に英語雜誌位を讀んで一生懸命にやるといふやり方でなく、基礎になる文學上の本でも讀んでほしい。獨學に適した註のついた本も坊間に澤山あるのであるから。一生自分の身體につく學問だからやつたらよいと思ふ。また中等教員になり教へて行く上に有名な文學上の作を讀んだことが無いといふことは甚だ損である。』と評してゐる、他の委員も皆受驗者の學力不足を嘆じてゐる。將來の受驗者は試驗といふものをもつと眞面目に考へて受驗するやうにしなければならない。

ロ　發音が不完全　獨學者が多いためであらうが一般に發音が甚しく不完全である。他のことがいくら立派に出來ても發音が不完全では教師たる資格が無いと云はなければならぬ。これに就ては岡田委員は『發音からいふとどうも一般にいけない樣です。云ふまでもなく自分が教師とならうといふのには、個々の發音を十分に知つて

をるばかりでなく自分でそれを完全に發音し得なければならない。それには發音の練習を怠らずその上發音に關する書物をもつと廣く且つよく讀む必要がある。殊に近頃は一般に發音のことがやかましくなり現に發音學の大家バーマー氏も來てをられ試驗委員にもなられた位であるから此の點は餘程注意して頂きたいと云はれてゐる。

ハ　文法の知識が不確實　受驗者はまた一般に確實正確でなければならぬ筈の文法の知識が甚だ不完全である。市河委員曰く『誤文を訂正させることを口述試驗の時にやつたがそれに依て見ると文法上の知識が頗るあやふやの樣に思はれる。も少しやらねばならぬと思ふ。中には誤つた箇所だけ直さずにすつかり違つた意味にしてしまふ者がある。間違つては居らぬかも知れぬがこれは誤文訂正の趣意ではない。間違つた箇所だけ直せばよい。無論幾通りにも直し方はあつてから直さねばならぬといふことはない。理窟をきかれて筋が立つて答へられゝばよい』と。卽ち確實なる文法上の知識が必要なのである。

ニ　風俗習慣等に關する知識の缺乏　その國の語に通じようとするにはその風俗習慣地理歷史の大要を知ることが必要である。此の方面には適當な參考書があるにも拘はらず受驗者は一般にこれに力を注いでゐない樣である。それが爲めに解釋などに於て飛んでも無い誤をやり出し、試驗委員からその學力を甚しく疑はれることになるのである。これに就ては岡田委員は『試驗して見て一番困ると思つたのは受驗者が外國の事情や時事に關する知識が乏しいといふことである。甚しい人になるとそれこそ何をきいても一向答へられないのがある。かりにも外國語の先生になる者がその國の事を知らないでどうしてその言葉が敎へられやう。餘り悉しくは知つてゐなくも人情風俗や地理歷史は一通り心得ておくべきである。それには英字新聞を不斷に讀むのも一方法であらう。』と語られ、茨木委員も亦例を擧げて『受驗者の一般的敎化に關する素養があることが望ましい。先年の讀方譯解の試驗問題中の Middlesex Utopia の如きは何れも固有名詞で、一つは英國の州の名一つは Sir Thomas More の著書理想國

の名前であるからして、英國の地理を學びたるものか英文學史をひもときたる者は必ず此等に通ぜざること無き筈である。然るにその知識を缺きたるが爲めに兩者の關係は勿論引て全文の意を捕ふるに困難するが如きは甚だ惜しむべきことである。苟も英語を敎授する人はひとり文法や辭句の知識のみに偏することなく地理歷史や文學等の一般敎化に關する素養あることが望ましきものである。否是非その素養がなければならぬ』と說いてをられる。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　發音の練習に就て　發音の一般に不完全なることは前述の通りであるが然らば如何にしてこれを練習すべきであるか。これに就ては岡倉委員は『發音のことは外國人に就て耳本位に言葉を覺えて見る。そして從來の目本位或は綴本位の發音と實際外國人のいふ發音がどう違うかを注意して見るのも一案だが、それと同時に自分のよく知つて居る樣な言葉でも侮らずに少しおかしいと思つたら發音を辭書に依て調べる癖を、意味の分らなかつたり或は怪しい時に辭書を見るのと同じ程度或は勞苦を以て調べて行く。外國では近頃發音符號で全篇を書き通した短い話などの本が出來てをつて、それに依て發音を寒村僻邑に居つても正しく自習することが出來る樣な手段があるが、我が國にはさうした企のものは自分で嘗て自分の著した英語の發音書の卷尾にはじめての試として少しばかり刷り立てゝ見た位に止り適當な用書の無いのは遺憾に思ふ』と一般的注意を與へられ、特に獨學者に對しては『外國人に親しく敎授を受ける便宜の無い受驗者は只さへ上り氣味な所をはじめて見知らぬ外國人から書取作文等を課せられるのでこれには大分面喰ふ人もある樣である。之れは自分の學校に外國人がゐるといふ樣な場合にはその外國人の授業に手の明いてゐる時なるべく立會つて耳を慣らし、自分の奉職地に外國人の居る樣な場合にはなるべくその人に就て聽取會話等を練習して置くより仕方が無い。また同じ樣な立場にある者が一の會を起して一

週間に一度位互に練習の爲めに書取をし合ふとか或は外國の簡單な話を外國人の書いたものから高らかに讀んでその要點を書いて見る稽古をして置くといふ樣な方法に依るより仕方はない。いくら讀書力や作文の力があつても口と耳との練習は特別の練習を經てをらぬとまゝにならない』と敎へられてゐる。說く所極めて平凡であるがこれ以外には良法が無いのである。

ロ　文法及作文の練習法　岡倉委員は文法及作文の練習を如何にすべきかに就て極めて適切なる注意を與へられてゐる。曰く『文法作文も同志二三相會して其の程度に應じて餘り難しくないものから西洋人の手になつた文章の一部分を所々更へて書いて見る。たとへば單數を複數に現在を過去に形容詞を副詞に書きかへて置く。初步の間はこれをどちらがよいか考へる癖をつける。そしてこちらがよいと定めたらその よい理由を云ふ。その爲めには關係の文法作文の本を繙く。ただ矢鱈に書いて事柄を他の意味に書き直してしまふ樣な訂正を經た作文は、自分の云はんとする意味と違つたことを書く譯になるから本當の練習にならぬ。所謂誤謬訂正の方法もよいが誤謬であるものと正しいものとを兩方書いて、どちらがよいか更にどちらが何故よいかを言はせることが、獨學者の地方に居つて作文文法を練習するに最もよい方法と思ふ。』と誰にでも容易に實行することが出來て而も大に效果を擧げることの出來る良法であると思ふ。

ハ　解釋力を養ふには　解釋力を養ふには如何にすればよいか。人々によつて種々の工夫があるであらうが、要するに左に揭ぐる岡倉茨木兩委員の說く所に盡きると思ふ。

先づ岡倉委員は下の如く說いてゐる『解釋力をつけるには徐々に澤山讀むよりほかに仕方がない。只澤山讀むとか難かしいものを讀むだけでは何んにもならぬ。正しく分つて澤山讀まねばならぬ。故にある場合には信用の置ける飜譯書などを首引に原文を讀み自分のが正しいか正しくないかを較べて讀むことがよいと思ふ』と。

次に茨木委員は解釋力をつけるには確實にして豐富なる單語の知識の必要なることを下の如く說いてゐる。曰く『單語の知識とその活用を十分に望みたい。例へて云ふと先年の試驗問題中の acre; principality; Assuage; cupidity といふが如き語は左程困難なる單語でないが、これを熟知しないために全文の意味に親しみ憎い者があつた。此の acre は土地の廣さであることは皆知つて居るが我が國の廣さの單位に比較して見たる觀念が明かでないのは甚だ遺憾である。他の三語等も左程に珍しいほどの單語でもないから此位のものは十分に心得のありたきものである。』と。以上兩委員の所說を併せて實行する時は解釋力を十分につけ得るであらう。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

本科の參考書は他科の如く確定的に明示することは困難であるが左に掲ぐる參考書目は凡そ英語を研究する程の者の必ず熟讀して記憶に貯へ置くべき必要のある重要な參考書類であるから、之を後に示した研究方法によつて熟讀玩味し沈思反覆して、それによつて英語に對する趣味を增し、進んでは泰西諸民族の情緒的思想的生活に參ずることが出來るやうにすれば、英語の力は不知不識の間に昂上し從つて易々として合格の榮冠を得ることは疑ないのである。

イ　英文和譯

◎リーダ

受驗者は決して中等程度の英語を輕視してはならない。中等教科書は既に學習したものであるから見る必要が無いと思ひ込んで直にそれ以上のものに着手するのは失敗の基である。何科でもそうであるが殊に語學の如きは根底から堅く築いてかゝらぬといくら努力しても決して完全に仕上らぬのである。英文和譯でも和文英譯でも文法で

も必らずまづ中等程度のものから着手しなければならぬ。リーダは廣く行はれてゐるものなら何んでもよいが、

◎ニユー、ナシヨナル第四リーダ

◎ユニオン第四リーダ

だけは必ず精細に研究するがよい。殊に前者には研究社發行のナショナル第四讀本研究といふ良著があつてそれには適譯、詳解、詩の構造や發音の注意まで行屆いて居て、詳しく徹底的に讀解することの習慣をつけるには本書の右に出づる物は無いのである。

リーダの研究が終つたならば南日恒太郎氏の『英文和譯法』佐川山田兩氏の『英語正解法』山崎貞氏の『公式應用英文解釋』深澤由次郎氏の『應用英文解釋法』等の如き本一二種を繙いて一定の公式及び熟語を覺えることは解釋力の増進に大なる效果がある。それと共に

◎スキントン著　英文學　丸善書店

を研究する。此の本はシエークスピアからハックスリーに至るまでの代表的文豪の代表的傑作を集めてこれに脚註を施し且つ各文豪の略傳を添えたるもので英語研究者の必ず讀まねばならぬものである。獨學者の爲めには

◎岡村愛藏著　スキントン英文學講義　興文社

なる良書がある。これには原文も添えてあるからこれがあれば原書を求める必要がない。

次に

◎アーヴイングのスケツチブック

これは單語を覺える爲めに英語研究者の必ず先づ讀むべき書である。實際スケッチブックにある程の文字を知らなければ書物を讀むにも作文を書くにも動きが取れないのである。況んや本書は人口に膾炙せる又極めて趣味に富める幾多の小話、紀行、漫

文より成れるに於てをや。

◎スティーヴンスンのツレジュア・アイラン（寶島）

スティヴンスンは名にし負ふ名文家でキビ〳〵とした生き生きしい語句や叙述をするのに神腕を有して居る。本書は結構の息も継がせないほど變化に富んだ點、英人氣質の一なる海の匂ひの全篇に漲れる點、重要なフレーズや海語が隨處にある點などで英學生必讀の良書である。市河博士の詳註付き（研究社發行）を求めるのが重寶である。

次に

◎ディケンズのクリスマス・キャロル

ディケンズ著作中何人も愛讀する愉快な物語で、殊に短いから反覆玩賞するに都合がよい。

◎ホーソーン著ッワイス・トウルド・ヲイルズ

想像に饒かで詩味に富んだ筆遣ひを有つて居るホーソーンの短篇を蒐めたもの、頭休めに時々一篇二篇と讀み切りに讀むに頗る妙である。

次に

◎ゴウルドスミスのヴィカー・オヴ・ウェイクフィールド

愛すべき著者の愛すべき田園小說である。コロークイアル・イングリシに富んで居る。一度手にした者は必ず愛讀書の一つに數へずには居られない書物である。十八世紀切つての傑作で、詩聖ゲエテなども推賞して措かない處を見ても本書の價値を知るべきである。必讀を奬めたい。

次に論文物として

◎ラスキンのセッサミ・アンド・リリーズ（胡麻と百合）

講演三篇を輯めたもので流暢な垢抜けのした良い文章である。スケッチ以下以上六書は少くとも熟讀咀嚼しなければならない。その上はホームズのオートクラット・オ

ザ・ザ・ブレックファスト・テーブルを讀み(前回も一題は本書から出た)それからそれへと多々益々辨ず的に渉獵するが宜しい。沙翁物もデュリアス・シイザやマーチャント・オヴ・ヴェニスやハムレットなど二三種は目を通す必要がある。

ロ　英文法及修辭學

◎神田乃武著　英文法　三省堂

英文典では本書の小中大を順次に精細に研究し、これが本統に我がものとなつたならば次には

◎ネスフキールド著　第四文典　丸善書店

に移るがよい。本書は世界的の名著であつて、これがよく分れば文檢位は何んでもない。英文典はこれだけて十分であるが市河委員の

◎市川三喜著　訂正増補　市河氏英文法研究　研究社

もまた參考として有益である。

ハ　和文英譯

和文英譯では

◎ブリンクリー著　新語學獨案内　三省堂

は定評のある好著で、文檢受驗者ばかりでなく獨學者は大抵これによる様である。受驗者は本書を徹底的に研究すべきである。

その他受驗者に外く用ひらるゝは

◎南日恒太郎著　增訂和文英譯法　有朋堂

◎勝俣詮吉著　和文英譯自習書

等である。しかし此等の參考書は只和文英譯の骨を教へるに過ぎないから、これを以て十分の實力を養ひ得たと思つてはならない。卽ちリーダや參考書や新聞雜誌等で讀んだ文句を活用して隨時和文英譯を試みることが肝要である。かうしてこそはじめて本當の實力がつくのである。

其他の方法としては雜誌英語青年の和文英譯欄を研究すること、及び課題を英譯して投書することも興味ある方法である。復文法をやるのもいい。それは氣に入つた英文を自分で和譯して机の抽斗に入れて置き一週なり十日なり經つて之を引出し、それを英譯するのである。十分推敲に推敲を累ねてから最後の訂正者として本文と引き合せて見るのである。されば本文の言ひまはしの練れて居る點などよく解つて作文力と同時に鑑賞力さへ養へるのである。最後に一番良い方法として勸めたいのは、ノートブックを一冊用意して置いて左の頁に邦文の新聞や雜誌を讀む際之はと思ふ一節二節を寫して置くのである。一口話も好し、政治論說も好し、雜報もよし、美文もよし、成るべく雜多の種類の文章を一篇づつひだりの頁に寫して置いて、氣の向いた時之を引出して右の頁に英語に譯し試みるのである。和英辭書にたよらないで、成るべく自分の英語で達意に流暢に英譯するのである。この方法は趣味もあり、雜多の英語を憶えるのにも好都合であり、殊に筆慣らしとしては無上の良策である。受驗の前などに之を練習すれば限られたる時間に多量の英譯を課せられた時之に照じて從容として餘裕あるを得るのである。

二　會　話

◎小久保定之助著　英會話寶鑑

從來の合格者の最も多く用ゐた本である。本書中に含まるゝポキャブラリーを暗記することが必要である。

◎クロン著　リットル、ロンドナ　丸善書店

これまた英會話練習の良書として定評あるものである。是非求めて暗誦するが好い。

◎リップマン岡倉共著　英語繪單語　大日本圖書會社

從來の合格者中には本書の不必要を唱へてゐる人もあるけれ共、會話の試驗の際風俗習慣器物等に關する質問に對する準備として讀んでおくがよい。

右は只會話の參考書たるに過ぎないのであつて、外人に接して實際に練習するでなければ上達し得ないことは勿論である。

ホ　發音學　研究社

◎岡倉由三郎著　英語小發音學

岡倉教授の著には外に英語發音カードがあつて個々の發音を口の圖と共に解說してある。その原理を示す爲めにあとから著したのが本書である。本書を讀んで發音の原理に通じ、實際の發音が出來、萬國發音協會の音標文字の運用も自在に出來るやうになれば、次には英語で書いた發音學の書物を讀むが良い。これには現今に於ける斯道の權威倫敦大學のダニエル・デョウンズ著ザ・プロナンシェイション・オヴ・イングリシが最善である。本書は著者の頭腦の明晰さを思はせる極めて簡潔明快な說明の方法で、讀んで胸がすく思がする。右二書に併せて、慰みの爲めにダニエル・デョウンズ著フォネティック・ツランスクリプションズ・オヴ・イングリシ・プロウズを讀むがいい。この本は左の頁に普通の綴の文章を掲げ右の頁にそれを音標文字に書き換へたものを載せてあるから、右の頁を讀んで解らない個所は左の頁を見れば分るのである。殊に選んだ文章がバイブル、沙翁より年代順に現代に及ぶ傑作の文字であるからその方面の利益も大である。兩書共に丸善で求められる。

これも會話と同じく外人より教を受くるのが本體であるが、たとへ日常外人に接し得る人でもやはり本當な著述に一通り目を通さなければ何時までも正當な發音を會得することが出來ず常に間違を繰返すのが普通である。外人に接する機會の少い人は平常上記の書によつて自習し時々教を受ける樣に心掛けなければならない。

へ　風俗習慣に關する書

英語を正しく解する上からも、直接受驗に備へる上からも、英語國民の風俗習慣を熟知することが必要である。會話の參考書として揭げたものも此の目的に副ふのであり殊にクロンのりトル・ロンドナはその方の良書であるが、尙左記の書を研究して

くがよい。

◎アリストクラシー著　マナーズ・アンド・ルールズ・オブ・グッド・ソサイエティ　丸善書店

◎ゼ・アート・オブ・コンヴアーシング　同上

◎ウエーテング・アト・テーブル　同上

ト　雜誌及新聞

◎デヤパンタイムス社　ザ・ユース　其社

リーダの三を了つた頃からこれを手にして時文を研究する時は、英文和譯、和文英譯の力が大に增進する。これが本統にわけ無く讀める樣になれば

◎デヤパンタイムス社　ザ、スチユーデント　其社

◎英語青年社　英語青年　其社

◎國民英學會　中外英語　其會

中の一種に移り、次に

◎デヤパンクロニクル

の週刊位を購讀し、これも我ものとなれば

◎ロンドンタイムス

の週刊、若くは英國か米國の雜誌々購讀するがよい。

チ　辭書

辭書として最も手頃なのは

◎オックスフォード　コンサイス

である。

◎スタンダード

は英語研究者必備の辭書であるが、高價で求め難い人は多少疑はしい字を貯めておいて時々圖書館でゝも引くやうにするほか無い。字書ははじめから以上兩種によるが實

力をつける上に最もよいが、非常に困難を感ずる人は左記を併用するがよからう。

◎井上十吉著　英和大辭典　至誠堂

熟語字典及び和英字典では

◎齋藤秀三郎著　熟語本位英和中辭典　日英社

◎井上十吉著　和英大辭典　至誠堂

がよい。

尙受驗者は現行中等英習字帳によつて正しき文字を書き得るやう十分練習を積まなければならぬ。

リ　詩

詩は英語研究者が必ず讀み解き得る力を養つて置かねばならない。文檢にも時々バラフレーズの題として出る事がある。さうしなければシェイクスピヤなどは讀めないし、其他幾多の名什佳篇に對して盲目でなければならないので共に英語を談ずることの出來ない不具者たる外ないのである。初歩としては

◎石川林四郎著　テニスン詩研究　研究社

がよい。これを一通研究しらば

◎厨川白村著　英詩選釋　アルス

を賞玩するがよい。この二書によつて大體讀めるやうになると英書のテニスン詩集ウアーヅウアース詩集等を求めて吟誦すれば自ら趣味を養ひ品位を高め散文の解釋力もおのづから進むのである。

【英文學史】

檢定試驗に直接に英文學史の問題が課せられるわけではないが、英語の背景として大體に通じて置くことは極めて肝要である。それには

◎淺野和三郎著　英文學史　大日本圖書會社

◎ブルック著　小英文學史　丸善會社

などを讀むがいい。

二　如何なる研究法をとるべきか

本科の研究法に就ては某合格者が苦心の結果案出せるものを揭げることにする。

イ　**作文觀讀書法をとれ**　一定の語彙が出來た以上は精讀を絶對に必要とする。予が所謂精讀は今井信之氏の主張せらるゝ作文觀讀書法に等しきものである。實際讀書の際に於て最も難事とせらるゝ冠詞の用法、代名詞、關係代名詞の先行詞、文章の主格、說明語の位置、目的語、補足語の有無、その他 shall, will 前置詞の用法等に至るまで、すべてあらゆる點を文法上の法則に照して精細に吟味し、聲を揭げて讀み、暗記し、然る後ペンを持つてノートに本文通り寫し、聊かの疑點も無き樣にしそれよりして文法上の法則に歸納するのである。自分自ら文法を作るの努力と覺悟とがなければならぬ。かくして始めて解釋力のみならず作文上の根本的知識を築き上げ

ることが出來る。

（a）文章平易にして解し易き場合に於ても決して此の文法歸納的讀書法を忘つてはならない。むしろ此の場合の方が大切である。

（b）此の研究法は遲々として進まないがこれが爲めに落膽するには及ばない。一日に半頁乃至一頁もやれば十分である。

（c）近頃餘り文法に重きをおくなとの議論に迷はされ、文法の初步觀念をも捨てゝ顧みざるものがあるが、これは大なる心得違である。此の種の議論は一部文法過重の弊を嚙るものであつて、決して文法のファンダメンタル、プリンシプルをも捨てよといふのではない。或る大家が實際外國人が英語を一定の年齡に於て學習するには是非とも非を文法に發しなければならないと云はれたのに自分は贊成する。これは念の爲めに一言しておく。

（d）此の作文觀讀書法に於て最も有力なる研究法は前に述べた通り書物にある本

文をその通り寫し書き取ることにある。かくしてはじめて眞に文章の構造句讀點文字の綴字等を正確に知ることが出來る。文章構造の知識なくしてどうして英文を作ることが出來やう。故に書取は又作文の根底を作るのである。自分は此の方法でマコーレーのクライブ傳を始めから終まで寫した。若し今自分が曲りなりにも少しにても英文を物することが出來るとすれば、それは全く此の種の研究法の賜に外ならないと信じてゐる。

要點は前の如くであるが、要は自分自らが苦心して自分に適應したる研究法を創始するにあるはいふまでもない。此の方法によつて解釋作文書取の力を養ふことが出來る。

ロ　發音の研究は如此せよ　讀方聽取會話は重に耳と口に關するものである。此等の基礎は發音にある。然らば發音は如何にして研究すれば可なるか。

（a）發音學の書物を讀んで理論的基礎を作れ、

（b）發音學書に示されたる方法に從つて口を出來るだけ大きくあけて常に大聲を發して練習せよ。每日少く共二十分間の不斷の練習を怠つてはならない。

（c）而して英米人に接する機會ある毎に力めてその發音に注意することが必要である。しかし英人と米人とには少し發音に異なる所があるからこれは注意すべきである。

（d）平常外國人に接する機會なき人も此の方法によれば憂ふるに及ばない。予は試驗前僅に約四箇月或る夜學校に一週三度づゝ英米人に接したのみだが、本試驗の際外人委員の云はれたことが、勿論全部は分らなかつたが、分らなかつた點は少なかつた。しかし英米人に常に接觸してゐるのが理想でありまた英語教師の義務であつて、これに變則であるといふ事はよく〳〵承知しておいて頂きたい。尙吾々の如く發音の下手なものは決して早く云はうとあせつてはならない。良く經驗する如く吾々が早く得意になつて云ふ場合には相手の英米人に解せられない場合が多い。これに反してゆ

つくりと話して自分の意志が先方に通じなかつたであらうと危む様な場合に案外よく先方に意が通ずる事がある。故に急がず發音を明瞭に大聲に會話すべきであらうと思ふ。

序に一言すべきは文檢の英語會話は普通の案內者的英語ではない。會話といふよりはむしろ作文の試驗であると云ひたい。今一つは食器家具裝飾品日用品等の如き凡て物の名稱を記憶しおかれんことを切にお勸めする。單に社交的會話のみでない。此の方面の參考書としては『繪單語』などよいと思ふ。

ハ　**單語は出來る丈多く記憶せよ**　讀書中にその意味用法等を記憶するのが最も自然で理想的なるは言を俟たないが、少く共吾々には會話書單語集中に集められる單語は無理にでもこれを暗記し、又自ら單語集を作成するだけの勇氣がほしい。單語の意味を知ることが解釋上の最大要件であり（勿論これのみではいかんが）暗記が語學收得の捷徑なるを知れる人は必ずや我言の餘り突飛ならざるを首肯せらるゝであらう。予の受驗の際本試驗のキユビイデイテイの分らなかつた人が少くなかつた樣だが、自分は常に語彙を豐富にせんことを力めて居たから此の點には少しも困らなかつた。

尙受驗者は英語雜誌等に現はるゝ諸大家の英語研究法を參照して自ら最高法を工夫案出せらるべきである。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を參照せよ

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

本科の本試驗はまるで口答試驗のやうなものである。左に一合格者の受驗記中より本試驗の實況を叙せる部分を拔萃して如何なる注意と準備とを要するかを暗示しやうと思ふ。

第一日は書取、聽取をかねたる作文及讀方文法の試驗である。第一に難物の書取の試驗である。心の騒ぐこと一方ならず、委員のスキフト教授は何か途中に故障があつて三十分おくれて來た。何か赤い本を出して耳を馴らす爲めに實際書き取つたより長い文章を讀んだ。大體の意味をキヤチすることが出來た。例の通り一回目はきいて二回目に書き取り三回目に Punctuation をやるのであつた。教授は十分 pause をおいて呉れたが、可成り早く讀んだので多少面喰つたが、むづかしい言葉が無かつたのでどうやら助かつた。

書取の試驗が了へると同氏は現代文明の特長と缺點といふ如き題で文明の暗黒面について二三十分話した。その間受驗者は與へられた紙にノートを取つておいて後に自分の英語で文章を書くのであつた。自分は四五頁書いた。その間に一人づゝ別室に呼入れられて讀方文法の試驗を受けた。自分の番の時は既に電燈が輝いて居た。自分は暗に横柄な態度を試驗委員から期待して居つたのであつたが、さて來て見ると神田委員をはじめその他の諸委員皆至極御深切に恰も慈母の赤子に對するが如き風が見えた。讀方譯讀では何んとも云はれずにすんだが、文法の試驗で後で考へればつまらぬことでも場所故にまごついた。そんな時には試驗官は種々の suggestion を與へて答を引き出して下さつた。試驗場を出たのが六時頃空に弦月がかゝつて居た。第一日の結果は翌日の午前中に發表して呉れた。合格者十九人の中に自分も加はつた次第である。

二日目には教授法と會話の試驗である。自分は十四番といふ後の番號なので矢張り午後おそくなつた。教授法の試驗は誤文訂正である。一人宛一室に呼込まれ十分間位

の時間を與へられて誤文を訂正し、それを持つて次の室に入り岡倉市河二委員の控へて居られた所に行つてボールドの上にその訂正した文を書いた。そして主として岡倉委員がその訂正の理由をきくのであつた。それが濟んでいよ〳〵會話の試驗でそれが最後の試驗であつた。試驗場には神田、スキフト、岡田の三委員が控へてをられた。例によつて三四枚の繪を見て質問に答へるのであつた。一寸したこともまごついてとんでもなきミスをやつたので實に赤面した。例へばキッチンの場でタブレットといふべきをルッキンググラス等と云つて笑はれた次第である。此等にも神田委員は實に丁寧に suggestion を與へられ少しまごつくと教へる樣にして答を引き出して呉れた。若し又適當な答をすると力を入さて encourage して下さつた。結果は二三日後に發表小生も合格者の一人たる光榮を有したる次第である。

尙又一合格者は會話の試驗に就て會話の試驗は最も大膽に出で、若し質問の要點が分らぬ時は容赦なく I beg your Pardon を繰り返すべきである。さうすれば試驗官も

聲を大きくするとか調子をゆるくするとかして呉れるから餘にありがたい。而して自分の知らぬことは明瞭に知りませぬとキッパリ云つた方がよいと思ふ。スキフト先生などは多年の經驗からその點はよく心得て居られるから受驗者にとつては好都合此のなしである』と述べてゐる。

次に近來は萬國發音協會所定（インタナショナルフオネティックアソシエイション）の發音記號（フオネティックサイン）で書いた單文を讀ませたり、普通の綴りの言葉を發音記號で書き換へさせたりするから、之に精通するやう研究し練習して置くことが肝要である。

受驗者は尙第一章第二節を參照せらるゝがよい。

第九章　國語科

第一節　試驗委員より受驗者へ

國語科と漢文科は別々に受驗することが出來るが豫備試驗に於ては何れの受驗者に對しても國漢二つながら課せられるから、國語科の受驗者も漢文科の受驗者も第九、第十兩章を讀まなければならぬ。殊に注意事項も又兩科錯綜してゐるのであるから。

一　受驗者の通弊

イ　常識的、非學術的　本科は他科に比して研究範圍が廣いためか毎年その成績が甚だ不良である。委員の語る所によればその答案は殆んど成つてゐないものさへ少くない。いまこれに關し一二の委員の談話を紹介すれば、武島委員は『いつも合格者が受驗者の一割位しかないのはどういふ理由によるのであらうか。試驗が困難な爲めであるか。之を他の歷史地理博物音樂習字等に比すれば或は困難であるか知れない。併し檢定試驗に於ては滿點を取らないでも大體に於て合つてをれば及第が出來るのである。故に此の試驗が通らないならばそれは試驗が困難であるといふよりも受驗者の學力が不足の爲めといねはばならぬ。實際答案を見ると運だめしといふ考で來る人を見受ける。一例を擧げると先年の豫備試驗の問題中に「のうをつかんとする人」といふのがあるが、之は徒然草にある句で徒然草を見た人は誰でも知つはをらねばならぬ筈だ。それはのうを熊と考へて熊を槍でつく人とか熊をつかむ人とか書いてゐる人があつた。かくの如く常識の無い人が隨分多い』と語られ、藤村委員は『予の關係した部分に就て云へば答案が記憶的であり常識的であり研究考察の跡の見えず又非學術的なることが著しく目についた。明かに概念を定むべき所にそれがなされぬから知識として頗る曖昧である餘程寬大に見ねば點にならぬ答案が少くなかつた』と概括的に批

評されてゐる。更に松井委員の談話によれば十何年も前から示してある所謂『指定書』さへ碌々讀んでゐない人が多いといふからおどろくのほか無い。受驗者は後に掲げる諸注意を守つてもつと眞面目に根本的に研究して試驗場に臨む樣にせられんとことを希望せざるを得ない。

ロ　内容の理解が不十分　章句の解釋に沒頭して内容の理解を閑却するは國語本來の主意を沒却せるのもなることは、少しく考慮をめぐらす時は誰しも首肯し得ることであらうと思ふ。然るに此の解り切つたとが實際に於て國語研究者によつて忘れられ勝ちになつてゐる。而して文檢受驗者の多くも此の弊に陷つてゐる。藤村委員はそれに就て『言葉や章句を解くことにのみ骨折つて全體の文意を解く習慣の少いことは下は小學校から上は高等な學校まで通じて存することで、そこに現代の國語教授の一弊が存する樣であるが、同じく文檢試驗の結果でもそのことを認める。受驗者が文部省から示さた書を研究せらるゝにしても、辭句の解釋を精密にされることの先づ以て大切なことは云ふまでもなくその爲めには精讀熟讀を肝要とするが、それのみに止めずしてよく内容まで讀むことが肝要である。先年の本試驗問題中の「大鏡にあらはれたる貴族の生活を概説せよ」の如きは廣汎な問題であるのに、それに就ての答案が僅々三行か四行のものがあり十行位のものも少くなかつたといふ。これが若し大鏡を讀んでをられなかつたためだといふならばそれは受驗者の横着である。讀んでゐて書けなかつたのなら讀み方が書の精神思想を讀破し語の義を解くと共に文の大意をつかむことに向いてゐない爲めであらう。現に口述試驗で見た所によると文の大意を摑むことには一體に餘程鈍かつた。かういふ次第であるから辭句の解釋のみに止らずその内容の理解に今一層の努力をせらるべきであらう。』と

ハ　現代語に疎い　近年の試驗問題には現代語の解釋が必らず加へられることになつてゐるが、受驗者の此の方面に對する注意が足りないと見えて依然として成績が惡るいといふことである。これに就てはこれ以上云ふ必要が無からうと思ふけれど

も二三委員の談話を紹介して受驗者の注意を強めて置く。

先づ杉委員は『中等學校に於ける國漢文の教師たらんとする者は教科書を研究して置くことが大切である。受驗者の中には古文に就ての知識は多くこれを有してゐるけれども近世語につきての知識の乏しい者がある。のみならず全くないものも折々あるたとへば「純文學」を「文學を純にす」と讀み「輕文學」を「文學を輕んず」と讀んだ者がある。誠に心細い次第である。』と云つて教科書に現はれる現代語研究の忘られてゐることを嘆き、保科委員は更に『中等學校の國語の教員としては現代語に就ては一通り理解を持つて居らねばならぬ。然るにそう云ふ方面に對する注意が一般に足りない。故に新聞に始終載つてゐる社會奉仕、勞資協調、常平倉、八八艦隊簡易保險といふ様な言葉をきいて見てもその意味を知らない人が多かつた。今後の國漢文の教員はクラシックスのみを取扱ふわけには行かぬ。現代の色々な思想に關する教材も讀本の中に種々入つて來るから、さう云ふ様な教材を取扱ふには新聞などに散在してゐる現代語の知識を出來るだけ豐富に持つて居らねばならぬ。それには大阪とか東京とかの第一流の新聞を平素よく讀んで置くことが必要である。そういふ注意を怠らなければ現代語に關する知識を相當に修めて行くことが出來ると思ふ』と廣き意味に於ける現代語研究の必要を說いてをられる。尙序ながら松井委員の談によれば此の現代語の解釋は學術的たるを要せず只新聞などを讀んで今日位の程度、卽ちほんの常識的解釋が出來ればよいといふことである。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　眞面目な研究とは

眞面目な研究の必要なることは云ふまでもないが、さてその眞面目な研究とは如何なる意味であらうか。先づそれをはつきりと頭に入れて置くことが必要である。幸藤村委員は眞面目な研究の必要を力說し且つその意義を明かにしてをられるからしてこゝにそれを掲げて置かう。委員曰く『上手に試驗を通過

しようと考へるよりは眞面目に勉強し研究する心掛けが肝要である。夫々の專門に夫々の學殖を有つてゐる上に多年教授上の經驗を有する試驗委員諸氏が豫備本口頭の三つの試驗に筆答口頭で試驗をするのに萬一を僥倖する心で應ぜらるゝものではあるまい。たとへ間違つた點はあるにしても眞面目な研究の跡が見えるのと、二途がけた曖昧な答案を書いたり言葉を濁したりするのと何方が頼もしからう。間に合はせの勉強では萬一筆答試驗は通過したとしても口頭試驗では到底馬脚を露はさずにはゐない。私としては何よりも先づ眞面目な勉強研究を受驗者諸君にお奬めしたい。私の眞面目な研究と申すのは單に文部省から示された書籍の語句の解釋や標準文法の暗記を云ふのではない。先づ研究の着手としては豫備知識を習得して貰ひたい。廣ければ廣いほどよいのは云ふまでもないが、せめては國語學修辭學文學概論は是非研究せられたい。此等に關する書は既に各幾部が我が國でも出版されてゐるから夫等だけでも研究せられることが肝要であらう。現に先年の豫備試驗問題の「韻文の價値を判斷すべき標準に就きて述べよ」は文學概論の知識を豫想したもので、同じく「議論文と說明文との區別及其の關係を述べよ」は修辭學上の問題である。また國語學の問題なども何時出るかも知れないと思ふ』と。

ロ　精讀か通讀か　書籍によつて學問を研究する者にとつては精讀すべきか通讀すべきかは極めて重要なる問題である。これに就て杉委員の試みたる詳細にして明瞭なる談話は受驗者の再讀三讀に値するものである。委員曰く『凡そ書物を讀んで實力をつけようと思へば必ず精讀することが大切である。精讀と云ふのは一書を讀むに先づ一語の解釋より、語と語との連絡、句と句との關係と云ふ樣に順次精密に研究して行くことである。されば必讀書として擧げてある本を悉く精讀することは難かしいかも知れぬ。そんな時には先づ一書を通讀して大體の觀念を得次に讀書中最も重要なる箇所に就きて精讀するがよい。重要なる箇所は一書の始めにあることもあれば終りにあることもあれば又中頃にもあらうけれども、之を知るには先づ通讀しなければな

らぬ。然し精讀に依て初て語の意義や語と語との關係や又は句と句との關係に就て明確なる知識を得るものであるから、之を應用して未だ讀まない新しい文章をも容易に解釋することが出來るのである。又精讀により一語の意義につき確實なる觀念を得て置けばその語が他書に於て異なる意味に使用せられてをる場合があつても、之を比較して語の多義につき明確なる觀念を得永くこれを記憶することを得るのである。若し精讀せずして一語につき曖昧なる觀念を有し居る時は前述の如き場合に於ては却て混雜を來し誤謬に陷るのである。要するに精讀によつて語に就きての基礎的知識と文章解釋力とを得ることが必要である。かく云へばとて通讀を省いて始めから重要なる部分を讀まうとするのは不眞目なる勉強法であつてそんなことをして眞の精讀は出來るものでない。そんなことをするから未だ讀まない處が出ると全く書けないことになる。又全く通讀粗讀博讀のみする人があるやうだがこれは戒めねばならぬことである粗讀ばかり幾らやつても駄目である。全部粗讀するよりも一章精讀した方がむしろ優つてゐる。一部分精讀して居ればたとへ一回不合格となつても何時か合格する。何故かと云ふとかゝる人は精讀の分量が少かつたために不合格となつたのであるから、殘れる部分を精讀して行けば次には必ず合格するのみか或はそんな人は却て良成績で合格するかもわからぬのである。粗讀をしてゐては何度受驗しても同じことで不合格である。口頭試驗まで來た者の中に源氏物語の開卷第一を讀まされて全く出來なかつた者もあつた。源氏物語の終か中頃ならともかく開卷第一を全く見てゐないとはひどい。又上達部殿上人のことをきかれてとんでも無い答辯をしてゐた人もあつた。これは精讀しない弊である。卽ち上達部殿上人と只外走りに讀んでゐたものらしい。こんなことでは實に困る。次に精讀するに就て特に注意すべきことは一語の多義ある場合である。これは必ず注意せねばならぬ。例へば「難有し」は「稀な」「珍しい」といふ意味か「感謝すべき」意味か「うるはし」は「端正」「きちんとした」の意か「あからさま」は「かりそめに」「ちよつと」の意か「明白に」の意か、是等は必ずその文體と前

後の關係とによつてその甲乙孰れであるかをよく判定せねばならぬ。故に豫め此の多義あることを熟知することが必要である。』と。

ハ　文典はかくの如く研究せよ　文典の研究に就ても杉委員の談話を紹介する。委員曰く『文典の研究もまた精讀法をとるがよい。先づ世間から良書と認められたる一書に就き精細に研究して確實なる文法的知識を得ることが大切である。かゝる文法的知識がやがて實際に應用せられたる活知識である。一書を精細に研究すれば自らその說明に疑問を生じ何か物足らぬ感を起すことがある。かゝる必要が起つた時之れに應ずる爲め他書を讀み之を參照して兩者の說を比較し、最後に何れがよきかを判斷して置くことが必要である。判斷して置かぬと知識が曖昧になつて行くからよくない。未だ基礎的知識を得ざるに最初より徒に多讀して多くの說を記憶して足れりとするは大なる謬見である。たゞに益なきのみならず却て虻蜂取らずの知識となるものである。前述せる必讀書の購讀に於て精讀を主として通讀をも交ふるが如く文法の研究に於ても亦精讀を主として他書の參照を併せなすべきである。又文法は只法則を列擧してあるのみであるから是非自分で多くの例に當つて見なければならぬ。或は古文でも或は毎日見る新聞でも何んでも思ひ出し次第に演習をすることが必要である。殊に文章法はそれでなければ眞の力はつかない。次に文法は一面應用的の學問であるが一面は說明的の學問である。その說明には秩序があり統一がなければならぬ。品詞の解剖でも各語に就て品詞を擧げ、動詞なれば自、他、活用、法(段)を擧げると定めたならば何の語にも漏れなくやることに注意しなければならぬ。名詞代名詞に格を記すとかいふ場合にも漏れなくやることが大事である。甲語には法があつて乙語にはないとか、丙語には格があつて丁語には格が無いとかいふ樣なことでは說明が不統一である。尙人にきいて見れば知つて居そうに見えても書いてなければ想像點はつけられぬ。或は助動詞なら「む」には未來といふことが書いてあつて活用も法もあり、「まし」には活用と法はあるが假設とも希望とも書いてないとか、或は「て」は接續の助詞とあるのに「に」

は只助詞とあるばかりで何の役をするか分らぬ様なのは粗漏と云はねばならぬ。文法的ではない科學的ではない。文章法でも同様で主語說明語といふべきを主格動詞と書いたり、又修飾語といふべきを只副詞と書いたりするのは分つて居る人でも不注意と云はなければならぬ。文章法の答になら ぬ。家の造作を說明するのに障子柱窓といふべきを障子角棒角穴では不統一である。つまり知らぬ者と同視される譯である。秩序を立て統一を計つて抜け目の無い様にしなければならぬ。』と。文典研究上の注意は以上を以て盡きてゐると云つてよい。

二　文學史研究上の注意

文學史を研究するには如何なる點に注意することが必要であるか。これに就ては武島委員は『文學史では從來は人名書名を多く問ふたが數年來は日本文學の思潮の變遷を知る様な題目を出す様になつた。此の思潮の變遷を代表するものは著書であるからその人間の名傳記著書を知らねばならない。これは普通のものを讀めば分るが藤岡作太郎君の『國文學史講話』の内容を知ればよい。その他文學上に現はれた故實のこと儀式衣服家屋のこと等を知つて置かねばならぬ。これは伊勢貞丈翁の叢書及び隨筆を見ることが必要である』と有益なる注意を與へられ、又松井委員は『文學史は別に誰のと官報に示してないが誰のでもよいから一通りは十分讀んで來なければならぬ。これも誰のと指定したら都合がよいけれども、そうするとその書物に專賣權を與へることになるし又その後それ以上のよい本が出ぬとも限らぬので指定する譯にいかぬのである。文學史に附帶して歷史の知識を少し有つて居る必要がある。歷史の知識が無い爲め答案に非常に妙なことを書く者があるが此等は甚だ不得策である。一通り普通の歷史を讀んで置かねばならぬ』と說かれてゐる。當然のこととは思ふが參考までにつけ加へて置く。

ホ　作文を輕視するな

受驗者は一般に平素作文の練習に力を注がないばかりでなく、試驗場に於ても全問題中の一問題位に心得他の問題の解答に主力を注し僅にその餘力をこれに當てる位に過ぎないから、その成績は甚だ不良である。然るにこゝに

揭ぐる芳賀博士の談話を一讀する時は作文の決して輕視すべからざるものなることを覺るであらうと思ふ。博士曰く『作文は餘程成績が惡るい。これは受驗者の方に大なる誤解があるのではないかと思ふ。卽ち作文といふものは全問題中の一問位のもので あるからといふので極めて之を輕く見る。その爲めに與へられた問題の中で先づ第一に設問の答案を作る。さうしてその中の極く細かい問題に苦しみ規定の四時間を多く之に費して終ふ。爲めに作文の時間といふものが甚が少くなる。さうしてその僅かの時間で粗末に文章が作られるといふ順序になる。それで受驗者の中には答案の終りなどへ時間足らずとか若くは時間不足の爲めに文を練る暇がなかつたなどいふ意味の文句を書いて置くものなどがある。これは往々にして見受ける所であるが自分の卑怯を暴露するばかりで何にもならぬ。時間が無いといふのは自分が利用しなかつたのが惡るいので、此方では元より十分な時間を提供してあるのだ。それを利用するとしないとは一に受驗者の責任に存する譯ではないか。委員の側から云ふと作文は餘程重く見て居るといふことを一般受驗者が承知してゐて貰ひたい。受驗の場所に入つては勿論平素の修養の際にも文章の練習を等閑に附することの無いやうに望むのである。實際他の設問や解釋のやうな短いことなどは辭書を見ても分ることが多い。而してその人が教職についた場合にも大抵卽日の授業の課程は下調をして行くから差支ないやうなものであるが、作文の方は中々左う一朝一夕に出來るものでない。これば かりは辭書を見ても分らない。受驗の日が迫つたからとか乃至は就職するからと云つてオイソレと出來るものでない。どうしても長い間の研究と練習とを必要とするのである。立派な作文健實な文章が出來れば自らその中に文法上の知識も見られ或は一般普通の見識も窺はれるといふ譯であるから、餘程その作者に信用が置かれるのである。それを一般に輕んじて僅かの時間に極く粗末に書いて終ふといふのは受驗者の爲めに不利益な次第と云はなければならない』と。

へ　答案の認め方に就て

解釋の答案を如何に認むべきかに就て杉委員は『解

釋などの仕方によくあるが本文大意難語摘解・全文解釋など數種に分けてやる人がある。出來てさへ居れば方法はどうでも直ぐ分るが出來ない答案をくど〳〵しく書かれると隨分閉口する。いつそ三種に分けたり何かせずに、初めからずん〳〵やつて行つて、特に或る語に就て精しく說明せねばならぬ時にはそこに註解を加へればすむ。實際口で講釋する時もそれで分るから書いても同樣である。要はあまり同じことを幾度も繰返さない樣な方法をとるのが上手である。』と語つてをられる。今後は受驗者は必ず此の方法をとるがよい。

同委員はまた文學史の答案認め方に就て次の如き有益なる注意を與へてゐる。曰く

『文學史などの問題で或る時代の文學の概況を說明する時に、歌が盛に行はれたとか小說が出來たとか漢文が衰へたとか概括的の論をすると同時に、その時代の人物と書物とを擧げるのはその論を確實にするに缺くべからざるものであつて、是がなければ滔々千萬言も空論に過ぎないのである。役者の居ない背景の樣なものである。そこで必ず著名の人物と書物とが列擧せられるが、さてその人數書數をなるべく多くしようと思ふ所から隨分時代違の甚しいものを無理に引込むことがある。例へば延喜時代といふのに人麿も這入れば紫式部も這入るなどは隨分ある。貫之と躬恒と主要な人麿とも紫式部とも雜居して居るのである。そこでどうであらう。貫之、躬恒が兩人が擧つて居るから延喜時代はまあそれでよいと云へるだらうか。少くとも單に貫之躬恒兩人のみを擧げたものと同點に見ることが出來るだらうか。否人麿と紫式部が這入つたが爲めに延喜時代それ自身の土臺が怪しく成つて來はすまいか。貫之躬恒を云ふなら古今集も擧げて評論してあるであらうが、此處へ人麿が出る樣ではその序文も讀まないといふ證據になる。たつた五首の長歌も讀まないといふことは勿論であるが、先づ此の古今集の評論が既に駄目になるのぞきもしないといふ證據になる。萬葉はのぞきもしないといふことは勿論であるが、先づ此の古今集の評論が既に駄目になつてしまふ。又紫式部が出る樣ではこれも古今集を讀まぬ證據になる。いや紫式部は伊勢の間違だと云つても駄目だ。むやみに人名と書名とを多く擧げさへすればよいと

思ふのは大間違である』と。

本科の答案に誤字脱字等のあつてならぬことは云ふまでもないが、實際に於てはごく普通のありふれた字さへ誤る者が多いといふことであるから、受驗者は此點に平素より注意しなければならぬ。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【指定解釋書】

◎鈴木弘恭著　つれ〴〵草文段抄　青山堂

◎內海弘藏著　徒然草評釋　明治書院

文段抄は徒然草評解中の權威であるから是非精讀しなければならぬ。これが無ければ他書でも宜しい。後者を參考して前者を補へば一層結構である。

◎和田佐藤共著　修訂增鏡詳解　明治書院

增鏡詳釋書中の白眉、これでしつかり調べれば十分。

◎落合池邊共著　大鏡詳解　明治書院

これも本書だけで澤山である。

◎萩野由之補校　太平記註釋　誠之堂

◎日本文學全書　太平記　博文館

前者は註釋が詳しいが本文がない。後者は本文註共にあるが極めて簡略である。兩者を併用すれば便利である。

◎今泉定介著　平家物語講義　誠之堂

◎內海月杖著　平家物語評釋　明治書院

前者は定評のある好著であるが、後者も中々よい本である。何れか一冊で十分であ

る。

以上の四書卽ち增鏡大鏡太平記平家物語は有職古實に力を入れて研究することが必要である。

◎松平靜著　枕草紙詳解　誠之堂
◎鈴木弘恭著　訂正增補枕草紙春曙抄　青山堂

本書を十分に了解するには少く共以上の二書を參考にする必要があると思ふ。殊に春曙抄は是非見なければならぬ。

◎石川誠著　萬葉集古今和歌集新古今集選釋　大同館

本書は受驗者に要領を得る樣に編述せるもので第一の入門書である

◎佐々木信綱著　萬葉集選擇　明治書院
◎金子元臣著　古今集和歌集評釋　同　上
◎鹽井正男著　新古今集詳釋　明治書院

これらはこの書を精讀すれば十分である殊に石川氏の分は重要な所を暗記するに都合よく受驗者の爲めに出來た本である。

◎植松安著　古事記新釋　大同館
◎池邊義象著　古事記通釋　啓成社

後者は或は手に入れることはむづかしいかも知れぬが兩書を併用することが出來れば非常に結構である。

◎植松安著　記紀の歌の新釋　大同館

は古事記研究上缺くべからざる參考書である。

◎尾上登良子著　頭註源氏物語大意　大同館
◎小林榮子校訂　源氏物語活釋上下二册揃　大同館

前者は大意とはいへ原本を讀むと異らざる書で之れに依つて一通り源氏を了解し然る後に小林榮子氏の活釋を參照すれば難解の源氏もよく理解することが出來るであら

う。此の二書で源氏は十分である。

【指定書以外の參考書】

指定書は必ず讀まなければならぬ最小限度を示したもので、それだけ讀めば他を見る必要は無いといふのではない。事實口答試驗の際には指定書以外のものからも出題されることが多いのである。左に從來の合格者の最も多く讀んだものを掲げて見よう。

◎鳥野幸次著　保元物語詳釋　明治書院
◎今泉定介著　平治物語講義　誠之堂
◎内海月杖著　方丈記詳釋　明治書院
◎三木五百枝著　十六夜日記講義　誠之堂
◎今泉定介著　竹取物語講義　同上
◎鳥野幸次著　東關紀行講義　明治書院
◎今泉定介著　土佐日記講義　同上
◎大塚彦太郎著　更科日記講義　誠之堂
◎今泉定介著　伊勢物語講義　同上
◎石橋尚賢著　十訓抄詳釋　明治書院
◎日本文學全書　古今著聞集　博文館
◎關儀一郎著　駿臺雜話註釋　誠之堂

以上の本を悉く通讀出來れば非常に結構であるが、それだけの暇の無い時は所々なりと目を通しておくがよい。尚和歌の書では

◎佐々政一著　うづら衣詳釋　明治書院
◎佐々木信綱著　百人一首講義　博文館

等を見ておけば口述試驗の際に心強い。それから

◎塚本哲三著　國文學び方考方解き方　山海堂

は解釋の仕方方法を考へる良書である。高等諸學校受驗生の爲めに著されたものであるけれども文檢受驗者の參考にも大になる。受驗者は先づ本書を讀んでから指定書の研究に入るがよからうと思ふ。

イ　設問に關する參考書

a　文學史

◎芳賀矢一著　國文學史十講　富山房
◎藤岡作太郎著　國文學史講話　開成館

前者を基本とし後者を以て補へば八九分の準備は出來る。又次も良書である

b　國語學史

◎五十嵐力著　新國文學史　早大出版部
◎保科孝一著　國語學小史　大日本圖書會社
◎同　人　國語學史　早大出版部

國語學史は右の中の何れか一冊を精讀し

◎福井久藏著　日本文法史

を參照すれば澤山である。

c　文法

◎大槻文彥著　廣日本文典　六合館
◎同　廣日本文典別記　六合館
◎小林好日著　新體國語法精說　大同館
◎和田萬吉著　日本文典講義　早大出版部

前者の品詞篇、後者の文章篇をよく頭に入れ、しかる後

◎三矢重松著　高等日本文法　明治書院

を研究的に參照するがよい。尙

◎岡倉由三郎著　文及文の解剖　丸善書店

によつて解剖の實力をつけておけば更に結構である。

次に口語法は文語法さへしつかり分つておればそれから應用することが容易であるから次を一讀しておけば十分である。

◎山田孝雄著　日本口語法精義　寶文館

◎國語調査會　口語法　教科書販賣所

a　有職古實

◎有職故實辭典　六合館

第五章第二節の一を見よ。但本科では此等の本を始めから終迄暗記する必要がなく。解釋用の參考書を研究する時必要に應じて參照するだけでよい。實際此の方が却て效果があるのである。

b　作文

◎五十嵐力著　新文章講話　早大出版部

◎杉谷代水著　作文講話及文範　富山房

◎武島又次郎著　修辭學　博文館

右は作文の參考書として最も多く用ゐらるゝものである。尙作文に就ては後の研究法に詳述するから就て見られたい。

【辭書其他】

◎大槻文彥著　言海　六合館

◎金澤庄三郎著　辭林　三省堂

獨學者の手引としては　大同館

◎石川誠著　文檢受驗用　國語科研究者のために

といふ良書がある。研究者は先づ最初に本書を讀んで研究にかゝるがよい大體の內容は第一篇研究及受驗上の諸注意並に精讀書の解說、第二篇國文學史、第三篇國文典、第四篇國語學史、附錄受驗參考書一覽及問題集より成つてゐる。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　解釋書の研究に就て　解釋書は如何なる方法によつて研究すべきであるか、又研究上如何なる注意を要するであらうか。左に諸合格者の經驗談からこれに關するものを抽いて見よう。

a 易より難か難より易か――一は指定された參考書を例へば太平記平家等より源氏萬葉古事記と易きものより難解のものに漸次及ぼすもので、これは何人も辿るべき自然の正道である。いま一つは速成を期する爲めに源氏大鏡等難解なものを先づ讀破して、易きものは自然に了解しようとするものである。これは變道ではあるが或る一部の人にはこの道を辿るのも一興であらう。僕はこの後者をとつた。それは歷史受驗の時に平家增鏡十八史略四書位はざつと讀んでおいたからである。

b 歌集研究の順序――新古今集を讀んでから古今集を讀み、古今集を讀んでから萬葉集を讀むとよろしい。

c 源氏と枕――源氏物語と枕の草紙とは平安朝文學の双璧と稱せられてゐるものであるから最も主力を注いで讀まねばなるまい。源氏は大抵須磨明石まで讀んでおいたらよいとのこと。併し通じて一讀したらなほ更よいわけである。

d 古事記――古事記は上卷卽ち神代の卷と中卷の倭建命の條とを讀んでおけば大略分る筈で、最も有名な箇所もその中に含まれてゐる。

e 書物の內容特色――一冊を讀了せば必ずその書の內容特色を玩味して源氏なら源氏左傳なら左傳の氣分をよく飮み込んで、何處の一部を抽き出されても、これは源氏の何の卷だ、これは左傳の文章だと直覺するやうにならなければ駄目だ。口述の際など『此の文は何にあると思ひますか』等と必ず問はれるから。

f 歷史的事實の記憶――國漢受驗者は參考書を學科の性質上とかく語學的解釋的にのみ見て、その書かれたる事柄の如何を顧みない人が多い樣だがこれはよろしくな

い。增鏡大鏡または十八史略等の史實はよく了解し且つ記憶しておかねばならぬ。殊に制度や故實は餘程よく注意しておくべしだ。或る人は口述の際源氏の一節で『一體此の人は何處から宮中に參內したのですか』と問はれて閉口したそうであるが、これは畢竟故實の試問で、如何なる位階の人はどの門より入つて何れに參候するのだといふ事が分つてゐないと解決のつかぬ問題である。僕の口述の際にも『この文は何かで見ましたか』『これは神皇正統記の承久の亂を叙して後に加へられた親房卿の史論だと思ひます』『親房卿とはどんな人か』『吉野朝廷の柱石で殊に後村上帝の御龍任を受け准三宮の待遇をさへ賜はつた方で』『准三宮とは何だ』『三宮に准ぜられて年官年爵を賜はることであります』『何か著書がありますか』『職原抄、二十一社記、元々集など』『その中で何か見ましたか』『職原抄を見ました』『內容は』『漢文の制度沿革史であります』……なんかと歷史的事實の問答が頗るはずんだ。幸に僕は歷史の力は自信があつたから（編者曰く此の合格者は先に日東史科の免許狀を得てゐるのである）容易に切り抜けたけれ共、神皇正統記を多少史的に見、又北畠准宮の歷史的事蹟に注意してゐなかつたら一寸困るのであつたらうと思ふ。

g　難語句ノート——參考書を讀む時難語句だと思つたものをノートに順次に記入し本文の頁數をも附記しておいて、試驗期日の切迫した時それを復習するやうにすると便利である。又國文中の引歌とか漢詩句などはその書名篇名と共にノートに拔萃して、ひま〳〵に暗誦しておくと受驗上大に心強い。

ロ　設問に關する參考書の研究に就て

n　文典——文法は徹底的に研究しておく必要がある。講讀の基礎は實に文法にありだ。文法があやふやだつたら、とてもびつたりとしたゆるぎの無い解釋は出來るものでない。簡單な內容捕捉位ならば出來ようが、それでは國語科としての全部ではない。文法を基礎としての科學的の解釋が出來なければ眞の國語科の使命を全うしたとは言はれないと思ふ。口述試驗にも文法は非常に重きをおく樣である。縱橫無盡の

質問に對して應答するには、餘程徹底的に調べておかないと、それでなくてさへ異常な心理狀態の場合澁滯してしまふのが當然である。

『連續の法則などは正確に覺えておかぬとぐらつき易いですから』と注意して吳れた委員の言葉が今でも頭に殘つてゐる。

他の合格者は又文典の研究に關して次の如く注意してゐる。

文典は只文典の本で研究したゞけではいけない。實際の文章を讀む際に必ず文典的解剖的に見ておかなければならぬ。そうでないと源氏や枕の一節を而も隨分長いものを解剖させらる樣なこれとがあるが、その時や口述の際に必ず失敗する。實際の文には種々の省略や例外や應用の變化等があるからその邊の注意が大切だ。文典は國語中唯一の應用力試驗道具である。

b　文學史――文學史を讀む時は引例された主要な著書等は圖書館等で是非その內容を一通り見ておかねばならぬ。圖書解題で詩文を集めたものだ位を承知してゐたの

では、口述の時などは『讀みましたが、何が書いてありましたか』と來られた時に於て萬事窮する。卽ち研究の範圍の狹小なのをすぐ看破せられる。又文學史は中等教科書を敎ふる上に最も密接の關係ありと思ふ箇所をより重要視することが肝要である。

c　現代語――新時代の語として普通常識殊に文藝上に使用せられてゐる言葉は新聞や雜誌などでつとめて氣をつけておくことが肝要である。新熟語の字引は二三種出てゐる樣であるからそんなのを調べるのもよいだらう。

ハ　**作文の練習に就て**　第一節に述べた通り作文は最も重要なるものである。而して受驗者にとつては極めて厄介なものであるから、左に某合格者の稿によつて、如何なる方法によつて練習すべきかを述べて受驗者の參考に供しやう。

作文練習の方法は大要左の如き順序を採るを捷徑とする。

(1)每週一回若くは每月二三回づつ日記紀行風景の描寫簡單なる叙事などを試みて先輩知友の訂正批判を乞ふ事。予は受驗前三四年間これを實行して一進境を劃した經驗

を有してゐる。單に自分だけでは瑕疵缺點がないと思つてゐても、先輩から見ると瑕瑕百出するものである。されば獨學者は必ず此の方法をとるがよい。

(2)師長朋友には常に信書の往復につとめ實際的練習を試みると同時に、其批評訂正の交換を行ふこと。予は當時幸にも三人の同志があつたから、些細の用事にも擬古文體を用ゐて見たり、尺牘體を用ひて見たりして、相互に遠慮無き批評をし合つた。殊に質疑應答を盛んに交換したため非常に利益を得た。切磋琢磨には必ず良友を要する又良師を求むることが肝要である。此は芳賀博士も嘗て語られたことがある。

(3)模範文の抄出諳誦をつとむること。例へば徒然草方丈記の中の一節、或は漢文中の有名なる章句などを抄出して作文の資料に供すること。此の方法は解說と記憶とを精確にするに最も有効なるものである。予は叙景叙事の巧妙なるもの、解說議論の卓拔なるもの等を摘錄した。それがつんで一書筐に充ちてゐる。迂遠なやうではあつたが今日その利益を大に享受してゐる。『急がば廻れ』の訓言を體したのである。

以上の方法によつて多少の練習を積んだ後には更に左の如き徑路を取るべきである。

(4)中古文體を模すること。徒然草、枕草紙、源氏物語等の文體を模倣して其の用法に習熟すること。

(5)書籍の解題批判をなし作者の境遇思想の變化などを論述すること。これは言ふまでもなく設問の實際的練習としても有益である。

(6)一定の時間を限りて作文能力の遲速を試みること。十分間には幾ツ、三十分間には何程、一時間には幾枚だけと自ら豫定して速達の方法を練習すること。

(7)弔祭慶祝等の式事文の形式を練習すること。式事文には自ら一種の形式慣用等があるから多少の練習を試みおくべきものである。實用上にも受驗の上にも必要である。

(8)時間を制限して試驗問題の擬答を試みること。これは最も必要にして利益ある方

法である。文章を練る上にも記憶を正確にする上にも、大に之を試みるが得策である。

終りに國漢受驗に志ある者は、自己の作爲せる文章和歌詩篇はこれを新聞又は雜誌等に投書して汎く批評をきゝ、併せて相當の自信力を養成するに至らんことを切望しておく、予の如きも受驗前各種の雜誌に所見を吐露したものが尠くない。今から見れば拙劣粗笨ではあるがその當時は皆之れ練習の爲めに行つたものである。

他の一合格者はまた『作文は雄健で論理的矛盾のない樣にせねばなりません。國語をやる方は多くは非論理的の頭が多いのです。特に此の點は注意を要します』と云つてをるが尤もな言であると思ふ。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を見よ。

尙歌集の如きは常にポケットに忍ばして寸暇を利用して吟誦するがよい。案外效果のあるものである。

四　筆答試驗に對する準備と注意

イ　**豫備と本試の程度**　一合格者曰く『學科によると豫備と云ひ本試と云つても同一程度の試驗を二回繰返すに過ぎぬものや、豫備に合格すれば學說の方だけは大丈夫なものや、口述では殆ど落第のないものや色々あるが、國漢と來ては筆記でも口述でも容赦なくどし〳〵落される。そして豫備と本試とではまるでその程度が違ふ。豫備にやつと合格した位では本試にはとても歯が立たぬ。豫備は平家つれ〳〵太平記級だが、本試となると源氏、枕、大鏡がおきまりで、それに萬葉古事記がちよい〳〵頭を出してどうも厄介だ。漢文とても豫備は十八史略四書級の試驗だがお次は左傳韓非級だからたまらぬ。殊に左傳は受驗者の等しく眉を寄せる難物である。要するに豫

備など眼中に無い程度に至つて始めて合格を期し得べしだ。』と。

また他の一合格者曰く『經驗によつて指定參考書を分けて見るに、豫備は太平記、徒然草、鏡類、平家、古今、新古今、漢文では古文眞寶、八家文、十八史略、唐詩選史記、四書の程度である。本試驗は大鏡、枕草紙、源氏、古事記、萬葉、漢文では四書、左傳、韓非子の程度である』と大體同じことを云つてゐる。これは過去の試驗問題を分類して見れば誰しも知り得ることであるか、ともかく後進者にとつては有益なる注意たるを失はない。

ロ　答案の認め方　第一節にも述べてあるが更に某合格者の言を紹介して受驗者の注意をうながさう。曰く『解釋は字體を明瞭に簡潔に書く方がよいと思ひます。私はノベッに書き流して必要な箇所には括弧を施して解釋をしておいた。知つてゐるからとて滔々數萬言を陳ねて故事來歷まで書き、知らない所は不明瞭にボカシてはよくないでせう。私は解釋を要する語句と認めたもので意味の分らないのがあつた場合にはわざ〳〵知らない由を認めておきました。正直であれば委員も好感を以て對せられる事だと思ふのです。解釋の深さは中學生に講義するといふ程度に止めました。試驗が中等教員の試驗ですから。設問の答案は要旨を逸せず、答案そのものが立派な文章になる樣に注意して書きました。「源氏と枕の比較評論」といふ如き問題は誰でも書ける代りに誰でも横道へ逸れ易いのです、限りある時間にチャンと首尾よく纏めるには要旨を捉むことが大切です。比較にしても蝦と蟹との形態を比較する樣に1何々2何々といふわけには行かないでせう。そこに答案作製の苦心があります。私は解釋は佐々木氏の萬葉選釋流に設問は藤岡氏の講話式に認めました』と。

尙第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

某合格者曰く『口述は徒然草、增鏡、大鏡著聞集、十訓抄、正統記、近世文等から

出る様です。枕や源氏から出た事もありますが豫備程度のものから出ると却てマゴツキます。口述には悠揚迫らぬ態度と正しい言語が大切だと思ひます。委員は親切で色々ヒントを與へて下さるからあわてずに返答せねばなりません。嘘や胡魔化しは大禁物です（これは一般の答案にも言ひ得ることですが）記憶の不確なことはその旨を斷つてから後に答ふべきです。』と。

尙第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

第十章　漢文科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　漢作文の成績が不良　本科の中で一般に成績の最も不良なのは漢作文即ち國文漢譯である。岡田委員曰く『一般に亘つてよくないものは先づ漢作文であらうか作文と申しても譯文である、即ち國文漢譯である。どうも此の漢譯文の成績がいつも宜くない。勿論漢作文は困難なものに相違ないが、併し實際に教師となつて簡單な文の構造などを說き又は實例を作つて示す場合などになつて作文の知識がなくては非常に不都合なことであるから、受驗者は更に此の點に十分なる練習をして貰ひたい。こ

れ迄の答案を見ると中には漢語と俗語との區別を辨へないではないかと思はれるもあり、それはまだよいとしても顚倒の甚しいのには實に困る。中學の五年生あたりでも出來さうな處を失敗してゐる者さへある、是れは練習が足らないからである。是亦練習してもらはねばならない』と。その他の委員諸氏も年々同一のことを繰返し注意してをられるのである。

尙岡田委員は前言にひきつゞき漢作文練習の方法に關して有益なる注意を與へてをられるからして便宜こゝに紹介して置かう。委員曰く『漢作文を練習する方法としては第一に復文を十分に練習する方がよい。豫備試驗にはいつも復文をやることになつて居る。此の復文がよく出來れば作文の助けとなつて顚倒がなくなるばかりでなく白文を讀む力もついて來る。又漢文の意義を正確に解釋することも出來るやうになる。第二には古人の名文章五六篇ばかり暗誦して時々それを書いて見るのも作文や復文の助となるやうである。第三には「常山紀談」「藩翰譜」「徒然草」など、又は新聞の雜報などを譯して適當な人に見て貰ふやうにすることである。なんでも漢文に對して口に慣れ手に慣れることが必要であると思ふ。尤も作文や譯文に對しては此方でもあまり多くを望まない望むのは無理である。たゞ顚倒さへなければ宜しい。だから受驗者の方でも少し注意して練習して來てもらつたらと思ふ』と。受驗者は此の方法によつて十分に練習せられんことを希望する。

ロ　地理歷史の知識がない　本科を正確にやるには支那の地理歷史の概念を有することが極めて必要である。然るに受驗者は此の方面の修養を一般に怠つてゐるらしい。島田委員は之に關して『漢文の受驗者は支那の歷史的觀念に乏しい。哲學にしても文學にしても時代々々に起りし時代精神が存するのであるから、只々普通の文學史のやうなもので見たゞけでは、古今を通じての社會とか政治とか或は思想の變遷とかいふ時代的觀念を知ることが出來ないのである。故に支那の歷史を通じて知るには「十八史略」「文明史略」などはよからう。此の二書は歷史であるけれども文學に傾いて居

るから、歷史上の事柄を知ると同時に文學上の知識も得られる。かういふ書をよく讀んで居れば後日生徒に本を敎へる時に大變な用をなすのである。又こういふ書を見て居なければ支那に於ける文學上の發展を知ることが出來ない。次に地理的觀念を有つことも必要である。一寸考へれば直接に關係は無いやうであるが文學上の出來事に對しては甚だ近い關係がある、卽ち昔の地名は今日は何處に當るかといふことは肝要のことと思ふ。此の地理的觀念を得る爲めには「地理韻篇今釋」を具へて置けば昔の地名を今の地に當てゝ書いある。これは支那で石印で小本に出來て居る、大本もあるがどちらも價が高くない』と說示せられてゐる。

岡田委員は更に容易に地歷の觀念を得ることの出來る適切な方法を述べてをられるからしてそれをも併せてこゝに揭げて置かう。委員曰く『歷史科の試驗でないから細密な年代を知つてをらねばならないといふことはないが、大體の時代觀念といふものはどうしても欲しいと思ふ。たとへば我國で云へば奈良平安鎌倉德川時代と云つたやうなもので、漢とか六朝とか又は唐宋時代とか明淸時代とかいふやうな觀念は正しく養つて置いて貰ひたい。で私はどこでも云ふことであるが、漢文を勉强するのには常に年表と沿革地圖とを離さずに備へて置くことが必要である。さうしてその文章なり事實なりに就て正確な時代の特長觀念を了得して居るが肝要である。さうでないと人物などを並べて時代の區別などをさせる時分に、途方もないことを答へたりなどすることが往々ある。又一方に於ては地理上の注意を怠つてはならない。しかし細かいことは要らぬ。唯現在の省の名や位置を覺えて置き、その上に歷代の大きな都又は有名の國と極めて著名な山や川だけでよいから今日の何處に當つて居るかを知つて置くことも必要だと思ふ。たとへば長安や北京が今日の何處であるか齊魯秦楚の地は凡そ今の何省であるかと心得て置けばよいのである。尤も漢文漢詩を讀む時に沿革地圖を參照して居ると自然に地理の知識がついて來る。』と。

一　受驗者に對する注意と希望

イ　參考書研究の注意　受驗者の知れるが如く解釋に關して讀むべき參考書は先年官報に發表されてゐる。あれは是非讀破しなければならぬことは勿論であるが、その中でも特に精讀を要するものは何々であるか、又それを如何に研究すべきであるかを知ることが必要である。これに關しては島田委員が詳細に說かれてゐる。曰く先年國漢の參考書を示しました。あれ以外にもあるけれどもあれだけは精讀すべきものとして示したのであります。その中でも漢文の方では殊に精讀を要するものは四書左傳であつて、これ丈は昔から是非讀むべきものとしてあるのです。別けて四書ですな。四書は儒教の精神の根本であつて、支那の哲學文學等は皆儒教の精神から胚胎して居る。つまりこれを讀まなければ支那の文學哲學を解し得ぬのであります。所で近來受驗者の傾向を見るに主に講義錄に賴る風が見える。講義錄によるのを一概に惡いとは云はぬ。初學の者が研究の緒としてこれに賴ることは或は便利であらう。しかし受驗者がこれにのみ賴り古人の註を見ないといふことは甚だ缺點である。たとへば四書を見るにしても始めは講義錄によつて見たら後は必ず朱子の註をも見なければならぬ。教師として講義する場合は只々教科書の本文のみを理解するばかりでは足らない。他書を參考もし研究もしなければならぬ。それをするには單に講義錄ばかりをたよつてはならぬ。故に支那の學問の基礎たる四書を見るには少く共註を見なければならぬ。尙一步進んで研究するには太田錦城の「大學原解」「中庸原解」安井息軒の「論語集說」竹添進一郎の「孟子論文」を見るが宜しい。竹添氏の著は大分世間の非難もありますが好い本であります。以上のほかまだありますが先づこれ位で好い。勿論朱子の註は必讀すべきものであります。次に精讀すべきは左傳史記でありまして最も必要であります。これも註書によるのが宜しいと思ふ。其他文章の方では「八大家文」を見なければなりません。受驗者が講義錄で讀んで來たか註で讀んで來たかは筆答で

も口答でも好く分るのである。』と。

次に同委員は『どんな學者でもあらゆる總ての本は知ることは出來ないから此書はかういふ性質の本であるといふこと位は知つて居る必要がある。つまり解題に關した目錄本が必要である。それには「四庫全書提要」がよいが此書は大部のもの故一寸求め惡いなら(一)四庫全書簡明目錄(二)四庫全書未修書目(三)書目問答等を求めるがいゝだらう。一に漏れたことは二にある。又三も一に漏れた本を解題したもので非常によく出來てゐる。以上三部の書は一纏めの小本になつてゐて値段も一圓位で求められるであらう。本の性質を知るには是非參考すべき書物である。それから桂湖村の「漢籍解題」も宜しいだらう』と解題書購讀の必要を說かれてゐる。然るに小柳委員は更に一步をすゝめて『地方に居る人などは大切な本で地方に居ては見られないといふ本を見るために、出來るなら準備として上京して一ケ月なり二ケ月なり上野圖書館の樣な處に通つて、本の表紙か或は目錄位を瞥見してこんな本であるといふザットした概念だけでも知ることが望ましいと思ふ。たとへて云へば資治通鑑韻函類鑑などは小學校あたりにないから、只々文學史で名は知るも一度も見たことがないと困ることがある故一二回は必ずその實物に接して居る必要があります。記錄の上で書名を知るにしてもさういふ風にして見たものは忘れ勝ちになるから實地に當つて見ることが大切のことである』と實物に接することの必要なることを述べてをられる。これ位の心掛あることがまことに望ましいと思ふ。

ロ　設問の準備を如何にすべきか

牧野委員は如何なる心得を以て設問の準備をなすべきかを下の如く說かれてゐる。曰く『設問に關して如何なる方法で試驗の下調をしたらよいかといふことを度々受驗者から尋ねられるのであるが、之は種々な箇條もありして一寸した短い話ではいふことが困難であるが、大體の所文學等のことに關してはその一代の代表的のものをよく見て置くことがよい。これは單に試驗を受けるばかりでなく文學史を讀むにしても必要なことである。ごく細いことや名も餘り知

れない人のことも少しは知らねばならぬが、それより時代々々の代表的のものを見て置くのが肝要である。例へば唐について云つて見ると文章で云へば韓退之柳子厚詩で云へば杜子美李太白白樂天のことを調べてをく必要がある。それも餘り細かいこと等はそんなに力を入れなくてよい。その人の思想に關する所特色に關する所等に氣をつけておくのである。此の意味で支那の思想史を調べておくと大へんよい。先年の試驗に格物致知の說などいふ樣な問題、或は儒者の義利の辨などに於ける意見といふ樣な問題が出た。さういふ大問題をなるべく見ておくがよい。但かういふ大問題になると答案に書く場合に余り精しく書いてゐると長くなつて時間が足りなくなり不完全になる。また場合によると失敗にならないとも限らない。これは平常さういふ大問題を攻究する場合に試驗に答案的に書く時はどの位に縮めればよいかといふことを考へて置かねばならぬことと思ふ。一言にして云へば節にして要を得るといふことが大切である。卽ち徒に煩瑣的のことや記憶的のことにのみ力をつくして大體の大義を逸する樣なことは考ものである。』と。

尙某委員は設問に關する參考書を示されてゐるから參考までに附記して置かう。委員曰く『參考書は文學史哲學史の方では古城氏の文學史と遠藤氏の哲學史程度のものを一冊見れば十分と思ふ。制度法律のことを見るには伊藤東涯の制度通か那珂さんの支那通史中の官制に關した部分を見るがいゝ。又これに關してオーソリチーなる文獻通語なども文名位を知つてをらなければならない。』と。しかし文學史と哲學史とにはその後出版されたものにもつと適當なものがあると思ふ。それは次節に於て說くことにする。

ハ　白文練習の方法如何　本統に漢文の實力をつけるには白文を自由に讀めるまでに練習を積まなければならない。これは試驗を受ける上から云つても極めて必要な準備である。然るにこれは學習者の最も困難を感じ苦痛を訴える所のものであつて、その方法が宜しきを得ない時は勞した割合に效果を收めることが出來ないのであ

る。幸これに關しては牧野委員が極めて適切なる方法を詳細に說示されてゐるからこゝに掲げて受驗者の參考に供しやうと思ふ。委員曰く『受驗者の最も困難を感ずるのは白文に句讀をきりそれに送り假名返り點をつけるとだらうと思ふ。概して漢文試驗に最も重きを置いて見るのも此の點であつてこの訓點等の間違つたものは必ず解釋の方も間違つてをるのである。これが間違つてをれば物によれば後の解釋の方は見なくてもよい位である。故に此の讀み違ひをしない様に努めねばならぬ。これは中々難しいことでこれが出來れば殆ど試驗を受ける必要はない位である。されば白文を讀み得る様にするのには、どういふ風にしたらよいかといふことを考へねばならぬ。それには第一に文法を知る必要がある。しかし文法といふのはどの國にもある様であるがこれは考へものであると思ふ。漢文法に就て云へば元來文法があつて漢文を書いたのでなく漢文がある所へ文法を作つたものである。卽ち西洋の文法等を參考し支那にも昔からあつた所のものをくみとり今の文法を作つたのであるから文法ばかりに賴ることは出來ない。除外例が多くあるから强ち文法ばかりにはよれないけれども大體でよいから文法を承知して讀むと比較的誤りが少い。それはどうしてやつて行くかと云へば自分が實地について傳習するのである。卽ち自分で少し漢文を書いて見るのである。試驗でも漢文を書かすことがある。卽ち復文をさしたり漢譯文を作らしたり又漢作文として簡單なものではあるが文章を作らすことがある。文章を自分で書いて見るとその文字の位置といふものを自覺して來る様になる。只盲目的に分るのでなく句讀の切り所或は文章の返り所といふものがほゞ此の位の所からであるといふ呼吸が分つて來る。それで自分が何んでもいゝから問題を設けてその力を應用して試驗を受けると思つて句讀なり返り點送り假名なりをつけて行く。その問題はどうするかと云へば人に出して貰つても又自分がこしらへてもよい。試驗に出る書物の中から適當と思ふものを選んで寫し、又無點文があればこれに句讀を切り訓點を施しなどすればよい。然しながら寫した場合に直ぐ句讀訓點をつけると原書そのものが頭に殘つてゐるから辨

がある。日數がたつてからして見原文と照し合せ果して何處が間違つてをるか完全であるかを見るのである。かくの如きことを練習して行けば試驗の際白文に臨んでも比較的樂に讀める樣になると思ふ。そして白文に苦しむ時間を解釋の方にもつて行けば時間に餘裕も出來て來る。又それと同時にこれが漢作文復文漢譯等の準備にもなつて一擧兩得であると思ふ。』と。

二　問題の主要點に全力を用ひよ

何科の答案にせよ問題の主要點に力を注がないのは甚だ損である。然るに受驗者中には往々にして全然不必要な所まで筆を走らす人があるらしい。これ牧野委員の下掲の如き注意を必要とする所以である。曰く『解釋の仕方は一概には云へないが私の見た範圍に就て云へば、骨を折らなくてもよい所へ力を入れこゝといふ所が反つて力が脫けて居る傾がありはしないかと思ふ。それは何かと云ふと問題の中でこゝからこゝまで解釋をせよと示してあとは訓點だけでよいといふ樣な問題である。これは受驗者の都合をはかつてかうしたのである。卽ち時間の都合とか文章の程度等を考へてさうしたのである。全文の解釋を求めると少し時間が足りなかつたりするから緊要と思ふ所を限つて此處を解釋せよと問題に示すのである。それにも拘はらず全文を解釋してゐる者が往々ある。これは受驗者の力を見るには非常に便利であるが一つの弊といふものがある。全文に力を入れて解釋する故に力が分れ、こちらから求めた所の解釋が頗る貧弱になつて居る。それといま一つは委員の方から受驗者の爲めに計つてもこれは得策でないと思ふ。それは若し全文を解釋しなかつたら完全なものでも全文を解釋したために反つて間違つたりすることがあるのである。よく出來る人は益々よく出來ることがあるが不確かなものはボロを現はすことになるのである。故に問題に示してある所に全力を用ゐられんことを希望するのである。さうすれば間違も少くなり注意を一方に注ぐことも出來てよいと思ふ。次に設問などの答案もその最も緊要なる所に力を注いで欲しいのである。餘り短くて少しも分らない樣なのも困るが徒に長いからよいといふことはない。要領を得ること

が肝要である。その問題の要點は何處にあるかといふことを考へそこに力を入れて書かねばならない。とかく長く書くものであるから、さきの一部分の解釋しか求めないのに全部の解釋をして反つて自ら不利益に陷ると同じ樣なことを生ずる場合が往々にしてあるのである。』と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【指定解釋書】

◎興文社　四書講義
◎宇野哲人著　四書講義大學　興文社
◎同　人　四書講義中庸　大同館

◎敎育學術會編纂　文檢受驗用　論語解義　大同館
◎漢文大系　第一卷　四書　富山房

右の順に研究するがよい。漢文の力のある人は第一の四書講義は讀まんでもよいが後の四書は必讀を要する。某委員は竹添進一郎氏の『孟子論文』を讀めとすゝめてをられるが小冊子であるからこれも讀んでおくがよい。尙四書は單に語義を明かにするばかりでなくその思想方面をも研究することが肝要である。それには

◎敎育學術會編　文檢受驗用　四書研究　大同館

が好適である。

◎興文社　十八史略講義
◎國字解本　十八史略國字解　早大出版部
◎漢文大系　十八史略　富山房

第一は省いてもよい。試驗に及第する丈なら第二で研究すれば十分であるが、本統の實力をつけるには第三によらなければならぬ。

◎國字解本　小學示蒙句解　早大出版部
◎漢文大系　小學　富山房

近年餘り問題に出ないが右の書によつて精讀しておくことが必要である。

◎漢文大系　史記列傳　富山房
◎第一高等學校教員編　高等漢文讀本四　共益商社

史記は列傳の部だけでよい。第一によつて十分に研究した後第二によつて練ることである。

◎國字解本　唐宋八大家文國字解　早大出版部
◎漢文大系　唐宋八家文　富山房

第二は註が少くて不便であるから第一と併せて研究するが便利である。

◎漢文大系　古文眞寶　富山房
◎國字解本　古文眞寶諺解大成　早大出版部

第一だけでもよく解るが、それで分らぬ人は後者を參照するがよからう。

◎漢文大系　唐詩選　富山房
◎久保天隨著　唐詩選新釋　博文館

前者で語句を知り、後者で詩想を味ふがよい。」

◎國字解本　韓非子國字解　早大出版部
◎漢文大系　韓非子　富山房

兩書で研究すればよく分る。

◎興文社　春秋左氏傳講義　興文社
◎國字解本　左氏傳國字解　早大出版部
◎漢文大系　春秋左氏會箋　富山房

左傳は漢文大系本だけでは中々困難であるから第一第二を參照して十分に研究するがよい。尙本書は受驗上重要な參考書であるから

◎第一高等學校敎員篇　高等漢文讀本卷七　共益商社

によつて練りに練つておくべきである。

【指定書以外の解釋書】

國語科と同じく餘力があらば指定書以外のものも讀むことが甚だ望ましい。從來の受驗者の最も多く讀んだものを示せば左の通りである。

◎漢文大系本　文章軌範古詩賞析　富山房
◎同　上　詩經書經　同　上
◎同　上　老子、莊子　同　上
◎同　上　列子七書　同　上

以上は『國字解本』『與文社本』中にもあるから便宜何れによるも宜しからう。

又『日本外史』『日本政記』『近古史談』『大日本論纂集』『本朝名家詩文鈔』『近代名家文集』等も一通り見ておく方がよい。これ迄の口頭試驗には此等の本から折々出題されたことがある。

それからこれも指定書以外ではあるが時文は必ず研究しておかなければならぬ。その參考書としては

◎青柳恒篤著　詳釋支那時文軌範　博文館
◎大野德孝著　標註支那時文讀本　大日本圖書會社

などが多く用ゐられてゐる。

【設問に關する參考書】

a　文學史

◎兒島獻吉郎著　支那文學史綱　富山房

本書は支那文學史中の最良書であるから必ず精讀しなければならぬ。これ一冊で十

分であるとは思ふが左記によつて補つておけば尚よからうと思ふ。

◎久保天隨著　支那文學史　人文社

◎鹽谷溫著　支那文學概論講話　雄辯會

本書は内容を音韻、文作、詩賦、塡詞、戲曲、小說等に別ち、支那文學を詳細に叙述論評せるものである。支那文學中の佳作は殆んど漏すことなく網羅されてゐる。文學史と併せて研究すれば大に得る所があるであらう。

b　哲學史

哲學史もまた必ず研究しておかなければならぬ。これには種々の參考書があるが

◎宇野哲人著　支那哲學史講話　大同館

が最好適である。これ一冊をしつかりやれば他を見る必要がない。

c　文典及作文

◎兒島獻吉郎著　漢文典　富山房

◎同　人　續漢文典

文典では本書が最も簡明である。これでしつかりやつて次の二書で應用方面の練習をしておけば十分とまでは行かず共ともかく受驗には間に合ふであらう。

◎廣池千九郎著　增訂支那文典　早大出版部

◎新樂金橋著　文法應用三十三講漢文速成　山海堂

【辭書其他】

◎三省堂　漢和大字典　三省堂

◎　縮刷康熙字典　吉川弘文館

◎簡野道明著　增修故事成語大辭典　明治書院

漢文研究に關する獨學者の手引としては

◎石川誠著　文檢受驗用　漢文科研究者のために　大同館

といふのがある。研究者は最初に之れを讀んでそれから入るがよい。第一篇には主要

參考書の詳細なる解題その他、第二篇は漢文學概論、第三篇は支那文學史綱要、第四篇は支那哲學史綱要といふ内容である。一般受驗者の好指針である。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　**解釋書の研究に就て**　　合格者の經驗を綜合すれば左の通りである。

a　四書が大切――四書に主力を注げ。論孟學庸の順序に讀めば最も都合がよい。

b　十八史略――史實は特に覺えておくことが必要である。例へば王安石の新法などいふ問題に對してはこれよりほかに方法がない。それには東洋歷史と地圖とを對照して研究することを怠つてはならぬ。

c　八大家文――中等漢文教科書に出てゐるのと、文章軌範や古文眞實に重複して出てゐるのとは特に氣をつけて研究するがよい。

d　唐詩選――七言絶句五言絶句といふ樣に本の逆に讀んだ方が捷徑だと思ふ。

e　經學的研究が大切――文檢の漢文は經學的儒教的であつて、純文學的でゝなければ勿論道教的でもない。隨つて年々の問題を見ても必ず儒教的な仁義道德に關係した問題や文章ばかりだ。設問の中などには全く以て修身科の東洋倫理の問題そつくりなのが澤山ある。

f　漢字の研究を怠るな――僕の受驗した際には謹と愼との別はどうかとか、義俠の義の意義は如何とか、隨分細かい專門學者的の追及をせられて困却した例もあるから。

g　一家の見識を立てよ――中等敎員といへばお粗末ながら專門家の卵になるのだから、とにかく幼稚ながらも自己一流の見識を必要とする。例せば朱子にはかう言つてゐる、古學の方ではかうだと、矢鱈に學說ばかり陳列してデパートメントストアの主人公となり濟した所で、然らば自分は論語の此の章に對しては何故に此の說を採るといふ自信がなければ委員は決して首を縱には振られない。口述の時など隨分際どく追

及されるから、その時何の確信もないぐら〳〵してゐては直に悲鳴をあげねばならぬ羽目に落ちるのである。

尙時文の研究法と白文訓點の方法とは受驗者の最も困難とする所であるから次に項を改めて說くことにする。

ㄇ　時文の研究に就て

本項並に次項の白文訓點の方法は某合格者の稿によれるものである。

吾々が支那時文と稱するものは支那に於ける現今使用されつゝある各種通俗文のことである。吾々が普通に漢文と稱してゐるものは之を古文と稱して時文と區別されてゐる。此の時文といふものには古文と異なる字眼熟語も多くあり、又慣用の形式も一定してゐるから多少の研究を要する。近來の試驗問題には之が必ず一題づゝ加はつてゐる。而もそれが最近の時事に關するものが多い。從て文章訓讀の力と時事に關する常識とが必要である。本來時文と云つても古文の力さへあれば左程困難はない樣なものではあるが、併し特有の慣用や形式があるから二三の書に就て研究しておかねばならぬ。予の讀んだのは靑柳篤恒氏の『支那時文軌範』と大野德孝氏の『支那時文讀本』の二種だけであつた。前者を特に精細に讀了して、文章の種類や形式や特殊の文字の用法を心得ておけばほゞ違算はあるまい。大野氏の讀本は材料は豊富であるけれども、其の註解が欄外に少しだけより無いから不十分な點もある。けれどもあらゆる種類のものを網羅してあるから汎く研究するには必要である。

右の二書によつて一通の研究が出來たならば、その上は實際の支那新聞又は雜誌に就いて練習を試みおくべきである。予は其の當時東京の友人に依賴して國事報（新聞）大同報（雜誌）を送つてもらつて讀解を試みた。一葉の新聞紙上には論說もあり記事もあり小說もあり詩歌もあり電文もあり又廣告文等もあるから研究の資料は十分である。博覽と熟讀とに因つて大體を悟了することが出來る。近來滿洲や支那方面へ行く輸出賣藥の効能書や其の他の商品の廣告などにも時文を用ひてあるから之れも資

料の一となるのである。

ハ　白文訓點の方法に就て　漢文の試驗問題には訓點のあるものは決して出ない。必ず句讀點も施してない白文ばかりである。故に平素白文訓點の練習を試みおくことが大に緊要である。自分が一二度讀み覺えのある文章ならば誰でも本當に考へがつくけれども、それでなかつたならば咄嗟の場合には困却するものである。本來白文といふものは專門大家でも一寸困るもので、多年の習熟經驗を積んで居なくては明確なる解答が出來ないものである。況んや試驗場に於て僅少なる時間に多くの問題を解答せねばならないのであるから相當の練習を必要とするとは言ふまでもない。仍つて今玆に訓讀に緊要なる諸要項を列擧して受驗者の參考に供する。幸に此の方法を利用して實地の練習を累ねおかれたならば如何なる難問に出逢つても十中八九までは大概解說が出來ると思ふ。

(1)　大體の內容を考察すること——先づ白文のまゝにて之を一瞥し何を書いたのであるかを考察し大體の觀察を誤らない樣にすべきである。例へば歷史的事實であるならば人名地名時代等を考察し、嘉言善行ならば其主旨のある所を考察して要點を逸せざる樣に分解を試み、論議說明的文章ならば其出發點と歸着點とを考察して論理的の誤謬に陷らざるやうに注意するが肝要である。殊に人名地名年號は平素の記憶が必要である。彼の十八史略にある魏齊、齊知、隨何、道濟等といふ人名や、朝歌、德勝、靈武、興國等の地名の如きは知つてをれば何でもないがウッカリして居ると變な解說をすることがあるのである。其他官職名、年號なども同樣である。

(2)　明瞭なる部分より段落句讀を施すこと——內容を考察して大體の見當がつけばその明瞭となれる部分より鉛筆にて假りに段落句讀を施し、よく判然せざる部分は殘しておいて姑らく熟考するが良い。一氣呵成にやらうとして急げば先入が主となり行き詰つて異つた方面よりの考が出ないものである。

(3)　語句の對照法に注意すること——漢文には巧みに此對照法を用ひて文章を修飾構

成してある或は同一形式を重用し或は長短相錯綜せしめ或は正反類似等の比照を用ひてあるから、それを解剖して訓解を試みたならば勞せずして判明する部分が多いのである。

(4)動詞及び助動詞等の管到に注意すること——例へば動詞の知、見。助動詞の非、不、使、可等の如き文字が下句の如何なる所まで係り居るかを種々に考察して工夫を廻らすことが肝要である。若し此の管到を見誤ればつひにその全體を正確に讀むことが出來ない。故に平素に於て能く注意觀察して等閑に附せないやうにすべきである。尙此管到は前後の關係からと意味の上からと多樣に考察して見るべきものである。時文の訓解には特に愼重を要する。

(5)多種多樣に訓讀する文字に注意すること——漢文には多種多樣に訓讀する文字が多い。例へばの一字はコレ（代名詞）ノ（接續詞）ユク（動詞）として一般に用ひるが如きこれである。故に一字を種々に訓じて其處に適當なる意味に解せねばならぬ。此の如きは平素博覽多識に由つて其使用法を記憶しておかねばならぬ。突嗟に考へ出さうとしても決して思ひ浮ぶものではない。

(6)語の轉用に注意すること——文法語法上より見て品詞の轉用に注意することも大に肝要である。例へば『子曰君子食無求飽。學廣而聞多不求聞於人也。夫被堅執銳我不如公』の如きは動詞又は形容詞より名詞に轉化せられたものである。斯くの如き例は枚擧に遑がない。文典の研究と相待つて平素の心がけが大切である。

(7)平素異樣に訓むと思ふ文字に留目して熟考すること——例へば安、寧、焉、惡、胡、詎、鳥、奚、那、庸はナンゾ又はイヅクンゾと訓み、甚、太、酷、絶、能、已等はハナハダと訓むが如きこれである。漢文にはかくの如きものが甚だ多いから平素文を讀む際にこれはと思ふものは特に注意しておくがよい。

(8)助辭の用法に注意すること——也、矣、耳、爾、焉、哉、乎、歟、夫等の助辭は主として語句の終結に用ひらるゝものであるから、句讀段落を見定むるに必要である。されど

爾、焉、夫の如きは代名詞として用ひられてをる場合も多くあるからその識別を誤つてはならぬ。也、乎、哉など語句の中間に措かるゝこともあるから之も一概に定めることは出來ない。

其他乎、於、于、自、從、由の如き前置詞、以、而、或、寧、蓋、等の轉接詞についてもよく前後を考察してその訓解に注意すべきものである。

要するに白文の訓點法としては平素の學習と經驗とに待たねばならぬが、以上の心得を以てそれに對するの練習をつまば必ず相當に解釋するを得るのである。以上の方法の如きは單に一讀しておいてそれで良いのではない。復讀記憶に止めてその應用習熟を試みおかねば逐鹿場裡に出でゝ良效果を收むることが出來るものではないのである。

ニ　設問に關する參考書の研究に就て

某合格者曰く『支那文學史は漢魏六朝から唐宋元明までは特に注意して研究し淸朝のは東城派あたりだけ氣をつけて調べればよいやうである』と參考までに紹介しておく。

その他如何なる注意を要するかは、國語科の同題目の部及び本節の『解釋書の研究に就て』の節を見よ。

ホ　漢作文の練習に就て

某合格者曰く『作文は文典の知識を基本にし、更に伊藤東涯の用字訣によつて字の置き具合を知り、岡白駒の助辭譯通により助辭の知識を得、然る上で皆川淇園の習文錄でしつかり練習しました。又時々自分で文章を作つて獨りでうれしがつてゐました。』と。

更に一合格者は曰く『漢作文は是非實際に作つて見なければならぬ。試驗場で始めてやるやうでは出來ないと思ふ。自作は誰かに批評添削を乞ふ必要がある。巧拙はとにかく文法上の誤謬があるやうでは駄目だと思ふ。復文の方は四書と日本外史とについて和譯を見ながら漢文に復しその上比較對照して見ると實力がつく。作詩上の心得も一通りはあつてほしいものだ。暇があつたら森槐南のでも土居香園のでもよいから。

作詩法を讀んでおくことである』と。

又或る合格者は日記を漢文で書くことを實行して知らず識らず漢文に習熟したと云つてゐる。

以上三合格者の談話を一讀すれば如何なる方法をとるがよいかゞ明かにわかると思ふ。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を參照せよ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節、第二章第二節の四及び前章第二節の四を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節。第二章第二節の五を參照せよ。

第十一章　數學科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　規則改正の趣意とその結果　受驗者の知れるが如く去る大正十年に本科に關する規則の一部分が改正された。その改正の趣意如何、改正後の受驗者の成績如何は受驗者の等しく知りたいと思ふ所であらうから、第一にこのことを明かにせる、、委員の說明を掲げようと思ふ。

委員は先づ規則改正の趣意を述べて曰く『大正九年度までは數學科受驗者は(一)算術代數幾何(二)三角法(三)解析幾何(四)微積分とに分科し逐次受驗を許し、その都度及第者には及第科目だけの免狀を與へて來た。然るに大正十年度からは規則が改正されて算術から高等數學初步卽ち「解析幾何及微積分の初步」まで凡て數學全科を一度に受けなければならなくなつた。この改正に對しては私共も以前から主張し來つたものであつて文檢數學科の一進步として喜ぶべきであると考へる。元來數學科といふ學科はそれ丈で一つの學科なのであつて、算術代數幾何とか三解法とか或は解析幾何及微積分とか云ふのはその學問の小分けに過ぎないものであつて、決して此等は獨立の一學問と見做すべきものでない。然るに今迄これを四段に分けて居たといふのは、原則としてゞなくて學問の進步せざる時代に於て教員の不足を補ふ爲めに數學科の教員を速成的に得んが爲めに便宜あの樣な試驗を施して居たものと思はれる。然るに少く共微分積分位まで學ばなくては數學の本質に觸れるとは難いと云つていゝ。數學は最も究理的の學問である限り全く形式的暗記的では何の意味をもなさぬ。第一要點をつかむことは出來ない。それ故初等數學と雖もそれに數學らしい豐かな內容を色どる

爲めには勢ひ高等數學の背景が必要條件となつて來る。從て中等教員には高等數學初歩位は解つてゐなければならぬ結論が生れる。事實初等數學に於ても例へば無理數又は圓周や圓の面積の意義等の根本原理を理解してゐなくては、本當の意味に於て此等の事柄が解つてゐるといへない。かくの如き不安定な力を以て教壇に立つたとて被教育者に徹底しやう筈がない。かくては一面教育本來の精神に悖るとゝもなる。現に英佛等の諸國にては大學卒業生でなければ中等教員の資格を得ることは出來ない。獨逸では大學卒業後更に教員檢定に合格しなければならぬ程嚴格なものである。故に我國に於ても近時尚中等教員不足の聲ありと云ふものの、時代は已に文檢試驗にて高等數學初歩位なくては中等教員の資格はないものと決定するは當然の歸結である。』と。

次に改正後の試驗成績に關しては下の如く述べられて居る。曰く『規則改正の成績に就てはまた一回しかやらぬのであるから十分なことは云へぬが、しかし成績は當然よくならねばならぬ道理であつて昨年の結果から云へばよくなつてゐるのが事實である。何故成績がよくならねばならぬかと云ふと、今迄の様に算術代數幾何のみに就て出願することが出來るとすると、その受驗者は大抵まづ算術代數幾何に就てのみの研究しかして來ない。そこで數學科全體としての力がなく單に算術代數幾何のみの知識を以てそれを研究する結果は、頭が妙に奇形的に發達しひねくれた難問題集といふ様なものをのみひねくり廻してひねくれた知識が生ずる。ところが高等數學の初歩までの研究をするとなると考がいくらか奥行きが出來て多少伸々とした頭を以て凡てを見るから、一局部に偏した特殊の問題に拘泥して難儀をするといふ様なことがなくなる譯である。又試驗官の方から云ふても以前の様に算術代數幾何のみしか調べて來ねとなれば果してその人の實力がどれ位あるかを見極める爲めに、時としてはいろんなひねくれた問題を出して見ねばならぬといふことになつて來るが、高等數學の初歩までを調べたとなればそれ程の必要もないから自然問題も素直なものになつて來る。かういふ關係からして規則改正後に受驗する人々云ひ換へると數學に就て一通りの調べをし

た人々には合格し易くならねばならぬ理屈になつて居る。實際昨年の結果はそれを事實に於て示してをる。卽ち今迄は出願者總數五六百人に對して合格者の數は十五名乃至三十名内外といふのであつたが、昨年は（規則が改正になつたゝめに受驗者の數はずつと減つたが）二百名内外の受驗者に對してたしか三十餘名の合格者があつたと記憶する。卽ち今迄よりも餘程よい成績を擧げて居るのである。其處で今度の規則改正は學問上から云つても正當であるは勿論隨て又受驗者にとつても損なものではないと思ふ。受驗者が不平を云ふのは早く受驗が出來ぬといふ處からだらうが、功を急がずに二三年おくれて受驗する積りで準備するならば、今云つた通り試驗は大そう受け易くなつたのであるから不平も何も出やう筈が無いと思ふ』と。

ロ　徹底してゐない　本科の受驗者もまた一般にその研究が徹底してゐないことは年々の合格率が雄辯に證明してゐる所である。然らば如何なる點が如何に不徹底であるか。これに關しては、國枝委員が詳細に評してをられる。委員曰く『代數學に於ても幾何學に於ても屢々見受けるとであるが、或る問題を解いたり或る問題の吟味をしたりする時、形式と云ふとを徒に覺えてをり何故にかくの如き形式を用ゐるかといふことを十分講究してゐないとが度々ある。例へば代數學で色々な場合が出て來る時之を種々な場合に分つて吟味するが、何故にかくの如き場合に分つてするか何故にかういふ樣にするのが適切であるかといふことの講究がまだ〳〵足らぬものがある。又幾何學の軌跡の問題の證明をする時に、順逆の兩方の證明をする理由或は作圖問題の解析と作圖と證明との間の關係はどうなつて居るものであるかといふ如きことに就て十分解つてゐないものが中々多數ある樣に見える。此等のことは本當に代數なり幾何なりを了解した者には何んでもないことで、平常の勉强がその當を得て居れば少しも問題にならないことゝ思ふ。要するにかくの如き缺點の認められるのは本當にそれ等の學問が分つてゐないといふ證據になるから、よくさういふ所に目をつけて徹底的に勉强することが極めて大切である。又三角法などの方に於ても從來しば〳〵見受けた

間違であるが、對數計算をする時に對數表の使ひ方を十分心得て居ない者がある。即ち五桁の對數表を用ゐて六桁も七桁も勘定して見たり、或は驗算する仕方にとんでもない誤があつたりすることは餘程近頃は減つた樣であるがまだ〳〵少しはある樣である。』と。掛谷委員もまた『私が見た代數の問題で私が驚いたことは、凡ての人が虛數に對する知識が非常に乏しいことを發見したことである。なるほど虛數は中學の數學では僅に二次方程式の所で一寸顏を出す許りであるが、廣い數學の上では根底をなすものである。之れに對する知識がなくては數に對する正しい觀念を得ることが出來ない。故に數學者として面白からぬことであるばかりでなく、教師となるにしても丁度教へる丈の知識しか有つてゐない樣では困る。實際受驗者は皆中學校の教科書ばかりを讀んで來たのではないかと思はれる位であつた。例へば虛數の絶對値といふことを知つてゐる人が極めて少かつた。絶對値に對する不等式の運算などは殆んど出來てゐなかつた。』と受驗者の研究の不徹底なることを指摘されてゐる。

ハ　論理が不正確

前項と關連してゐることであるが本科受驗者の根本缺點は論理の不正確なことである。折角筆記試驗に通過しながら最後の口頭試驗で落第するのは大抵此の論理の不正確なるが爲めであると云つて差支ない。これ口頭試驗に於ては殊に此の缺陷が明瞭に暴露されるからなのである。吉江委員曰く『總じて主なる缺點は論理が不正確なことであると思ふのであります。筆答に於ては受驗者の眞の力が判らぬのでありまして口頭になつて始めて其の人々の弱點が現はれるのです。筆答試驗で見ますると答が頗る曖昧のがある。尤も論法の正確を期するには時間がかゝるから無理も無いと云へやうが、すべて運算などになりましてもさういふ氣味はありますまいかと思はれるのです。私共が只々一枚か二枚の答案に依て受驗者の力を判斷するのは甚だ困難なことでありますが、曖昧な答案に接しますと殊に困るのであります。此の點から考へると如何にも本の讀み方が上滑りで少し不明のことを問ふとマゴツク傾が見えます。口頭試驗では教授法のことを問ひますが殊に此の際好く判然するのは

筆答試驗で書いたことが暗記であるか正確な知識であるか卽ち受驗者の論理の如何が頗る明瞭に分るのであります。例へば筆答では中々旨く出來たものも此の口答に於て案外にもその人の考が間違つて居つたといふことが發見されることは少くない。でさういふ人の中には只々書物を讀んで暗記して居るので其の書いてある事柄の必要が分らない。何故と問はれると唯本にかう書いてあるからとのみ答へる人もあります。又答案は立派に書けた人に答案の中の事をきいても、やはり自分で明瞭しないが本にありましたからなどいふのがあります。』と。

寺尾委員もまた論理の極めて必要なることを巧妙に說かれてゐる。曰く『口答試驗に於ては毎度受驗者の眞に論理的な頭が出來てゐるかといふことを見るのであるが、此の論理的な頭が常に缺乏して居る樣である。それはしつかり或る所までやるとその後は甚だ易いのである。手に入れば忘れやうとしても忘れられない。これがどうも徹底して居らぬ。その爲めに口頭試驗まで來てもどうかすると落第する人のあるのは甚だ遺憾である。幾何學はもとより算術代數でも學力を養成する側に論理と技巧とがある。技巧は限りがない。物事に當り工夫のつくことをつかぬこととがある。卽ち技巧は何時までやつてもその問題を解く手段を發見することもあるが發見し得ないこともある。然し論理はある所までやれば限りがある。黑川眞依が言葉の栞の序に日本の文法をすることゝ歌を巧に詠むことと兩方しなければならぬ。巧に詠む方は何處まで行つても限りがない。文法は一寸面倒だが限りがあり或る所までやれば卒業してしまふと言つた。論理は丁度文法の樣なものである。これをやつて置かぬと損である。又是非やつておかぬと教員になる資格はない。』と。

二　計算に不熟練　次に受驗者はまた一般に計算が拙い。しかし數學に於て計算練習の忽にすべからざることは下揭國枝委員の談話に徹しても極めて明かであらうと思ふ。委員曰く『算術に於てはまだ〳〵受驗者は一般に計算に熟達して居ない。折角問題を解く筋道等はよく分つてゐても肝腎の計算に誤をしてをるとか、或は計算に

時間がかゝつた爲めに他に出來る問題もする時間がなかつたといふ場合を度々見受けるのである。計算といふことは實際極めて大切なことであるに拘はらず平素練習を怠り勝ちのものである。しかし中等學校の教員としては計算が下手では全く仕方がないので數學の教師たる一つの資格を缺いて居るものともいふべきである。故に受驗者は平素から機會のある毎に計算の練習をやつて置く必要がある。』と。

森委員もた『私がいつも云ふのは計算がうまく行かぬといふことである。例へばある位まで求める様な計算に於て非常に無駄な手數を澤山する。途中の運算を何處までやつてよいかといふことを考へずにやつて居る。必要な程度までやれはよいのでそれ以上は無駄である。それには見込をつけねばならぬ。計算の結果どれ丈の誤差があるかを見ねばならぬ。これが十分でない。近頃は減つたが對數の計算などに五桁の對數表を使つてやるのに六桁七桁まで使つてやる人がある。これはいらない手數である。總じて計算がまづい。精密にやつてゐる人もあるが多くはさういふことを考へずにやつてゐる。私は會ふ人毎に計算のことを云ふので大分注意する人があるが實際問題に當るとまだ十分でない。』と同樣の批評を下され、更に計算と運算との區別を說いて受驗者の注意を促されてゐる。曰く『計算といふことは數學研究の範圍外に置かれてゐるといふ樣な觀がある、これは計算と運算とを混同した結果に外ならない。成程數の運算は一種の技術であるから練習の効を積んでその目的を達することが出來るものであるけれども、その運算に先ちてその便法を案出したり又複雜な算法を簡單なものにしたり、運算に用ゐる數を適當に處分して徒に勞力を費さぬ樣にしたり、又算出した結果が正しいものであるかといふことを吟味したり、又一種の方法で得た結果を他の方法で試驗したりする手續は研究せねばならぬことで、之れが卽ち計算の本領とも云ふべきものである。』と。受驗者にとつて極めて有益な言葉であると思ふ。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　學習の方法に注意せよ

ことは何人もよく知る所であつて今更改まつて說明する必要がない。しかし本科の學習法に關して國枝掛谷兩委員の說かれてゐる所は受驗者の見のがすべからざる有益な文字であると思ふ。

先づ國枝委員曰く『受驗者の要諦は誰もいふが如く第一が根氣である。目的に對する强烈なる執着力である。人の眞似ではなく自己の本質的要求に出發しなければならぬ。而して徐々着々と歩を進めて行く態度を採らねばならぬ。しかし如何に努力してもその方法宜しきを得ない時は徒に勞多くして効の少いものである。それ故學習經濟及び目的捷路といふことも多少考慮して、先輩の意見などを傾聽して參考書の選擇を誤らない様にし、而して形式的鵜呑や機械的暗記法から解脫して專ら理解主義を徹底せしめなければならぬ。試驗委員は常に問題それ自體の背景をなす根本原理の理解の有無を受驗者の解答の上に判斷することに努める。受驗者はその意を體して平素常に問題の理解と要點把握とに着眼すべきである。されば先づ算術より微分積分まで一と通り調べる。かくて數學の大要を知り、然る後始めに返りて精細に研究して行くがいゝと信ずる。徒に澤山の問題を解くことにのみつとめてゐては本當の學力はつかぬと思ふ。』と。

掛谷委員も亦同樣の見地より系統的研究の必要なることと新傾向に注意を拂ふの必要なることを次の如くに說いてゐる、曰く『研究方法に關しては要するに努力であるが、單に努力主義ばかりでなく系統的研究ということをも考へて、獨學者はその一般通弊たる知識の片寄りに陷らない樣に心がけねばならない。先輩や良師に道を尋ぬることも忘れてはならない。數學界の新しい傾向などにも注意を十分拂はなければならない。現に大正十一年の豫備にグラフが出た。これは高等數學初步が始めから課せられることになつたゝめでなく、最近初等數學にグラフが應用される樣になつたゝめか第七問の

$y=\frac{x^2-4x}{x^2-1}$ のぐらふを畫くことより方程式

$x^3-4x-m(x^2-1)=0$

ノMガ如何ナル實數ナルモ恒ニ三ッノ實根ヲ有スルコトヲ說明セヨ

は殆ど出來たものは無かつた。勿論これはグラフを用ゐないでも解ける。然しながらグラフを畫くことによりと斷つてある以上はこれを應用しなくてはいけない。第一グラフの性質さへよく知つてゐる者は無かつた樣である。解式の變化を視覺に訴へて一目瞭然ならしめるこの便利な面白い應用を高等數學から初等數學へ引き下げて來た傾向を知らなかつたことは兎に角受驗者の落度である。一體原理は變るものでは無いが應用の方面になると時々刻々に變化があるのは科學の性質であるから、此の方面にも多少の注意を拂ふべきである。』と。

ロ　徹底的に理解せよ　數學に於ては上滑りの知識は特に禿げ易いことは既に述べた通りである。これ編者が試驗委員と共に特に本科の受驗者に對して徹底的の理解を期すべきことを勸告せざるを得ざる理由なのである。阿部委員は『數學を勉強するには書物にある一通りの方法が分つたからそれでよいと云つた樣な正面的な取扱のみをしないで十分深く考へることが必要である。餘程の經驗家が一寸した問題を取扱ふ時に、これは中學生にでも出來そうな易いことだとか或は普通の教科書にある樣な極めて卑近なことであるといふ樣に呑み込んでかゝつても、その內容をよく見ると案外に難かしく多方面に涉つて色々な難關が橫はつて居ることがある。かういふ種類のことは數學の問題にはあり勝ちのことで數學を學習しようとする人は豫めその注意を以て用心深く研究せねばならない。名前をきいた書物は何でもかでも讀んで見ようといふ樣な方法は數學に於ては特に避けねばならぬ。誰々の書物にかういふ風にあつた樣に思ふとか多分かうだつたらうとかいふ具合に淺く讀んで行つて數學をやらうといふのは甚だ困難である。重要な基礎の事柄はどこ迄も明かにして、それに關する應用の問題等も模範的のものはどこ迄も精確にせねばならない。易いと見て輕蔑したり

斯うやれば出來ようと云つて放棄して置くことは禁物である。よくある解式書などは一つの問題に就て漸く解法の端緒を與へたのみで多くの研究すべきことを殘してをることが多い。然もその解法の端緒とも云ふべき部分は一寸だけその問題に觸れるには中々うまい方法の様であるが、それを徹底的に取扱ふには宜しくない方法であることも往々ある。だから若し解式書を參考する場合には一層よく注意してかゝらねばならぬ。』と懇切に說示し、また國枝委員は『受驗者は先づ以て問題を解くことのみに苦心してゐないで、よくその學問の眞髓を味ひ之を十分に了解することにつとめなければならぬ。さうでなければたとへ筆答試驗に僥倖に及第しても口答試驗に於て本當に分つてゐるかどうかといふ實力があらはされて及第し難い場合が隨分出て來るのである。隨つて平素よい參考書を精讀することが極めて必要なことである。殊に數學は他人の學說などにかれこれ支配されるものでなく、理論の正しいか正しくないかといふことに支配されるものであるから、よく平素からその眞髓を極めることに骨折ること

が肝要である。徒に澤山の問題を解くことにのみつとめてゐては本當の學力はつかぬと思ふ。』と敎へられてゐる。

ハ　全然獨學はむづかしい　本科は他科に比し受驗者數が非常に多いがその七八分までは獨學者である。全然獨學してやり通す人も年々幾らかづゝはあるが、概して本科は獨學でやることは極めて困難である。これは毎年の合格者數を見ても知り得ることであると思ふ。掛谷委員は『總じて獨學の人は何處かに欠けた所があり知識が片輪になつて居る。筆記試驗でもとんでもない所に誤をする。いろ〳〵詳しいことを知つて居るに拘はらず何處かに抜けた所がある。大體に亘り一通りは課程をふんで講義をきくとか根底のある勉强をする必要がある。』と獨學者の欠陷を擧げられ、中川委員はまた『一寸考へると數學は獨學でも容易に出來る樣であるけれども實は或る程度まで習つてから後でないと非常に難しい。中學位で習つただけで後は本ばかり讀んで居つたのでは理解し得られない所があると思ふ。丁度自分の力に合つ

た書物がいつもあるものでないから、適當な學校で習つたとか適當な人に就て習つたとかいふ人の方が獨學の人よりも出來がよい樣である。適當な所まで手ほどきして貰ふのが一番近道と思ふ。然る後色々な書物を參考して研究するがよい』とすゝめてゐる。しかし此の如き便宜の無い人と雖も決して絶望するに及ばない。此の心得をもつて根氣强く勉强する時は何日かは必らず合格することが出來るのである。

ニ　外國語を讀めることが望ましい

本科の受驗者もまた或る一外國語の素養あることが甚だ望ましい。國枝委員曰く『これは檢定試驗を受けるだけには直接大して必要は無いことだが、中等學校の教員になるに必要だから希望を述べたいが、それは外國語をやると云ふことである。今日では英語をやるのがやり易いだらうが樂に參考書が讀めるだけに學んで居つて貰ひたい。さうでなければ教員として日進月歩の世の中に於て十分の職責を盡すことは困難と思ふ。まだ我が國には邦文で書いた參考書雜誌等は少いからそれだけに賴つて勉强するは不便である。世間の進歩に遲れない樣にするのには外國文の參考書雜誌等を讀まねばならぬ。又たとへ邦文で書いた參考書が十分あるにしても教育者としては外國に於ける狀態も知らねばならぬ。或は外國に於ける研究も調べて置かねばならぬ。それには少く共一箇國の外國語だけにも相當に通じて居らねばならぬ。故に受驗者は平素からよくこの點に注意して居られんことを希望するのである。』と。本科に要する外國語は他科に比して割合に易い樣であるから平常多少の心掛けさへあれば特に多大の時間を費さずとも相當讀める樣になるだらうと思ふ。受驗者の奮發を望む。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何る參考書を讀むべきか

【算　術】

◎宗末作著　分類的算術解法研究　大同館

中等教科書を全然見ない合格者もあるが、大體の基礎を作る爲め、又中等程度の數學に對して一通りの見解を得る爲めに、何か一種は必ず見ておいた方がよいと思ふ。本書はその爲めによい本で、殊に附錄の雜題中には文檢程度のものもある學習者は文檢受驗者の爲めに出來たものであるから是非練習すべきものとしてすゝめる。

◎林鶴一著　算術四則問題　第一　大倉書店

◎同　人　同　第二　同　上

第一は整數及び小數に關する四則問題、第二は分數に關する四則問題を收めてある。問題の練習をなしつゝ解答の體裁と解法の原理とを習得することが出來る。合格者の過半數は本書を用ひてゐる。

◎金澤卯一著　近似數之計算及省略計算　文魁堂

省略計算は中等教科書にもあるが、更に本書によつて深く研究しておくことが必要である。從來の合格者では本書をやらぬものは一人もなからうと思ふ。

これ位やれば算術は十分であると云つてよい。しかし文檢に應ずるには單に問題を解き得るだけでは不十分でこれと共に理論もしつかり研究しておかなければならぬ。理論を說くとに於て最もすぐれてゐるのは寺尾博士の『算術教科書』である。本書は一時絕版となつたが先年復活した。次に

◎長澤龜之助著　算術辭典　寶文館

は所謂辭典として一本を求むるだけの價値が十分にある。算術上の疑問を解決するに便であるばかりでなく、他書では見られぬ種々の材料も網羅してある。

【代　數】

◎藤澤利喜太郎著　續初等代數學教科書　大日本圖書會社

中等教科書を修めたものの補習用であつて各種の問題を悉く解くならば大に實力が增進するであらう。

◎千本櫻井共譯　中等教育代數學

現在はどうか數年前迄は東京物理學校で用ゐた本で、前書の次に入るに好適である。上下二卷より成り、上卷は一次方程式まで、下卷は二次方程式及び級數對數を收めてある。精細に研究すべき良書である。

◎林國枝共著　方程式第一

◎同　人　同　第二

丸善書店

大倉書店

同　上

第一は一元一次方程式及一元二次方程式、第二は一元聯立方程式及二元聯立方程式の解法とその吟味問題を詳說してある。受驗上最も必要なる良書である。

◎林刈屋共著　不等式

大倉書店

不等式は是非本書によつてしつかりやつておかなければならぬ。先掲『方程式』と共にいまゝでの合格者の多くが必讀書として推薦する良書である。

以上をしつかりやれば代數の準備は十分に出來上るのであるが、更に餘方を以て他書の問題をも出來るだけ澤山解けばそれだけ實力が增すといふものである。問題の多い點では次の二書がよからう。

◎上野清譯　スミス大代數學

積善館

◎長澤龜之助著　代數學辭典

實文館

スミスの代數は原書によるもよい。中學三四年程度の英語力さへあれば樂によめる。

【幾　何】

◎菊池大麓著　初等幾何學教科書

大日本圖書會社

幾何學に於ては中等教科書を精細に研究し、その定理定義を暗記するは勿論所揭の問題を悉く練習して後その上の本に入ることが殊に肝要である。菊池氏のと限らない。廣く行はれてゐるものなら誰のでもよいのである。

◎三守守譯　ペテルセン作圖問題解法

丸善書店

作圖問題の解法書としてはこれに優るものが無い。精細に研究して作圖の知識を養ふべきである。

◎林鶴一著　初等幾何學軌跡問題　大倉書店

軌跡問題研究上の最良書である。本書をしつかりやつておけば軌跡問題は恐るゝに及ばない。但し吟味が不十分であるからその點は努力によつて補つておかなければならぬ。

◎佐之井愿甫著　幾何學問題正解　山海堂

全五冊より成り幾何學全般に關する問題を非常に多く載せてある。必讀を要する。

◎小倉金之助（ルーシエ　コンブルース）　初等幾何學　山海堂

本書は幾何學の最高權威である。受驗者は本書によつて中等程度以上の幾何の知識を養はなければならぬ。從來の合格者は皆讀んでゐる。但し上下兩卷の中上卷だけやつておけばよからう。

尙餘力あらば

◎長澤龜之助著　幾何學辭典　寶文館

◎同　人　續幾何學辭典　同　上

及びその他の參考書の問題を出來るだけ多く解くことを忘るべきでない。

【三　角　法】

◎遠藤又藏著　三角法講義　光風館

本書は中等教科書をしつかりやつた後直ぐ入るに丁度よい程度のものである。教科書と本書の問題が全部樂に解ければ三角法の基礎は出來上つたと云つてよい。

◎保田棟太譯　三角法教科書　丸善書店

◎トドハンター　平面三角法

前者は物理學校の教科書。佛人ルピエール氏の著。後者には譯書がある。共に受驗者必讀の良書である。但球面三角法は受驗には不要である。次に

◎長澤龜之助著　三角法精義

も必讀を要する。解法の形式のすぐれてゐることは恐らく本書の右に出づるものは無いであらう。

上揭の數書の中、ルビエール、トーハンター、長澤三氏のは從來の合格者によつて最も多く讀まれてゐるやうである。尙『對數表』を十分に練習しておかなければならぬことはいふまでもない。

【解析幾何學】

◎菊地大麓著　平面解析幾何學　大日本圖書會社

◎長澤龜之助譯　アルジス解析平面幾何學　武藏屋

此の二冊を十分にやつておけば他はあまり見る必要はない。但し中學三年程度以上の英語の學力ある人は、最初に菊地大麓氏の『英文解析幾何學』をやつた方が都合よい。平面立體共簡單に要領よく說かれてある。本書によつて基本概念を作つておけば

前揭の二書をやるに左まで困難を感じないであらう。

【微分積分學】

◎河合弟二著　微分積分學　大倉書店

◎吉田好九郎譯　キーパート微分學　富山房

◎同　人　同　積分學　同　上

河合氏著によつて概念を作り次にキーパートを研究すれば大體受驗には差支ないと思ふ。この上

◎坂井英太郎著　高等教育微分積分學　開成館

をやつておけば大に心强くなる。規則改正後は解析幾何と微分積分はさう難問題が出されない樣であるから、彼これとむづかしい本を涉るより初步のものをしつかりやつておくがよいと思ふ。

【其　他】

◎東京物理學校篇　中等教員檢定試驗　數學科問題解義　東京物理學校

第一回以來の算術代數幾何の問題を模範的に解答したもので獨學者の好侶伴である。

◎物理學校雜誌

數學研究者の必ず購讀しなければならぬ雜誌なることは受驗者の熟知する所であらう。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　獨力にて問題を解く習慣を養へ

其合格者曰く『世の受驗者諸君を見るにあまりに多讀に過ぎざるか。多數の書物を讀みて自己の知識を豐富ならしむることは肝要なれども徒に多讀に流れ精讀を怠るは此の科に及第する所以に非ずと信ず。由來數學は思考推理の學なり。如何に多く書を讀み多くの難問を了解したりとて獨創の力を養はざれば結局得る所なからん。殊に文檢の問題そのものは難題に非ず只一寸手答のあるものなり。故に平生自己の力を以て問題を解するといふ習慣を養ひおかざるもののにとりては困難なり。それが爲めには雜誌などに問題の解義を投書するも可なるべし。例へば東京物理學校雜誌、數學雜誌などの如し。かくすれば答案の書き方をも練習し得べし。(後者は點取り問題と稱する面白き課題あり。それらの中には文檢程度の問題を含むことあり)要するに予は受驗者諸君にむかつて平生自己の力にて問題を解く習慣を養はれんことを希望す。如何なる問題をも自ら解くといふことは數學研究には大に必要なり』と。

一合格者もまた『予は特に骨子として研究せる書なし。幾何算術殊に幾何は問題を多く且獨力にて解くことに努めたり。しかし勿論問題を解くことにのみ時間を費さず參考書中の定理の解が如何に巧妙に解されあるかを味ふことにも十分の精力を費せり。代數は問題を解すよりもむしろ參考者につき徹底的に研究せり。しかし練習を必

要とする方面は又問題を多く解したり。例へば消去法聯立方程式等の如し。一般に參考書中の問題は一問も殘さず解く決心を以て努めたり。故に一問にして數日の日子を費せしもの亦珍しからず。これは時間に於て非常に不經濟なる如きも如何なる問題も自己の力によりて解し得るといふ自信を得る上に甚だ緊要なることなりと信ず。出來ざる問題は印を附して進み最後に至りて再び初めにかへりて前の不能の問題を試む。かくしていろ〳〵出來ざる問題は友に問ひ雜誌に質問する等してともかく一問殘らず解し了る。かくして各參考書毎に一册のノートを作れり。』と先の合格者とほゞ同一のことを云つてゐる。以上二合格者の言によつて、數學の實力をつけるには如何なる研究法をとらなければならぬか〻明に分ると思ふ。

ロ　友人と解し合ふことも亦一法　某合格者曰く『自己の不能の問題を同好の友と解し合ふことは亦非常に有益なことである。葉書に友人の提出せる問題を解し、終りに一問を提出する。友人はその解と別に一問題とを返信する。自分の不能の問題が友人に出來、友人の不能として提出したものが自分に解し得る事は、あり得べきことであるといふよりも、むしろ毎回さうであつたことは實際經驗せる所である。』と。これはお互にはげみにもなつて有益な方法であると思ふ。何學科に限らず友人と研究し合ふことは好ましいことである。

ハ　三角法の研究法について　一合格者は三角法の研究法について『三角法の理論は公式の活用であるから、公式を十分自分のものにすれば困難はない。公式の記憶法は種々考へられるであらうが、予は問題を一つも殘さず解いて進んだ間に略確實に把持することが出來た。勿論獨學であるから解けない問題もある。解けなければ暫く保留しておいて先へ進んだ。方程式不等式の練習問題は單に解き得たるを以て滿足せずに大に吟味を練習しおくの必要があらう。吟味は代數の吟味に三角法公式の條件を加へたゞけだからむづかしいとはない。此の吟味に力を注いだならば、程度は中等教科書位で澤山であると思ふ。合格後考へて見れば中等教科書にない公式を使用する

問題は出ないのである。』と述べてゐる。受驗者の見のがすべからざる有益なる注意であると思ふ。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を參照せよ。」

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。尙某合格者は受驗注意として『第一試驗場に臨みては決して必勝を期すべからず。然らざれば困難なる問題にあひてあせる爲め出來得るものも遂に不能に終ることとあればなり。第二必ず易き問題よりなすべし。失敗の多くの原因は最初に困難なる問題に當りし爲め一問に多くの時間を費すによると思はる』と述べてゐる。先に述べた所と重複の嫌があるけれども記して以て受驗者の注意を大ならしめようと欲する次第である。

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。」

第十二章　物理科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　實驗が伴つてゐない　本科は化學博物などゝ共に參考書を讀むと同時にその讀んだ所を實驗によつてたしかめなければ到底確實にして完全なる智識を得ることが出來ない。然るに本科の實驗には高價なる設備と器械とを要する所から一般にあまりよく行はれてゐない。隨つてその學力は淺薄不確實であつて年々百人中僅に五六名の合格者を出すに過ぎない。されば今後の本科の受驗者は實驗の伴はぬ勉强では成功の覺束ないことを牢記して夫々適當の方法を講ずることが第一に必要である。中村委

員は受驗者の淺學を指摘せる後『教師につかないで全然獨學でやる人は勞して効がないと思はぬばならね。卽ち物理學は實驗を基礎にしてやる學問であるから實驗をやらないではとても駄目である。動植物は同じ實驗でも設備や機械を餘り要しないが物理は中々金がかゝるから一寸は出來惜いのである。この點は推察されない譯でもないが然し學術試驗に於てさうした情實を汲み得るものでもないから、氣の毒と思ひながらも嚴正な態度を取ることになるのである。故に受驗者は此の實驗に十分力を注ぐべきである。しかし受驗者が中學校の教室に出入して其處にある器械だけでも本當にやつて、一々理解した上これはどういふ器械でどうするものであるかを確實に究めたならば大手を振つて檢定を受けられると思ふ。只及第をしたさに一時の調子で本當に研究しないなら到底及第する望みがない。助手でもやるか少く共それ位の心掛で着實に熱心に勉强することが必要である。』と實驗の必要なることを熱心に說かれてゐる。

田丸委員もまた下の如く述べて受驗者の注意を促してゐる。曰く『本科は實驗を手

に掛けた人でないとその學問はなつてしまふ。實驗も出來ないと試驗を通過することも出來ない。徒に本のみを讀んでゐては徹底しない。事柄をよく調べて十分に覺えて置くことが肝要である。根本の所に立入るといふことは事柄を十分了解して置くといふことである。只本だけを讀んで置くのでは口頭試驗の際に徹底しない結果が直ぐ現はれる。受驗者は物理の問題になる樣な至難な方面と中學校で數へる樣な簡單なものゝ二方面に立入つて研究して置かねばならぬ。前者は餘り深きを要求しないが後者は細大漏さず實驗上のことまでも立入つて研究して置かねばならぬ。そしてせめては高等學校か物理學校で教へる位のことはよく知らねばならぬ。答案を見ると問題外のことを長々と書いてゐる人がある。始めは明瞭に書いてゐるが途中から曖昧にしてゐる人がある。大切な所で間違を書いてゐる人がある。此等は皆十分の了解がないからである。』と。

ㄇ　數學の力が不十分

物理學をやるには數學の力が相當に必要なことは云ふまでもないことゝ思ふが、實際に於ては受驗者は此の方面の修養を一般に怠つてゐる樣である。中村委員曰く『數學の力の不足なことは毎度感ずることである。物理學は數學と密接な關係のあることは云ふ迄もないことであるが受驗者中には簡單な計算問題さへ解き得ないものがある。數學はどうしても微分積分の大意位を理解してゐないと不十分である』と。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　教授法に熟達するには

教授法に熟達するにはどうすればよいか。これに就ては中村田丸兩委員が簡明に說いてをられる。中村委員曰く『教授法に關することも侮り難いものである。教授法は單なる技術では決してない。智識の深淺が教授法に甚大な關係があるとに注目すべきである。單に知つてゐるだけでは教授は覺束ない。十分に理解してゐないと被教授者を理解せしめ得られるものでない。檢定試驗には

かうした點をむしろ重要視するのである。」と。田丸委員も亦曰く『教授と云ふことに就ては單なる知識では教へられないことを了解せなければならぬ。教へるといふことは教授法も必要であるが要する所教科書以外の方面から十分の知識を頭に入れて置くことは極めて肝要である。十分餘裕あつて教へて始めて習ふ人もよく了解するのであるから、何れの方面からきかれてもよく知つてゐることが必要である』と。これはひとり本科ばかりでなくあらゆる學科に通ずる眞理であると思ふ。

ロ　新事實新現象にも注意せよ　　受驗者は平素『東洋學藝雜誌』『現代之科學』『東京物理學校雜誌』『理學界』『科學智識』等の雜誌に親しんで物理界の新事實新現象を見のがさぬ樣にすることが必要である。田丸委員曰く『新しい事柄や現象にも絶えず注意して置く必要がある。高等學校や物理學校の課程には新しい事柄や現象は無いと云ふて打棄て置くことは出來ぬ。餘り新しい事柄や現象のみに乘り氣になつて上調子に走り過ぎても惡るいが之に注意するだけの用意と熱心がなければならぬ』と。

ハ　外國語を讀めるが得策　　下に掲げる氏家委員の談話を一讀する時は、外國語の力あることは當に受驗上必要なればかりでなくまた甚だ得策なることを知り得るであらうと思ふ。委員曰く『何の學科でも同樣のことではあるが、受驗せんとする課目に就て學校で學んだ以上を自分で調べて置く位でなければ合格は六ヶ敷からうと思ふ。自修するとなれば自然參考書によらなければならんが、邦語で書いてある適當の參考書は甚だ乏しいからどうしても外國語で書いたものに賴る必要がある。そこで受驗者は外國語も相應に出來なければならぬといふことになる。一體我國文化の程度から云ふても、中等學校は皆外國語を課してあるからその教員たる者が外國語を知らぬといふことは一大缺陷と云はねばならぬ。その點から見るも受驗者は出來るだけ外國語の參考書を讀んで專門の學科を調べると同時に語學の進歩發達を期せねばならぬことと思ふ。外國語の雜誌參考書を讀み得る人なれば將來の進歩は期待し得らるべきことであらう。前年の本試驗の中實驗の一題としてフレネルの槇プリズムがあつた。

受驗者の中には實物を見てもその何物であるか判斷し得なかつた人がニ三あつたが、その箝めてある枠の一部に彫刻してある外國文字を見せられてから初めて合點した人もあつた。然るに或る一部の受驗者はその文字が讀めないので、その物が何であるといふことを遂に云ひ得なかつた。そして結局いくらかの點數を失ふた樣な實例がある。斯樣なことは一般の受驗者には最も稀に見ることであらうが、萬一初任の學校で生徒から同じ質問を受けたとしたならば如何であらうか。教師として甚だ不面目のことと思ふ。生徒が鐵棒で大車輪といふ運動をやるのに物理の先生はそれが出來ないといふ事柄と同樣のことと見做す譯には行き兼ねると思ふ」と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

◎田丸卓郎著　中等教育物理學教科書　開成館

先づ本書によつて物理學の概念を作ることが必要である。本書でなければならぬといふことは無いが、本書は數ある教科書中で最も優れてゐる方で、當に物理學の大要を知るに好適であるばかりでなく、また受驗上にも直接役に立つことが少くない。

◎大幸勇吉著　近世化學教科書　富山房

物理學を深く研究するには中等程度の化學を知つてゐることが必要である。必ずしも本書でなくともよいから先づ專門の研究に入つた前に中等教科書によつて大體の智識を得ておくべきである。

◎中村清二著　普通物理學講義　富山房

中等程度の本であるが說明が非常に徹底的で明瞭である。前二書を讀破せる後直に專門の參考書に入つてもよいが、その前本書によつて頭を練つた方が得策である。

◎本田川北共編　物理學通論　內田老鶴圃

多くの受驗者が中等教科書の次に入る本である。徹底的に理解するまで反覆熟讀すればよづ物理學の知識の半分は出來上つたものと云つてよい。次に讀むべきは

◎森總之助編纂　實驗及理論物理學　積善館

である。本書は全五卷より成り物理學書研究者の必讀書と稱せらるゝもので、事實從來の合格者でこれを讀んでゐない人は一人もない。高等數學を使用してあるなど隨分困難な本ではあるが、分るまでは何回でも反覆する覺悟を以て向うなら決して不可解に了るやうなことは無い。書中の問題は一つも漏すことなく自ら解いて、全卷を徹底的に理解する時は、文檢及第の實力がついたものと思つて差支が無い。

次には實驗である。大體の實驗法は前書によつて分るけれども、尙次の二書によつて實驗をやつておかなければ十分とは云へない。

◎友田鎭三著　物理學實驗法　開成館

◎早川金之助著　物理實驗測定法　目黑書店

兩書の實驗は一つも殘さずやつておくがよい。殊に後者は重要である。

以上によつて中等教員として必要なる知識が立派に出來上つたと云つてよい。他科に比し參考書が極めて少いやうであるが、これを眞に我がものとするのは中々容易なことではなく、優に他科の參考書數十冊を讀破するだけの努力と日子とを要するのである。

尙本科の受驗には普通の原語を知つてゐることが必要である。原語は上記の參考書にしも插入してあるが一二冊の原書を讀破しておけば一層結構である。左記は從來の合格者によつて最も多く讀まれたものである。

◎Edser——General Physics for Students.

◎Hadley——Magnetism and Electricity for students.

兩書とも中學卒業の學力があれば樂によむことが出來文檢受驗上にも直接役に立つ本である。

それから受驗上直接には必要でないが、物理學を徹底的に理解するには高等數學の初歩に通じてゐることが必要である。參考書は何んでもよいが獨學でもやり易いやうに平易に出來てゐるのは

◎澤田吾一著　微分積分學綱要　富山房

である。又『省略計算』も一通やつておかないと計算問題でまごつくことがある。それには

◎金澤卯一著　省略計算

がよからう。

最後に左記の雜誌は毎月購讀し物理學に關する記事は必ず熟讀しておかなければならぬ。

◎東京物理學校雜誌
◎現代之科學
◎東洋學藝雜誌

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　理論　本科は他科の如く參考書を通讀してその要領をつかむといふやうな研究法は絶對に不可でもあり又不可能でもある。讀まなければならぬ本であるならば飽くまでも反覆熟讀主義をとり、それが徹底的に分るまでは五回でも十回でも二十回でも讀む覺悟がなければならぬ。かくして一書を眞に十分に理解してからはじめて次の書に移るべきで、中途半んばで次から次へと移るのは他科に於ても左うであるが本科に於ては殊に大禁物である。某合格者曰く『予は自分の骨子とした本を自分の血肉となるまで讀みこなし然る上で他の參考書に及んだ。さうしないと參考書を自分の既有智識に類化する所ではなく却つて頭が混雜してしまふ樣になるのです。骨子とした書物が十分讀み解けたら他の參考書のものは容易に讀破することが出來る。そして徹

底的に讀むべきである。上滑りした讀み方では決して自分の力にはならぬ。次に又一般的でなければならぬ。試驗勉强とか地雷火とか云ふて試驗にでも出そうな所ばかり研究してさもない所は放棄すると云ふ様なことは絶對に止めなければならぬ。尙研究は繼續的にやらなければならぬ。思ひ出して勉强するのでは坂を上る車が後へ下る様なものである。以上の外予は問答解義集を作つた。此自分で問答して見たり、又擬答集を作つたりする事が非常に有效であると思はれる。最後に予の研究について忘るることの出來ないのは、出身中學校の物理化學の先生の御恩である。月に一回位平常貯へておいた質問を持つて先生の所へ行つて合點の行くまで質問する。他の科もさうであらうが數物などは質問を受けて貰ふ先生がなかつたら恐らく出來難いであらうと思ふ。」と。

ロ　實驗　本科の受驗者は八九分まで物理學校の卒業生か左もなくば專門學校大學等の助手であつて、全然の獨學者は極めて罕である。物理學校の卒業生や助手にとつては實驗はお手のものであるが獨學者殊に地方在住の獨學者にとつてはこれが最大の難關である。しかし地方に居つて全然の獨學でパスする人もあるのであるから志さへあれば何人にも決して出來ないことは無い。要は努力如何にあるのみである。

然らば地方在住の獨學者は如何にして實驗をやるべきかと云へば、先づその地の中等學校の先生に依頼して、そこで出來るだけの實驗をやらして貰ふ事が第一である。次には休暇等を利用して專門學校大學等の物理學教室を參觀し教授の說明を乞ふことでこれが甚だ有效である。但し文檢間際に於ては東京帝大及び東京高師に於ては參觀を謝絶することになつてゐるからその點は承知しておかなければならぬ。しかし平常に於ては支障の無い限りは喜んで受驗者を迎へるのであるから機會ある毎に遠慮なく參觀を申し込べきである。それから無線電信局發電所等の如き所は出來るだけ多く參觀しておくがよい。

尙簡易なる實驗器械を自分で製作して使用することは甚だ望ましいことであるか

ら、受驗者は暇を惜むことなく是非やつてほしいものである。」

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を參照せよ。」

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を見よ

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の五を見よ。

第十三章　化學科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　**不成績な方面**　龜高博士は長く本科の委員をつとめられた人であるが、その委員たりし時に試驗の成績について下の如く語られたことがある。『予の經驗による と豫備試驗に於て最も成績の惡いのは物理化學或は理論化學等の理論的方面である。これは無機化學と違ひ單に記憶するに止まらず理屈を了解せねばならぬ。了解すれば記憶も易い。それを只丸呑みにして來る者がある。本に書いてあることを空に暗記して書くといふのが大部分である。それであるから非常に不合理なことを平氣で書いて

ある。讀んで見て筋道の立たぬのが多い。十分に理屈が分つて居らねば完全な答案の書けぬのは當然のことであつて、そんなに深い事は望めぬが一通りのことは明瞭に了解してをらねばならぬ。計算問題も簡單なものでも理屈が十分分つて居らぬから答がまるで違つてしまふのである。無機化學の方面は比較的結果がよい。これは無機化學の事は普通のことで記憶すればよいといふ事が多いからであらう。然るに有機化學の方面はあまり成績がよくない。少し複雜なことになると少しも問題の答案を書かない人がある。此の問題は大抵終の方にあるが不能が隨分ある。又書いてあつても間違つたものが多い。有機化學といふものは少し込み入つて居るので獨學でやるには少し難しい。實驗して見ることが必要であるがその機會が一寸得られないだらうと思ふ。地方の中學校師範學校でも出來ぬ位である。而してこれは從來中等程度の學校では時間が足らないためにやらずに濟すといふのが多い樣であるがこれは甚だ遺憾のことである。日常の生活に重要な關係を有つてゐるのは有機化學の方が多いのであるから教員になるならうとする人には此の方面の知識は非常に必要である。』と。今後の受驗者にとつて大に參考となる談話であると思ふ。

ロ　實驗がなつてゐない　化學は實驗の學問であるから實驗しなければ本當のことは分らない。されば本の上の勉强だけでは豫備試驗は通過することが出來るかも知れぬが到底本試驗を無事に通過することは出來ない。此くの如きことは云ふまでも無いことと思ふのであるが、實際に於ては只參考書を讀んだだけで受驗する者が多いといふことである。これは所謂無駄骨折りとも云ふべきであつて今後の受驗者はかゝる愚を繰返さぬやうに注意せられたいものである。平田委員曰く『試驗委員は殆ど臨時委員で試驗が濟むと同時に解任されて次回には誰が委員になるが知れない。從つて將來の試驗方法はどう變化するか知れないが、在來の模樣若くは科目そのものの性質から云へば實驗に十分腕が冴へてゐなければならない。實驗の如きは單に知つてゐた計りで出來るものと限らない。馴れてゐても時々先敗するものであるから、況んや與ら

れた問題が一見解らない様では中々實驗は奇麗に出來るものでない。化學教授の場合實驗に失敗する程に教授の失敗する者は無い點から考へても、教師を希望する化學受驗者は實驗に銳意力を注ぐべきであらうと思ふ。然るに在來の受驗者の模樣を見ると實驗器具の使用すら知らない者がある。折角豫備試驗に可なりの成績を擧げてゐながら、かうした風で本試驗に歯の立てやうもなく見苦しい失敗を重ねる人があるやうだ。かゝる人は多分片田舍で書物にばかり頼つて勉強してゐる者であらうと思ふが、かゝる狀態を繼續して居つては到底目的を達することは出來ないであらう。私の考へる所では最寄りの中等學校若くは專門學校の助手などに入つて十分研究する必要がある。むしろ化學科受驗者はかくするが最も近道であらうと思ふ。事實受驗者の中には中等學校や女學校大學などの助手をして來てゐる人もある。此等の人は比較的殆ど易々として通過してしまふのである。しかしながら人それ〴〵色々の事情があり悉くそんなことをすることも出來ない。けれどもその心して何等かの方法に於てその意味を理解して實驗に十分實力を養はなければならぬことを知らねばならぬ。』と。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　力の注ぎ所　本科には分子式構造式の如き厄介なものがあるが受驗者はそれを一々記憶しなければならぬであらうか。必ずしも必要でないとすると受驗者はその力を他に轉用することが出來て大に助かる譯である。之れに就ては平田委員は下の如き暗示を與へてをる。『化學には分子式とか若くは有機化學になつて益々記憶に困難な構造式の樣なものが出て來る。此等を一々記憶する段になるとそれは〳〵大變なことになる。アルコールの種類だけでも記憶するに容易ではない。しかし勿論一々順序の系統があるから脇目から見た程の難かしいものではないが、さりとて易いものでは決してない。此等を記憶しなくてもその目的を達することには大して影響する譯はない。勿論知つてゐるに越したことはないが、しかしそこ迄考査する程に受驗者一

般の程度が高まつて居らない。それよりも尙一般的のことを知る急務がある。例へば燐酸の製法と其の差別といふ問題が出た場合、燐酸の製法とその差別をよく知つて居れば燐酸の分子式が出來なくても合格は出來る。此の方面に對する暗示はこれ丈にして要は問題を見て悟るべきである。』と。

ロ　**外國語**　本科の受驗者は大抵原書に親しんでゐるやうであるから、こゝに改めて外國語の必要を說かずともと思ふのであるが念の爲めに龜高博士の談話の一節を紹介して置かう。曰く『檢定試驗を受けるにはどうしても外國の書物を讀まねばならぬから英語か獨逸語は知つて居らねばならぬ。瓶に書いてある藥の名前なども讀めぬ人がたまにはある。これは實驗をなす時忽ち困る。日本語で書いてあるのは稀であるからその名前さへも讀めぬ樣では到底試驗を受ける資格はない。參考書が十分に苦勞なしに讀める樣になつて居らねばならぬ。』と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考者を讀むべきか

イ　**無機化學**

◎高田德佐著　理論實驗化學講義　光風館

本書は中學校化學教師の教授參考用的に書かれたものであるから、中等教科書讀了後直に入るに好適である。受驗者は先づ本書を精讀して化學一般に關する稍々高等なる概念を作り、而る後專門的參考書を繙くべきである。本書はまた本試驗に於ける教授法方面の標準を知るにも便利であるから、本試驗前更に一應讀んでおくがよい。

◎田中伴吉著　無機化學　金剛芳流堂

本書は上下二卷より成り、記事詳細說明徹底的で讀んで解し易く非常によい本であ

る。合格者が皆讀んでゐるばかりでなく、彼等が一樣に後進者に推薦してゐるのを見ても如何に受驗上有益な參考書であるかゞ分るであらう。十分徹底的に研究して記憶するがよい。次に

◎水津嘉之一郎著　理論應用化學集成　隆文館

に移る。本書は上下兩卷あるが、上卷の無機化學の部を精讀する。記事はあまり詳細ではないがよく整理されてをり、且つ挿畫が豐富であるから獨學者にも理解し易いまた新發見新發明等を悉く網羅してあるのは特に便宜である。次に讀むべきは

◎池田菊苗譯　近世無機化學　開成館

原著者は世界的化學者たるオストワルド博士で、譯文も非常に忠實である。單に無機化學としてばかりでなく理論化學としても他に比類が無いと云はれてゐる。されば本書を十分に了解することが出來たならば無機化學は勿論のこと理論化學も他の書を讀む必要が無い。要するに前揭の三書は本書を十分に理解する爲めの準備的道程なのである。只極めて難解であるから根氣よく何回でも繰返して徹底的に理解するやうにしなければならぬ。

その他參考的受驗的に讀んでおいてよいものは

◎塚本加納共著　增訂改版近世化學講義　內田老鶴圃

である。平易に書かれてはあるが參考になる記事のある本である。

尙餘力あればその他の參考書を通覽しておくがよい。基礎が十分に出來てからは他の書から採るべきことは極少量なものであるから、そう大した時間を要しないのである。

英語の讀める人は左記のものを必ず讀んでおくがよい。記事が頗る斬新で參考になることが少くない。

◎Holleman; Textbook of Inorganic chemistry.

◎龜高德平著　有機化學　博文館

有機化學の概念を作るに最もよい本でいまゝでの受驗者の必讀したものである。しかし今は求めることはむづかしからうと思ふ。それで既記高田氏の著或はその他の教科書で概念を確實に作つてから

◎龜高、眞島、湯田共譯　新設有機化學　丸善書店

を讀むがよからう。本書は英國の碩學バーキン氏の原著で、邦文有機化學書中最新最良の稱あるものである。本書をば眞に理解したならば文檢受驗には十分である。しかし尙既出

◎水津嘉之一郎著　理論應用化學集成　隆文館

の有機化學の部を通讀しておくがよい。

ハ　理論化學

◎大幸勇吉著　理論化學十回講義　富山房

理論化學を深く研究するには高等數學の素養を要するので獨學者には中々困難である。然るに本書は高等數學を用ゐないで平易に且つ面白く講述してある。受驗者は先づ第一に本書を研究すべきである。

次に前揭せる無機化學の參考書中の理論の部を復習し、

◎湯田重太郎譯　ウォルカー氏物理化學　丸善書店

を研究するがよい。記述が丁寧で高等數學の使用を避けてあるから、難解の理論も左程の困難を感じないで了解することが出來る。次に是非研究しておかねばならぬのは

◎大幸勇吉著　改作訂正　物理化學　富山房

である。高等數學を使用して高尙なる理論を說いてあるから勿論難解ではあるが。されば とて前揭の二書だけではまだ不安心なので是非本書を讀解しておかねばならない。卷末には豫備數學の部を添へ本書を理解するに必要なだけの微分學を說いてある

から、高等數學の心得無き人は先づこゝから着手するがよい。

理論化學の研究は以上たけで十分であるが解し易くて辭書的に見るに便利なものとしては

◎片山正夫著　化學本論　内田老鶴圃

といふのがある。

ニ　實驗及分析化學

◎龜高德平著　普通教育化學實驗法　開成館

◎小川正孝著　新撰化學實驗法　同上

講義實驗書としては最もすぐれたるものである。兩書にあるものは一つも漏れなく實驗しておくことが必要である。

◎吉井、黒田、田村共譯（コーレマン クロース）　定量分析書　丸善書店

稍古いけれどもよい本である。受驗者には殊に第一第三第四編は最も參考になる。

分析法としては本書及び前記小川氏の著にあるだけでもよいと思ふが松井元興氏の分析化學』をも研究しておけば大に心強く試驗に臨むことが出來るであらう。

ホ　雜誌

常に雜誌に目を通して新研究新發明を知つてゐなければならぬことは勿論である。受驗者に最も多く讀まるゝは

◎化學工藝　其社

◎物理學校雜誌　其校

◎理學界　中興館

等であるがその他何雜誌にせよ關係ある記事が載つてゐることを新聞廣告等で知つたならば必ず一通り見ておく位の用意がなければならぬ。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ參考書の研究　某合格者曰く『參考書はどんな風に讀むことが最も有利か。私は始めから記憶しようと思つて讀んだことは全く無い。只理解しようといふことを主眼として幾度でも繰返して讀んだ。そして不理解なところはそのまゝにしておいて、此の書物は此の處が不理解であるが他はよろしいといふ迄讀む。そして次の書物に進むといふ方針を採つて來た。その方法としてはノートも作つた。表もこしらへた。そして目的の本全部を讀破し終ると、そのいよ〳〵不理解な點は他の書物を參考にしたり先輩舊師に尋ねたりして、尙不明な處は？をつけておいた。そして受驗前に高師の某教授や桐生高等工業の某教授より教を請うた。要するに參考書研究の態度は理解することを主眼にし記憶は自然的に任せておき、いざ戰場といふ時のお膳立をしておくのである。そして試驗前になつて無邪氣に記憶して受驗するのである』と。この人は約二ヶ年の研究の後一回で見事にパスしたのである。

又一合格者は曰く『私は第一回目の受驗の時は多讀主義をとり可なり多くの參考書を通讀した。試驗問題はあまり難解とも思はず平氣で書いた。そして何故失敗したのかを疑つた。その後或る經驗家の話によると、答案は題意に適確して辭理明晰でなければならぬ。それが爲めには敢て多讀の必要は無い。むしろ最高の本を定めてそれを片端から讀破し、一點でも不明の所が無い樣にし、殆ど暗記する位になり、餘力あらばこれを骨子として肉をつける積りで讀むべきであると教へられた。それから多讀は全く放棄して精讀主義をとつたところが、自分の知識はいかにも淺薄で道理であると覺つた。』と。かくして此の人はその翌々年パスしたのである。

受驗者は以上二合格者の經驗談によつて參考書研究の秘訣を明かに覺ることが出來るであらう。

ロ　實驗及分析　前章第二節の二を參照せよ。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を見よ

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

尙口述試試驗に於ては中等學校生徒に敎授する體裁に述べるのであるから中等敎科書をよく頭に入れおき且つ講述の方法も練習工夫しておくことが肝要である。」

第十四章　植物科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　知識が不整頓　本科の受驗者の知識もまた一般に淺薄にして不整頓なることは下記山內委員の談話によつて明かである。委員曰く『これ迄檢定試驗を受ける人で豫備試驗を度々受けて通らぬ人がある。それから豫備試驗にはいつも通り本試驗では顏馴染が出來てをる位で通らぬ人がある。中には兩試驗共一回で通る人がある。つまりからいふ風に結果に違の生ずるのは恐らく準備の方法が宜しきを得ないのと、徹底してゐるのとの區別であると思ふ。いつも考へることであるが豫備試驗の場合でも試驗

場に出て問題を見てから始めて考へ出さうと努める様では時間も少いであらうしよい解答をし得ないと思ふ。本試驗の場合にも幾つかの問を出して口答を求めるのであるが、此の場合でもその間に關する事柄を前以て心得て居らぬ時は、全く時間の少い所で問題をきいてから新しく考へ出さうとして居つてはこれまたよい解答をし難いと思ふ。豫備試驗の場合でも本試驗の場合でも中等程度の學校に於て實地教授に當つた時に凡そ心得て居るべき筈である一般に關することを多くきくのである。非常に狹い深い專門的のことは必ずしも問題の中にはなからうと思ふ。從つて豫備試驗の場合でも本試驗の場合でも普通の方法では到底準備し得ない様な問題の出ることは先づないと思ふ。植物學などの場合であれば中等程度の學校で使つてゐる教科書に凡そ載つてゐる題目に關することで、三好博士の植物學講義、池野博士の植物系統學に解說してあることだけで大體準備が出來得る程度のものであるのである。特別に最も新しい事柄などを外國出版の書籍なり雜誌なりに依つて準備しておかねばならぬ程のことはない。以上あげた本の他に東京植物學界から發行して居る植物學雜誌等に依て、新刊の紹介最近の植物學研究の題目等のことは少し目をさらして置けば新しい方面のことともしては先づ準備は大抵間に合ふであらうと思ふ。故に豫備試驗なり本試驗なりを通過するだけならば日本文で書いてある參考書だけで準備は十分になし得ると考へる。豫備試驗を一度で通り本試驗も一度で合格する人は、兎も角も以上の參考書を反覆繰り返して凡そ其の中にあることは整頓された形で頭腦の中に入つて居る人であると思ふ。豫備試驗を度々受けて通らなかつたり或は豫備は通つて本試驗まで度々來る人等は、參考書を讀んでもはじめから終まで熟讀して自分のものにして居ることのない人であると思ふ。無論若し問題にまだ學說の上で決定しない事柄でも出た場合には、その問題に對して試驗委員が有つて居る意見と違つた意見が受驗者に依つて解答されても、若しそれが學說として既に唱へられて居る事であるか、或はいろ〳〵の不便に打ち勝つて準備をした受驗者の知識の程度に於てはそれ位までの解答しか出來まいと

思はれる點があれば、無論十分な解答を得ないとも大體解き得たものと認められるであらうと思ふ。要するに準備の爲めに用ゐたる參考書等は反覆して自分のものにして然る後受驗者として試驗場に立つて貰ひたいと思ふ』と。委員の說かるゝ所は平凡に過ぎる樣に見えるけれ共準備の要諦はこれ以外には無いことと思ふ。

ロ　實物の研究が不十分　實物を知らずして試驗に臨むほどの無暴の人は無論ないけれども、まだ〳〵一般に實物の研究が不十分であるといふことである。山內委員曰く『無論植物學は實驗科學の一で實地に自分で實物に當つて見て置かなければ本當の知識になつて居らないのであるから、實物をよく見て置くといふことが最も肝要のことであることはいふ迄もない當然のことである。これまで海岸に產する海草等に就て尋ねたこともあつたが、中には海岸から遠く離て居る學校に奉職して居る人であるに拘らず、押葉によつてか或は本の插畫に依てかそれをよく記憶して居つて問を出した後で直にまだ見たことはないが何々であらうといふ樣に確な答をした人もあるので、海岸に始終住んで居られて隨分一寸注意すれば實物を見る折があつたらうと思はれるのに、一向さういふものを注意して居らんといふ樣な答をきくことも度々あつて此等は實物に親しまない例として甚だ遺憾に思つて居つた所である。』と。本試驗にまで來て失敗して歸る人は悉く此の實物試驗でやられることをよく記憶しなければならぬ。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　かたよるな　何科の研究に限らず一方にかたよることの不可なるは云ふまでもないけれども、本科に於ては殊に然りである。その理由は下記松村委員の談話に依て明瞭に了得することが出來る。委員曰く『植物學に及第しようと思ふ者は一方にかたよつてはならぬ。分類學解剖學生理學に亘つて萬遍なく準備せねばならぬ。一人で答案を全部調べれば多少の手加減といふものも出來るであらうが、生理は生理解剖

は解剖分類は分類といふ風に三人の委員があつてそれ〴〵受持が違ふのであるから、一方で滿點をとつて居つても他の方で零をとる樣なとであつては到底及第は出來ぬ。此の間の骨といふものを心得て居らねばならぬ。二十年前の檢定試驗はさうでなかつた。委員は二人であつたが專門的になつて居らなかつた。今の委員は專門家になつてしまつた。それが別々に問題を出すのであるから、如何に植物の名など澤山知つてゐても全體に亘つて出來なければ及第出來ぬ。』と。

藤井博士は右と同樣なことを試驗場に於て答案を認める時の心得として述べられてゐる。重複の嫌があるけれどもそれをも紹介しておかう。曰く『植物學は大體に於て分類形態生理の三つに分れて居つて、檢定試驗の如きもそれ〴〵見る人が違ふ樣である。これは一人の委員が一問から十二問まで全部見るといふとどうしても不公平になることを免れぬからである。卽ち一問から四問まで分類なら分類、五問から八問までは形態なら形態、九問から十二問までは生理なら生理といふ風にそれ〴〵委員が擔當して見るのであるから、一問から八問まではよく答へても後を答へぬと云ふのでは此の受驗者は植物學の或る方面ばかり出來て他の一方が出來ないといふことになる。そしてかういふのは教員としては適當でないといふことになる。故に受驗者はなるべく此の三方面に平等に答へぬと甚だ損であると思ふ』と。

ロ　**答案認め方の注意**　答案を認めるに當つては如何なる注意を要するであらうか。藤井博士曰く『第一に注意を要することはとか〴〵問題の要求する所と答案に書いてあることが合はぬといふことである。これはなるべく問題の要求してゐることだけを書くことに注意しなければならぬ。然るに大多數の人は問題以外のことを書いてゐる。これは受驗者が十分に讀んでゐないが爲めに何をきいてあるのか分らないので何んでも似よつたことも無暗に書くといふ點もあると思ふ。けれども問題をよく讀みそれにきちつと合ふ樣に書くことが受驗者の爲めに利益である。時間の上から云つても大變得である。次に答案の長い短いに就て云ふと、短いのには二十行位しか書かぬ

のもある。時間がないからと云つてその後が書いてない。そしてかういふのは大概成績が悪い。さうかと云ふと一方では七十何行と書いたのがある。そんなに書いてあるからよいかといふと五十何點しかない。然るに三十行位書いて八十五點もとつてゐるのもある。これは無駄がなくきちんと問題に符合する様に答へてある故に僅か三十行で答案は餘程よく出來てゐるのである』と。要は確實なる知識を以て試驗場に臨むにあること云ふまでもない。

ハ　學問の進歩におくれぬ様にするには　本科は試驗に及第するだけならば殆んど外國語の必要がないけれども、新研究をおくれないで知らうとするには少く共一外國語は是非知つてゐなければならない。これに就ては山内博士は『試驗に通るだけならば大體これまで普通に知られたる事柄だけで特に新しき方面の研究等に就て澤山に心得て居る必要はないと思ふが、試驗を通つた後で中等程度の學校に實地教授に當つた場合にはどうしても學問の進歩と伴つて教案の内容等を更へて行く必要があるから、それには少く共一箇國の外國語だけは餘り苦勞なく讀める様になつて居なければ、つひ學問におくれ勝ちで遠からず植物學の進歩に遅れ教授者としても不十分なものとなつてしまふだらうと思ふ。外國語は急ごしらへに準備して直ぐ讀み得るものでないから、これは受驗者が準備すると共に時をかけて少く共一ヶ國の言葉を修めて居る様にしたいものである。無論獨逸語でも佛蘭西語でも英語でも何れにしても差支なからうが、現在のところでは本なり雜誌なりを得易いといふ點から考へて英語が一番便利であらうかと思ふ。無論試驗を受けて通るだけならば別に外國語を用ひて解答する様に要求することもないし、今の所では外國語をよく心得ておらぬからといふて格別不便もないが、實際教授者として立つた後を考へれば受驗者の準備すべき最も肝要な一つであらうかと思ふ』と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

前節にも述べた如く、本科は大體に於て分類、形態、生理の三方面に分れてゐる。しかし參考書には此の各方面に亘つて述べてあるものもあり、然らざるものは書名によつて何方面の參考書であるかは直に分るから、此處には右の區別を設けずして解說しておく。

◎池野成一郎著　植物系統學　裳華房

植物の系統を知るために是非無くてはならぬ書である。中の插畫の精密なことや數多い事は他の分類書の比でない。殊に隱花植物の部分の如きは實に材料豐富に設いてある。裸子植物の部分では化石の部分にも隨分懇切に記されてある。全く系統學書中のオーソリテーである。精讀を要する。全二冊。

◎三好學著　最新植物學講義　富山房

記されてある事實も安心して讀み得るばかりでなく、實驗なども中々數多く插入してあるから、折にふれ此の書中の實驗を出來る限りやつておくがよい。獨學者にとつての植物學的知識を得る中心書たることは言ふまでもない。全二冊。

◎神谷辰三郎著　顯花植物分類學　成美堂

顯花植物の分類學では本邦人の手に成れる唯一の良書である。總論の部には進化說が要を撮んで書いてある。植物の命名法なども詳しくある。各論では科毎に花式圖の挿入があるから記載する折に參考となる。科の終りにはその科の植物中で生態方面形態方面の誤り易き事實などを一々擧げて丁寧に說明されてあるから、分類の方と併せて熟讀の必要が十分にある。外國產の屬の檢索表もあるから、舶來の園藝植物などを知るには大變都合がよい。精讀を要するは勿論である。全二冊。

◎三宅草野共譯（ストラスブルガー）　植物學　隆文館

形態學、生理學、隱花植物各一冊、顯花植物二冊で全五冊より成る。譯書だけにく

どい所がある様に思はれるが、とにかく念入りに讀んでおくべき書である。殊に隱花植物によく目を通しておく必要がある。此の書は世界共通の教科書と云はれる程のものであるから、三好氏の植物學講義と共に熟讀玩味すべきものである。

◎安田篤著　增訂植物學汎論　博文館

内容は形態と生理方面だけしか載せてない。大體は前記ストラスブルガーによつたものであるから、該書を讀めば不要のやうであるが、また捨て難い所もあるから、一度は見ておくがよいと思ふ。附錄の實驗には細胞組織ばかりでなく生理の方面も要を摘んで記してあるのだがこゝにあげてある位のものは必ず試みておかなければ不安心である。

◎安田篤著　植物學各論　隱花部　博文館

大冊子であるが念入りに讀むべき良書である。隱花植物の分類は各屬に至るまで述べてある。これを讀んだだけで隱花植物のとは明細に分ると云つてよい。尙分類方式はエングラー式である。

◎田原正人著　植物細胞及組織學講義　中興館

植物學を獨習する者の誰しもが苦心するのは此の組織學である。ところが本書は丁寧にその模範的代表的の細胞や組織を一々手にとる様に說明されてある。その間には必ず實驗が挿し挾んである。方法なども懇切であるから初めから此の順を追つてやつて行けば、知らず識らずの中に一般の細胞や組織學の知識並に實習に手慣れることが出來る。附錄の化石學講話も最近の報告までであるから是非々々味はねばならぬ良書である。

◎市村塘著　動植物顯微鏡實習摘要　丸善書店

全部を一々實習する必要はないと思ふが出來る限りはやつて見るがよい。圖の少いことは非常に物足りぬ感はあるが、それは他の實驗書のを參照すればよからう。豫習の部には顯微鏡の說明やら他の實驗器具の取扱方が詳しく記してある。此の部分は何

度も何度も繰り返して自分のものとせねばならない。永久プレパラート、標品埋藏法などもかなり丁寧に書いてある。ポケット型であるから常に携帶に便である。

◎三好學著　增訂改版　實驗植物學　富山房

此の書の全部を實習することはとても出來ないから、此の中の中等學校に於て教授するに直接必要のものを選んでやるがよい。併し生態學方面は主として觀察事項が多いからこれは試み易いと思ふ。

◎遠藤吉三郎著　實驗隱花植物學　裳華房

少しく版が古く內容も改訂を要する所があるではないかと思はれるが、各科に各實驗すべき代表的材料及びその指導などが記されてある故、隱花植物の實驗手引としては今の處これに代るものがないやうである。

◎齋田功太郎著　大日本普通植物誌　大日本圖書會社

日本に普通に產するものは屬まで檢索出來、學名も一々記されてある。最初の中はこれで檢索やるがよい。科などの區別は明瞭に又精確になるであらう。しかし日本產植物の種を悉く知るには聊か物足りない。

◎齋田功太郎著　內外普通植物誌下等植物篇　大日本圖書會社

下等植物の檢索をする唯一の書ではあるが、必ず無くてはならぬといふ程のものでもない。卷末の插畫には下等植物の大體は擧げられてあるからこれは見ておくと都合がよい。

◎鈴木梅太郎著　鈴木植物生理化學　成美堂

植物を殊に化學的方面から細論してある學術的の書で中々くどゝしい。全部漏れなく覺えることはとても出來ぬがせめて應用方面だけは頭に入れておくがよい。

◎三好學著　日本之植物界　丸善書店

我國普通の植物（主として園藝植物）を四季に別けて一々美麗なる插畫を以て說明してある。大部のものであるが樂に讀める。暇々にちよい〳〵見ておくがよい。

◎三好學著　熱帶植物奇觀　富山房

熱帶に於ける植物の生態的觀察があり、藥用染料用觀賞用等の種々が、多くの挿繪と寫眞板とによつて紹介されてある。前者と同樣面白く讀める。一讀しておくがよい。

◎齋田佐藤共著　實用植物圖說　大日本圖書會社

中の挿畫が鮮明であること、五十音順になつてゐる爲め檢索し易いこと、所謂實用的植物の大部分が記されてあることは、此の書の特徴である。非常に便利であるから常に座右に備へておく必要がある。

◎岡村金太郎著　日本藻類名彙　成美堂

海草研究上の好參考書である。遠藤吉三郎氏の『海產植物學』なども普通の海藻を知るに都合がよい。

◎池野成一郎著　ローマ字實驗遺傳學　裳華房

遺傳に關する問題は近年略んど出ないことが無いから何か一冊讀んでおく必要がある。池野氏の『植物系統學』の汎論及結論の部を精讀しておけば澤山であるとは思ふが本書を讀めば一層心强い。此の書は主として植物の材料を載せてあるから、本科研究者には都合がよいのである。

◎棚橋源太郎著　新理科教授法　寶文館

本書の博物科に關した部分をよく讀んでおくがよい。尙中等教科書は研究の出發點としても本試驗に對する準備としても精讀を要することはいふまでもない。

尙雜誌では

◎植物學雜誌　共會

◎理學界　中興館

等は是非見ておかなければならぬ。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　參考書の讀み方　何科でもさうであるが殊に理化學的學科に於ては只漫然と參考書を讀んだのでは幾ら讀んでも何等得る處が無い。飽くまでも精讀主義をとり記事を十分に理解して自然に記憶するやうにしなければならぬ。そのことに就いては前二章に詳細に述べてあるから就て見られたい。

ロ　採集に就て　某合格者は採集の手引とすべき參考書に就て『植物の名を知るに手輕でよいのは坂庭氏の新編植物圖說と博物研究會編の植物圖鑑とであらうと思ひます。前者は西洋草花など栽培植物の多いことや、圖が精確に出來て居ることが都合がよろしく、後者は圖がやゝ精確を欠いて居るやうに思はれるが野外植物の多いところに特長があるやうです。しかし兩者共說明が簡單で相似た植物の區別には我々初學者は少からず閉口します。此の時に稱類は少いが文部省の普通植物學表を見ることを忘れてはなりません。實に深切に丁寧に書いてあります。又一部分しか無くて分類も古いが故矢田部博士の日本植物篇は深切に說明されてあります。齋田博士の日本普通植物誌は圖が無いので見ぬがちになりますが檢索が簡單で要領を得て初學者の爲めに捧へられてゐることが各種の區別を知る上に都合のよいものと思ひます。それから牧野先生の增訂された故飯沼先生の草木圖說、白澤博士の日本森林植物譜はどうしても必要であります。松村博士の植物名彙も机上に欠くべからざるものと思ひます』と述べてゐる。此中には一般に入手し難いと思ふものもあるが、それを見ることが出來なく共決して絕望するに及ばない。尙一般の高山植物を知るには武田氏の高山植物、本邦産の海草を研究するには岡村金太郎氏の日本海藻名彙が適當であると思ふ。

某合格者はまた植物採集上の心得として下の如く述べてゐる。曰く『何れ此の科の研究をはじめた人なら必ず採集を致します。これも方法によつてはむしろ徒勞になりませう。たゞ一枝一草を採るなら全く無意義で、一枝一草を採るに當つても、外圍の狀況生理生態上場所の變異、その他種々なる事項も是非御注意なさるが良いと信じます。それから採集するや否や只和名のみ知りたがり、それが知れたらもう顧みない方

もある様ですが、勿論和名を知ることも大切ですがもつと大切なのはその植物の特徴を知ることが第一と心得ます。和名は極端に云ふなら後廻しにしてもよいでせう。そしてこれはむしろその專門家に敎はるやうにされたがよいと思ひます』と。極めて有益な注意である。

ハ　組織の研究に就て　組織學の研究は獨學者の最も困難とするところであるから、左に某合格者の稿によつて稍々詳細に述べやうと思ふ。

第一、實驗法に就て

書物に依つて組織に關する正確な知識を收得することは勿論必要であるが、それには必ず實驗を伴はねばならぬ。實驗してはじめて自己のものとなるものである。よつて組織學研究の第一步として先づ實驗に關することを述べなければならぬ。

a　顯微鏡に就て——先づ顯微鏡に就いて一般の取扱をやつておく。卽ち各部分の名稱を覺えること、同時にそれ等各の用途、取扱上の注意などを心得るが必要である。擴大度などは表を見ぬとも何號の接眼鏡と何號の接物鏡とを組合はせれば何度になる位は知る程にならねばいかぬと思ふ。それと同時に標本を正確に描く練習をしておきたい。紙はケントがよい。帳面になつてるのでなくバラ〳〵のが後の整理等の時に都合がよい。下手でも念入りに正確に描けばそれで結構である。

b　材料の蒐集——材料を得ることに成功すれば實驗の半は出來たと考へても差支ないと思ふ。常に不斷の心掛を以て採集につとめねばならぬ。それには材料採集表といつた樣なものを作成し、始終持參して居れば便利である。形式は各自都合のよい樣に作るかよがらうが、自分は次の例のやうにした。

月	材料	實驗藥品	參考書	備考
七月	すべりひゆ（葉）	氣孔、周圍細胞、貯水組織	顯、實 一三〇	○
	たうなす	篩管、範板、アルコール	實、植	

		（莖）	一兩側立維管束	グリスリン　九　〇

表中、顯實とあるは『市村氏動植物顯微鏡實習摘要』の略。實植とあるは『三好氏實驗植物學』の略。數字は頁數を示す。備考の〇印は濟の略。

c　プレパラートの製作——組織を檢鏡するには大概切片を作つて觀る場合が多い。しかしこの手切截片は最初の中は中々うまくいかぬが、材料によつては大變具合よくいくものもある。葉などについて云へば一般に厚くして堅い、卽ちツバキ、タイサンボクなどの葉は切り易い。切るにはカミソリとピス（木髓）とが必要だが、カミソリは日本製のでも間に合ふ。ピスは二三寸位の長さに切つて中央から二つに割つて使ふので、材料をその中へ挾んで左手の拇指と人差指の間でしつかりおさへる。カミソリはピスの中軸を斜右下に引けばよい。手慣れぬ中は材料を切らうとする考が强くてともすると刃をピスの中軸に直角に使ふ。これでは決して立派には切れぬ。扁平な葉でない松の葉の如きは直徑二三分位の太さに糸で束ねて切るのである。（ピスは用ひぬ）すべて切片は可成的多く作つてその中最もよいのを採り他を省くがよい。切片をスライドに移すには、手指では出來ぬから、針の尖端を用ひるかピンセットを使ふ。しかし經驗から見るとマチ針を竹の切に挿入した手製のもので十分役立つと思ふ。使用の際は尖端を一寸濕すとよい。

d　染色法——切片をスライトに移したならこれに染色劑又は試藥を加へる場合が多い。此等の藥品を注ぐには切片の上へデッキグラスを載せた後、その一方から注ぎ他の反對の側から吸水紙で吸ひ取る樣にすれば、藥品は材料によく浸み亘る。けれ共こんな丁寧なことをせず、切片の上へ直ぐ藥液を滴下し、これにデッキグラスを載せても間に合ふ。自分は多くこの方法でやつたが一向に差支がなかつた。藥液を瓶からスライトに移すには先を尖にしたガラス棒を用ひるとよい。滴瓶を改めて準備する必要もあるまい。切片を二三日間そのまゝにしておきたいと思ふ時は、グリセリンの一滴を落しておけばよい。藥品には中々の種類があり全部揃へることは容易でないし、

又それ程必要でもなからう。次のものは揃へておけば何かにつけて便利である。

○フクシン——細胞膜、核等の染色○鹽化亜鉛沃度——細胞膜の反應○沃度アルコール液——澱粉の反應、硫酸と共に細胞膜の反應○加里液——細胞膜、本詮質の反應、澱粉の溶解、及離解劑として○アルコール——固定劑その他、

e　簡易永久プレパラートの製作——參考の爲めに組織を後まで殘しておくにはこの永久的のプレパラートを作る必要がある。これを作るに當つて注意せねばならぬことは、切片の脫水を怠つてはならぬことである。若しこれがよく出來てないと後になつて標品が曇ることがある。脫水法は切片を先づ三〇%位のアルコールに浸し順次七〇%九〇%無水アルコールに移すのである。次にキシロールの一滴に浸し最後にカナダバルサムを滴下してその上をデッキガラスで覆へば出來上つたのである。若し染色するならば最初染色しておいて始めればそれでよい。スライトの一端にレッテルを貼布すべきはいふまでもない。製作法の練習としては次の如きものは割合に成績よく出來る。

f　單子葉植物の莖——ヲヒジハ○同葉——イトラン○同根——イチハツ○双子葉植物の莖——バラ○松柏類の莖——アカマツ○羊齒植物の莖——ゼンマイ

第二　經濟的な研究法

植物組織を殘りなく研究實驗することは容易の業ではない。ところが中には甚だ融通の利くものが多い。例へば厚角組織を研究するには必ずしもスモモの核ではなくともよい。又兩側立維管束を觀るには必ずタウナスでなければならぬことはない。ホヽヅキでもよいしヘチマでも出來るといふやうな具合である。一枚の葉一莖の植物でも隨分種々の方面の組織研究が出來得るのである。此事をよく調べて可成的材料を少くしてより多くの研究材料とするの心掛が必要である。一枚の葉の切片について只柵狀組織や氣孔のみ觀察して他を顧みぬのは極めて不經濟なやり方であると思ふ。材料を可成的少くし、然かも普通に得られるもので組織を割合に明瞭に觀察し得る具體案を

次に記して見よう。これだけ（勿論自分の考へてゐる全部ではないが）やつても隨分收獲はあると信じてゐる。

（左記中植、汎とあるは『安田氏植物汎編』實、植とあるは『三好氏實驗植物學』數字は頁數の畧）

a　ツバキの葉――柵狀組織、海綿組織、氣孔（植汎二〇四）集合細胞（同上二〇六）硬膜毛（同一五八）

b　アカマツの莖――表皮、厚膜組織、木詮層、樹脂道（葉の樹脂道は植、汎一六八）射出髓（實、植九五）トラケード（同上九六）

c　タウナスの莖――兩側立維管束、節管部、形成層（實、植九一）篩板、伴細胞（同上九二）腺毛（植、汎二八二）

d　バラの莖――角皮、表皮、厚角組織、靱皮纖維、篩管部、形成層、髓（實、植八二）

e　タウモロコシの莖――柔組織、孔紋導管、螺旋紋導管、環紋導管、細胞間隙（實、植七七）

f　ニハトコの莖――木栓組織、木栓形成層、塡充細胞（實、植五八）

g　スペリヒユの葉――氣孔、孔周細胞（實、植四八）

h　ネギの根――內皮、周圍形成層、放射維管束（植、汎二〇二）

i　フキの葉――水孔、漏水組織（實、植五一）

以上の實驗について各の場合の注意やら方法やらを述べたいと思ふが今は述べ得られぬ。とにかく熱心に出來ぬ時は何度でも繰返して根氣よくやらねばならぬ。努力は遂に成功を生むことを忘れてはならぬ。

第三　參考書

獨學をする者はどうしても良書の示すところによつて研究して行かねばならぬ。組織學方面のものとしては先づ次の如きがよからうと思ふ。

a　田原正人著　植物細胞及組織學講義　中興館
b　市村塘著　動植物顯微鏡實習摘要　丸善書店
c　服部他助著　植物學實驗　六盟館
d　三好學著　實驗植物學　富山房
e　安田篤著　植物學汎論附錄の部　博文館
f　石川元春著　植物の構造と生植——組織の部　老鶴圖

右の中aは斯學方面の第一良著として推したい。丁寧に細胞學から說きはじめて組織學に及ぼしてある。一々實驗をやり乍ら進むやうに懇切に記してある極めて價値ある書、bはポケット版である。顯微鏡の使用取扱などは中々よく書いてある。便利の本しかし挿圖が少いので一寸困る。cは一植物づゝについて種々な方面の組織を出來得る限り說いてある。挿圖も明瞭でよい。dは組織の方面よりも生理の方が多いけれ共定評ある書故一度は見ておくがよい。eは材料を集めるには大變に便利な本である。fは誰にでも解り安く說いてあるのがよい。挿圖も可成にあるから參考になる。しかし必ず見ねばならぬほどのものでもない。

尙東京植物同好會では年々夏期東京に於て實驗講習會を開催し懇切に指導するから都合のつく人は是非一度は入會するがよい。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を見よ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

尙出來るだけ都合をつけて本試驗一週間前位に上京し、小石川植物園と島津標本店だけは必ず見學するがよい。後者は昨年の震災の爲め燒失したが近々中必ず復活するであらうと思ふ。同店では顯微鏡を自由に使用させまた腊葉やプレパラートも澤山見せて受驗者に對して非常に便宜を計つて呉れることを以て有名である。

第十五章　動物科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

觀察が不十分　本科に於て最も必要なるは實物に對する鋭敏精緻なる觀察力である。此の力に缺けて居つては如何に本の上の知識が豐富でも結局それは死學問に過ぎない。隨つて試驗に及第するとは到底出來るものではない。然るに受驗者は一般に本の上の研究は相當に積んでゐるが、此の觀察力の養成といふ最も大切な方面の修養を十分にしてゐないといふことである。これは甚だ遺憾なことでかゝる方法をとつてゐたのでは何年たつても合格者が覺束ないのである。受驗者は次項丘谷津兩博士の談

話を再讀玩味して本科研究の要諦を悟得せらるべきである。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　觀察力と推理力

丘博士は本科受驗上最も重要なるは觀察力と推理力との二つなることを懇切に說かれてゐる。曰く『本科の如きは單に書物を讀んで暗記したゞけではいけないので、實物に就ての研究を要するのだから地方でコツ〳〵獨學をやる人には隨分研究が困難であらう。しかし一般の受驗者が眞面目になつて來て鹽梅見に受驗するといつた樣な不眞面目な人は著しく減じて來、中には根氣よく調べて來る人も認める。是は誠に結構なことである。豫備試驗ではほんの動物の一斑に就ての知識の有無を試驗するに止るけれども、本試驗には中等教師として生徒を教育し指導するの技量の有無を注意して試驗するのだから實地的方面の準備がうまく出來て居ないとどうしても失敗をまぬかれる譯には行かない。尤も實地試驗と云つてもさう難し

い解り難い物を示して其の名稱などを問ふといふのでなく、普通にある標本なり實物を示してそれをどの程度まで觀察し得るかとの點を主眼として見てをるのだから、平素から標本及び實物を緻密に觀察するやう練習を積んで置けばよい譯である。本試驗の爲の上京の途中乃至は上京後に京都や東京の島津標本店などへ寄つて種々なものを見せて貰ふのもたしかによいには違ひあるまいが、只品物の名稱を暗記して居るばかりでは今お話した樣な具合だから駄目である。要するに實物に對する精密な觀察を遂げねばいけない。隨つてはじめから純粹に獨學でやるよりは最初は先輩に就て手ほどきをして貰つてから入る方が得策であるまいが、矢張り初步の時代には指導を受けて置く方がいゝ。そして受驗者は次の事柄に注意しなければならない。第一に書物を讀み書物の上で或る程度まで博物學上の事實を覺えて居らねばならない。第二には普通の始終出で來る樣な實物を知つて居ることである。以上は知る方の側のことである。第三に腦髓を働かせる側では觀察力を常に

養つておき實物を見た時いろ〳〵な性質が氣がつく樣にならなければならない。試驗の場合に實物を見せられた時に明かな性質が現はれてをつても氣がつかず人から注意せられて始めて氣がつく者が多い。此の觀察力は常から養成して置くことが大切である卽ち平常出來るだけ實物を見ることにつとめ實物を扱ふ際には注意して觀察する樣にしなければならない。觀察力などいふものは一足飛に養はれるものでなく、長い間絶えず之を養ふことにつとめて居ると細かい點まで見落さない樣な癖がついて來るのである。かうなれば本試驗は合格する望みがついて來るのである。第四に他の學科でも同じであるが推理力が極めて大切である。これも常から機會のある毎にその力をはたらかし練習することにつとめておけば試驗の場合に餘程役に立つと思ふ。以上の四つが先づ受驗者として注意すべきことだと思ふ。これだけのことが行はれて居れば合格は疑ない譯である。今日まで以上四つの中でどれが一番不十分であつたかと云ふに實物を見てそのものの持つてゐる性質を見つける力が大分缺けて居る。第一の方は受驗者に對して今後力を注げなどいふ必要はない。苟も眞面目に試驗を受けようと思ふ人は本を比較したりいろ〳〵して割合によく出來る樣である。が第三の觀察力は最も大切であるから今後の受驗者は常から注意しておいて貰ひたい。これは試驗を受ける爲に非常に必要であるがそればかりでなく博物學の教師として働く上に大切である。教師に此の力が缺けておつては、生徒の觀察力を養ふなどと云ふことは出來ない。教師は生徒に何層倍もまさつた觀察力を持つて居らねばならぬ。かういふ考で本試驗には實物を見せて、觀察力を試驗しこれに最も重きをおいてをる。見せる品物は時には受驗者の見たことの無いものを出すこともあるが、この場合にはこれは何んだと云つて物をあてる樣なことはしない積りである。觀察力がどの位あるかといふことを見る爲めにその手段としてその物を出すに過ぎないのである。』と。以上の談話を一讀する時は實物試驗の本旨が極めて明かに分り、隨つて研究上の方針も自ら明瞭すると思ふ。

ロ　力の注ぎ所　參考書を讀み實物を研究するに當つて如何なる點に主力を注ぐべきかを知る時は無駄骨折を省いて大に能率を高めるとが出來る譯である。幸これに就ては谷津委員の談話があるからこゝに掲げて受驗者の參考に供しようと思ふ。委員曰く『豫備試驗の準備としては餘り細かいことを暗記して居るよりも、要點を覺えてゆくことが必要である。それからその中に出來ない問題がある場合に滑稽の歌などを書いて試驗委員を侮辱したものがあるけれども、さういふ風な者は以後完全な答案が出來ても教員になる資格はないと思ふ。次に實物の方では普通目に入るもの例へば生徒をつれて行つて野外で實地の說明等するに必要なものを覺えて居ることが必要である。何千尋の海の底やアメリカの南端にあるものを覺えて居ても、動物學としては面白いかも知れないが教へる方では餘り必要ないかと思ふ。動物の書物の方は澤山あつても實際實物に就て見る折が少いから餘程前から心掛けないと泥棒を捕えて繩をなふ樣なことになる。幸夏は八日一日から毎年三崎の臨海實驗所で實習會が開かれる小學教員中等教員の別なく博物を教へて居る教師なれば會員となることが出來、三週間實物に就て研究する折があるので海の動物等は一通の心掛けさへあれば見てしまふとが出來る。それから教へる爲めに動物を勉強するといふのでは不十分で、動物そのものに興味をもつて實際ナチユラリストといふ者にならなければならない。ごく始終目に觸れるものでも觀察してその習性、習性と構造の關係等を知ることが必要である或る點までは本で知識をふやすのが必要であるが、アガシーの云つた通り自然を學んで本を學ぶなといふことは試驗に合格して教員となつた後に必要なるのみならず試驗を受けるにも必要であると思ふ』と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

◎山烏吉五郎著　參考動物學講義　實文館

本書は中等教員のために中等教科書を詳解したものであるから、教科書研究後直ぐ入るによい。本書を精讀すれば動物學の基礎は大體に於て出來上つたものである。從來の合格者中にはこれを中心參考書とした者が少くない。

◎石川千代松著　動物學講義　金剌芳流堂

動物學研究者の見のがすべからざる參考書である。上中下三卷より成り、上卷は動物體の組織構造生理生態上の諸現象及び進化論、中卷は原生動物、腔腸動物、體腔動物、節肢動物、下卷は軟體動物以上を收めてある。本書を以て前書の缺を補ふならば十中の八九まで準備が出來るものである。

◎飯島魁著　動物學提要　大日本圖書會社

十有五年の苦心によつて成れるものであつて、邦語動物學書中の白眉である。合格者中には本書を十數回も熟讀反覆した人がある。非常に結構なことではあるが、文檢受驗の爲めにならば只參考として用ひるだけでよい。また本書を求めたならば前記石川氏著は無くも差支ないがその上卷だけは精讀しておく必要がある。

◎飯塚啓著「動物發生學」　博文館

發生學は豫備本試驗共是非精細に研究しておかなければならぬ。本書は從來の受驗者によつて最も多く讀まれたものである。

◎谷津直秀著　動物分類表　丸善書店

分類は學者によつて多少異るが受驗者は本書によるが宜しからう。分類の問題はしば〳〵出るから十分頭に入れておかなければならぬ。

◎田中茂穗著　普通動物圖譜　成美堂

是非備へなければならぬといふことはないが、これによつて普通動物の形態性情を調べておけば實物を覺えるに非常に都合がよいといふものである。

次に實驗に關する參考書としては

◎五島清太郎著　實驗動物學　金港堂
◎小貫桑名著　昆蟲採集製作法　成美堂
◎生熊與一著　動物標本及模型製作法　博文館
◎市村塘著　植物動物顯微鏡實習摘要　丸善書店

等がある。受驗者は此等の示す所によつて普通の實驗に習熟するでなければ合格することが覺束ないであらう。

更に次の三書は是非讀んでおかなければならない。

◎丘淺次郎著　最新遺傳論　六盟館
◎同　人　進化論講話　開成館
◎同　人　生理學講話　同上

何れも平易に書いてあつて極めて解し易い。但遺傳論はこれに代ふるに。

◎池野成一郎著　ローマ字實驗遺傳學　裳華房

を以てすれば一層結構である。

教授法では

◎棚橋源太郎著　新理科教授法　實文館

を一讀しておけば十分である。

尙平常『動物學雜誌』『理學界等』を購讀しなければならぬことは勿論である。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　實驗觀察を土臺とせよ　本科の研究は飽くまで實驗觀察を土臺としなければならぬことは前節に詳述せるが如くである。いまこれを裏書きするために僅々一箇年の準備を以て成功した某合格者のとれる研究法を掲げて見よう。彼曰く『私は參考書の研究と同時に自分で問題を作つて劃切な答案を書くことや、簡單な解剖圖模型圖を書くことをしきりと練習しました。この事は單に受驗といふ立場ばかりでなく實際

教壇に立つてから役に立ちます。受驗本位といふことは勿論ではありますが、實際の場合を考へつゝやるのでなければ眞の研究は出來ません。次に海岸へ出て砂を掘つて環蟲類を驚かしたり、朝晩ボートを浮べてはプランクトンを集めては檢鏡したりしました。これが又受驗に大變効能がありまして自信を得る一助となりました。由來動物といふ學問は實驗觀察を土臺とする科學でありますので、此の方面をそつちのけにした勉强は片輪の勉强と思ひます。文檢のみならずこれに類した受驗には机の上の研究と共に此の方面にも力を注がねばなりません。とかく此の方面が等閑に附せられて思はぬ失敗を招くことが往々あります。書籍ばかりではわかりかぬることが實物を見れば何の苦もなく一瞬間に問題は解決し、それが確實に頭にしみ込んで忘れ樣としても忘れられぬ樣になるのです。』と。受驗者は此の言を十分に味つて見なければならぬのである。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同問題の部を參照せよ

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

受驗者は出來るならば本試驗數日前に上京して、動物園、博物館、山越及び島津標本製作所等を參觀するがよい。學校も帝國大學と高等師範のほかは受驗者を喜んでもかへるからして時間がある限り參觀して出來るだけ多くの標本を觀察すべきである。

尙某博士が一合格者に與へた口答試驗に對する注意は一般受驗者の心得べきことで

あると思ふから左に摘錄しておく。

(1)確實な知識を持つてをるかどうかを試さるゝのだから分らぬことは知らぬといふがよい。決して嘘やでたらめを云つてはならぬ。

(2)十分落ちつくことが大切である。試驗されると思ふと氣がひけるから習ひに行くつもりで委員の前に立つがよい。

(3)よく〳〵觀察してその何類なるか特徴を確實につかんでから答へよ。くれ〴〵も輕卒な判斷をしてはならぬ。委員は一つは觀察の態度を檢するのである。九つ云ひ當てた人が落第して七つ當てた人が合格する樣なこともあつた。よく〳〵注意せよ。

(4)特徴の觀察が出來たら分類上の大きな所から答へるがよい。先づ門か綱を答へて次に尋ねられるまゝに詳細に答へる樣に心掛けよ。はじめから種名などをいふのはよく間違ひ易い。且その何故なるかを尋ねられた時に返答に困ることが隨分ある。

(5)豫備と關係ある問題を出されることも多いからこれも十分研究しておくことが必要だ。

以上のほか如何なる注意を要するかは、第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

第十六章　生理及衞生科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　衞生の成績が頗る不良　衞生が特に衞生として試驗科目に加へられたのは近年のことであり、隨て試驗の行はれた回數も少いのであるが今日までの所ではその成績が極めてよくないといふことである。卽ち北委員は下の如く述べてゐる。『生理の方は割合に知識があるが衞生に至つては頗る貧弱なものが多い。これは今までの師範學校其の他の教授が生理學の方面は比較的徹底してをるのに反して衞生の方面は不徹底であつたのと、參考書が同樣に生理學の方では醫者の讀む程のものでなくとも中等教員の參考書として適當なるものがあり又一種の書物に依て生理學一般の知識は得られる狀態であるが、衞生の方の參考書になると醫者の讀む樣なごく專門的のものかさもなければ全く素人の讀む樣な通俗的なものが數種あるのみであつて中等教員の爲めに恰好なものが少い。此等の點から生理よりも衞生の方が著しく成績が悪いのであらうと思ふ。此の點は受驗者諸氏には大に同情すべきところである。しかし同情と試驗の成績とは混同すべきものでないから、受驗者は衞生學の方面にかゝる困難があるとすれば以上はこの缺陷を補ひこの困難に打勝つだけの十分なる努力なり準備なりが必要である。』と。しかし編者から見れば次節に說くが如く相當によい參考書がないではない。それにも拘はらず上述の如く不成績なのは研究が不十分不徹底なために他ならないと信ずる。一般の奮發を望んで止まない。

ロ　生理の成績も案外によくない　生理はもと動物と一緒に試驗されたもので參考書も相當にあるから成績もよかりさうなものであるが、實際に於ては案外によく

ない様である。然らばどんな風に悪いか、受驗者はこれを村地委員の口よりきくことが出來る。委員曰く『自分は純粹の内科の醫者であつて生理學者ではない。その上に經驗もないことであるから問題の出し方も下手であつたらうし又自分の豫期して居つたことが間違つて居たのかも知れぬが、とにかく一般の成績は自分の期待と大に反して居つた。既に自分は前に云つて居る通り生理學者ではない。從つて從來の委員であつた大澤先生の様に深遠な生理の學說は知らう筈がなく只一般の生理衞生の事を知つてゐるに過ぎぬ。この自分の立場から云つても受驗者に對して深遠な生理上の學理を望みもしないし又望まれぬ譯である。加之自分の考へる所では中等學校で考へる生理衞生はさう深遠な學理を要求しては居らぬ。出來得る限り日常の實生活と接觸を保ちつゝ只生理衞生上の一般の概念を與へればよいと思ふ。乍併苟も檢定試驗を受けて中等教員たらんとする以上、たとへ說は新しくとも卽ちその發達の起りは新しく共一般に承認されてゐる學說はその概念だけは心得て居らねばならぬと思ふ。所が

答案を見ると新しい學說であつて或は困難でないかと思つた問題が、全然本を讀んでゐない人は別として多少とも正しく本を讀んでゐる人は比較的よく出來て居つた。例へば內分泌の問題の如きは存外成績がよかつた。之に反してこれは誰でも知つてゐるに違ひないと思つてゐた骨の組織などに對しては非常に不滿足な答案が多かつた。自分は意外に思はざるを得なかつた。又先般の試驗に大網膜に就てたづねた。眼の網膜と誤らない様に殊更に「大」を添へ原語をも加へて置いたに係らず眼の網膜と誤つて說明してゐる者があつた。而も眼の網膜としての說明それ自身も既に誤つてゐた者もあつた。卽ち誤の二重を見る至つては眞にその知識の淺薄を思はざるを得ないのである。事實受驗者の實力が不十分であることは事實である。例へば我々日本人の主食物は何かとたづねた場合卽座に米と答へ得る者は少い。しかし米と誰も答へ得る。米の主成分は何かと問ふ。澱粉と蛋白質と答へるものが段々に少くなつて來る。その外にと問ひつめると大方は窮してしまふ。水と答へる者は殆

ど無いのである。かくの如く吾々日常生活の直接關係する生理衞生の方面を疎にする様では生理衞生科本來の目的に添はないものと私は考へる。以上の試問の如きものは教科書にもあるから平易と思つてはならぬ。それが教師として知つてゐなければならぬ深さまで問ひつめて行くことを承知してゐなければならない。それから身體組織や榮養新陳代謝の方面も研究すべきである。』と。受驗者は尙次節に說く所を併せ讀んで如何なる點に主力を注ぐべきかを會得せらるべきである。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　一般的の事柄を的確に　本科の委員は受驗者に對して餘り專門的のことに深入りするよりは一般的の事柄を的確に知るべきことを要求してゐる。村地委員曰く『知識はたとへ深くなくて一般的であつても的確であつてほしい。人に敎へる以上なま半ばなうろ覺えの知識では困る。然るに一般に知つてをらねばならぬことに的確を缺いてをる答案が少くない。たとへば前年の骨の組織の所でハーフェルス氏管をハーフェル氏等と書いたのが隨分多數に見えた。中には原語を澤山並べてそれが間違つて居るといふ樣なものもあつた。要するに自分の望む所はさう高尙な事柄を澤山覺えて來るには及ばぬが一般に事柄は的確に覺えて貰ひたいといふ事である。それは學科そのものの特質から云つても又敎育者といふ點から云つても當然のことと思ふ』と。

ロ　實際に活用し得ねばならぬ　本科は實地の研究を要することは勿論であるが特に衞生に於ては本で學んだことを實際に活用し得るまでになつてゐることが肝要である。然るに此の方面が一般に忘られ勝ちである。村地委員曰く『書物は十分熟讀して先づ精確なる書物の上の知識を得ることは第一段に必要であるがしかしそれのみでは足りないのであつて、第二にはその精確なる知識を實際に活用するの程度まで進めておかなければならない。往々書物の上の知識としては何々の消毒には何々の藥を何倍にして使用するといふことは明かに知つても實際に實行さして見るとさつぱり分ら

ないといふ様なものがある。生理衛生の中特に衛生は机上の學問ではなく實行問題であるから此の點は受驗者の最も注意しなければならぬところである。』と。これは極めて僅かな手數で出來ることであるから今後の受驗者は是非實行してほしいものである。

ハ　衛生の參考書に就て

北委員は衛生の參考書選定に就て下の如く述べ素人選擇の危險なることを戒められてゐる。曰く『どんな物を讀んだならよいかといふに生理學には系統的なよいものがあるが衛生にはどうも適當なるものが得難い。現在醫者の讀む參考書としては數種あるが之を以て衛生の全部であると思ふのは誤つてゐる。醫學には分科が多く内科にしろ外科にしろ婦人科にしろその中に澤山の衛生學の問題が含まれて居る。而して固有の衛生學には他學に於て論ぜらるゝ部分を除き乃ち重複を避けて殘りの部分を取扱つて居る。隨つて醫者の讀む衛生學參考書は衛生の一部分を載せてをるに過ぎない。文檢受驗の衛生の研究には文部省の規定（中等學校生理衛生教授要目）に照合して研究しなければならぬ。たとへば醫者の參考書には救急處置疾病に對する心得傳染病の如きものは載つてゐない。又修學運動休憩等の如きものは之亦普通の衛生學の書物には少くして學校衛生の方面の參考中に多く載せられて居る。故に普通の醫者の參考書以外に文部省教授要目の生理衛生の内容をよく見てその項目に對する一通りの知識を得ておかねばならない。隨て普通の衛生の書物以外に種々のものを渉獵する必要がある。受驗者には迷惑なことであるが一種の參考書にて十分なものの無い以上、これに該當した種々の參考書を見るといふことは止むを得ないことである。それでは如何なる參考書がよいかとよくきかれるのであるが、大抵の參考書はその著者が知人であつたり又其他の關係もあつたりするので玆には具體的にいふことを差控えたい。しかし地方の專門家などに相談すればその選定に困難なる様なこともあるまい。しかし全く素人考へでの選定では思はざる不結果を來す様なことがないでもないと思ふ。』と。しかし受驗者は次節に示すところに從ふ時は

大過なきを得るであらう。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

◎永井潛著　新編生理衞生教科書　明治書院

◎井上金輔外三名著　生理衞生教育の理論及實際　大同館

前書は教科書中では記事が詳しい方で挿圖も多い。基礎を作るによい本である。しかし丘博士の教科書でも谷津博士の教科書でも決してわるいことは無い。後者も中々よい本で近頃は隨分讀まれて居る解剖の說明は專門醫學士井上氏が解いた慥かなものである。

◎大森千藏著　新編生理衞生學　南江堂

受驗者によつて最も多く讀まるゝ本である。記事詳細で解し易く、中心精讀書として好適である。次に

◎吉田章信著　運動生理衞生學　右文館

◎松下禎二著　新撰生理衞生學　裳華房

右の二書を精讀して前書を補ふがよい共に新說をとり入れ說明極めて明快である。以上三書によつて大體の準備は出來上るが。更に次の諸書を參考することが出來るならば一層心强からう。

◎松下禎二著　學校衞生講話　同文館

◎北豐吉著　學校衞生概論　右文館

◎山田董著　生理學粹　南江堂

次に解剖は

◎山田董著　解剖學粹　南江堂

◎今田東著　實用解剖學

のいづれかによつて實習し、更に

◎大澤岳太郎著　組織學講本

によつて顯微鏡的研究をやつておけば、はじめて準備が完成するのである。尚雜誌では『理學界』は必ず講讀するがよい。

二　如何なる研究法をとるべきか

第十四、第十五兩章の第二節の二を參考せよ。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を參照せよ

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及前諸章の同題目の部を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

本試驗數日前に上京して諸學校及び山越島津の兩標本製作所を參觀することは大に望ましい。尚第一章第二節及び前諸章の同題目の部を參照せよ。

第十七章　鑛物科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　**むづかしいものと思ひ過ぎる**　・　地方在住の受驗者はとかく實地の研究が不十分なところから試驗の際諸器械に接すると、たとへそれが極めて簡單な易いものであつても非常にむづかしいものと思ひ過ぎて固くなつてしまふといふことである。落ちついて見ればたとへ始めての品物であつても一度參考書で調べて置いたのならどうにか出來なければならぬ筈である。それがすつかりのぼせ上つて仕舞ふから出來るものも出來なくなると云つた譯である。何科の受驗に於ても同じことであるが殊に本科

に於ては落ちつきといふことがなければ必ず失敗するものと思はなければならぬ。

神保委員曰く『結晶の形を論じたり其の物理性が方向に依て異ることを理解するには方向といふことが分らんでは困る。又地層の走る方向にも磁石の見方が解らなくてはならぬ。然るに例年受驗者には磁石で方向を讀むことが甚しく困難なる人が尠くない。これは初めから難しいと思ふから難しいのであつて實はやさしいのである。中には太陽の輝いてをる時に日蔭がさすのを見て磁石の北と南とを分けることに一寸迷つた人さへある。その位簡單な受驗者もあるのである。それから地層の傾きを量る器械を見て非常に高尚なる器械を取扱ふ樣に重々しく考へる人は毎年であつて、年々同一問題を出しても此の器械の扱ひ方だけは之れに苦む人がその跡を絶たない樣である。これは非常に簡單な器械であるけれ共大層はじめから難しいと定め込んでゐるから難しいのである。此の馬鹿らしきやさしき問題は年々出すが格別その問題が受驗者にやさしくなつたことを認めぬ。要するにやさしいことを初めからむづかしい事と誤解してさ

つばりその問題に對して働きがなくなるといふことが受驗者の一つの病なのである。』と。

ロ　**暗誦本位で實物が分らぬ**　次に受驗者の缺點として擧ぐべきはその準備が暗誦本位で實地方面に甚だ暗いことである。佐藤委員はこれに就て『受驗者がどうも本當の事が分つて居らぬ樣に思はれる。たゞ教科書や參考書に書いてある事を暗記して來る者が多く實際の場合に遭遇し實物に就て本當に分つて居らぬといふことを感ずる。その一二の例をいつて見ようならば、地層の傾斜を假定したものを書かせて見ると單位を間違へる者がある。二十度を二度としたり三十度を三度としたりする。本當に分つて居れば位取りを間違へる樣なことはない。一寸見て二十度か二度か三十度かの區別がつく。それが器械ではかつて見て間違ふのであるから本當に分つて居らぬと云はねばならぬ。又吹管分析で鐵の反應を試驗する場合の表でも、酸化鹽の場合は黃還元鹽の場合は綠と書いて居ながら實際は出來て居らぬ。これは吹管分析の最も簡單なイロハとも云ふべきもので本當にやつて居れば譯のない問題なのであるが出來てをらぬ。要するに受驗者は實地の知識が足りないといふことが一言で云へるかと思ふ』と云はれてをる。

又神保委員も『受驗者は試驗準備に無駄な骨を折り無益の暗誦が多くして實物に對した時の活用が甚だ乏しいといふことが甚しく缺點と認められるのである。殊に結晶の形など見ることは暗誦ではとてもいけないことが多くて、又鑛物學の書物に暗誦本位の獨學者によろこばれて唯言葉の學問の樣になつてゐるのが少くない。たとへば八面體は三軸互に直交し各の面は正三角などいふが如き記事は、その記事を暗誦しておいて實物に當つて見るとそんな恰好のよい八面體は殆ど一つも天然の實物にはなく、又軸は數學上の計算をする時に必要のものであるけれども實際に標本に於て見ることが出來ないものであるから、此等の暗誦家はさつぱり實物を認定することが適切でない。又八面體の劈開といふ言葉があるが、劈開といふ言葉はその結晶をこはして八面

體の形になるといふ意味ではなくて、八面體の面が走る四つの方向に平行してさける
といふ意味である。卽ち互に凡そ一〇九度の角をなす諸面に平行してわれるといふ意
味である。とかくに圖にない様な結晶や對照や劈開や光に對する性質などが方向に因
て異るといふとが大層受驗者を苦しめる様である。結晶の軸は結晶の中心を通つてる
といふ理想上の規則正しき結晶形の圖の様な迷信も早く去らねばならぬ。結晶軸とい
ふは方向の觀念である。一定の點を通過した三つ又は四つの線と思つてゐては結晶學
の根底がなくなるのである。それから顯微鏡の使ひ方は最も迷惑なることであると見
える。少しく形の變つた顯微鏡を出して其の使方を受驗者に工夫さして見るとその受
驗者の知慧の程度が著しくわかる。吹管分析のことも熟練してゐない人がある。此等
は一寸書物を讀んだゞけでは分らないことだから、少々ばかり實地指導をして呉れる
深切の人を探し得ねば困るのは無理のことでない。次に地質斷面圖の實地問題に就て
は三省堂の地質學などにも一寸載つてゐるが實習して來ない人がある様である。』と詳
細に批評し且指導して居られる。

二　受驗者に對する注意と希望

神保委員は此の科研究上必要なる基礎學科と一

イ　基礎學科と參考書に就て

部分の參考書に就て有益なる注意を與へられてゐる。曰く『鑛物を受ける人の困るこ
とは下讀をする準備のないことでせう。參考本と云つて何々を見よといふことは出來
ないから受驗者が色々その道の人に尋ねるとか自分で選定して見るより外に仕方が無
い。それから此の學問は化學物理數學の立體或は地質のことを知つておく必要がある
殊に化學の素養がなければならぬ。何となれば此等の學科は鑛物學をやるに頗る密接
なる關係を有して居るからである。尙日本の鑛物に關しては和田維四郎先生の日本鑛
物誌といふのがある。結晶を圖にかくことは受驗者は一般に不完全であるけれども、
日本鑛物誌をよく見てその結晶の圖を調査したならば大分上手になるだらうと思ふ。

それから廣瀬氏の結晶圖法といふ書物はまだ餘り知らない人かある様である。それから此の學科を研究するに外國語の力が必要かと云へば、有つて居れば結構だが當分此の試驗には先づ外國の本や雜誌を見なくても日本で出來た本を渉獵して研究すれば受驗が出來る。日本で雜誌としては先づ「地質學雜誌」を推さなければならぬ。これは明治五六年頃から出た雜誌で日本では良い方の雜誌である。讀んでおくべきであらう。」と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

◎石川成章著　鑛物學　大日本圖書會社

中等教科書二三種を精讀せる後本書を熟讀し、更に

◎佐藤傳藏著　大鑛物學　六盟館

を精細に研究するがよい。本書がよく頭に入つておれば近年の文檢問題の大半を解答することが出來るであらう。

◎和田維四郎著　日本鑛物誌　丸善書店

◎比企忠著　日本鑛物各論　弘道館

鑛物學の一般的概念が出來上つたならば次には日本の鑛物を特に念を入れて研究しなければならぬ。和田氏の日本鑛物誌は諸學者の推賞する純學術的研究で非常に有益なものであるけれ共、中々手に入れ難い。しかるに北企氏の日本鑛物各論はこれを簡略にせるが如きもので十分信賴し得る良書であるから、一般受驗者はこれによるがよからうと思ふ。

◎比企柴田共著　近世應用鑛物學精義　積善館

◎岩崎重二著　實用鑛物學講義　內田老鶴圃

次に此の兩書によつて實用方面の研究をする。前者は鑛床學に於て、後者は結晶半面像の說明に於て殊にすぐれてゐる。此の兩書をしつかり研究すれば應用方面は申分が無い。

◎山崎直方著　岩石學教科書　金港堂

本書もまた必ず精讀しなければならぬ。岩石學教科書としては現在に於ては只本書あるのみである。しかしその地質學的記事は少々不完全であるから、それは次の何れかによつて補はれなければならぬ。

◎神保小虎著　日本地質學　金港堂

◎佐藤傳藏著　地質學　博文館

兩書共新しくはないが十分參考すべき價値を有つてゐる。

以上の諸書の研究と同時に次の二書を指南として十分に實驗をやらなければならぬ。

◎廣瀨歸芳著　實驗鑛物學　大日本圖書會社

◎岩崎重二著　實用鑛物岩石鑑定表及吹管分析表　內田老鶴圃

前者は鑛物全般の實驗法測定法を說き、後者は鑛物岩石の鑑定法を示せるもので、共に此方面の一參考書である。

鑛物の受驗的研究は以上を以て大體完成する。更に次の諸書を涉獵する時はその知識を一層確實にして豐富にすることが出來るであらう。

◎橫山又次郎著　古生物學　富山房

◎石川成章著　地球發達史　大日本圖書會社

◎安東伊三郎著　鑛物界の現象　光風館

橫山氏の著は化石動植物の全體に亙つて說明せるもので地質學研究上の好參考である。石川氏著は地球の生成發達を簡明に叙述せるもので、鑛物學研究者の參考となる點が少くない。最後の安東氏の鑛物界の現象は上下二卷より成り、上卷に於ては日本

鑛物の學術上經濟上著明なるものの用途及び地質學上著名なるものの現象を說き、下卷に於ては世界の有用鑛物について說いてある。極めて通俗的な本であるが一讀の價値は十分にある。頭の疲れた時ねころんで讀んでおくもよからうと思ふ。

本科研究者によつて最も廣く讀まるゝ雜誌は『地質學雜誌』及び『理學界』等である

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　參考書の研究　參考書の研究法に就ては第二章第二節の二及び前諸章同題目の部を參照せよ。

ロ　實地の研究　鑛物學の實地研究は或る程度までは專門家の指導を受くることが必要である。全然獨習で出來ぬことも無いが中々困難である。しかし終局に於ては自己の努力如何にあることはいふまでもない。某合格者は專門家の指導を受くると共に、努力を以て如何に實地研究に努力したかを下の如く述べてゐる。曰く『私は外に出でゝの研究は大抵日曜や夏冬の休暇を利用した。或る日曜には近郊に出て岩石を採集したこともあり、或は土地の石油や煉瓦會社石綿會社等にゆきその材料の俗稱や產地品質の良否加工上の難易等問ふたこともあつた。又生徒の宿泊旅行に附添ひとして行つた際には、その地方の地質圖を用意して出來得るだけ觀察採集につとめた。次に博物科は何れの分科でも顯微鏡の必要なるは勿論であるが、殊に鑛物の研究には鑛物用顯微鏡で觀察する必要がある。幸我校には一臺の備付けがあつたゝめ生物顯微鏡では觀察の出來ぬ多色性や干涉色消光位消光角等の光學上の諸性質を觀察するを得て書物上の記事のみでは解し難いことも幾分多く了解することの出來たのは好都合であつた。その他吹管實驗濕法實驗もこれ迄に試驗問題に上つたもの及び平易のものに就ては一二回つゞ試みた。』と。何人もこの程度の努力をしなければ合格することは出來ないと思ふ。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を見よ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び前諸章の同題目の部を見よ

五　口答試驗に對する準備と注意

本試驗數日前に上京して帝室博物館、農商務省鑛物陳列所、山越島津兩製作所等を參觀することは受驗上極めて必要である。尙第一章第二節及び前諸章の同題目の部を參照すべし。

第十八章　理　科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ書物學問に過ぎる　本科はその性質上飽くまで實物實驗に立脚しなければならぬことは云ふまでもなく明かであるが、實際の試驗成績を見るとまだ〳〵書物學問が勝ち過ぎるといふことである。これ年々受驗者の增加するにも拘はらず合格者が依然として少數なる理由である。受驗者にとつては實物の研究や實驗やは極めて厄介なことには相違ないが、苟くも合格を目的としての研究なる以上はあらゆる困難を排してこれをやり遂げなければならぬ譯である。受驗者は棚橋委員の『受驗者の準備上遺

慨に思ふことは書物學問がなた〳〵勝ちすぎてゐる事である。學科の性質として理科の如きは實物實驗の學であるから、いま少し實物實驗の方面に於て教師として必要な修養をして貰ひたい。然るにその修養が足らぬ。筆答試驗の場合は相當よき成績を擧げた者も、實物を見せ實驗器械を取扱はせ教授上必要な技量を試して見ると慨に意外に感ずることが多い。それで書物上の準備研究は常に實物實驗と連絡してやつて貰ひたい然るに此の方面の修養は多くは獨學では困難であるから、中等學校の理科教室に出入するとか或は生徒の野外旅行とかに加はる様にして實際的の修養をすることが大切である。いま一つ必要なるは理科の教師として立つて教授上必要な設備器械標本參考書の類並に之れを教授上に適當に利用することに就て知つておくことが大切であるといふことである。例へば博物教授用として現にどういふ掛圖の類が販賣せられてゐるか知つてゐる者が少い。顯微鏡には内國製外國製に如何なるものがあるか教授上には如何ほどの倍力が必要か、此等に就て知る所が甚だ少い。これは教師としてたしかに一つの資格を缺いてをる者である。それで實際的の準備と云はうか、實驗のみならず中等學校に於ける理科室の設備といふことに就ても相當に準備し研究しておくことが必要である。』といふ注意を看過すべきではない。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　必要なる準備　近藤委員は本科受驗者は如何なる方面のことを如何なる注意を以て研究すべきかを懇切に説示してをられる曰く『理科の受驗者も年々增えて來る様子であるが依然合格者の歩合が少い。これは一つには方面が廣いがために程度は高くないけれども受驗者に骨が折れるといふ事もあるであらう。せめて二つにでも分れてをつて、物理化學の方面と博物の方面と二度にでも受けられる様な制度にでもなつたなら、受驗者も便利であらうし又試驗する人の方から云つても好成績の者が得られてよいだらうと思ふが今の處まあ止むを得ない。そこで私の試驗委員としての考で

は、女學校の理科の教師となるには必ずしも深い學問的の知識を是非具へなければならんといふこともないから、問題の如きも思切て平易なものにして中等學校程度の教科書が十分に理解せられて應用も利くといふ風になつて居ればそれでよい事と考へて居る。但教師となるといふには教科書にある骨になる事柄ばかりを理解して居るからそれで十分だといふのでなく、その知識がよく實際の世の中と連絡をもつてをつて自然界の現象なり工業界の問題なりに當嵌つて活用が出來る様でなくては優良な教員となる譯にはゆくまい。其の上に又實驗を巧にやり遂げるといふ技量も具へて居らねばならぬ。數年來の經驗によるとどうも此の點に於て著しく不滿を認められる。これは適當な參考書もなく又器械藥品等に觸れる機會を得る事が少いから、自然準備の方法に窮しての結果であらうが誠に殘念な次第である。それから又どういふ參考書を調べたらよいかといふ質問は諸方から受ける所であるが自分はいつも次の様に答へてをる。理論の方面としては中等程度のよい教科書を十分に讀みくだいて徹底的に解することが必要である。別に特別な參考書を求めないでもよからうと思ふ。それから實驗の技量を養ふとか若くは實際の世の中にその知識を應用するとかいふ方面の準備に關しては、自分の知る所ではこれがよからうと推薦する様な書物も知らないから、なるべく中等程度の理科教室に出入する機會でも得られる様にして、實地上の技能を磨き又應用の才を養ふといふ事をはかるがよい。』と。此の言に從て準備を進むる時は大過なきを得るであらう。

ロ　家事的に研究せよ

棚橋委員は以上の注意に加ふるに特に女學校の理科は家事的でなければならぬといふことを述べてゐる。曰く『僕は女學校の理科は家事的でなければならないと思ふ。理科が家事の土臺になるやうであればよい。例へば肴を切つてそれを水に入れるとどうして惡るいか。肴を水に入れゝばその成分の蛋白質が溶け出すからであるといふことや、肴を燒くに蛋白質が無くならない様にするには一遍強い火にかけてから燒くがよいとか、鍋や金盥に赤錆綠青の出るのはどういふ譯か

といふやうな事柄は皆理科で說明が出來る。化學で敎へられる。かういふ風に家事科の基礎としてやるやうでなければならない。今度も此の意味で試驗をした。此の事は是非受驗者が注意してほしい』と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【植物學】

◎安東伊三郎著　師範敎育植物學敎科書　寶文館

現行敎科書なら何んでもよいが受驗用としては本書が最好適である。本書を徹底的に研究すれば植物の準備は過半出來上つたものである。受驗者は本書中の實驗も一應して見ることが必要である。

◎齋田佐藤共著　參考植物學講義　寶文館

中等敎員の敎授參考用として編著されたものであるから、中等敎科書研究後直に入るによい。插圖も頗るよく出來てゐる。徹底的の研究を要する本である。

◎市村塘著　綱要植物學講義　光風館

記述が要領を得てゐるばかりでなく比較的最新の事實を網羅してゐるから、本書によつて前書を補つておくがよい。しかし參考用として見るだけで十分であらう。

◎松山亮藏著　生物界の知囊植物篇　中興館

應用方面の記述がよく出來てゐる。本科の如く應用を主とする學科の參考書としては實に好適で、年々の植物の應用的問題は大抵これによつて解釋が出來るといつてよい。必ず見ておくがよいと思ふ。

次に植物採集の參考書としては

◎齋田佐藤共著　內外實用植物誌

大日本圖書會社

◎同　人　最新圖說　内外植物誌

◎東京博物研究會編　植物圖鑑

等が最も廣く行はれてゐる。最後の本は多少の缺點はあるが本科受驗者にとつては一番手頃であらう。

又顯微鏡は本試驗には必ず出るから是非研究しておかなければならぬ。それには

◎市村塘著　動物植物顯微鏡實習摘要　丸善書店

といふのがあるから、それによつて實地練習を積んでおくがよい。

【動物學】

◎安東伊三郎著　師範教育動物學教科書　寶文館

本書は前揭植物學教科書同樣非常によく出來てゐる。これを徹底的に研究すれば動物學の準備は大半出來上つたといつてもよい。附錄の動物實驗は是非やつておかなければならぬ。

◎山鳥吉五郎著　參考動物學講義　寶文館

中等教師の教授參考書であるから、前書を補ふに都合がよい。進化論の大要も手際よく說いてある。

以上の二書に加ふるに次の三書を以てすれば筆記試驗に困るやうのことは萬々なからうと思ふ。

◎石川千代松著　動物學講義　金剌芳流堂

◎松山亮藏著　生物界の知囊動物篇　中興館

◎小貫桑名共著　昆蟲採集製作法　成美堂

石川氏著は動物學中の權威で大部のものであるから本科受驗者は只前書の不十分と思ふ所だけを本書によつて確かめれば十分である。骨折つて全部精讀するには及ばないがかゝる大著述を坐右に備へて常に疑問をただすことは極めて大切なことである。松山氏著は植物篇の如く應用方面の記述がすぐれてゐるからして、本科受驗者は

是非見ておかなければならぬ。最後の昆蟲製作採集法は昆蟲製作以外に關しても有益なる知識を與へる好著である。昆蟲に關する問題は毎年大抵出ないことが無いから見ておくがよからうと思ふ。

次に實物研究の指針としては既出市村氏の顯微鏡實習摘要のほかに

◎田中茂穗著　普通動物圖譜　成美堂

を備へるがよい。動物科の部に於て述べた通り普通動物の形態性情を知るに極めて便利な本である。

【生理衞生學】

◎永井潛著　新篇生理衞生教科書　明治書院

中等教科書中では程度が高く最新の研究も記してある精密なる插圖の多いのは獨學者にとつて極めて便利である。本書を十分精讀して次に

◎大森千嶽著　普通生理衞生學　南江堂

◎井上金彌外二名著　生理衞生教育の理論及實際　大同館

に入るがよい。內容豐富にして而も解し易く受驗用としては絶好のものである。尙本書及び前書中の生理實驗は必ずやつておくべきである。

生理衞生は以上の二書でほゞ十分であるが更に

◎北豐吉著　學校衞生概論　右文館

◎松下禎二著　新撰生理衞生　裳華房

を通讀して前書を補つておけば一層結であらう。」

【鑛物學】

◎稻葉彥六著　鑛物學教科書　光風館

鑛物は本書を精讀してその實驗までやれば八九分の準備が出來上る。あと一二分のところは次の書によつて補ふがよい。

◎比企柴田共著　近世應用鑛物學精義　積善館

◎安東伊三郎著　鑛物界之現象　光風館

兩書共實用的應用的方面の事實を述べたる良書である。後者は統計などに多少古い點があるけれども通俗で解し易い。

【物理學】

◎近藤耕藏著　新編物理學教科書　目黒書店

本書を十分精讀して實驗も行ひ確實なる基礎を作るがよい。

◎森總之助著　物理學講義　積善館

中等程度の物理學を詳細に說明せるものである。前書に次で精讀し問題は必ずやつておくがよい。

◎近藤耕藏著　日用物理學講義　光風館

普通の物理書にあることは大體省略してあるが實際生活に關係ある事項はまことによく說明してある。本書によつて解答し得る問題の出ることが少くない。受驗者必讀の良書である。

◎近藤耕藏著　電氣學講義　光風館

前諸書にあまり詳しく說明してない交流に就ての說明が數學を使用しないで分り易く書いてある。今日に於てはやゝ古い點もあるが一讀して前諸書を補ふだけの價値は十分にある。

◎服部春之助著　物理化學計算法要義　光風館

本書の物理の部の計算問題は是非しておくがよい。しかし類似の書は澤山あるから是非本書によらねばならぬことはない。

◎友田鎭三著　物理學實驗法　開成館

この本によつて中等學校に必要な諸器械の使用法を練習しまた實驗をやつておくことが必要である

【化學】

◎近藤耕藏著　化學教科書　光風館

基礎的參考書として好適である。反覆熟讀するは勿論書中の實驗も是非やつて見ておくことが必要である。

◎高田德佐著　理論實驗化學講義　光風館

中等學校の教授要目によつて講義せるものであるから本科受驗者には好箇の參考書である。本書の問題を全部やつておけば別に計算問題の參考書を求めるに及ばないと思ふ。

◎近藤耕藏著　日用化學講義　光風館

日常起り來る化學現象に平易明瞭なる說明を與へたものである。年々本書によつて解答し得る問題の出ぬことはないやうである。書中の實驗も出來るだけやつておくがよい。

◎早稻田同文館　最近理化學の進歩　早稻田同文館

尙本書を一讀して最新の知識を得ておけば頗る結構である。次に

◎龜高德平著　普通教育化學實驗教科書　開成館

中のものは出來るならば全部やつておくがよい。

ト　其　他

◎棚橋源太郎著　新理科教授法　寶文館

◎同　人　博物實驗室案內　同　上

本科は他の諸科よりも教授法を重く見る樣であるから、この二書を十分に研究しておくがよい。前書は教授法の理論を說けるものであり、後者はそれを具體的に示せるものである。

尙教授法の問題に的確なる答をなす爲には小學校に於てどれだけの事を教へてあるかを知つてゐることが必要であるから

◎文部省著　小學校理科教師用書　教科書販賣所

を通讀しておかなければならぬ。」

雜誌としては

◎理學界

は是非購讀すべきである。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　**研究上の四大綱領**　某合格者は本科研究の眼目に就て次の如く述べてゐる。受驗者の服膺すべき言であると思ふ。

理科は云ふまでもなく高等女學校の理科教員たるの資格ありや否やを試驗されるのであるから、準備をするにもこれを以て標準とせねばならぬ。理科は中々範圍が廣いから一部に偏してはならぬ。又程度の高い本は決して讀まぬがよい。中等程度の本だけでも約四十冊ある。それを熟讀して應用自在なるに至るまでいも並大抵のことではない。程度の高い本には有名なのもよいものも幾らもあるのであるがそんなものを一々讀んでゐてはとても間に合はぬ。大體中等程度の本に精通すれば從來の問題は大抵解答がつく。さうなれば受驗する資格は具はつたものである。近藤委員は理論の方面は中學校師範學校等の教科書にのせてある程度のことだけを十分徹底して理解して居れば先づ良いと思ふ。次には受驗者がその知識を吾人の日常生活上の諸問題に活用し得ることが大事であり、その次には本當に實驗の出來る技能が必要であるといはれ、又受驗準備としては自己の實力とあまりにかけはなれた六づかしい參考書を無暗に讀破するよりは中等程度の教科書につき各方面より徹底的に咀嚼了解し、その上十分實驗に熟達してその知識を應用自在の域に至らしむることを期すべきであるといはれたそうである。私が千言萬語するよりも何よりも大に玩味すべき又指針とすべき言であると思ふ。要するに本科の研究は次の四大綱領に歸着せしめ得べきものと思ふ。

(1)　深く研究する必要はない。十分確實に理解しおくこと。

(2) 日常生活に關係深き卑近の事項に特に留意すること。」
(3) 實驗に通じ實物につき研究すべきこと。
(4) 教授法につきてもよく研究しおくべきこと。

ロ　實地方面の研究に就て

博物及び物理化學の研究法に就ては前諸章に於て、既に述べたけれども、本科はそれらの諸科と程度を異にするから、どれ位の程度までの研究を必要とするかを合格者の經驗によつて記して見よう。

(2) 植物の採集

植物の採集は本科の研究に着手すると同時にはじめなければならぬ。機會ある毎に極めて普通なもの特に重要なるものといふ標準で採集して見ればよい。特に長時間を費して高山に登る様な必要はないと思ふ。旧舍の人であれば學校へ往復の途次路傍の植物を採集し又植木屋などへ行つて少しつゝ摘まして貰へばよからう。かくの如くすれば材料を得ることは決して困難ではない。採集せるものはその種名と科名とを覺えねばならぬ。これは四五十も集めて土曜か日曜かに中等學校の先生に問ひに行く。何も知らぬ人であつたならば四五十位集めるのは二三時間の手間だ。標本などを製するのは手間だから先生に名をきいて書きつけて戻つたら、英語のカードを繰つて暗記する様に幾回となく繰返し繰返して覺え込む。そして覺えたならば、東京博物研究會編『植物圖鑑』に印をつけて試驗前の復習に便するがよい。かくて三百近くも覺えるとひとりで上の本によつて捜索し得る様になるがやはり問ふ方が近道だ。植物の採集は一年中に亙らねばならんのだから先に述べたやうに研究に着手すると同時にはじめなければならぬのである。

(2) 動物の採集

動物は採集せんでもよいと思ふ。先づ中等教科書を十分に研究したならば小學校にある繪畫標本等から覺えはじめる。先に教科書で覺えて居るのだからこれは極めて雜

作ない。それがすめば中等學校のを見にゆく。三日位日曜を費して繰返し繰返し見ると重要なものは大抵覺えられる。

(3) 動植生理の實驗

植物は既記安東氏の教科書にあるものだけをやつておけばよい

動物の實驗は安藤氏の教科書の附錄の分だけ位でよいから是非やつておかねばならぬ。

生理衞生は既記永井氏の教科書にあるものをやつておけばよい。

(4) 顯微鏡

參考書は色々あるが教へて貰ふのが一番近道だ。極く平易なところ例へば葉や莖の薄片の製し方、ばくてりあのプレパラートの製し方位でよからう。四五時間も費せばこれ等全部を教へて貰ふことが出來る。その他は中等教科書にあるプレパラートをかりて二三回位づつ見ておけばよい。

(5) 鑛物

鑛物では實物の鑑定が大切である。試驗では普通のものばかりで大して困難のものは出さぬやうである。けれども岩石の鑑定など一通り普通のものは出來るやうにしておきたい。砂岩凝灰岩、粘板岩や安山岩と粗面岩など大體見分けのつくやうにしておきたいものである。そして岩石の薄片を顯微鏡で見てその成分鑛物を見分けることなど練習出來れば申分がない。

(6) 物理

近藤氏の教科書中にあるものを實驗しておいたゞけで十分である。なるべく小學校の機械で間に合せ、それで足らぬ所だけ中等學校の御厄介になればよい。又本で讀んだ所の機械類は實驗はせずとも見るだけでもしておくとよい。これも本の方が十分に出來て居れば一二日中等學校の物理室を參觀すれば大抵出來るであらう。

(7) 化學

近藤氏の化學教科書と日用化學講義中の重なるものは必ずしておくがよい。これも大部分は小學校で出來ると思ふが、出來ないものは一二回中等學校に足を運べば間に合ふと思ふ。

(8) 生徒實驗の研究

生徒實驗のことは時々試驗に出るから、教科書を讀む時に、これは生徒に實驗せしむべきか、若しせしむるとすれば如何なる方法にてせしむべきか、を考へながらよむべきである。

三 時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を見よ。

四 筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び前諸章の同題目の部を見よ。

五 口答試驗に對する準備と注意

本試驗數日前に上京して植物園動物園博物館各製作所等を參觀する必要あることはいふまでもない。其の他第一章第二節及び前諸章の同題目の部を見よ。

第三節 師範學校中學校物理及び化學實驗要目

本要目は大正七年文部省より全國中等學校に配布せるものであつて、物理、化學及び理科擔任教員並にその受驗者の必ず一讀を要するものである。然るにこは官報に掲載せられたるほか全國中等學校に配布せられたのみであつて一般受驗者の容易に見るを得ざるものであるからここに採錄することにした。物理科、化學科及び理科受驗者の必讀を望む。

一　文部省訓令第一號

文部省は本要目を配布するに當つて大正七年二月五日附を以て次の如き訓令を發した。すべて片假名であるが便宜平假名に代へたのである。

理化學の研究を奬勵し其の知識の普及を圖り、以て殖產興業其他苟も國力の充實に資すべき事業の健全なる發達を期するは實に今日の急務たり。各學校に於ては固より夙に此の趣旨に基き理化學教授に努むる所ありと雖も、國家の將來に稽ふれば、一層其の教授方法を改善し特に重きを實驗に置き、努めて形式に流れ注入に陷るの弊を防ぎ、以て國民生活の實際に適切なる知識技能を確實に會得せしめ、兼て獨創自發の精神を涵養せんことを要す。

此の目的を貫徹せんがため、師範學校中學校に於ける物理及化學の生徒實驗に關する設備に對し、國費を支出して其の完成を助くると共に茲に該科生徒實驗要目を制定せり。

地方長官は宜しく各學校長を督勵し本要目に準據して生徒に實驗を課し以て理化學教授の效果を完うするに於て遺憾なきを期せしめらるべし。

二　師範學校物理及化學生徒實驗要目

イ　本要目實施上の注意

一、本要目に揭げたる事項及其の順序は、學校の設備其の他の事情に依り適宜斟酌を加ふるも妨げなし。

二、生徒の實驗は教授と相關聯して課するを可とす。

三、危險の虞ある實驗及劇藥毒藥等の取扱は、生徒の實驗に習熟せざる時期に於ては、成るべく之を避けしむべく、又之を課する際には特に周到なる注意を要す。

四、火災の危險並生徒衞生上の危害の豫防に就ては設備上に十分なる注意を拂ふべ

し。

ロ　物理——男生徒の部

長さの測定　體積の測定　水の深さと壓力との關係　アルキメデスの原理
固體の比重測定　液體の比重測定　ボイルの定律　フックの定律　力の能率
力の平行四邊形　重心　振子　重力の加速度測定　寒
暖計の二基點の檢査　膨脹　蒸發及露點　濕度と蒸氣張力との關係　固體の
比熱測定　寒劑　音の速さの測定　氣柱の共鳴附波長及音叉の振動數測定
光度の測定　平面鏡の像及反射の定律　凹面鏡　屈折率測定　凸レンズ
蟲眼鏡の倍率測定　レンズの組合せ　スペクトル　磁石　靜電氣　電
池附電動力　電流と磁石との關係　ソレノイド及電磁石　オームの定律及導線
の電氣抵抗　感應電流　電流の發熱作用附ジュールの定律　電燈　ダイナモ
及モートル　簡易蓄電池の充電と放電

本科第一部に於ては以上の外更に小學校理科教授上必要なる實驗及器械製作を課すべし。

本科第二部に於ては本科第一部に準じて小學校理科教授に必要なる實驗及器械製作を課すべし。

ハ　物理——女生徒の部

男生徒の部に準ず。

ニ　化學——男生徒の部

硝子細工及コルクの取扱、水の濾過又蒸溜　固體の溶解及溶解度　金屬を空中にて熱する時の變化　空氣の組成　酸素の製法性質　水素の製法性質　鹽化水素の製法性質　酸鹽基、酸と鹽基との中和、鹽　無定形炭素焔　無水炭酸の製法性質　燃燒並呼吸によりて生ずる炭酸瓦斯　硫黄　硫化水素の製法性質　無水亜硫酸の製法性質　硫酸　鹽素の製法性質　臭素及沃素の製法性質

アムモニヤの製法性質　硝酸　燐及燐酸鹽　無水亞砒酸　電解質と非電解質
複分解に於ける化學的平衡　重炭酸ソーダ及炭酸ソーダ　灰汁より粗炭酸カリの
採取　酸素の二二・四立の重量　炭酸石灰生石灰消石灰石灰水　硬水軟水
漂白粉漂白　アルミニウム明礬　水素とマグネシウムとの化學當量　亞鉛及其
の重要なる化合物　鉛及其の重要なる化合物　鐵及其の重要なる化合物　銅硫
酸銅結晶水　水銀及其の重要なる化合物　硝酸銀電鍍　白金の接觸作用　普
通金屬のイオン化傾向の比較　焰色反應及還元に依る金屬の檢出　主なるイオン
の檢出　飲料水の檢査　木材或は石炭の乾溜　アセチレン　澱粉及糖類
アルコール　食酢及果實中の酸の定量　エステル　脂肪油及石鹼汚點拔き
衣服の材料　蛋白質の反應　牛乳の主要成分　小麥粉の主要成分　茶の主要
成分　黑色インキ　藍及アリザリン　簡易なる染色

本科第一部に於ては以上の外更に小學校理科教授上必要なる實驗及器械製作を課す

ぺし。

本科第二部に於ては本科第一部に準じて小學校理科教授に必要なる實驗及器械製作を課すぺし。

ホ　**化學——女生徒の部**

男生徒の部に準ず

三　中學校物理及化學生徒實驗要目

イ　**本要目實施上の注意**

一、本要目に掲げたる事項及其の順序は、學校の設備其の他の事情に依り適宜酌酌を加ふるも妨なし、但事項の省略をなす場合に於ては*印を附したるものの中より之をなすぺし。

二、生徒の實驗は教授と相關聯して課するを可とす。

三、危險の慮ある實驗及劇藥毒藥等の取扱は、生徒の實驗に習熟せざる時期に於ては成るべく之を避けしむべし、又之を課するには特に周到なる注意を要す。

四、火災の危險並生徒衞生上の危害の豫防等に就きては設備上に十分なる注意を拂ふべし。

ロ　物　理

長さの測定　體積の測定　水の深さと壓力との關係　アルキメデスの原理　固體の比重測定　液體の比重測定　ボイルの定律　*フックの定律　*力の能率　力の平行四邊形　*重心　斜面附仕事の原理　振子　*重力の加速度測定　寒暖計の二基點の檢查　膨脹　蒸發及露點　溫度と蒸氣脹力との關係　固體の比熱測定　寒劑　*音の速さの測定　氣柱の共鳴附波長及音叉の振動數測定　*光度の測定　平面鏡の像及反射の定律　*凹面鏡　屈折率測定　凸レンズ　虫眼鏡の倍率測定　レンズの組合せ　スペクトル　磁石　靜電氣　電池附電動力　電流と磁石との關係　ソレノイド及電磁石　オームの定律及導線の電氣抵抗　感應電流　*電流の發熱作用附ジユールの定律　*電燈ダイナモ及モートル　*簡易蓄電池の充電と放電

ハ　化　學

硝子細工及コルクの取扱　水の濾過及蒸溜　固體の溶解及溶解度　*金屬を空氣中にて熱する時の變化　空氣の組成　酸素の製法性質　水素の製法性質　鹽化水素の製法性質　酸鹽基酸と鹽基との中和、鹽　無定形炭素　煙　無水炭酸の製法性質　燃燒並呼吸に依りて生する炭酸瓦斯　硫黄、硫化水素の製法性質　無水亞硫酸の製法性質　硫酸　*鹽素の製法性質　*臭素及沃素の製法性質　アムモニヤの製法性質　硝酸　*燐及燐酸鹽　*無水亞砒酸　*電解質と非電解質　*複分解に於ける化學的平衡　重炭酸ソーダ及炭酸ソーダ灰汁より粗炭酸カリの採取　*酸素の二二・四立の重量　炭酸石灰生石灰消石灰石灰水

硬水軟水　漂白粉漂泊　*水素とマグネシウムとの化學當量　*亞鉛及其重要なる化合物　鉄及其の重要なる化合物　銅硫酸銅結晶水　水銀及其の重要なる化合物　硝酸銀電鍍　*白金の接觸作用　普通金屬のイオン化傾向の比較　焰色反應及還元に依る金屬の檢出　*主なるイオンの檢出　木材或は石炭の乾溜　アセチレン　*飲料水の檢出　*食酢及果實中の酸の定量　エステル脂肪油及石鹸　澱粉及糖類　アルコール　*牛乳の主要成分　*小麥粉の主要成分　衣服の材料　蛋白質の反應　*茶の主要成分　黒色インキ　藍及アリザリン　*簡易なる染色

四　中學校物理及化學教材中省略し得る事項

イ　中學校物理教材中省略し得る事項

(1)　力及物性——剛體に作用する力の着力點の移動、剛體に作用する平行力合成の數學的證明　天秤　臺秤　遠心力の定義　時計　拋射體の數學的取扱　水壓器　晴雨計により山の高さを測ること　水銀ポンプ　押上ポンプ消火ポンプ擴散滲透吸收溶解

(2)　音——音階　音の調和　人の音聲及音樂に用ふる音の振動數　サイレン板、膜、棒及鐘の振動

(3)　熱——華氏寒暖計　最低寒暖計　補整振子　融解點と壓力との關係　氣體の比熱

(4)　光——小孔によりて生ずる像　二枚の半面鏡の反射　凸面鏡　凹面鏡の共軛焦點の公式及其の說明　光の曲進蜃氣樓　實體鏡　色收差、色消レンズ分光器　餘色　繪具の混合　偏光　複屈折

(5)　磁氣——磁石の製法及保存　地磁氣の變化　分子磁石の說

(6)　電氣——電氣量の單位　表面密度　電場及指力線　電氣容量　ウイムシ

ヤルスト起電機の發電の理　極部電流と水銀濱電池の抵抗　電池の連結法　電流相互の作用　無定位針電流計　感應コイル　熱電流　電鑄術、電鍍術

右の事項中或ものは全く之を省略し或ものは特に題目を揭げて詳說せずして他の適當の場所にて便宜敎授するものとし、敎授時數約三十五時間の餘裕を生じ得べき見込なり。

ロ　中學校化學敎材中省畧し得る事項

ヘンリーの定律　分配の定律　燐化水素　臭素弗素及其等の化合物　窒素の酸化物　硝化作用　アルゴン　氷點降下及沸點上昇　金剛石　硅素炭化硅素　砒素アンチモン及其等の化合物　硼素及其の化合物　蒼鉛及其の化合物　カルシウム鹽化カルシウム　ストロンチウム、バリウム及其等の化合物　カドミウム及其の化合物　鐵の硫化物　ニツケル及其の化合物　コバルト、コンガン　クロム及其等の化合物但し二酸化マンガン、過マンガン酸カリ及重クロム酸カリを除く　硫化銅硝酸銅　酸化水銀　鍍金及渡銀イリヂウム、オスミウム　放射性元素　エチレン　ケトン、酪酸、乳酸　琥珀酸林檎酸　蠟　果糖乳糖麥芽糖糊精　シアン及シアン化合物但しシアン化カリを除く　アルカロイド但しニコチン、キニン及モルふぃんを除く

右の事項中或るものは全く之を省略し或るものは特に題目を揭げて詳說せずして、他の適當の場所にて便宜敎授するものとし、敎授時數約二十七時間の餘裕を生じ得べき見込なり。

五　師範學校中學校物理及化學生徒實驗に對する敎員の注意

一、生徒各自の考案に成る實驗は敎員の同意を得るにあらざれば實行せしめざるを

可とす。

二、教員は絶えず生徒實驗より生ずる危害を避けしむることに注意を怠らざるは勿論、其の救急的處置に關し豫め學校醫等に合議して之に備ふる所あるべし。

三、生徒實驗より來る有毒瓦斯に對しては常に實驗室の換氣に力め且つ通風室の設備利用に注意すべし。

四、眼の傷害、皮膚の火傷及創傷等に對しては、之が救急手當に必要なる藥品材料を準備し、且つ機宜の處置を誤らざる爲め豫め之が救急法を心得置くべし。

五、劇藥及有毒藥の收支保存取扱には特に留意し、且つ火災の豫防に對する設備並消防上の應急處置を講じ置くべし。

六、保存取扱上特に注意を要する劇藥及毒藥の主なるもの左の如し。

劇藥

石炭酸　鹽酸　硝酸　ピクリン酸　硫酸　硝酸銀　臭素　カフエイン　クロロホルム　フオルマリン　ヨードホルム　甘汞　ヨード　苛性カリ　鹽素酸カリ　苛性ソーダ　吐酒石　ヨード丁幾

毒藥

無水亞砒酸　シヤン酸　昇汞　沃化水銀　酸化水銀　ニトログリセリン

七、火災の危險あるもの凡そ左の如し

燐　カリウム　ナトリウム　エーテル　石油　アルコール

第十九章　習字科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　書學の知識が無い　受驗者は書くことにのみ力を注いで、書の根本基礎をなす書學の研究を顧みない傾向がある。これは今日の受驗者の一大通弊である。されば丹羽委員は『受驗者は一般に書學の知識が乏しい様です。勿論文字さへ上手に書ければいゝ様なものの一つ専門に入るととかく簡單には行かない。書の歴史を知るとも書くことに必要があり、筆の持方姿勢筆法書體などの論理的考察氣品韻風等の云はゞ書の哲學的方面は書家の重要資料でなくて何でせう。書も一の創作である以上は一の

思想である。從て思想の高下は書の内容の豐かさを支配するでせう。かくて書學の必要は否定出來ないことになると思ひます。この方面は口述試驗にも課せられると思つてゐなければならない。』と注意されてゐる。受驗者は次節に示した參考書によつて必ず此の方面をも研究せられんことを希望する。

尙次項に述べるやうに臨寫の三體や形力法の三拍子の不揃なことは、これ亦受驗者の一大通弊であるから、今後の受驗者は此の點も大なる注意を拂はなければならない。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　秩序的に修練し三拍子揃へよ　丹羽委員は本科受驗者に對して極めて有益なる根本的注意を與へられてゐる。曰く『習字科は地味なものですがまた面白いものです。たちのよい人なら少し練れば直に文檢位はとれるでせう。文檢で課するのは臨

寫と設問と位なものです。臨寫は漢文の楷行草の三體と假名で和歌の樣なものを書かせるのです。平均點といふものの臨寫は中心主體となる譯だと見做される。所でこの臨寫の三體が三拍子揃はない。楷書がよくても行書が拙かつたり、楷行がよくても草書が丸で形をなさなかつたり、或は漢字の三體が可成りに出來ても假名が駄目だつたりする。假名がよければ漢字が力の拔けた樣な文字になる。總てが整ふには可なりの勞力が要る譯である。であるからやはり秩序的に根本的の基礎から修練をしなければならぬと思ひます。誰も知つてゐるでせうが此の習字稽古をするに臨寫模寫眷寫の三法があります。勿論人その人によつて一概には云へませんが、普通模寫によつて字形を正し、臨寫によつて筆力筆法を矯正し、字形筆力筆法の三要素を眷寫によつて統一し自己のものとする基礎的からやつて行つたらいゝと思ひます。人によつては筆力筆法さへよければ字形はどうでもいゝと主張する者もあるが、此の主張は筆力筆法の重要さを高調せんが爲の表現方法で必ずしも字形を輕視した譯ではないならそれでいゝがさうでなく文字通りの意味であるならば大變誤つた考たるを逸れぬでせう。文字の形はむしろ重要なもので筆力筆法が如何によくても形が零であつたら見られたものではありません。やはり形力法の三拍子が揃はなければいけないと思ひます。』と。これひとり本科受驗者のみに止まず一般書道研究者の必ず遵守しなければならぬ言であると信ずる。

ロ　一流に片寄るな

次に丹羽委員は受驗を目的として書道を研究する人は自己の好む所に從つて一流に片寄つてはならぬといふことを注意されてゐる。曰く『中等學校の習字科の敎師は風流書家と趣を異にしてゐるのは常識で知れる。隨て一流に片寄ることは面白くはありません。諸流に通じ或る程度まで何流でも可なり臨寫の完成を期して貰ひたいと思ひます。中等學校には手本が定つてゐる。その手本に生徒を導き得る樣な手腕があれば足りるのです。癖のない文字が何より要求される譯となるでせう。しかしながら選んだ手本を寫眞的に寫す力だけでは物足りません。やはりそ

こには手本の書體を通じて自己特有の氣品が備はる様にならないと思はしくはない。卽ち手本の個人化的完成がなければいけないと思ひます。この事は自己流と趣を異にし所謂手本の體得から必然した體驗と云つた意味のものです。此の境地に入らないと第一實際の運用上効果の少いものではないかと思ひます。』と。前項と同樣に受驗者の必ず遵守せねばならぬ言である。實際いかに上手でも癖のある字を書く人は絶對に合格の望がないことを決して忘れてはならない。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【中等習字帖】

◎岡田起作著　高等女子習字帖　晩成處

◎同　人　からす丸帖　同　上

◎同　人　中等習字教科書　明治書院

◎小野鷺堂著　筆のしをり　弘文館

岡田氏の手本は氏が檢定委員であるからばかりでなく、文字に所謂書癖がなくて全く檢定試驗向きである。右の中一冊は是非習つておくべきである。小野氏の手本も是非習ふがよい。同氏には後に揭ぐる『書道講習錄』といふ説明づき手本があるから之による方が却て便利であらう。

しかし手本は是非右によれといふのではない。中等教科書として使用されてゐるものなら何んでも差支ない譯である。實際岡田氏の書を習はんで及第してゐる人も往々あるのである。されば何れなりとも自分の入り易いと思ふものを撰んでしつかりやればよいのである。左に現行教科書の主なるものを揭げておかう。

◎玉木愛石著　中等習字教科書　實文館

◉西脇吳石著　女子習字帖　寶文館
◎香川松石著　香川習字帖　三省堂
◎中村春堂著　女子習字帖　辰文館

【千文字】

中等習字帖を十分に練習したならば、次には少く共左記の中の何れか一冊を撰んで練り上げるがよい。

◎香川松石書　眞行草千字文　二松堂
◎小野鵞堂書　四體千字文　弘文館
◎卷菱湖書　三體千字文　嵩山堂
◎玉木愛石書　三體千字文　久榮堂
◎中村春堂書　三體千字文　辰文館
◎西脇吳石書　三體千字文　三松堂

◎趙子昂書　三體千字文　精華堂

以上を徹底的に練習すれば書は最早出來上つたものと云つてよい。しかし眞に書に熟達するには只無暗に練習するばかりでなく諸家の書に親しんで目をこやすことも必要である。而して出來るならばその中の一二種を深く研究すべきである。左に一覽しておくことの望ましい古法帖の類を掲げておく。

【古法帖】

(1)楷　書

◎歐陽詢　九成宮醴泉銘　精華堂
◎顏眞卿　多寶塔碑　同　上

(2)行　書

◎王羲之　蘭亭帖　精華堂
◎同　人　三藏聖敎序　晩翠軒

◎趙子昂　蘭亭帖　精華堂
◎同　人　前赤壁賦　同上

(3)草　書

◎王羲之　草訣百韻歌　精華堂
◎智　永　眞草千字文　同上
◎孫過程　書譜　同上
◎懷　素　千金帖　同上

(4)假　名

◎行成卿　源重之朝臣歌集　精華堂
◎橘千蔭　古今和歌集序　松山堂

【草書の手引】

草書の練習は字の崩し字を會得しつゝなさなければならぬ。それには

◎岡田起作著　草海　文會堂

が最もよいのであるが、若しもこれを手に入れることが出來なければ、左の何れかによるがよからう。

◎三輪杉根著　草書自在　辰文館
◎書學會編　眞行草大字典　共益商社
◎前田默鳳著　眞行草字鑑　二松堂
◎圓道掌石著　實用草書字典　有朋堂

【書　論】

◎小野鷲堂著　書道講習錄　博文館

書道の一般を手本文字に就いて懇切に說明したものである。本書を十分に研究したならば大體書道に通ずることが出來るであらう。從來の合格者は皆讀んでゐるやうである。

◎木村剛石著　新書道の研究　二松堂

書道の研究法を述べ且つ最近試驗問題の擬答案を載せてある。受驗上の好參考である。

◎小野玉木共著　書道講話　鐘山書院

書道の心得を根本的に而も通俗平易に說いてある。參考する價値が十分にある。

◎稻川雲溪著　書法詳解　二松堂

楷書點畫の基本及び結構法の說明が特に詳細である。

書法を說けるものは種々あるけれども大同小異であるから以上を十分に研究すれば彼之とあさる必要はあるまいと思ふ。

【教授法】

◎岡田起作著　習字新法　文會堂

習字教授法を詳論したもので、別に卷末に書式及び古法帖を臨寫せる細字を添へてある。受驗者必讀の良書であるが、若し購求することが出來なければ

◎水戶部寅松著　書方及書方教授法　目黑書店

を必ず見ておかなければならぬ。本書は書方とその教授法を理論實際兩方面から詳細に說いてある。

【雜誌】

本科受驗者の讀むべき雜誌には『書道研究』『書苑』『書勢』『習字の友』『習字と作文』等がある。店頭で內容を瞥見してこはれと思ふもの一二種を購讀すれば得る所が少くないであらう。

尙本科受驗者の爲めの通信教授としては

◎國華會本部　東京市小石川區小日向臺町二ノ一九

◎習字上達會　東京市靑山北町七ノ三七

等がある。先づ見本附規則書を取寄せて見て價値があると思つたならば入會するが成

功の捷徑であらう。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　**合格の程度**　本科の如く技能に屬する學科に於ては大體どれ位の程度まで技量を磨き上げたならば合格することが出來るかをほゞ承知してゐることが必要である。これに就て某合格者の述べたる所は甚だ編者の意を得たものであるからしてこゝにそれを紹介する、曰く『本科出願者の技量は如何なる程度まで達するを必要とするかにつき一言すべし。雜誌などにて文檢合格者の經驗談を見るに多くは自分の功を誇大して吹聽する惡弊あり。習字などには比較的少けれども他の學科につきて見るに、參考用書として近代の名著を悉く網羅し之を讀破せざれば合格はむづかしき樣に云ひ居れり。その言ふものの法螺加減之をきくものの野呂馬加減知るべきなり。自己の職務以外に勉强して之に應ずる者の如きはかゝる順序に從はゞ十年を經過しても尙試驗に應ずること難かるべし。又かくの如くして合格せりとするも詰め込み主義の博覽先生にては活用は愚か應用も出來得べきものに非ず。然るに地方篤學の士はかゝる誇大的記事を馬鹿正直に信ずるより遂に望洋の嘆を發するに至るなり。注意すべきなり。

さて中等學校の習字教師は專門家即ち書家を必要とするものに非ず。所謂教育家なり中等學校の生徒に教ふるだけの技能を備ふれば足る。故に書家の如き堂々たる文字を書く程度にまで進歩しをることを目的とせず、唯或る程度まで徹底し居るを要する也即ち書法上一定の見解を有しそれが自己の個性により同化せられ然も完成し居るを必要とす。文字上の品位の雅朴抱負の大小の如きは之を論ぜざるなり。たとへば文徵明を習ふものはそれにて結構なり。只文徵明として徹底するを要す。子昂又可なり。勿論我が國の海屋流にても海石流にても可なり。要は或る程度まで徹底するにあり。而して此の域に達せるや否やは先輩に糺し批評を請ふべし。此の徹底せる見解徹底せる手腕以外に、文字の品位抱負の如何に沒頭し雄渾なる大作をなすは

專門家の事業に屬するものなり。』と。

ロ　書　風　次に如何なる書風によるを可とするか、之亦受驗者の必らず知らねばならぬ所である。某合格者曰く『永い歴史と變遷とを有してをる本科のことであるから自ら書風にも色々ある。されば如何なる書風によるがよいかと問題である。大家の書風ならば何れに從ふも差支はなからうが所謂癖のあるのは避けねばならぬ。奇警なものは習はぬがよい。要は高等普通教育に從事する教師としての書風、換言すれば穩健正當なる書風でなければならぬ。素より一風變つた書體のものも多くあるけれども、これらは趣味として又は賞玩すべきものとして見るべきもので、これは受驗によろしくない。合格後の樂みにとつておくのがよろしからう。とにかく受驗上には奇を衒ふものや風變りのものや癖のある書風は禁物で、どこ迄も謹嚴で正當で穩健なものがよい。』と。

又他の一合格者も『文檢を受けんとする目的なる以上、文字は如何なる流派のものを目標に練習すべきかといふに、將來中等學校の教師となる目的故、癖なき文字にして書くにあまり時間のとれざる、卽ち速度早く書き得て形態善く美しき文字を書く方針をとらざるべからず。之れ卽ち實社會に適應し得る人物を造らんが爲めなり。將來の時勢は日一日と急にして、字を書く上にも早書きにてすらなほ間に合はず萬年筆タイプライターの流行する世の中なれば、かゝる社會に處し活社會に後れざる活人物の指導をなす上より考へて本科教師たらんとする人は須くそれに應ずるやう修養を積まざるべからざるなり。』と。前者とほゞ同一の意見を述べてゐる。而して編者も亦これに贊するものである。

ハ　手本の選定　前項と關連して必要なるは前述の標準に叶つた手本の選定である。某合格者曰く『練習上一番よいのは師につくことである。先生につけば理論と實際とが同時に稽古出來て訂正や批評をして貰へるからこれに越したことはない。しかし先生の無い地方や餘暇の人や獨學でやらうとする人々は、どうしても手本によ

らねばならぬ。手本も出來ることなら肉筆が一番よいがこれも求めることが一寸むづかしい。その上は普通の手本によるよりほかに途がない。そこで手本の選定が必要になつて來る。所が手本も隨分數多く色々ある。この中から前項に述べた樣な標準に叶つたものを選擇せねばならぬ。しかし同じく穩健なよい手本だと云つても習ふ人の性質によつて又好ききらひがある。そこで第二の選擇として自分の好きな氣に入つた手本を求めるのがよい。そして練習して行く中に段々好きが違つて來る。初めすきであつたものが嫌ひになることもあれば他によい手本を手に入れることもある。故に最初はとにあれ自分の好きな手本を習ふのがよい。しかし手本さへ買ひ集めればよいと思ふのは間違である。これはよいと思つたらしつかり習ふがよい。習つてゐる中に種々趣味の向上を來すからその時に手本をもつとよいものをほしいといふ氣になるから、徒に鼠のかぢりさしの樣な練習をするのはよくない。又初から程度の高い手本を習ふ人があるがこれも策の得たものではない。徒に高尙ぶつて初めから法帖などを習ふ人があるがこれは失敗の基である。法帖などはよほど進んでから習ふものであると思ふ。』と。こは何人も守らなければならぬ手本選定の根本的心得である。

他の一合格者は又如何なる手本によるべきかを下の如く具體的に述べてゐる。曰く『支那の書にては南帖北碑など云ひて大別すれば二派に分るれども文檢には南帖即ち晋唐時代の文字可ならん。即ち王羲之、顏眞卿、歐詢、褚遂良、智永、趙子昂、懷素孫過庭、董其昌等ならば何れにても可ならん。日本にては上代にありては行成、佐理道風、貫之、近代にては橘千蔭、多田親愛、現代にては日下部鳴鶴、小野鷲堂、坂正直、玉木愛石、中村春堂、西脇吳石、日高秩父、岡田起作等の諸氏の手本ならば何人のにても可ならん。』と。更に一合格者は『手本は何人のを選定するも勝手なれども楷書につきては歐陽詢、褚遂良、顏眞卿三大家の書はとにかく一覽するを必要とす。歐に皇甫廷碑、九成宮醴泉銘などあり、褚に雁塔聖教序、孟法師碑あり、顏には多寶塔碑の如きあり」檢定場裡に立つものはかゝるものを根據として出發するは悧巧なる遣

り方なり。行書の定本には定武の蘭亭帖、懷仁素の聖教序、歐陽詢の黃庭經あり、行書を學ぶ者はこれによるは最も捷徑にして且つ正しきものなり。現代書家の行書ならば鳴鶴翁のもの最も傑出し居るなり。草書には孫過庭の書譜、懷仁素の千金帖、智永の千字文あり、王羲之の十七帖あり。書譜は是非共一度は臨書すべきものなり。假名については行成又は千蔭最も優れたり。現代假名書には坂正臣、小野鷲堂あり。先づ行成卿を選ぶは最も宜しかるべし。以上列擧せる手本は數百種中特に必要と認むるものを掲げたるものにして、楷書には歐、顏、褚の何れか一を選ぶべく、行書には蘭亭、聖教序共に臨書すべく、草書には書譜を選定するは最も安全なる方法と知るべし。』と。受驗者の好參考であると思ふ。

尙某合格者は出來るだけ肉筆手本を選ぶの可なることを力說してゐる。これは解り切つたことではあるが參考までに掲げておかう。曰く『現代書家の手本につきて學ぶものは版本よりも肉筆を可とす。現時印刷術の進歩は肉筆と略ぼ變らざる良品を出すことを得るも、元來材料高價なれば書肆より發賣せらるゝものは大抵不良のものにして肉筆の雅致を味ふことを得るものは殆ど稀なり。されば大家の版本を選定するりよも二三流書家の肉筆を選定するは得策なり。殊に版本の通信敎授に至りては一向役に立たず只初學者の蒙を啓くに資するのみ。多少文字を解する者に至りては殆ど參考とならざるものなり。肉筆手本は東京市神田區三崎町三の一、大正書會より出すものは最も良好なり。』と。

ニ　練習の順序方法　手本を選定したならば一定の順序に從て練習しなければならぬ。左は某合格者の稿になるものである。

何をいつても楷書が書の基本であるから最初は楷書をウンと習ふがよい。楷書は中々むづかしいがこれをしつかりやれば行書は左程困難ではない。行書がわかれば草書も易い。但草書は崩し方を覺えるのが一寸骨折だ楷書が手本と同じ位に書け出したら行書に移り、次に草書に移りそれから假名の練習をすればよい。

以上を練習の第一期とするならば第二期には並行して練習すればよい。次に第三期には書論と併せ研究すべきである。この書論と併せ研究するといふことが書をして完成せしむるもので、こゝにはじめて本當の文字が書けるのである。卽ち第一期は初步で盲從で模倣である。第二期は咀嚼時代で、第三期は完成期熟達期である。

所が世には少し上手に字が書ける所から何の定見も自信もなく受驗しては失敗してゐる人がある。器用で合格しやうと考へてゐるが中々そんなものではない。第一書道はそう簡單なものではない。久しい間の練習で練り上げたものでなければならぬ。二年や三年の練習で少し上手になつたからとてそれは本當に上手なのではない一寸上手に見えるだけだ。いや自惚れるだけである。第二に眞に立派な書は理論と實地との調和である一致である。習ふばかりではいかぬ理論ばかりでも上手になれぬ。習ふばかりでは模倣で捉はれた文字より書けぬ。眞に生命ある書とはならぬ。又書籍さへ讀めば上達するものだと思ふのも誤解である。これは徒に目ばかり肥えて手が動かぬ人となる。そこで第一期は模倣し第二期は咀嚼し第三期は熟達せねばならぬ。その熟達するのには理論と併せ研究せねばならぬ。書論を研究して居ると種々目が肥えて來る。所謂書眼が出來る。この理論が實際の書に自然に表はれて來ればはじめてホンモノである。こゝに至らねばウソである。然るに大抵の失敗者は此のウソの時代に受驗するからいけないのである。實際合格するのと否とはこの邊のところで極るのである。要は書論を實際化する腕前になつてはじめて合格することが出來るのである。

練習の方法として第一期に於ては手本の一點一劃もよく玩味して習ひ、第二期に至つては手本をはなれても手本によく似た文字が書けるやうにならねばならぬ。此時代には應用的の書方も時々試るがよい。而して第三期を終れば試驗問題などを擬答して見るがよい。

練習したものは先生や先輩に批正して貰ふのが一番よい。又自己訂正を怠つてはな

らぬ。卽ち手本とよく較べて訂正せねばならぬ。又練習用紙を綴つておいて後日之を取出して見るのがよい。かくすれば上達の跡も見えて嬉しく奮發の材料にもなるのである。

次に試驗問題の擬答練習には如何なる注意を要するであらうか。之亦受驗上必要不可缺なる知識である。某合格者曰く『試驗用紙は美濃、大字は縱書一枚を三等分し楷行草の三體に書す。文字の大さは三寸角內外なり。故に練習の時は其の要領により半紙を縱に三等分してこれに五字位づゝ練習しおくべし。かくする時は試驗場に入りて狼狽することなし。細字は大抵美濃の橫書とす。一枚の紙を橫に四等分しこれに細字の楷行草の三體の外に假名を書するなり。文字の數は大抵二十八九字より三十四五字位までなり。而してその大さは一寸五分角內外なり。細字の排列方法は成績に大なる影響あるもの也。卽ち位置の取り方なり。たとへば二十四字あるものを書く時に三行に認むるものとすれば、一行八字づゝ認むるは最も拙なる位置のとり方なり。一行二行は九字づゝとなし、三行目を六字になすべきなり。手本は如何になり居るも決して心配すべきものにあらず。能く位置を考へ認むべきものなり。而して一行中にも文字に大小あるべし。算盤球を列べたる如く皆同一の大さなるは頗るいむべきものなり、書界にて版俗といふはこのことなり。自己の得意とする文字につき大小を用ひ調和をとるべし。其の他の文字は無難に書かれればそれにて滿足すべきものなり。要するに大小相交へ一行の調和をとることに注意すべきなり。』と。

ホ　不斷の練習が必要　書は決して一時に上達するものではない。徐々に確實にといふことを、いつも念頭より放してはならぬ。あせつては駄目である。受驗者は宜しく落ついて習ふべきである。それが受驗の秘訣である。そこで毎日々々缺かさずに練習することが最も必要で、たとへ十分でも二十分でも正氣になつて習ふのがよい。時々思ひ出した樣に筆をとつて、比較的長く習つて又暫く忘れるといふ樣な練習はいけない。少しづゝでよい毎日習ふのが一番よい。何でも短期に習ひ上げて合格

しやうと考へると、そこに無理が生じ却て長くかゝることになる。暗記の科目とは違ふ。決して早まつてはいけない。而して練習の時は心のよく落ついた時を選ぶのがよいのである。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を見よ。

四　筆答試驗の準備と注意

第一章第二節及前諸章の同題目の部を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び前諸章の同題目の部を見よ。

第二十章 圖畫科

第一節 試驗委員より受驗者へ

一 受驗者の通弊

イ 實力のないこと甚だしい　受驗者は甚しく實力がないと云はない試驗委員は一人もないほど本科の成績は年々極めて不良である。受驗者は先づ左記諸委員の談話を傾聽すべきである。

石川委員曰く『私は大正八年はじめて受驗者に接したのであるが、自ら苟も中等教員の免許狀を得んとする人々だから相當繪の方の實技も出來てゐると想像してゐた。私は豫備試驗に於ては最も簡單な問題を選んで出した。出來上つた成績品によつて其

の人の力を見る上に於ては如何に簡單なものでも差支ないし、又殊に豫備試驗でもあるからその方が受驗者にとつても都合がよからうと思つて出來る丈け簡單な問題を出した。然るにその成績品を見て實に幼稚なそして頭の働きの鈍い繪の多いのには自分は非常に驚いた。豫備試驗であるからといつて餘程程度を低めて點をつけて見たけれども、自分の考では合格點のつくのは全國九十八名中ほんの數枚であつた。けれどもこれは豫備試驗でこれを以て決定した譯ではないから成るべく好意的に多くの合格者を出したいと思つて又標準をひくめて點をつけて見た。それでもまた數人しか合格者が得られない。せめて半數位でもとりたいと思ひ又標準を下げ、卽ち自分の最初の考からは三度標準を下げて漸く三十幾名の合格者が出來た。それ以上は何と考へても引き上げる事が出來なかつた。けれども豫備試驗は資格さへあればどんな人でも應ずることが出來るのであるから拙いのが出るのも仕方がないかも知れないと思つてゐた。圖案の如きも意匠といふ樣な事の才能の働かないには實に驚いた。且つ甚しいのは題

意を誤解して描いた人もだん〳〵あつて、極く簡單な問題で誰が考へても間違などの起る樣な複雜なものではなかつた筈である。しかしこれもどんな人が試驗を受けてもよいのであるから一向力の無い人がした事と思へばそれ迄の事と思つた。本試驗に於ては私の考で從來と少し變つた事をしようと思つたのであつたが、豫備試驗をやつて見て受驗者の程度が餘り力のある人が無い樣に思つたから從來と餘り變らない方法で試驗をした。多少は變つてゐた樣に思ふが大體に於て變らなかつた。ところが今度も鉛筆畫の寫生でも水彩畫の寫生圖案でも概して力がない。每年こんなことであるのかも知らないが、今日は一般の繪畫趣味が普及し學生なども繪を描いて見ようと思ふ者が多くなりその技量が年々著しい進歩を來しつゝあるのである。その今日中等教育の衝に當る先生が如何にも頭は陳腐であるし實際の技量も學生を導いて行く力のある人が乏しいといふ事は實に悲しまざるを得なかつた。點をつけて見た所が合格點に達する人は五六人しかなかつた。けれ共教員拂底の今日成るべく多く教員を作りたいと思つて、隨分甘い點をつけて十五六人の合格者を得た譯である。尤も圖畫の合格を定めるには用器畫法といふ面倒なものがあつて受驗者はこれには隨分惱まされる樣である』と。

次に、廣瀨委員は主として毛筆畫の成績に就て次の如く批評してゐる。曰く『これまで荒木十畝先生がやつてをられた所を大正八年はじめて私が代つて見た。豫備試驗の答案をとつて見ると自分の思つてゐたものよりも低級のものであつた。五十名足らずの中から十餘名本試驗にかゝる者が出來た。此の場合に毛筆畫の方がよく出來てゐる人は用器畫の方が惡くて兩方そろつてゐる人が少いのには困つた。そこで用器畫が惡くても毛筆畫の方のよい人は、用器畫が本試驗に良かつたら採用するといふ考で本試驗を受けさした。本試驗では鳥の寫生と果物の寫生との二つを出し三時間でやらせた。他は極く簡易な毛筆の略圖を一時間の豫定でやらした。所が自分の思ふよりも餘程程度

が低かつた。その翌日が壁紙の圖案を四時間でかゝせ彩色をさせた。受驗者にきいて見ると師に就て技術の練習をしたといふ者は極めて稀である。大抵は通信教授とか或は書物に依て獨習した人が多い。その爲めか嚴密に調べるとよいのが少い。たまに良い者があるとその人は用器畫の方が惡いといふ樣な譯で十餘名中漸く七名本試驗の合格者を出した。自分の考では今後は多少專門の人に就て線とか寫生とかに就ても少し研究して來て貰はないと十分だと云へないと思ふ。それから圖畫科の試驗では鉛筆畫の方でも嚴密にすれば通る人は少いのであるがそれでは具合が惡いので成るべく及第さす樣にしたのである。しかしも少し嚴密にしないと中等教員として立つ上に於て遺憾の點が多いと思ふ。だからも少し寫生や線の使方を研究して來て貰はなくては困る。いまの所用器畫の方は少しむづかし過ぎる樣である。橋君も中學卒業程度の人では出來ないと云つて居られた。それから見れば毛筆畫の方はやさし過ぎる樣である。』と。

更に最近の成績に關して小林委員は下の如く批評されてゐる。曰く『第一に感じたことは一般に寫生よりは圖案の方が成績がよい樣に思はれる。それは圖案として考案が非常に巧いといふ譯ではないが、出來ばえが好いとでもいふか一般に綺麗に見榮えのする樣に出來てをる。然らば何故に圖案の方が寫生よりも好いかといふと、一方はどうしても實力がなければ出來ないが、圖案の方になると描くといふより只綺麗に塗るといふ樣な傾があるから自然に實力が缺けて居つても綺麗なものが出來るのではなからうかと思ふ。故に非常に變つた考案といふ樣なものはない。大概ある約束の下に出來てゐる。しかし敎育者としては圖案はそれで澤山だらうと思ふ。然るに自在畫の方はどうも實力が足りない樣に思はれる。今年は豫備試驗問題は机と椅子の寫生であつたが之は非常に正確な見方を要する厄介な材料である。郊外にある樹木などを描くのと違つて、机にしても椅子にしても四脚の長短に少しの缺點があつても直ぐにがた〳〵して安定に見えなくなる。これは常識で分ることである。その成績を見ると平らな處に眞直に立つことの不可能な樣な机が幾つもあつた樣である。本試驗には石膏胸

像の寫生を課したのであつたがこは平常やつて居らない者が最も出來が惡るい。その成績を見ると形等も不十分だし又濃淡の調子等も嚴格に鑑査すると滿足なものがない。併しさういつたら及第する者はなくなるからその中で稍々見られるものを採る樣にしたがいま少し立派な合格者を得たいと思ふ。豫備試驗の成績の中には全く形態の描けない人などがある。さういふ人達は極く不便な土地に居て繪を見る樣な機會なども少く研究する上にも不便なので、自分がどの位まで出來て居るかといふ樣なことを知らないで只好き勝手に描いて居る中に他の學科よりは繪の方が自分には得意だといふ樣なことで受けて見るのだらうと思ふが、もつと自重して自分の描いたものと他のしつかりしたものを比較して試驗に應ずる方が適當だらうと思ふ。』

以上を一讀する時は受驗者の實力は如何に貧弱であるかゞ窺はれる。されば或る委員の如きは『前々からの受驗者の通弊の中で最も重なるものと思ふのは當るか外れるか一つやつて見やうといふ風の見えることこれである。他の學科なら比較的所謂當り外れがあるともあるけれども圖畫科には斷じて此の當り外れなるものがない。受驗者はよくこの事を覺悟して置かねばならぬ。受驗者中には二回も三回もつゞけて受驗する者があるけれども、その成績を見ると毎年同じであつて一年若くは二三年前に比して少しも力のついてゐない人が多い。かゝる人は今年こそは一つ當てゝやらうといふ考で受驗するのであらうと思ふが、私共は如何なる繪を見ても直にその人の實力は明かに表面より分るのである。決してまぐれ當りといふことは出來るものではない。であるから一回受驗して失敗した人はまだ實力が足らぬことを自覺して更に一層努力をなし次回の受驗の際には前回と見違へるほどの力をつけて來るやうに力めねばならぬ』とまで忠告されてゐるのである。

ロ　念が入らぬ　受驗者はとかく試驗場に於て答案の提出を急ぎ、與へられた時間を十分に使つて出來るだけ念を入れて描くといふことが無いといふことである。試驗委員の方では與へたゞけの時間に仕上げたものとして受驗者の成績を見るのである

から、時間をあまして粗末なものを提出することは實に損なはなしである。これに就ての某委員の『受驗者は一般に所定の時間をあまして早く試驗場を出たがる弊がある。これは毎年の受驗者には中々多くある樣に記憶してゐる。委員の方では受驗者に十分念を入れて描かすつもりで時間を決めておくのであるから、念に念を入れて描けば決して時間の餘る譯が無いのである。それで時間より早く出した人の成績を見ると必ずどこかかき足りぬ所がある。もう少しかき足せばよいがと思ふところで止してゐる。これは平生の研究が上にも上にもと念に念を入れて能ふだけの力を盡すことをせぬ結果であると思ふ。受驗者は宜しく平素念に念を入れて研究する習慣を養ふべきである。』といふ注意は受驗者の一般に守らねばならぬところである。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　先づ寫生を學べ

『受驗者中には書籍雜誌のやうなもので圖畫の研究が出來ると思つてゐるものが甚だ多い。此等のものは圖畫の教師として見ないよりも見ることのよいのは勿論であるが、しかし書籍や雜誌によつて圖畫の力を養はうとするは甚しき誤である。一體圖畫の教師として第一に大切なるは生徒の畫を一目見てその正否を直に見わける力である。而して更に進んで如何に訂正すれば正しくなるかといふことが明瞭に分つてゐねばならぬ。此の力がなくして間違つてゐるものを正とし正しいものを間違つてゐると訂正するやうなことでは、如何に教授法に巧みでもそれは要するに死せる教授法であつて何等の役に立たないものである。然らば此の力を如何にして養ふかと云へば正しき寫生を度重ねるよりほかに途がない。西洋畫を研究せぬ人は西洋畫は寫實ばかりではないかと惡る口をいふが、はじめ寫生を學ばねば決して物を正しく見正しく畫く力を養ふことが出來ぬのである。されば受驗者は如何なる實物を出されてもこれを正しく寫生出來るやうに勉強して受驗することが肝要である。美學の博士が繪畫のよしあしが分らぬやうに書物にのみよつては決して正しく見正しく

盡く力は養へぬのである。』以上は某委員の談話であるが受驗者にとつてまことに有益な注意であると云はねばならぬ。

ロ　中等教員の學ぶべき繪

中等教員たらんことを目的とする者は如何なる繪を學ぶべきであるか。これ受驗者の第一に知らねばならぬ所である。幸これに就ては小林委員の適切なる談話があるから玆に記して受驗者の參考に供する。委員は先づ『我々が繪を見る時にこれは面白いとか或は感じがいゝとかいふ。純美術家の繪は少し位形が遙つてゐても又突飛な色彩で描いてあつても、面白いとか感じがよいとかいふことで立派な藝術品として取扱ふことが出來る。併し圖畫の教師は自らそこに相違がなくてはならぬ。普通の學校に於ける圖畫は直に美術家を養成するのが目的ではない。形體を確に表はして或る物質を繪を以て說明し得るといふことが必要である。文章を以て說明し難き場合繪で現はさなければならぬ。故に全く實用的のものであつて單に面白いとか感じがよいとかいふことではその目的を完全に達することが出來ないと思ふ。從てその生徒を教へる教師は所謂單に面白いとか感じがよいとかいふ様な繪を描いて十分だとはいへない。然しこれは全然惡るいのではない。圖畫の教師になる程の人はさういふ繪をかくこと若くはさういふ繪について感ずること等十分の素養をもつて居らねばならぬ。しかし日常使つて居る器物を描いてもいびつになつた茶碗を描いたり蓋がしつくり合ひそうにもない箱を描いたりする様では教師になる資格はないと斷言し得ると思ふ。』と中等教員として學ぶべき繪の本領を說き、更に『此の頃は所々に展覽會の催があり又雜誌等も競つて繪のことに就て紹介する。地方の人等は多くさういふものを參考にして獨習して居る人がある様に思はれる。然るに雜誌等で紹介するものは多く目新しいもの許りである。これを感違ひをして描き方などもこれに從はないと非常に時勢おくれの如く思ひなし、若くは今日の圖畫教師として不適當の様に考へて頻りに新しい手法等の皮相をまねる人がある。これは大なる誤である。雜誌等に於ては常に同じものを紹介して居たのでは面白くないから色彩の奇拔なもの

や手法の面白いもの等を載せるのである。これは日本の雜誌に限らない。しかしそういふものを流行の如く考へ頻に新しい方面に向つて驅け出すといふ樣なことは考へものであると思ふ。相應の力があつて專門家として立つて居るものは、そんな流行を追はなくとも自分のやつてゐる事に飽きが來たり期せずして自然と變つて行くといふことがあるが、普通學校の教師にならうといふ樣な人は無暗に新しい方面に駈出すのは十分の力があればよいがそうでない時は只不眞面目に見えて宜しくないと思ふ。既に出來上つてゐる繪を只皮相的に眞似てそれで自分に十分の力がつくと思ふのは大變な間違ひである。自分の力を養ふには自然を對手にして飽く迄もこれを追究するといふことでなければならぬ。』と流行を追はずして飽くまでも健實な繪を學ぶべきことを力說されてゐる。

ハ　教授法に熟達するには　云ふまでもないことであるが受驗者は單に自分で完全な繪が描けるばかりでなく更にその教授法に熟達してゐなければならない。しからば圖畫の教授法に熟達するには如何なる修練を要するであらうか。それに就て荒木委員の說かれてゐる所は頗る編者の意を得たものである。曰く『いつも感ずることは正式な研究をした人が極めて少いといふことである。たゞ他のものよりも幾分得意であるとか或は好きだとか或は學校などでその方に從事して居るとかいふ樣な極めて薄弱な根底から中等教員の免許狀を取つておきたいといふ考で受驗する人が多い樣である。殊に他の學科と異なり地方などにある人は甚だ勉强がしにくい。多くは講義錄を讀むとか講習を受けるとか稀に東京へ來て見て習ふとかいふ樣なことしか出來ないらしい。中には圖畫教育といふ教育學上の研究から如何にすべきものであるといふ事を抽象的に知つて居つてそれで十分だと考へて居るのがある。これは甚だ間違つた考と思ふ。學校教育は實際の教授であるから到底口の先きばかりで教授出來るものではない。勿論專門家と同一なる技量を要求するのは無理かも知れないが應用する所は異つても基礎となる所は變りがない。これを活用する上に於ては目的が異るから教育者

は教育者だけの考をもたねばならないが基礎となる技量はあくまでこれを養はねばならぬ。如何に教育的意見があるにせよ自分に技量が無いならば到底徹底的の教授は出來るものではない。若しこれが出來るといふ者は英語は一つも知らなくても獨案内を具へておけば教授し得るといふのと同じである。技術の教師は技術を說明しなければならない。而してその說明は自分の實行し得たることの說明でなければならない。技量の熟達と云へば何か專門的の樣に考を曲げる人があるがしかし圖畫の如きは實行し得てはじめて教授が出來るのである。而もその實行といふことは只手が自由に動くといふのではなく手を動かすべき思想の發達が基となるのである。それ故に技術の出來ないのはこれを現はすべき精神のはたらきが鈍いのである。從つて技術の未熟な時には之を說明する上また教授をする上に不徹底を免れない。』と。以上は凡ての學科に就て云ひ得る眞理であると思ふ。

二　圖畫教授の本旨

小林委員曰く『これは試驗に關係がないかも知れぬが近時日本畫を本位にすべきか洋畫を本位になすべきかといふことが教育社會の問題になつてゐる。併しこれは私から見れば大した問題ではないと思ふ。特に西洋畫を本位とする日本畫を本位にするといふ樣なことは云はなくとも、形を正確に描くといふことを目的にしたならば何で描くのが最も便利であるか材料は何が最もよいかといふことに歸着すると思ふ。然らば鉛筆が最も便利である。卽ち形を描く場合には鉛筆を以て し色彩を施す樣な場合には毛筆を用ゐればよいと思ふ。私が先年岡山縣下の中學校師範學校高等女學校の圖畫教授を參觀した際に日本畫の畫帖を臨模さして居るところなどあつた。私はそんなことをして如何なる効果があるかを疑はざるを得ぬ。只日の出に鶴とか松竹梅等が畫いてある本を寫して見た所が實用的に恐らく何の効果もあるまいと思ふ。それは今日まで既にさういふ畫帖が出來て居りそれを學校で教へればよいといふことになつてゐるから、それを生徒に寫さして居ればそれで圖畫教員の能事終れりとして居るかも知れぬけれども、これは全然改良して貰ひたいと思つて居る。しかし

全く畫帖抔は不必要であるといふのではない。圖案の參考書も欲しいし毛筆で着筆する上には凡そ運筆を知る爲めに相應な參考書も必要である。しかしながら大體の方針は自然を描かせるといふ事でなければ實用的の教育は覺束ないと思ふ。故に中等學校に於ける圖畫の教科書等も十分に改正すべき餘地がある。圖畫教員を志願する人達は少く共石膏像の全身位は描けなければならない。』と。委員は此の談話は直接受驗には關係がないと斷つてをられるけれども受驗者の參考となること少々ではないと思ふ。

ホ　用器畫の參考書研究法並に答案の認め方に就て　用器畫は本科受驗者の最も困難とする所であつて年々單にこれが爲め失敗する人が少くない。さればこれに就ては橋小島兩委員の談話を借用して、その參考書研究法並に答案の認め方を詳細に說かうと思。橋委員曰く『圖畫科は鉛筆畫毛筆畫用器畫の三に分れてゐるが、鉛筆畫や毛筆畫の樣にフリーハンドで書くものと用器畫を一緒に受驗することは甚だ困難だらう。用器畫は鉛筆畫毛筆畫とは全然違つて居る。私の用器畫は立體幾何と同樣なもので數學の樣なたちのものである。どちらかと云へば數學の先生でも受持つた方が適當ではないかと思ふ。それを鉛筆畫毛筆畫と一緒に受けるのであるから受驗者も中々困難だらうと思ふ。私は圖畫科の檢定試驗に對してはかういふ考を持つてゐるのであるがしかし今全く此の制度を變更するのは難しいらしい。用器畫の試驗の方法としては立體の觀念がどれだけあるかといふことを見ればよいと思ふ。問題も只普通の教科書にある樣なものばかりでなくたまには隨分難しい樣な問題を出すこともある。一體試驗を受けに來る人もさう自信があつて來る人は少いらしい。豫備試驗でも零點をとる者が半分以上もあるといふ有樣である。本を一寸讀んだ位で受けに來る人が隨分あるらしい。適當の本も少いけれども日本にも二三種よさゝうなのがある。それとよさゝうな原書でも見て其の中にある問題を全部やつて頭をねつて來たならば用器畫の試驗は通らないことはない譯である。用器畫を勉强するには實物をこしらへて研究するのが最も分り易く且つ早道である。殊に中學校や師範學校で教授をなす場合にも

透視畫などは模型をこしらへて研究するのが一番よいと思ふ。そして力をつけるには
どうしても澤山の問題に當つて見るに限る。いろ〳〵な本にある問題或は嘗て檢定試
驗や入學試驗に出た問題などを進んで澤山やつて見るといふことである。いろ〳〵な
場合に觸れて見ないといけない。どういふ方面の問題をやつて見た所が凡て幾何の様
なものであるから澤山やつて見れば何でも同じである。殊に陰影法の方の問題は凡て
の場合に遭遇することが出來るから難しいものは中々面倒であるがさういふ方面をや
ると力がつくと思ふ。檢定試驗の時には時間が割合に少いのであるから圖の考が出來
て居れば、圖が少しきたなくても同じ様に點を與へてゐる。然し時間を相當に與へて
やる場合にはきれいに正確にかゝねばならない。正確を練習する一の機關であるか
ら。故に學校などでやる場合には方法と同時にきれいな圖をかくことは必要の條件で
ある。併し檢定試驗の場合には時間もなしさういふ様な場合と一つしよに行かない。
觀念が出來てゐればよいとしておかねばならぬと思ふ。』と。

小島委員の談話もこれと趣意に於ては同一であるけれども一讀する時はまた有益な
る暗示を受けるのである。委員曰く『用器畫の參考書はないとはないが皆同じ様なも
のので受驗者にはお氣の毒に思つてゐる。元來日本にある用器畫の參考書や教科書は皆
西洋の古い教科書等を燒き直した物で、元が同じであるから大同小異なものばかりで
變化が少い。又例題も少い。それであるから應用が利くまでにやつて居ればよいがそ
れが難しい。多くの者は無闇に覺えて來るといふ有様であるから少し變ると直にまご
つく。今云つた様に參考書はどれも皆似たものであるから何の本をやつてもよい。一
通りやつた後は應用である。それに理屈をよく呑み込まないで何でも形式的に暗記し
ようとするのだから、右の方に曲つてゐるのを左の方に曲げるとか、五角柱と六角錐
の相貫體を四角錐と五角柱にするともう出來ないといふ有様である。本でやつたらそ
れに滿足せず本を離れてやり又位置を變へてやる等のことは大變藥になる。又先輩に
問題を出して貰ふとかいろ〳〵な場合にぶつかり頭をねるのが肝要である。中等程度

の用器畫で最も力をつけるのは相貫體である。それで試驗には他の方はいろ〳〵かはるが相貫體の問題は必ず一題か二題出る。近頃の傾向を見ると受驗者は圖法幾何等に力を入れて居る様でそれ等の問題は我々の豫期以上に出來るが、相貫體の問題は敎師になれば是非やらねばならぬにも拘はらず割合に出來ない。これが出來ればどうしてもこちらも出來ねばならぬと思ふに出來ぬ様なことがある。尤も圖法幾何は用器畫の根本となるので必要なものであるが中等敎育の圖畫としては稍々高尙過ぎる傾があ る。よく用器畫の參考書には何がよいかといふとをきかれるが前にも云つた如くどれでもよい。只その形式やり方のみに止らずやり方に就ての理屈を呑み込んで行けばどんな問題が出て來てもまごつかない。然るに受驗者の多くは應用の力がついてゐないものだから、一ぺんやつた事のある問題は出來るが少し樣子が變るともう出來ない。答案を見ると雖しいものをやつた形跡が見えるがやり方が間違つて正しい答が出て來ぬといふ者が多い。只あせるものだから時間がたつても出來ぬといふ事になるのであ る。それから受驗者にとつて注意すべきことは用器畫は數學の如きもので理屈が分りさへすればよいといふ者があるがこれは大なる間違である。非常に立派なものを書かねばならぬといふことは望めもしなし又望みもしないのであるが鮮明にきれいにかゝねばならぬ。さうでなければ正確を期することは出來ぬ。答が出來さへすればよいといふ考をもつて居る爲めか又時間に追はれる爲めか答案が汚れて困る。これを調べる人は甚だ苦しむ。鉛筆をよく削つて無駄な線は消し必要は線だけきれいに殘す樣にせねばならぬ。これは試驗委員にとつて便利であるばかりでなく又その人の力をも示す譯である。亂雜に書いてあると途中の道ゆきがよく分らんので十分にわかつてゐるのだかどうかといふ事が疑はれる。或は偶然に出來たのではないか、隣りの人のを一寸見て書いたのではないかと思はれても仕方がない。故に此のきれいにかくといふことは自分の學力を十分に示す爲からいつても必要なことである。』と。

委員は更に語をついで『東京に居る人は先輩もあり尋ねて行く先生もあるといふ具合で大變都合がよいが地方の人は誠に氣の毒である。今までの經驗によると地方的に出來不出來が大分ある様である。卽ち質問などをする機會のある所の人は一般に出來がよい様である。學校で教壇に立つて細かい線を引き器械や標本などを用ゐて說明しても中々分りにくいのであるから獨學でやるのは中々困難である。用器畫は實物教授に限るといつてよい位で參考書で圖と文章と引き較べてやる事は中々容易なとでない。實物で示せば一目瞭然すぐ分ることでも書物でやると中々難しい。教科書參考書のみでやるといふとは全然出來なくないかも知れぬが非常に損である。時間も數倍餘計にかゝる。何學科でもさうであるが問題を買ひかぶりむづかしくひねくつて考へるのは受驗者にとつて極めて損な事である。冷靜に問題の意味をよく考へわからぬ所はきゝ問題の要領を得てやるのが必要である。而してその意味の範圍内で最も單純に最も無雜作に出來る位置はどうであらうといふとを考へてやれば時間の經濟ともなり又すら〳〵出來る。置き方などを妙におくと非常にむづかしくなる。なるほどそんな風にもおけるといふ様なおき方をしてゐる者もあるが、これは大變損であつて問題の許す範圍内で最も容易に出來る場合を採るが得策である。相貫線或は切斷線が楕圓形に出たりする場合左右等しく出たりする場合を悉くやらうとすると非常に時間をとる。最高點は何處か最低點は何處か中間で最右方極端左方の極端等の主要の點はさう多くはない。きまり〳〵の要點をとつてやればやり方が組織的になり明瞭になり同じことを繰返さないですむ。それを片つ端からやると圖が混雜し汚くなり明瞭なのが出來なくなる。同じ圖が左右若くは上下に現はれる時は一方は略す様にしたらよい。主要な點をとりそれをつゞけて殘しておくやうにすれば精密に出來る無闇に餘計なことをやるものだから圖がこみ入り一向分らなくなり汚くなるのである』と敎へられてゐる。以上二委員の示す所に從つて研究を積む時は十分の自信を以て試驗場に臨むことが出來ることは請合である。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【用器畫】

◎宮崎茂三著　增訂用器畫法詳解　大日本圖書會社
◎飯沼寺野共著　圖學教科書　共益商社
◎久保田圭右著　高等立體圖學　丸善書店

中等教科書で確實に基礎的知識を作つたならば宮崎氏の本を研究し次に圖學教科書に移るがよい。これは全三冊より成り大體に於てよい本である。後者は上中下三冊邦語類書中最も程度の高いもので、これがよく分らなければ及第の見込が無いと云はれてゐる。しかし前二者を徹底的に研究してからやれば左まで困難ではない。後の兩書

には文檢に直接必要でない部分もあるが、それは過去の試驗問題を通覽すればおのづと分ることである。

十數年以前から今日に至るまでの受驗者で飯沼寺野兩氏のと久保田氏の書を讀まぬ者は一人もあるまい。これ兩書は完全なる參考書であるといふよりはむしろそれよりもよいものが刊行されないからであらう。されば受驗者は單にこれのみを以て滿足せず自ら工夫發明する骨折を敢てする覺悟がなければならぬ。

【圖　案】

◎小室信藏著　一般圖案法　丸善書店

本書は文檢受驗には直接役に立たないが、圖案の基礎的知識を得るに恰好のもので ある。本書をしつかり研究しない中は決して次に進むべきでない。從來の合格者は皆これを入門書として用ゐてゐる。

◎安田錄造著　日本圖案の應用　同文館

本書は日常生活に關係ある美術工藝品の圖案を丁寧に說明せるものである。本書を徹底的に研究し、次の二書を參考しておけば大體の準備は出來たものと云へる。

◎白濱徽著　普通教育圖案集　大日本圖書會社

は定評あるもの、又次項に揭げた小林萬吾氏圖書教科書中の圖案は是非研究しておかなければならぬ。

右のほか安田錄藏氏の圖案集、小室信藏氏の圖案若菜集等の如く定評あるものを餘力を以て見ておくことはいふまでもなく大に望ましい。尙雜誌に就ては後に述ぶる所を參照せられたい。

【鉛筆畫】

◎日本美術學院　洋畫講義錄　日本美術學院

講義錄勉强は役に立たぬといふことをよくきくが、本講義錄の執筆者は大家揃であつて初學者が洋畫に關するあらゆる知識を得る手引として極めて適當なものである。

毎月一回發行一箇年で完結する。

◎大下藤次郎著　寫生畫の研究　目黑書店

◎石井柏亭著　我が水彩　日本美術學院

兩書共定評あるものである。受驗者はこれによつて寫生畫水彩畫の基礎的知識を養はなければならぬ。此の兩書を見れば前揭講義錄は必ずしも見るに及ばぬであらう。

◎小林萬吾著　中等修正圖畫教科書　國光社

本書は寫生の參考として必要であるばかりでなく中等學校に於ける圖畫教育の大綱を知る上に必要である。本書の畫題に就て研究しておけば試驗の際大に役に立つであらう。

【毛筆畫】

◎川端玉章畫　習畫百題　芸艸堂

前章習字科の部に於て述べた樣に何流の畫を學ぶも差支ないが、川端氏の畫は奇癖

がなくて文檢向きであると云はれてゐる。しかし强て好まざるものを習ふは宜しくない。要は自己の好むものを選んで徹底するまで習へばよいのである。

次に漢畫もまた有名なものは是非一度見ておかなければならぬ。美術書肆として有名な京都の芸艸堂では美術に關する各種の出版をやつてゐるから同店の目錄によつて研究するが便利である。

【其　他】

◎白濱徵著　圖畫教授の理論及實際　大日本圖書會社

圖畫教授法を說けるものの中で最も傑出せるものである。本書を熟讀しておかなければ口答試驗の際困るであらう。

◎齋藤始雄著　自由畫教育論の實際　大同館

附圖畫教育上の四大改造論

◎新井溶之助著　圖畫教育の新思潮と批判　同上

前者は近年流行の自由畫の具體案、後者は山本氏の自由畫教育の要點、新圖畫教育會の提唱、齋藤氏の自由畫教育及圖畫教育の四大改造論、岸田氏の圖畫教育觀等代表的諸家の主張の要點を述べこれに批判を加へたものである。共に圖畫教育の新思潮研究上必讀の參考書である。

◎現代圖案　深田圖案研究所

◎現代の圖案工藝　現代の圖案工藝社

◎ウィンドー・タイムス　ウインドー　タイムス社

以上は何れも圖案に關する月刊雜誌である。前二者は各種工藝品に關する圖案、最後のものは商業に關する圖案を主とせるものである。此等の雜誌に親しんで圖案に關する新思潮新研究を知ることは極めて有益である。」

◎中央美術　日本美術學院

◎圖畫研究　圖畫教育研究會

前者は洋畫、日本畫その他造形美術一般に關する記事多く、後者は圖畫の敎育的研究である。共に受驗者の好參考である。

三　如何なる研究法をとるべきか

イ　用器畫の研究に就て　用器畫は本科受驗者の最も困難とする所でこれが不出來の爲めに失敗する者が年々少からずある。これは用器畫そのものが獨學ではやり憎いからばかりでなく、その研究法が當を得てゐないことにも原因してゐると思ふ。某合格者のとれる研究法は第一節に述べたる試驗委員の注意とも符合して極めて適切なるものであるから茲に記して受驗者の參考に供しよう。曰く『予は用器畫の研究方針としては圖上の研究のみに止めず原則を具體化することにつとめ、或は紙を切り拔きて模型を作り之について起り得べき變化を研究したのであつた。これが大に理解を助け原則を永く記憶に止むることが出來たのである。現今は用器畫の作圖が出來れば

よいといふ時代ではない。その作圖の理論が徹底して居ることを要する時であると思はれる。此の方針でやれば用器畫もさほど六かしいものではあるまいと思はれる。卽ち分解的の研究が必要なのである。予は參考書としては中學程度のものを讀んだが間に合つたと思はれたのは第一に久保田圭右氏の高等立體圖學である。又飯沼寺野兩氏の圖學敎科書も必要なると前者に讓らぬと思ふ。しかしこれだけでは不十分である。から實際の建築物について柱頭や何かの投象を作圖して見ることも必要である。參考書を調べて見ると著者が異なるに從て作圖の方法も異つて居るのがあるから、その如何なる理論によれるかを調べて置く必要がある。而して一つの直角を畫くにしても幾何學の理法を應用したるものもなきにあらざれば、平面幾何の理法を一應研究的に復習しおく必要ありと思はる。例へば圓の直徑を對角線とする內接四邊形の直徑に對する角は直角をなす理法等は時々用ひらるゝ所である。更に進んで透視畫の理法を說明するに至つては幾何學上の比例が多く用ひられてゐる。故に用器畫法の研究法として

は作圖を具體化すること幾何的に研究することが必要である。』と。かくの如き方法によつて研究するならば何人も好成績を占め得ることが疑はないであらう。

ロ　**毛筆畫の研究に就て**　(1)寫生――某合格者曰く『私は寫生は線書と彩色とに注意し光線による色彩濃淡等の變化卽ち洋畫の感想を頭から取り去つて純なる日本畫で書いて來ました。又其の度合は實物をそのまゝその通り正確に現はし感じを主とする藝術的のものにはしなかつた。之は教育的の圖畫といふ心持から定めたので平常もその心で研究しました。私は別に變つた調べ方もせず諸名士の高級理論等を雜誌で拜見したのみで他は手腕の練習につとめました。つまりこれは理論や學問でなく技術でなければならないから永き練習と研究とが必要であると思ひます』と。寫生研究の要點は此の談話を讀めばおのづと了得し得るであらう。

(2)略畫――同人曰く『略畫は線書きではなく沒骨描法卽ちイナタテ風で書きました。問題は各方面から出て居りますから廣く見ておく必要があります。私は其物各個の特點を書くべく用意し、鳥獸魚貝や花卉人物等各卷として類似の物を一つにして區別を知り、寫生をした方も動植物解剖等他學科の助力を借るとも多かつたのであります。』と。

(3)圖案――同人曰く『考案の巧拙は用途材料製作特點裝飾等の適當なるや否やにあるのであるからその心して作る樣注意し、敎育的基礎のものを主にすべきである。』と。

ハ　**鉛筆畫の研究に就て**　(1)鉛筆寫生――某合格者曰く『鉛筆寫生に於ては對象の形狀分劃等を見明暗のコントラストを吟味してその特徵を表はすことが最も大切であると思ふ。』と。

(2)水彩寫生――同人曰く『水彩寫生は每年靜的であるがその性質ヴアリユウ色彩の變化を主とし、出來るならばその精神感觸等を表はすやうにすべきである。』と。

(3)圖案――『鉛筆畫の巧拙の條件は日本圖案の場合と同樣であるが、日本圖案は日

本式模様に西洋畫圖案は西洋式にすべきは云ふまでもないことである。』と。尙商品陳列館博物館等を參觀して實際の工藝品を研究することは極めて有益である。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章同題目の部を見よ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び前諸章同題目の部を見よ。

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び前諸章の同題目の部を參照せよ。

第二十一章　手工科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　豫備試驗に於て不成績なる方面

まづ手工科に於ては如何なることを試驗するかを明かにする爲め、岡山委員の談話を引證すれば『手工科の教師として檢定すべき知識技能換言すれば受驗者の準備すべき範圍は之を分つて三つの異つた部分とすることが出來る。卽ち(一)手工科に對する教育思想並に教授法(二)製圖及圖案(三)實地及試問といふ三方面である。さうして此の三つを予備試驗と本試驗の前後二回に亘つて試みるのである。受驗者は各々此の三方面に偏頗なく及第點を取るのでなければ合格するこ

とが出來ない』のである。

然らば年々の予備試驗に於ける此の三方面の實際の成績はどんな具合であらうか。岡山委員はこれに關し『實際試驗の結果からいふと第一の教育思想並に教授法の方面に於て要求する所は、主として師範學校小學校の手工教授の目的教材教法設備等の事であるが此の成績はいつの時でも比較的よい方である。第二の方へ來ると大分困難になると見える。手工科の予備試驗ではこの第一と第二とを試みるのであるが、その際に落第するものは主としてこの第二の方から出るのである。そこで第二の中を更に細かく分ればその一は製圖即ち用器畫を基礎とした描圖他の一つは圖案即ち美術的の考案なのである。而してこれに應ずる受驗者の力は概して乏しいのであるが殊に製圖に關する知識は甚しく欠けて居る。これは從來日本の工業が全く學術的でなくたゞ巧者に器用にさへすればよいといふ風であつたゝめに生じた弊であらう。製圖は數學的のものであつて一分一厘でも違へばそれはいけない。幾十のものが別々に造つても、製圖さへあれば全然同一のものを造り上げることの出來るやうに正確なものであらねばならぬ。將來我國の工業の進歩を促すにはこれは必要のことである。殊に試驗の場合に於て他のものであると一部分の相違があるからと云つてもそれは一部分の失敗で濟むけれども、製圖は性質が數學的のものであるから部分の離齟は多くは直に其の問題全部の錯誤となつてしまふ。で受驗者の大部分は予備試驗で失敗し而もその落第の七八分はたしかに此の製圖のために失敗になるといつてもよい』と詳細に說明されてゐる。

阿部委員も亦『圖案は普通一般の日本西洋の家具即ち机本箱煙草盆椅子などを課し用器畫では投影畫法を課して來た。用器畫に就ては例年成績は頗る惡るい。一體用器畫は手工科に非常に必要な科目でこれが十分出來ないと圖案なども思ふ通りに出來ないものである。又本科の受驗者は數學の力が餘りに貧弱である樣である。手工科が進歩するにつれて益々數學の力、物理學の力學、美學などの補助學科は切實に必要となつて來る。此等の教養がないととても予定の境地に入ることは出來ないと思ふ。例へ

ば用具の使用にしても製作品にしても、數學的物理的美學的の理論を抜きにしては手工は何の意味をもたらさぬこととなるのである。されば實技の試驗に際しては製作品そのものよりその過程に注意する。理論的であるか否かを十分活目するのである。予備試驗で最も不成績なものは何時も用器畫に多いがこれは左程種々なる書物を調べる必要はない。丸善出版の久保田圭右氏著高等立體圖學位が本當に了され應用せらるる位になつて居れば十分である。かれこれと淺く廣く見るのは餘り利益はないやうに思ふ。』と岡山委員同樣用器畫と數學の力の貧弱なことを語られてゐる。

ロ　本試驗に於て不成績なる方面

兩委員は次に本試驗に於ては如何なる方面が一般に不成績なるかを親切に說かれてゐる。岡山委員曰く『本試驗に於ては實地及び試問をする。實地は從來如何なることが試驗されたかといふと主として木工金工粘土細工であつた。さうしてその成績は木工が比較的一番よい。粘土細工の方はさして好い方ではないがしかし金工の成績は一層よろしくない。本試驗の落第の多くは金工の

成績の惡るいためであるといつてもよい程である。一體今日の時勢からいふと金工は非常に大切なものである。日用品と云はず裝飾と云はず實用上金工の必要は刻々に增して居るのみならず、手工科教育の目的の上に於ても金工は必要である。然るに受驗者は只金工の一端だけを調べて試驗に出るといふことは甚だ無謀のことである。尤も金工といへばその範圍が極めて廣いけれども、從來檢定試驗では板金鋲眞鎖細工それに簡易な鐵細工が主として試みられるのである。尤も之が成績の宜しくない所以は木工の類であると自分の學校などにその設備があり、又自分の家で實地の練習をするとも さして困難でないけれども、金工の方になると大概の學校にさういふ設備がない。又自分でやることもおつくうである。從つてこの實地練習が怠られるといふ有樣である からであらう。けれどもさういふ所でも自分で熱心にしようとしさへすれば決して出來ないとはなからう。たとへば師範學校又は實業學校あたりへ行つて特別に學ぶとか 或は鍛冶屋なり銅工屋なりへ行つて實習するのである。苟も受驗しようとする以上は

この位の覺悟は必要である。』と。

阿部委員は更に詳細に本試驗の內容を說明して受驗者の一層努力を要する點を明かにされてゐる。曰く『本試驗の實技は主に木工金工結士細工であるがこれも一つ〳〵分けて話をして見ると、木工は八時間位で製作し得るものを作らせる。硯箱とか机とか木箱衣桁等の類のものである。用材は檜櫻桐桑などの節の無い上等品を使用せしめてゐる。この時工具の使用法などを檢定する。鉋の磨ぎ方鋸の引方などの頗る非論理的なのは採らない。このやうな些細なことでも實力の高下が遺憾なく暗示さるゝものであるから注意すべきである。金工の實習は鐵の板で漏斗を白蠟附けで製作したり眞鍮の用材で墨壺をこしらへたりなどするのである。今日までは此の金工の成績もわるい。これは實習の機會を促へることの困難な爲めであるから無理もないが、さりとて見のがすことの出來ないものであるから鍛冶屋へでも行つて見學すべきである。次に粘土細工は主に花などを一番多く課して來たが、之も地方では適當な指導者もなく研究には困難を感ずるであらう。どうも毎年成績が面白くない。全く素人といふよりほかはない。將來は何とかしていま少しどうにかならなくてはいけないと思ふ。要するに手工科の實技は以上の如く種々のことをやらなければならぬのであるから受驗者も骨の折れることであらう。しかしながら又趣味のあるものであるから志を同うする人々と共々に努力して欲しいと思ふ。實技の檢定の要點は畢竟工具の使用材料の用法工作法の科學的であるか否か及び製作品の美的價値などを見るのであるが、少しく努力すれば試驗は必ずしも困難ではなからうと思ふ。』と。

從來の受驗者の缺點は上述せる所によつて明かである。將來の受驗者はこれを次節と併せ讀んで十分なる準備をもつて試驗場に臨むやうにせられたい。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　正確にして敏速なるを尙ぶ

『實地作業は飽くまでも正確と敏速とを尙ぶ

やうにやるとである。何となれば技術は正確であると同時に敏速でなければ到底その目的を完うすることが出來ぬものだからである。これが爲には練磨に練磨を重ねて熟練の域にまで至らねばならぬことは言を要しない。』これ內海委員よりの受驗者に對する注意であつて分り切つた平凡な言ではある。しかし實習に此の心掛けが有ると無いとではその腕前に甚大の相違を生ずるものであるからして受驗者は一刻もこの事を念頭より離されざることを特に注意しておく次第である。

ロ　練達者の實技を學べ　これは前節に於て既に述べた事柄ではあるが極めて必要なることであるから反覆の嫌があるけれども茲に再び記さなければならぬ。內海委員曰く『受驗者は絕えず練達者の實技に注意すべきである。それは何故必要かといふに一般に技術といふものは呼吸が大事なものであつて、それが爲めに絕えず練達者の仕事振を見又はその製作品を見ることが大切だからである。かうして或は見たり或はきいたりしてをる中に自分の技術もおのづと進歩するのである。それ故手工科の受驗者は街頭を歩いてをる時でも絕えず心を配つて或は指物屋だとか或は塗師屋だとかさういふ店前をちよい〳〵窺ひて專門家の實際の仕事振をみるがよからう。』と。これは本統に技術に熱心になりさへすれば人から敎へられるまでもなくおのずとさうなるのであつて、またさうまでになるでなければ駄目なのである。

ハ　日常の器具に注意せよ　本科に志すほどの者は誰しも氣がつきさうなことであつてその實大抵うつかりしてゐる必要事はこゝに擧げる內海委員の談話である。曰く『日常普通の器具の如きはその寸法を呑込んでおくとよい。たとへば椅子だとかテーブルだとか云つたやうな日常普通に使用する器具は、高さは何尺何寸位幅何尺何寸位と覺えておくことである。これが記憶されてゐないととんでもないものが出來ることがある。一寸したことの樣であるが中々大事なことである。然るに受驗者の製作した者を見ると通じて此の念が不足してゐる。』と。實際これは暇も手數も要らぬことで、覺えておけば便利此上もなく覺えておかぬと思はぬ不覺をとることといふべきで

ある。

ニ　教授法は實地に就て練習せよ　本試驗には教授法も試驗されるから受驗者はその準備もしておかなければならぬ。しかし實技の教授法は只參考書を讀んで習得し得るものでなく、飽くまでも實地經驗から體得しなければならぬ。阿部委員曰く『口頭試問はいよ〳〵試驗が受かれば師範學校の教師になつたのであるから師範學校に行つてどんな考へでやるかを見るのである。それは單に書物から得た知識よりも自分の經驗から得た知識をまとめて居る人が望ましい。』と。内海委員もまた『教授法は實地に就て練習しておくことである。然るに受驗者の傾向を見ると多くは本の上ばかりで稽古してをる形跡がある。しかしそんなことでは足らない。生徒に對して實地にやつて練習しておかなければならぬ。畑水練は實際にぶつかると何等用をなすものではない。』とほゞ同意味の注意をされてゐる。

ホ　一般的修養を怠るな　本科に限らず技術的學科の受持教師は概して生徒から餘り重くみられない。その原因は說明する迄もなく彼等の多くは只實技の修練にのみ專らであつて教育者としての一般的修養を怠れるが爲めに他ならない。かくては當然その科の成績に大なる影響を及ぼさずにはゐないから今後の受驗者は平素此の方面にも注意を拂ふことが肝要である。阿部委員曰く『先年數縣の師範學校を見たが其の時に感じたことは、手工教員としての實技は十分出來てゐても、教育者としての修養をして居る人とその修養の足りない人との間には縣下の手工教育上著しい差があることである。故に今後は本科の實績を擧げんとするには餘程立派な教員が必要である。その立派な教員をつくるにはどうすればよいか。十數年前の手工教員ならば實技が出來ればそれでよかつたが、現在及び將來の手工科教員は實技は勿論出來なければならぬが、その上に更に手工に關する理論及び普通教育に於ける各教科目に就ての一通りの見識を有つており、換言すれば教育者としての修養あるものでなければならぬ。然らずんば到底今後の手工教育を積極的に發展するに就て働き得る良教員といふ事は出來

ぬと思ふ。故に本科の受驗者はその試驗要目に對して修養することの必要なるは勿論であるが良教員となるにはそれ以外に頭の修養をしておらねばならぬ。卽ち只試驗をする要目に就てのみ準備するのでなく出來る丈け廣く教育者としての修養をして貰ひたいのである」と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【理論に關するもの】

◎文部省篇　小學校教師用　手工科教授書　大日本圖書會社

◎岡山秀吉著　小學校に於ける　手工科教授の理論及實際　實文館

先づ右の兩書によつて小學校の手工を研究することが必要である。前者は甲乙丙丁の四冊、後者は全一冊。前者の丁卷は木工と金工に關する項を稍詳細に說いてあり實力養成上必要な文字に富んでゐる。後者は簡明に手工教授の全般に亘つて說明してあつて、全體としての知識を得るに欠くべからざる良書である。

◎上原岡山阿部共著　師範學校　手工教科書　實業教育研究會

前扁は竹細工、木工、旋盤細工、後扁は粘工細工金工及小學校に於ける各種の細工及その教授法を說いてある。參考書中最も必要なるものの一である。精細に研究するがよい。

◎岡山秀吉著　師範學校　手工教授書　金港堂

木工に關する參考中の主要なるものである。精讀を要する。

◎文部省篇　普通木工術　大日本圖書會社

◎同　上　普通金工術　同　上

此の兩書は是非實地と關連して研究しておかねばならぬ。

◎岡山秀吉著　新手工科教授　實文館

本書は歐米手工教授の狀況、我國手工教授の革新、手工科用工具機械の三篇から成つてゐる。暗記する位にまで反覆熟讀するがよい。

◎岡山委員著　歐米諸國手工教授の實況　實文館

前書を讀めば本書は必ずしも見るに及ばないが、一讀しておけばそれだけの利益あることは勿論である。

◎棚橋岡山共著　手工教授書　實文館

手工教授の沿革及び教授法を詳細に說明せる良參考書で精讀を要するものである。尙手工教授上の設備を說けるものは異んどないからそれは本書によつて研究するがよからう。

◎內海靜著　技能科教授論　育英書院

主として理論と實地との關係を說けるもので、理論的頭腦を作る上の好參考書である。

る。

◎藤五代策著　技能科に於ける實際問題の解決　尙文館

◎阿部岡山共著　教案中心　手工教授の實際案　敎育研究會

右の兩書もまた是非一讀しおくべきもので、その他種々の參考書があるが何れも大抵大同小異であるから上述せるものをしつかり見てをけばそれでよいと思ふ。

尙左記の雜誌は必ず購讀して新研究新思潮を見落さぬやうに注意せねばならぬ。

◎手工研究　手工研究會

【圖案に關するもの】

前章圖畫科の部に揭げたるもののほか、

◎小室宮本共著　日本家具圖案と製作法　丸善書店

◎木檜恕一著　雜木利用　最新家具製作法　博文館

◎同　　人　室內裝飾家具製作圖
◎下檜下川共著　手工適用製圖製作法
博　文　館

等によつて特に家具製作に關するものを十分に研究しておくことが必要である。

【用器畫に關するもの】

前章圖畫科の部に揭げたものを見ればよい。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　用器畫の研究に就て

受驗者は先づ前章圖畫科の部に述べた用器畫研究上の注意を一讀し、而る後下に引用せる本科某合格者の談話を讀まれたい。兩者のいふ所ほゞ一致せることに特に留意すべきである。曰く『製圖は學理上中々困難なことで、これは確かに受驗者の用器畫の力量の有無を鑑定せられることは勿論、工作上製圖の必要は社會發達の上より益々要求の度を高めつゝある今日、更に又現時の試驗問題から考察するに、中等教育に使用する用器畫程度を研究した丈けでは尙不十分の感が起きる。豫備試驗に不合格となるは大部分これが爲めであるといふことである。是非十分に研究する必要がある。予は最も製圖の研究に時間を要し又苦心した。一年間に四ッ切畫用紙兩面に約二百枚も描いた。その外に雜記帖等に澤山練習した。製圖と云つても平面幾何畫法と投影畫法までやればそれでよいのであるが、參考書を目で一通した位では何等の用もなさぬ。根本原理を確得し多くの問題に接し、且つ問題を作り自由自在に解決し得るまでに努力せねばならぬ。殊に此等の作業は技術に屬するもので平素に於て絶えず研究を重ねることが第一である。試驗問題を見ると製圖は應用問題であつて用器畫の原理及び應用的の才能が要る。本にある問題位で滿足しては駄目だ。製圖はまた理論のみを知つたゞけでは何の用にもならぬ。實際に器械を使用し大に熟練しなくては到底效果を收めることは出來ないのである。』と。

ロ　圖案の研究に就て

某合格者曰く『繪畫特に圖案に關しては隨分多くの著

書があるが、理論を大に研究すると共に實地に描く程の技量を養ふて置く必要がある今日までは家具圖案に屬する問題が多かつた樣であるが、併し此等木工に關するものみでなく陶器金屬等をも研究しなければならぬ。要するに本科に於ては受驗者の圖畫の素養の程度如何を驗せらるゝことと思ふから諸種の工藝品に周到なる注意を拂ひ絶えず實際的の研究をなしおく必要がある。予は度々商品陳列場や家具商店に行つて研究し人を一寸訪問してもよくその家具等に注意したものである。』と。

他の一合格者はまた『圖案は大抵家具手工料の設備工具に關するものが多い樣である。椅子、テーブル、書籍戸棚、茶棚等の家具の構造や寸法の大體を記憶して居らねばならぬ。又近來は洋風の家具が多いからその邊の注意も必要と思ふ。調和や統一のとれた美術的に圖案することに心掛けねばならぬ。しかし勿論構造材料實用製作といふ樣なことは忘れてはならぬ。描法は自在畫用器畫何れとも限定してはないが私は用器畫の方がよいと思ふ。正面平面側面全體圖と出來るだけ精細に明瞭に圖案するとが肝要である。これが參考書としては木檜氏の雜木利用新家具製作法と同氏の室內裝飾家具製作法がよい。共に專門的のものであるが良參考書である。とにかく圖案は多くの實物に就て研究しておくことが必要である。自分の家庭に使用してある家具をはじめとして、學校の設備や備品殊に家具屋に出入して常に色々なものを見て居るうちに知らず識らずの間に形や構造や寸法を記憶するものである。そして問題に接した場合にはそれ等の觀念に依り更に理想的の圖案を描くやうにつとむべきである。』と詳細に後進者の爲めに研究上の注意を述べてゐる。

ハ　理論の研究に就て　某合格者曰く『理論に關するものは本科試驗中最も重要なるものである。私はこれに關しては隨分多くの本を讀んだ。しかし本科の研究家は非常に少く從て著者も僅な人に限定されてゐるために各著書の內容は共通の部分が多い。著者として有名なるは上原、岡山、阿部、藤、內海諸氏であるから、此等の人々の著述を中心として研究すべきである。尙一般教育學殊に最近歐米教育思潮を紹介

した本は是非一讀しておかねばならぬ。次に小學校や師範學校に於ける教授の實際に就て相當の意見を作つておかねばならぬ。先年の「手工科教材の選擇上地方的教材の採擇は如何なる標準によるか」「師範學校生徒をして手工科の實技に習熟せしめん爲めに課外實習を課す方法に就き述べよ」等の如き問題を見ても如何に實際問題に觸れつゝあるかゞ分る。しかし此等の問題を解決するには一般的抽象的に確固たる意見を立てゝおいて、これにより項を追うて議論を進めねばならぬ。要するに出來るだけ多くの參考書を讀んで自己の思想として纏めておくことが肝要である。』と。

ニ　工具及び材料の研究に就て　某合格者曰く『材料及び工具の解說用途使用法手入法製作法等の研究は左まで困難ではない。これはたゞ參考書で讀むだけでなく出來るだけ實物に就て研究するがよい。師範學校時代の記憶を辿りながら書物の上の圖を見て想像する位では駄目である師範學校工業學校の近い人は時々出掛けて研究するがよいと思ふ』と。

ホ　技術の練習に就て　某合格者曰く『技術の練習は一朝一夕の問題ではない。本科は他の科と異つて製作の技能を要することが隨一で從て此等に關する十分なる實技の修練が必要である。技能教科にありては技術の練習そのものが生命であるから、たとへ豫備の一關門は無事通過しても第二の關門である本試驗及第は到底覺束ないのである。本試驗には木工、金工、粘土彫刻の三種を課せられるが、時間又は材料の制限があるから迅速と經濟的の方面の熟練を第一にしなければならぬ。予は木工は實際指物師について研究した。そして過去の問題は時間を定めて全部製作して見たが時間內には出來なかつたやうである。金工に於ても鍛冶法等は鍛冶屋に於て實際に練習した。又打出蠟付等の研究は銅工師について研究する等人知れず苦心した。粘土彫刻は主に草花唐草模樣等のものが出る。そして此等は薄肉中肉で又時として立體的のものもある。材料は何處にもあるから樂に練習が出來る樣であるが中々容易なものでない。大に研究しなければならぬ。』と。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を參照せよ。」

四　筆答試驗に對する準備と注意

前述せる所と稍々重複の嫌があるが試驗問題の要點について簡單に述べておく。

イ　用器畫に就て　某合格者は大體如何なる問題が出るかに就て下の如く述べてゐる。『用器畫に於ては主として立體に關するもので或は此等の或る部分を一平面を以て切斷した場合、或は相關體の或る部分を平面を以て切斷した場合の圖が出るのであるが、時には水平直立の二平面に傾斜した平面を以て切斷した場合も出ることがある樣であるから、この邊の程度まで研究しておかなければならぬ樣であります。』と。又一合格者は實際試驗場に臨める際の注意として『實際試驗の場合には時間

の制限や一種昂奮した精神狀態のために思ひがけぬ失敗に歸する例は少なくないが、殊に此の用器畫は僅か一點の考へ違で全體に間違を生ずるものであるから餘程注意せねばならぬ。極めて落ちついた穩かな氣持で居らねばならぬ。そしてどこかに解題の糸口を見出すとが肝要である。その糸口さへ見出せば後は存外容易く出來るものである。それから製圖の際は正確にやらぬと折角方法が合つて居ても圖の上に間違ひが出來ることがある。又綺麗に書くことが必要である。これは一般の答案に文字を綺麗に書かねばならぬのと同樣だと思ふ。』と述べてゐる。

ロ　圖案に就て　某合格者曰く『本科に出る圖案は製作圖案であるから實際をはなれてはならぬのであります。故に圖案に圖案として立派なものであつても之を實際に當嵌めて見た時には面白くないといふ樣なものであつたら、これは感心の出來ぬものなのであります。圖案として研究すべきものは如何なる種類のものであるかといふに、多くは家具類で時には建築に關する圖も出るのであります。何れの場合にしても方法

といふことは餘程考へて居なければなりません。』と。

ハ　工具に就て　某合格者曰く『工具に關する問題としては大抵工具の構造用法等に關する說明でありますが、この種の問題は參考書により一通の工具に就て調べておけば十分であります。』と。

ニ　理論に就て　某合格者曰く『理論に關する問題は多く常識的のものでありますから、參考書を熟讀し教育雜誌等に出てをる問題に注意すれば大體は研究が出來ることと思ひます。尙此の方面の參考としては東京高等師範の教育研究の臨時號圖畫手工の協議會錄は有益なものであります。』と。

五　實地及口答試驗に對する準備と注意

イ　上京見學　某合格者曰く『上京は出來るならば少しでも早い方がよい。そして三越や家具店に出入して構造や意匠を見、大體流行を知つておく必要もある。又高等師範の手工室や高等工業學校や府下師範學校等を參觀して設備や工具製作品等を見ておく必要もある。殊に工具や設備の乏しい地方に居たものには、此等の學校に備へつけてある機械や工具に一度當つておくと間に合はせではあるが都合がよい。私は試驗の前日女高師を參觀した。初めて見た機械や名も知らぬ工具を藤教授に教へて貰つて翌日試驗場で之を使用したといふ滑稽もあつた。』と。

ロ　木工に就て　某合格者曰く『木工の試驗に於て最も注意すべきことは製作は理論的になすべきことである。製作の順序方法より工具の用法材料の用法に至るまで悉く生徒に模範を示すつもりでしなければならぬのであります。又寸法や形を正しく作ることに注意して徒に技巧にのみ熱中することは避けねばなりません』と。又一合格者曰く『工具はよく手入して掛からなければならぬ。鉋さへ切れゝば製作は樂である。多少の時間は思ひ切つてやつた方が得である。三十分でも一時間でも構はぬと思ふ。初めに少々おくれても直ぐ追ひつくのである又工具は使用法を誤らぬやうに

注意しなければならぬ。ノミを使用する所を小刀で間に合はしたりする様なことはわるい。』と。

ハ　金工に就て　某合格者者く『金工としては一通りの基礎の細工を練習しておきさへすれば大丈夫かと思ひます。卽ち板金を半田鑞にて接合することを始めとして眞鍮鑞の練習及び鐵の鍛合等でありまります。尤も鍛合に就ては附銅の練習も必要であります』と。

ニ　粘土細工に就て　某合格者曰く『粘土細工に於ては大抵七寸に九寸位の長方形の平板上に花類の彫刻をなす様でありますから、此の標準を以て花鳥獸類魚類人物等の練習をなせば十分であります。粘土細工に於ては肉付の如何を尙びますから形を正しく作ると共に粘土の盛方に就ては細密なる注意を拂はなければなりません。』と。又一合格者は曰く『粘土は割合に樂と云はれて居るが地方に於ては指導者のないのと參考品の少いのとで實習に困難である。東京の牛込區市ヶ谷仲の町三十番地に河村嘉祥といふ塑像の先生が居れる。受驗者は毎年此の先生に敎を受けて居られる様である。私も御厄介になつた。懇切に敎へて下さるので僅か一二日であるけれども非常に爲めになつた。種々の製作品模型といふ様なものも澤山あるから此等を見るだけでも參考になる』と。

ホ　口頭試驗に就て　某合格者曰く『口答試驗に於ては手工に關する知識の如何、就中敎授法に就て質問される様であまりすから自分の信ずる通り答へればよいと思ひます。たとへ委員の說と異つてゐた所で誰にも納得出來る様な說であれば良いといふことであります。』と。

尙第一章第二節及び第二章第二節の四、五を參照せよ。

第二十二章　手藝科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　試驗の內容　先づ第一に岡山委員の言葉を借りて本科試驗の內容を說明しよう。『手藝は刺繍編物造花の三つに分れて居つて免許狀を得るには此の中の二つに合格せねばならぬ。但裁縫科の資格ある者は此の中の一つに合格すればよいのである。右三種の試驗の模樣は大體同じであつて何れも(一)教授法の方面(二)實技に對する工具材料工作法上の知識の方面(三)實技(四)試問に分れ、此の中一二は豫備試驗に於て行ひ、三四は本試驗で行はれるのである。圖案は手藝に對しては實技の上にも又之を

敎授する上にも直接間接關係する所が甚だ多いのであるから、此の科の受驗者は此の方にも意を用ゐて研究して來ることが必要である。目下女學校の增設並に手藝科の發展につれ此の科敎員の需要が甚だ多いに拘らず非常に少數なので、當局に於てもその應試者の增加せんことを大に希望して居られるのであるから、本科の敎員たらんとする人はどし〳〵受驗せられるやうおすゝめする次第である。』

ロ　勉强が速成的で粗雜　本科受驗者の根本的缺點は勉强が如何にも速成的で且つ粗雜なるとである。かくの如きは試驗を侮辱し引いては自己を侮辱するものでなくて何であらうか。金子委員曰く『私の第一に申上げたいことは受驗者の勉强振がどうも速成的で粗雜の傾向があるといふことであります。勿論これは試驗が行はれるやうになつてから日がまだ淺くて、どんな參考書を讀みどんな細目に就て如何樣なことを實地に研究してよいか、他の科目などの樣にはつきりと判つてをらぬといふやうな點にも原因してをることとも思はれますが、しかし勉强も確かに十分でないやうであります。例へば豫備試驗の筆答は大變によく出來てをるから本試驗の技術も定めしうまいことであらうと思つてをると、豈圖らんや技術は極めて未熟であり粗雜であつたりする。これは造花なり刺繍なりを本當に打ち込んで勉强した證據とは云へません。眞にこれを勉强しやうと思ふならばかやうな片手落な勉强や系統のない粗雜な研究ではならぬのであります。』と。同委員は更に受驗者は一般に手藝の本質を明確に了解して居ず、用途を顧慮せずして無目的に物を製作する弊のあることを指摘されてゐるがこれは次項に於て詳細に紹介する。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　手藝の本質を明瞭に了解せよ　苟も本科の受驗を志すほどの者は手藝の眞目的は奈邊にあるか位は心得てゐそうなものであるが實際は中々そうでないらしい。金子委員曰く『受驗者は一般に手藝の本質を了解してゐない嫌があります。たとへば

造花にしても只單に櫻なら櫻の花を造ればそれでよいかと申すと決してそうではないのであります。それは恰も忠實に形體を模した所の寫生畫が未だ本當の藝術を去ること甚だ遠きものがあるのと同じことであります。全體手藝も一の美術品でありますから他の藝術品同樣單に形を模したり植物學上の法則に適はんことを努めたりするだけでは足らんのであります。換言すれば美的眞を打ち籠めたものでなくてはなりません。植物學上や數學上の科學的眞も必要でありますが、然し手藝は美術であるといふ點からどこ迄も主眼は美的眞でなければならんのであります。櫻ならば一見して本物の樣、ボタンならば一見して本物のボタンを思はしむるところのものでなくてはなりません。而してそうするにはこれ等の櫻乃至ボタンの美的眞即ちその精神又は生命を十分に表現する樣に工夫しなければならないのであります。然るに受驗者の造つたものや刺繍したものを見るとどうも此の點が十分でないやうに思はれます」と。云ふまでもなくこは受驗者の第一に心掛けなければならぬ肝要事なのである。

ロ　作品の用途を考へよ

金子委員曰く『次に申上げたいとは同じ造花でもそのものの用途に依て自ら異るところがなければならぬのに、受驗者の作成品は千變一律の感があるといふことであります。これをたとへて云ふと同じ菊の花でも或は帽子の飾とか或は種々の裝飾に用ふるものは、室内の活花代用にするものとは自らその精神の入れどころが異るのであります。卽ち裝飾用のものは一目してあゝ綺麗な菊だと人に思はせる樣に出來ればそれでよいのであります。言葉をかへて申せば菊ならば菊の要點をパット人に示す樣に造ればよいのであります。それが必ずしもどんな色でなければならぬとか植物學上花が是非かうなつて居らねば科學的に眞でないとかいふやうなとは問題ではないのであります。然るに若しこれが活花用のものであると單に前に述べた樣な裝飾的のものであつてはならぬのであります。卽ち菊の活花の代りをさせるのであるから、此の場合には實物を眼のあたりに見るが如く感ぜしむる底の菊を造らねばならぬのであります。隨て或る程度までは植物學的法則にも從はねばならず實物寫生の原

則にも聽かねばならぬのであります。然るに受驗者中には此等の相違を明にしてをらぬものが甚だ少いやうに思はれます。然らば如何にして美的眞を表現すべきかといふことに就て一言するとそれには己れの頭の中に菊ならば菊櫻ならば櫻ボタンならばボタンの明確なる美術觀念をもつことが肝要であります。勿論これが爲めには此等の花の精神とも云ふべき點を直覺してちやんと記憶しておかなければなりません。たとへば菊ならば菊の特色はどういふ點にあるか櫻ならばどうか等であります』と。平凡ではあるけれども受驗者の須臾も忘れてはならぬ眞理である。

ハ　實物寫生を練習せよ　以上の準備として受驗者は常に實物寫生を練習することが肝要である。これに就ても金子委員が極めて有益なる注意を與へられてゐる。曰く『受驗者は實物寫生を練習することが大切であります。これは單に自分が試驗を受ける爲めに必要なばかりでなくやがて生徒に敎授する場合に大に必要であります。たとへば菊を寫生する時には(一)莖の形狀はどうか色はどうか(二)葉の形狀はどうか葉脈の具合はどうか色はどうか(三)花は周邊の部はどうか中心の部はどうか色はどうかと、こんな風に觀察してそれを順次に書きつけておくことであります。勿論此の際には單なる植物の形や色でなく、菊ならば菊櫻なら櫻ボタンならボタンの生命乃至精神の美の一要素としての形狀色彩であることを忘れてはなりません。そうして次にこれを參考書に記載された所のものと比較して其の異同を正し段々と修正していけば極めて眞にせまつたものが出來てくるのであります。要するに手藝を修めんとするものは造花なり刺繍なり編物なりの本質を明確に意識して、花ならば花の美的眞を表現することに努めねばなりません。そうしてその準備としては觀察と寫生とに依り常に各個物の美的要素を捕捉し記憶するやう心掛くることとが肝要であります。』と

ニ　編物練習の心得　以上は主として造花及び刺繍に就て述べたのであるがその根本精神は編物にも通ずること勿論である。しかしながら編物練習に關しては更に編物特有の注意を要するはいふまでもない。豐原委員曰く『編物の試驗を受ける準備

としては只々高等女學校で形式だけほんの少し許り習つた位では少々難しいかと存じます。少く共それ以上技藝學校などで專門に稽古しなければなるまいかと思ひます。一體編みますものの種類は少いもので只それを應用して行くので御座います。ですから一通りの指南を受けましてからは自分でその編方を應用して色々のものを作るとが出來るやうになるものです。たとへば涎掛なりズボン下なり或はシヤツなりそれ等の編み振を應用しまして色々な形の物を幾通りでも拵へるとが出來るものですから、編み方の名稱は少いにしても造る範圍は誠に廣いもので御座います。編み振を應用して行きますには手そのものが器用でも頭が働らかなかつたら駄目で御座います。人樣の中には手藝の樣なものは手さへ動かして行けば出來るものであると思はれる方もありますが、それは間違つたお考で頭を使はないでは出來るものでは御座いません。たとへば早く編んで綺麗に出來榮えも好くするには、先づ頭で極めて手を動かさなければならないので、決してよい加減に手先で胡麻化して出來るものではないのです。先づ高等

女學校を出らるれば一通りの知識も持つてをられまして頭の働きも宜しいので御座いますから、それから熱心に練習さるれば餘程覺えられるとゝ存じます。然しそれも暇にちよい〳〵やるよりは、技藝學校に入つて初めから系統立てゝやられた方が技術も好くなるし進歩も早いもので御座います。それを少しやつては幾らか日數をおいてやる樣では進歩もしないし物にも艶が出來ないもので御座います。最後に尙御注意しておくことは若し習ふときになりましたならば器具の使用法編み振とか極くつまらない樣なものから段々やつて行き、途中から入つて習ふとか或は中途で止して了ふとかいふ樣なとがない樣にしなければなりません。階子段を上るに一時に五段も六段も上るといふ樣な無理なことはせずに一段つゝ上つて目的の處に達するといふ心掛は、此の科を稽古する方々のつとめて注意なさらなければならないことで御座います。無理な稽古や系統の無い練習をしたりした方の拵へたものは、艶がなく毛糸の撚りが戻つて來るといふ樣なことが多く出來るもので御座いますから、此の點に就て研究なさる

方に一言申上げておくので御座います』と。

ホ　**用具に就て**　本試験の場合に適當の道具を持つてゐると居ないとはその成績に關係すること極めて大である。試験委員の談によれば左に記載する道具は各自持參してよいといふことであるから、受験者は忘れずに平素手練れたものを持參するがよいのである。

造花受験者は。ピンセット、筋鏝、擦鏝（大中小）、一筋二筋三筋の鏝、ゴム板、晒木綿（二尺五寸）、鋏、糊板、彩色筆（三本）、線書筆、刷毛、繪具、繪具皿、筆（大）、丸鏝。

刺繍受験者は。針、鋏、めうち、繪具。

編物受験者は。金屬製編針（五本一組）、角製鉤編針、金屬性鉤編針、鋒針、毛絲針、鯨尺、鋏。

第二節　合格者より受験者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

本科の受験者は十人まで技藝學校職業學校等の卒業生で如何なる參考書を要するかはよく承知してゐることと思ふし、また本科は學理よりはむしろ實技に屬するものであるから參考書は大體を示すに止めて置く。

【刺　繍】

○岡本木村共著　實用刺繍全書　大倉書店

○木村清香著　刺繍圖案集　同　上

後者は三冊ものである。本科は圖案が非常に必要であるからよく研究しておかねばならぬ。

◎中等學校用圖畫敎科書　大倉書店
これは出來るだけ多く集めて精密に目を通し且つ普通なものは樂に描ける樣に練習しておかねばならぬ

【編　物】

◎森木義子著　家庭編物全書　文化研究會
◎文化研究會編　毛糸編み本　婦女界社
◎山田松子著　最新流行編物五十種　同上
◎母の友叢書　母の手藝
本書は最新刊で刺繍研究者の參考となる記事も少くない。

【造　花】

◎塚本鑛吉著　最新造花術　目黒書店
◎梶山彬著　造花術新書　廣文堂
◎金子、三好、石川著　造花全書　大倉書店
◎岡本蝶子著　造花の作り方　岡村書店

【其　他】

近來婦人雜誌には盛んに手藝に關する記事が載せられるから、各科の受驗者は必ず三四種を購讀して新研究をやつておかなければならぬ。
又手藝敎授の目的方法等は敎授法の參考書によつて特に詳細に研究しておくことが極めて大切である。

二　如何になる研究法をとるべきか

實技の研究は獨習ではとてもうまく行かないから、相當の技藝學校に入るか、或は少く共講習を受けるかしてその道の達人から正式の指導を受けることが必要である。
又常に呉服店等に入つて新流行を見落さず研究の資料となす心掛けがなければなら

ね。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三を見よ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　實地及び口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

第二十三章　家事科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　實地が不成績　學科と實地のある科目に於ては大抵實地が不成績であるが、本科に於ても亦例年實地の成績が甚だ惡るいと諸委員が一樣に云つてをられる。先づ大江委員曰く『一般に實地が出來ない樣です。これから家事の教員になるには只理論ばかりでなく實地が出來なくてはなりませぬ。例へば衣服のことを教へるにしても洗濯から張物裁縫のことまで理論は勿論のこと實地に熟練して居なければなりませぬ。食物のことでも理論ばかりでなく調理の仕方までも一々知つて居なければなりま

せん。それもうはつらだけではなく細部のことにまで通じなくてはなりません。例へば鳥肉を使つて甘煮を作るにも鳥肉屋から切身を買つて來た場合だけでは困ります。知人から鴨や雉を頂いたりした場合には腹わたを出して置かぬと腐敗し易いから之を出すことも知らねばなりませぬ。ヘットなども何時も牛肉屋から買つて來さへすればよい樣に考へてゐる人が多い樣ですが、牛豚の脂肪よりヘットのつくり方位は知つてゐて貰ひたいのです。衣服でもいろ〳〵のことが實地に出來ねばなりません。前年中學生の木綿洋服の火熨斗のかけ方をさせた所が滿足に出來た者は誠に少數でした。甚しいのはズボンの疊み方すら知らないのであります。それ故及第したからとてあまり威張るわけには參りません。とにかく一體に研究が淺薄であります。爾今檢定を受けんとする人は尙更のこと及第した方々でもモット徹底的に研究しなければなりません。本科の試驗は家事の本を讀んで少し理科の知識があればよい位に思つてゐては大變であります。多方面の知識と共に實地の腕前がなくてはなりません。例へば裁縫料

理みがき物等のことも自分で巧に出來ねばなりません。卽ちガラスを磨くにはどうしたらよいか、食物も家人の嗜好に應じて作るには如何にすべきかを知つてをるばかりでなく、それが實地に出來ねば駄目であります。裁縫は仕立屋にやる料理は仕出屋から取る樣では貧棒世帶は持切れません。要するに僅ばかりの教科書を讀んで家事の教師になれると思ふのは大間違です。成程實習のことばかりが必ずしも家事ではありませんが而も須臾も之を忘れてはなりません。理論のみに走り本ばかり讀んでゐて實習のことを怠つてはとても家事科の體をなさぬのであります。糠味噌の作り方の問題は少しも分らぬ方は隨分ありました。まづ大味噌をつけた方であります。合格した人もいろ〳〵の學科の埋合せでやつと及第せられたのであります。家事科のことも多種多樣で高尙なこともあれば又糠味噌をつける樣なこともあります。前申した夏洋服とみ

ひ糠味噌といひ要するに實地は慘めなものであります。』と。

次に之れに關する後閑委員の談話は前記大江委員の談話の一節と重複する嫌がある

けれ共受驗者を益することが大であると思ふから玆に掲げることとした。曰く『先年料理に雞のひなを一羽づゝあげまして之れを最初から料理する様に申したことがあります。ところがお出來になつたのは極めて少なかつたのであります。これは屹度鳥の肉は料理したことがあるが羽のついたのはじめてだといふので出來なかつたのであらうと思ひます。毛燒をする爲めにアルコールランプをおき又それを使はない方にはと思つて七輪に火をおいておきましたし、又新聞紙が御入用だらうと思つて之も出しておいたのでありますが誰もお使になりませんでした。之は受驗者の研究が徹底的でない爲だと思ひます。料理に限らず洗濯でも磨き物でも根本的にしらべておく必要があります。卽ち廣くといふ事と同時に深くなくてはなりません。目に入る物をすべて捉へて研究すると同時にその一つを深く研究するといふ事が大切であります。これさへ十分に實行してお出になりさへすれば家事科は決してむづかしい事はありません。』と。

次に近藤委員は受驗者の理化學の知識も亦單に一本の上から得たものであつて實際に甚だ疎いことを戒めて『前年本試驗の時にボーメイの浮秤を使つて或る食鹽水の比重を讀んで貰つたが、受驗者の中にはそれが何たるやを知らない人が可なり多數あつた。中には寒暖計だと答へた人もある。貴方はボーメイ何度といふ言葉を家事の書物で讀んだことはなかつたかと聞くと一人殘らず讀んだことがあると答へた。こんな實際とは何の緣もない書物の上での學習をやつて居つては、よし幸に檢定試驗が通つたにしても決して優良な教員となることは難しい。』と云はれてゐる。

上に記せる所を一讀する時は受驗者は實地に如何に無智であるかゞ窺ひ知られる。今後の受驗者は單に本の上の知識を以て試驗場に臨み萬一を僥倖せんとするが如きことなく、むしろ實地本位に十分なる研究を積んで後に受驗する様にされたいものである。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　研究の順序方法　受驗者は先づ次に記す甫守後閑兩委員の談話を熟讀し而る後次節を通讀する時は、本科研究の順序方法を十分に了得することが出來る。

甫守委員曰く『家事科は如何にせば吾々の生活を安全に愉快になし得るかといふ事を研究する學科でありますから生活の實狀態を離れて家事科はありません。故に單に書物のみに依て之を研究せんとすることなく、參考書に依て知り得た事は之を實地に照し合せて、行はれ得ることはこれを行つて見、見ることの出來るものはこれを實地に見るといふ様に致しますことが大切であらうと存じます。それでこれを研究します順序としては先づ師範學校高等女學校の家事教科書を二三種精讀することでございます。そしてこれを自分に了解するといふのみでなく、これを生徒に教へるといふ立場に自分をおいて此の事をどう説明すれば知らぬ人によく解るかと考へて見ますと、中々師範學校高等女學校の教科書の中にでも説明の容易でないことが少くないと存じます。例へば衣服の保存には蟲害を防ぐことの必要であることはどの教科書にでも書いてございませう。けれどもそのこれを害する蟲はどの様な蟲であるかと申すことになりますと衣魚位は誰でも知つて居ります。少し家事科を研究したな人らば衣蛾小衣蛾が最も強く衣服を害するものであるといふことも御知存でせうが、これを生徒にきかれて衣服の害蟲といふのは如何様なものであるか、其の衣蛾といふのはどの位の大きさの蟲でどの様な翅をもつて居るか、そしてどんな風に衣服を害するかといふことを明かに説明してきかせるとなりますとどうしても字で讀んだのみでは滿足が出來ません。是非その圖でも見なければなりません。理科の書物も參考せねばなりません。そこで生徒は理科の方でかゝる事をどの邊まで習つて居るものか、家事科では只その知識を呼び起しておけばよいものかといふ様な理科との連絡の必要なことも自然に解りますし、生徒の有つて居る知識ならばこれを説明する人は一層詳しく知つてゐなけれ

ばならぬといふことも解ります。さう致しますと次には實物を見たくなります。成蟲がこれで幼蟲がこれで蛹がこれであると解りますと、今度ははじめてあゝ此の羅紗は衣蛾の害を受けたものであるなどゝいふ事も解つて參ります。これを標本にも取つておきたくなるといふ風に次へ次へと興味を以て研究する樣になります。さては新聞雜誌を見ましても自然に家事に關する事には眼が止まる樣になり、その中に新しい說があればそれを調べて見たくなりますし新しい試みがあればその結果をきいて見たくなります。かくして一度知り得ましたことは殆ど忘れることは出來ません。そして眞の自信のある知識になるのでございます。これが研究の第一着かと存じます。次に家事に關する參考書のよいと云はれて居りますものをよく調べ、新刊の書物はそれが自分の研究に適當なるものであるかどうかを確めて、適當なものであるならば一通り眼を通し或は精讀して矢張その知識を實地に照し合はせることで御座います。さうすれば割烹と云はず洗濯と云はず掃除看護經濟なんでも實地に出來るとは實地に練習する必要が自ら起つて參ります。かくして家事研究の範圍が隨分廣いものであることが分り、一方に實地の練習一方には看護育兒經濟美術何々と各專門に亘る書物にも多く研究の歩を向けて參る樣に致しますが宜しからうと存じます。とにかくうはすべりでなく片端から十分に研究致しまして確かな知識を積んでまゐりますには活動的に研究しなければなりません。」と。

後閑委員曰く「初めに先づ一般の家政學を一通りお調べになつたら專門的に各學科の研究に取りかゝられたら宜しいかと存じます。尙詳しく申上げますれば一般の家政學には育兒衞生家事經濟衣服等のことに關して　廣く全般に亘つて記載してありますから家事といふことに就ての一般の概念は得らるゝので御座います。ですから先づ一般の家政學に就て廣い知識を得ましして、卽ち前に述べ來つた衣食住の中の家事經濟とか育兒法とか衣服のことゝか又は料理法とかいふ風に調べて行くことが必要かと存じます。それから又理論を調べたらそれを實地にやつて見ることが大事でありま

す。家の間取の理論を讀みましたなら家の圖面を實地にひいて見るといふ風に、そんな事柄は皆本に書いてあるからそれを讀んで十分練習することが必要であります。それから勉強なさるには問題を自分で作つてそれに解答をつけて見るのも面白いと思ひます。例へば三月三日といふ問題をつくつて見て、今日の夕食はどんな獻立にするとか、客間の裝飾を如何にするとか、人が來れば如何に饗應するとか、人の所に行くには何を土產に持つて行かうかといふ樣な風に、それからそれへと考へて見たなら大變有益であらうと思ひます。單に三月三日といふ問題を出しても割烹禮法教育等のことを知つてをらねばならぬ譯であります。かくの如く自分で問題を作つて見て、それを調べる時に理化學のことが必要なればその學理を調べ、風俗習慣を知ることが必要な時には適當な書物を讀むとか然るべき人に尋ねるとかして確實な知識を得ておく樣に努めればよいと思ひます。電氣を見ればタングステンとはどういふのか燭光とは何か瓦斯を見れば之は經濟的にどうとか、襖の紙にはどんなのがよいとかいつた風に、吾々の前後左右にある凡てのものが皆家事の問題になるのであります。かくの如くあらゆるものをとらへて問題にし之を研究して行つたならばよいと思ひます。』と。

ロ　諸方面の知識が必要　上頂と關連して受驗者の是非知つておかねばならぬことは本科の範圍とその關係諸學科であります。かくの如くあらゆる所は衣服、食物、住居、育兒法、看病法、家事經濟、家庭の整理、割烹、洗濯、磨きもの、掃除の方法其の他禮法等であります。試驗には此等の理論及び實際の兩方面があるのであります。育兒法で申しますと衞生學の理論を知らねばなりません。又極めて實際的の應用問題も出るのであります。又衣食住でありますと理化學的方面のことを知らねばなりませんし、料理などは實際にしなければなりませんからさういふ手練がなくて

後閑委員曰く『家事科の範圍とする所ではなからうと思ふ。

はなりません。家事科の性質といふものは諸學科を應用して實際生活に益ある樣にするので、基礎の知識として理論に精通してゐなければなりませんまた實際の事には熟練を要します。今までの受驗者は學理方面に精しい人は實際に疎く、世の中の經驗を積んで實際の方は非常に出來るといふ人は學理方面が全然出來ぬといふ具合でありました。只今の受驗資格は高等女學校師範學校の卒業生等でありますから相當學力ある譯で、理論と實際の兩方面を十分に調べてお出になればその試驗の程度は決して高くはないのであります。受驗された方からあんな問題は思ひもかけなかつたといふことをよくきゝますが、成るべく知見を廣くしてゐて貰ひたいのであります。世の中のあらゆるものは家事の材料でないものはないと云つてもよい位でありまして只書物の上ばかりの研究では十分と申されません。疊屋を頼んだならばその時はいろ〳〵疊のことを尋ねる。左官屋を頼んだならば壁のこと等をいろ〳〵尋ねる。呉服屋に行つたならば品の良否流行の如何等を考へるといふ風に實際生活に使つてをるものを興味を以

て研究的に調べるといふことが極く大切であります。

ハ　諸材料を大目的に統一する見識

最後に次に掲ぐる井上委員の談話は受驗者の精讀を要するものである。曰く『家事科で取扱ふ材料は非常に廣い範圍に亘つてゐる。衣食住の衣だけでも美的經濟的科學的の知識を必要とする。其他育兒看護經濟等多方面の知識を寄せ集め混成した學科である。これを教へる人は此等多方面の知識を必要とするのみならず經驗も常識も要る。然し此の多い材料を一つ〳〵教へるのではいけない。之を大きな目的に統一する見識と頭腦がなくてはならぬと思ひます。衣服のことを教へる時にも料理のことを教へる時にもその背景に一つの目的があつてそれが活躍しなければならぬ。その目的を果すために教材を使ふのでなければならぬ。その目的は人類の幸福を增進せしむる樣な家庭をつくるといふ事でなければならぬと思ひます。故に教授者は只教科書によつてその中に書いてある事を教へるだけでなく、生徒を生かし生徒の頭を働かせて目的地の

方へ導き出す教授上のアートも有つた人でなければならない。それには時代の思潮などに對しては最も達觀して居つて一方に遍することなく時代に合ふ樣に家庭生活を導いて行く見識がなければならない。そして生徒をさういふ方面に導いて行かなければならない。私はかくの如き要素を有する先生を希望するのであるから、試驗をするに當つてもさういふ要素を有つてゐるかどうかといふ事を試驗することになると思ひます。』と。かゝる見識と頭腦を有するならば優秀なる成績を以て合格し得ること疑ないのである。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【中等教科書】

◎佐方後閑共著　女子師範　家事教科書　目黒書店
◎同　人　實科女學校　家事教科書　同　上
◎甫守ふみ著　新編家事教科書　同　上

如何なる學科でも中等教科書で基礎を作つてから深い研究に進まなければならぬのであるが、本科の如き研究範圍の廣い學科に於ては特に然りである。卽ち受驗者は先づ前揭の教科書を精讀して家事全體に關する概念を確實に築き而る後專門的研究に入らねばならぬのである。教科書は必ずどれでなければならぬといふことは無いが前記は最も廣く行はれてゐるものである。

【衣　服】

◎大江すみ著　家事實習教科書　元々堂
◎石澤吉麿著　家事衣類整理法　大野書店
◎松下吉藏著　衣類と洗濯　修文館

衣類に關しては實習教科書中の衣類に關する部と後二者とによつて理論と實際をしつかり研究しておけば十分である。

【食　物】

◎喜多見佐喜著　割烹教科書　目黒書店
◎島田慶一著　家庭科學　日常飲食物の知識　大同館
◎澤村眞著　通俗食物講話　弘道館
◎同　人　食物及料理の研究　目黒書店

以上四書によつて料理と食物とに關する知識を確實に作り、而る後次の諸書によつて十分に實習するがよい。

◎赤堀峯吉等著　家庭日本料理　大倉書店
◎赤堀峯吉著　家庭實用　西洋料理法　同上
◎赤堀峯翁著　家庭十二ヶ月料理法　同上

尙次の三書も必ず一讀しおくべきものである。

◎佐伯矩監修　營養料理講習錄　日本評論社
◎額田豐著　安價生活法　政教社
◎北原美佐著　日本文學西洋　趣味の家庭料理　アルス

【住　居】

◎大江すみ著　應用家事講義　實文館
◎越本長三郎著　和洋住宅間取實例圖案　建築書院

前者の住居の部を調べ而るのち後者を研究するがよい。後者は單に建築法ばかりでなく裝飾や衞生のことなどまで說明してあつて頗る便利な本である。

【看護衞生】

◎大八木幸子著　實用家庭看護法　目黒書店
◎瀨川昌耆著　最近小兒病手當法　至誠堂

◎横手千代之助著　衞生學講義　南江堂

看護衞生に關する本は可なり多くあるが以上の三書を研究しておけば十分である。

【育　兒】

◎瀨川昌耆　實驗上の育兒　新橋堂

◎吉岡彌生著　私の實驗した安産と育兒　丁未出版社

◎東京市社會教育課編　愛兒の躾けと育て　實業之日本社

以上の三書をよく研究しておけば十分であらう。しかし餘力あらば

◎上野陽一著　兒童心理　婦女界社

は是非讀むがよい。本統は本書を先に讀んでそれから前二書を研究するが最もよいのである。

【作　法】

◎佐方後閑共著　女子作法書　明治圖書會社

作法は本書によつてよく研究しておけばほかに見る必要は無い。全三卷より成り作法に關するすべてを說明してある。

【經　濟】

◎後閑大山共著　家事經濟學　目黑書店

◎後閑佐方共著　家計簿記法　同上

前者を反覆熟讀して理論を確實にし、後者によつて實地練習をしておくべきである。

【實　習】

家事實習は

◎大江スミ著　家事實習教科書　元々堂

中に收めてある事項をそれ〴〵前揭の參考書によつて十分にやつておかねばならぬ。但割烹だけはもつと廣く實習することが必要である。

【理科學】

理化學は家事の研究に科學的基礎を與へるものであるし、又受驗上實際に必要でもあるからして左記の書は是非讀まなければならぬ。

◎近藤耕藏著　日用化學講義　光風館
次の本もまたよいものである。
◎石澤吉麿著　家事應用理化學　晴光館
◎石尾貞朝著　最新榮養品嗜好品製造化學　老鶴圖

【教授法】

◎石澤吉麿著　家事教授法
教授法としては本書だけで十分である。

【其　他】

本科研究者は少く共婦人雜誌一二種新聞一二種を購讀して、衣食住は勿論衞生育兒その他家事全般に關する新研究を見遁さぬやうにしなければならぬ。かくして生きた知識を得ることは受驗上極めて必要なのである。

尙過去の問題を解答せるものに
◎渡邊滋著　文檢家事裁縫手藝問題解答　東京裁縫女學校
といふのがある。解答の程度を知り擬答練習の指南として用ふれば便利であらう。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　理論の研究に就て

(1)分類綜合――實際との接觸　某合格者曰く『私は師範在學中に學んだ家事を基礎として二三の中等教科書によつて家事全體に亘つて究めて行き、次に各部に分類して調べました。只漫然讀書するよりもやはり要項は拔萃してまとめて行くことが必要でせう。卽ち新聞雜誌書物等各々に散在する知識を自己の頭と筆とによつて分類し

綜合してノートに收めるのです。そして必ず逃すべからざる要項に就て更に反覆勉強して行く事です。そしてその間に於て出來るだけ實際に當つておくことが肝要だと思ひます。知識によつて實際を理解し、實際によつて知識を確實にしておくのです。豫備試驗は筆答ばかりでありますから、受驗前には必ず一通りはすべてを暗記しなくてはなりません。暗記と申しましても實際と結んであればむづかしいものではありません。これは常に氣をつけて、たとへば牛乳のうすめ方だとか、洗濯液の分量だとか、看護の方で云へば或は病氣の狀態や看護法などいふ樣に何によらず暗記しておくことが必要です。私は小さいカードに記したものをいつも懷に入れておいて時間の利用をはかりました。例へば便所だとか汽車を待つ間とかいふ時に一寸思ひ出して見てわからねばカードで調べておくといふ風に致しました。又心安い蒲鉾屋の前に立つて魚の捧へ方を見たり下駄屋に行つた時には下駄についてきいて見たり鼻緒のたて方を見たりしました。道を歩く間にも知識は山ほど轉がつて居るものです。要はこれを上手に拾ふか否かにあります。かくして各別部につくられたノートについて受驗前は頭を整理しました。各部とは卽ち衣服、食物、住居、看護、育兒、經濟、作法等で御座います。』と。

(2)科學的工夫研究の必要　某合格者曰く『家事そのものが人の生きて行く上にはなるべくことの出來ない深い關係を持つてゐる以上、この世の中のあらゆるものはすべて家事科の材料で無いものはなく、しかも此等が理論的根據を有し科學に立脚してゐないものはないといふことを深く感じました。「書物の上の勉强のみではいけない。實際生活に役立つものでなくてはならぬ」との聲がかまびすしく傳へられて居りますが、私は更に一步を進めて家事の實際に細かく廣く熟練すると共に、その實際に表はれて來る日常の事實を科學的に工夫し、理法を基礎としたる解釋をなすべく努めることが必要だと思ひます。たゞわけも無く從前のものを習ひ讀みひきついだまゝでゐては、何故にさうしたのがよいのか、何故にそうしなければならないのかゞわからな

い、尙それ以上によい方法があるのにも氣付かぬでせう。釜の蓋は厚いほどよいと云つてもその液面に及ぼす影響と中の蒸氣が蓋に及ぼす壓力とを考へて見なくては實際に於て進歩したものではない、又火を焚くのにしても焔のどの部分が最も火力が強いかを知つて利用しなければ最も經濟的な方法はとれませんし更に竈の改良に氣附かぬでせう。かくて一つ一つ工夫を凝らして確實な根據に立脚して研究し、これをつとめて生活の實狀態と結ぶことが必要で、知り得た事は之を實地に照し合せて、行はれ得ることは之を行つて見、見ることの出來るものは之を實地に見るといふことが大切だと思ひます。此等の材料は參考書だけでなく、日常生活に澤山含まれて居り、新聞雜誌にも多く現はれて居ります。又それ〴〵の專門家にきくことも誠に有益であります。かくしてうはすべりでなく片端から確實な知識とし一方には實地の練習を積んで行つたならば文檢受驗もあまりに難事ではないと思ひます。尙理化が大に加味せられたことと、口述試驗は單に人物試驗でなく筆答以上に思考をして答へなければならぬといふことは特に新しく感じたことであります。』と。これは第一節に述べた委員の注意とも一致し今後の受驗者にとつて實に有益な言であると思ふ。

ロ　實習に就て●

(1)凡ての物と人とを師とせよ　某合格者曰く『本科の研究にとつて實習の大切なことは申すまでも御座いません。所がこの實際の研究は至つて困難で御座います。私はすべての機會を捕へて研究の機會と致すことを忘れぬやうにしましたから、家庭は實に私の唯一の實習場で御座いました。そして最も有益であつたやうに思ひますのはすべての物と人とを師と致しましたでことざいます。大工が忙しく立働いてゐます所で建築のお話をきく、魚屋が參れば料理のとを質ね醫師に會へば育兒看護の方法をたゞし、老人に接しては社會經濟の物語をきゝとりました。此の樣な態度は時と場合によつて遠慮せねばならないことは申すまでもありませんが非常に有益なもので御座います。而も所により習慣を異にいたしますが、それ等はかうした研究態度によつて

闇明することの出來る場合が多く御座います。どうしても見聞することの凡ては批評的な眼光を放つやうになりませんと血となり肉となるやうには至らないかと存じます。』と。

(2)出來たら講習を受ける　前述の如き態度を以て研究すれば別に師を求めなくとも相當の準備が出來ることは勿論であるが、出來るならば夏季冬季の休暇を利用して講習を受けることが望ましい。その道の大家に接して指導を受ければ、ひとりで長くかゝつて不完全に覺えることも、確實に而も樂に習得出來るといふものである。講習は一二の新聞や雜誌に注意してゐさへすれば何日如何なる所で開かれるかすぐ分るであらう。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前諸章の同題目の部を參照せよ。」

尙本科の如き理論と實習とのある、科目に於ては、頭の疲れぬ時に理論を研究し、疲勞を覺えて休息を要するやうな時に實習をやるやうにすれば甚だ經濟的に時間を利用することが出來るものである。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

第二十四章　裁縫科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　研究が系統的でない

何れの一方に片寄つても合格することの出來ぬことは說明するまでもあるまい。いま實地方面の成績に就て云へば一般にその研究法に聊かも系統がなく從て應用力が甚だ乏しいといふことである。これ神田委員が『裁縫科教員檢定試驗の程度は女子高等師範學校卒業の程度であります。女子師範學校や高等女學校卒業生が更に高等師範學校に入つて四年間實習して始めて得らるゝ位の程度ですからその技藝は餘程堪能でなければならぬ。それ故只高等女學校や女子師範を卒業して一二年位師匠に就て習つた許りでは受驗は難しうございます。少く共三四年位は知名の女子高等師範程度の技藝學校に入るか、それがむづかしい事情にあるなら良師に就てもよいから、必ず系統立つた敎授を受けて十分技術を練習しなければなりませぬ。技術が堪能であれば自然に應用力を生じますから、すべてのことに融通がきゝまして新らしい流行が起つても之れに應ずることが出來ます。何流派などいふことは餘りに念頭におかなくともよいと思ひます。應用力のある者であつてはじめて人の師となる資格がありますがその爲めには技術を堪能にすることが大切であります。』と說示しせられてゐる所以であると思ふ。

ロ　研究が狹小

成田委員曰く『先生となる立場から申すと、も少し廣く研究して來て欲しい。裁ち方にしても縫ひ方にしても、自分の從來やつて來たもの一點張りで創作も工夫も入らぬものでは困ります。廣く知りその中の最もよい所を敎へるとか

ふ樣にしなければならぬ。方法なども幾つもあるが自分の習つたものより他は知らない人が多い。書物などは餘り讀んで居る人が少い。學校に入つてゐる人は先生がいろ〳〵教へて呉れるからそれでもよいが、自分で研究するにはそれでは困ります。教授法などをきいて見ても自分が習つた通り傳へる人が多い。習ふ方の程度は頭において居らぬ樣に思はれる。習ふ者の學力を考へそれに依て教授せねば實際の教授は出來ないかと思ひます。』と。これは教師として最も必要なる事項であるからして、受驗者は平素學習の際此の點に十分の工夫を凝らされんことをお勸めする。

ハ　普通學の知識に乏しい　中等教員たらんとする者は單にその受驗學科に就て明確な知識を有するばかりでなく、普通學に就ても亦相當の知識をもたなければならぬことは云ふまでもない。受驗資格の一定された今日高等普通學の素養の皆無なる者はある譯がないが、受驗學科の研究に沒頭する餘りそれに關係深い普通學の修養を閑却する者は何科の受驗者中にも往々にしてあるらしい。而して裁縫科の受驗者中にも此の種の人が少くないといふことである。專門の方が相當に出來ても不合格となる者は多くはこれが爲めであるのである。神田委員曰く『高等女學校師範學校の裁縫科教員とならうと思ふ者はたゞに裁縫科につきて明確なる知識と熟練とを有するのみでなく、中等程度の普通學の知識殊に圖畫理科數學地理などの知識を有することが大切であります。たとへ裁縫のみがよく出來ても普通學の知識が乏しい者でありましたならば、これは仕立師と云はれませうが裁縫教員とは云はれませぬ。裁縫教師は裁縫といふ學科を擔任して居る女子教育家であります。言換へれば一家の主婦として必要なる裁縫を教ふる教育者であります。決して衣服の仕立屋とか仕立師を作る裁縫專門家とは同一ではありませぬ。一家の主婦としてはたゞに裁縫のみでなく之に關して必須なる知識を有せねば家庭の實際に應ずることが出來ませぬから、一家の主婦を養成せんとする者又は他日中流乃至これ以上の家庭の主婦たるもの卽ち受驗者に普通學の知識を要することは明かなことであります。その知識の程度は裁縫科の程度と比例いたし

ますから高等女學校女子師範學校の裁縫科教員は少く共高等女學校程度の知識を必要とします。裁縫に普通學の知識を要することは實際に當て私どもの常に經驗するところであります。今一二の例を擧げて見ませう。先づ木綿織物と絹織物との鑑別の仕方であります。これは普通の物であれば目で見手で觸れても區別も出來ませうが。少し複雜したものになりますと是非化學的分析をして見なければ分らぬ場合もあります。現今は木綿織物も進歩しまして絹織物と殆んど見分のつかぬやうなものも出來ましたから、之を見分くる知識を有することは一家の主婦として大切なことであります。次に洗濯につきてシヤボンを用ふるがよいかといふことも織物に依て異つてゐますが、これを知るにも化學の知識を要します。其の他裁方に數學や圖畫の知識を要し。道具の使方に物理學就中力學の力を要するなどその例は限りがありませぬ。このことは現今一般の家庭に缺けてゐますが受驗者の中にも遺憾なものがあります。豫備試驗は通過しても本試驗に不合格となる者がありますが、その中には技術の拙いものもあるが又技術は巧であつても裁縫に必要なる普通の知識のないものもあります。』と。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　教授法の改善に心を用ひよ

成田委員曰く『教授法などに就ても最近の教育學說を參考して漸次改善して行かなければならない。他の學科などは西洋の學說等がどん〳〵應用されて行くのを見るが、裁縫に限らずどんな學說が現今行はれてゐるかに注意し、これを裁縫の方に應用して生徒を敎授して行かねばならぬと思ひます。他の學科ならば一時間や二時間休んでも比較的取返し易いけれども、裁縫の方は特に基礎の所などではそれが難しい。休まない樣にするには健康に注意することが肝要です。これは本科の教員には殊に弱い人が

多いからいふのです。又どの學科でも同じですが快活な態度が大切で、いや〳〵教室に出て口の先だけで教へるのでは生々したしつかりした教授をすることは出來ない。先般の改正で各學校の裁縫の時間が大分減じ女學校でなども四時間になつた。今までは裁縫は數でこなさなければならぬ様に考へられてゐたが、頭の進んだ者に根本原理をしつかり教へれば時間を減じても或る程度までは今迄と同じ位の効果を擧げ得られると思ひます。それには教師が工夫し教授法の改良に手をつけると同時に健康に注意し學校を休まぬ様にせねばならぬと思ひます。』と。この注意は直接受驗には關係がない様であるけれども、平素研究の際此の用意があると否とではその成果に大なる相異を生ずることはいふまでもないのである。

ロ　人格の修養が大切　神田委員は此の科の教師は特に人格修養に留意することが必要であることを下の如く說かれてゐる。曰く『人格の修養が教育者として最も大切なることは云ふまでもございませぬが、此の科の教師に於ては特に大切でございます。他の學科の教師に較べて比較的その教授時間が多くありまして生徒に接する時間も澤山でございますから、教師の人格如何が知らず〳〵の間に生徒に影響することは多大でございます。故に此の科の教師にならうと思ふものは技術に堪能にして普通學の知識を具へてゐるばかりでなく、常に自己の人格修養に注意して他日教師となつて恥しからぬやうな人格を形作つておくことが大切で御座います。人格の高い受驗者であれば教壇に立つた曉には教師としての權威も自ら生じて來て生徒の尊敬も得從つて良き感化を彼等に與へることが出來ます。又婦人として常識を養ふことも大切で御座います。常識は實に人格を圓滿にするものでございまして人格修養と密接な關係を有して居ります。要するに技術が堪能で普通學の知識があつて人格の修養が出來て居れば受驗の準備として完全であらうと思ひます。』と。本試驗の際には受驗者の人格如何をも考査することは勿論である。試驗委員の受驗者に接するは比較的短時間に過ぎないけれ

どもその人格如何は大抵洞察することが出來大方誤ることがないといふことである。

ハ　合格者に對する希望　之れは受驗には直接關係が無いけれども極めて肝要なことであると思ふから最後の數行を割いて受驗者の一讀を煩はす次第である。神田委員曰く『他の科目の合格者はどうだか分りませんが、裁縫科の合格者中には免許狀を貰つてさへしまへば其の後はどうも研究せぬ人があるやうで困ります。これはまだ檢定試驗をとらぬうちは一人前にならうと思ふ所から自然に研究もし勉强もすることでありますから、何とかして一人前にならうと心して仕舞ふ爲めかそれとも一人前になつた爲めかどうも不勉强になる者が多いやうです。けれどもそれは飛んだ誤つた考です。何となれば同じ試驗に合格したといつても、その間には自ら程度の差があつて、最優等の成績で合格した者もありますれば、又中には不合格者のよいものと大した差異がなくて合格してをるものもあるばかりでなく、實をいふと檢定試驗の如きは一種の準備が出來たといふ程のもので、本當の勉强や研究は寧ろそれからであります。されば私は此の傾向を實に遺憾に思つてをるのであります。』と

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【和服に關するもの】

◎文部省著　尋常小學校裁縫教授書　教科所販賣所
◎同　上　高等小學校裁縫教授書　同　上
◎今村順子著　新編裁縫教科書　目黒書店
◎堀越千代著　和　裁縫教本　實文館
◎渡邊辰五郎著　新裁縫教科書　東京裁縫女學校

參考書は隨分と種々なものがあるが、本科の目的は多くの本を讀むことにあるのではなく、技術に熟達し裁方を十分理解し應用し得ることが第一なのであるから、以上の讀書によつて理論を學ぶと共に實技を十分練習し應用自在の域に達することを期すべきである。

尙左記は從來秘傳とか口授とかいつて秘密にされてゐた急所を說明し、且つメートルと鯨尺とを對照して說いてあるから參考的に讀んでおくがよからう。

◎佐伯渡邊共著　裁縫の急所　アルス

【洋服に關するもの】

◎伊澤峯子著　改訂實用　小兒洋服全書　大倉書店

◎泰利舞子著　みしん裁縫獨學び　東京社

◎栗井くま著　實用みしん裁縫全書　大倉書店

洋服は前二冊にあるだけをやり後者を參考的に見ておけば十分である。

【服地及び整理に關するもの】

◎石川弘藏著　衣類整理法　博報社

◎松下喜藏著　衣類と洗濯　修文館

◎石澤吉麿著　家事衣類整理法　大野書店

一と二若くは三だけをしつかり研究しておけばよい。」

【教授法に關するもの】

◎文部省編　小學校裁縫教授法　敎科書販賣所

◎今村順子著　裁縫教授法　明治圖書會社

◎木下竹次著　裁縫新教授法　目黑書店

右の參考書により如何に教授するが最もよきかを實際に工夫すべきである。

尙常に二三の雜誌を購讀して新しいことも研究しておかなければならぬことはいふまでもない。

二　如何なる研究法をとるべきか

如何なる研究法をとるべきかは第一節の委員の談話を熟讀して知ることが出來るから玆には省略する。尙理論の研究に關しては第二章第二節の三を一讀すれば得る所があるであらう。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三及び前章の同題目の部を參照せよ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

尙本科に於ては敎授法の試驗に非常に主きをおくから折々實地敎授等を參觀するは勿論出來るならば自分でも實際に敎授して見てみつしり研究しておくことが必要である。」

第二十五章　簿記科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　一體に成績が甚だ不良

本科の合格者は年々受驗者の一割位しかない、他科に比してその成績が甚しく不良である。これは學科の困難なためであらうが、一面に於て受驗者が研究の要諦を知らぬせいであらうと思ふ。それで今後の本科の受驗者はまづ以下に示す下野委員の談話を反覆熟讀して如何なる點に力を注いで研究するを要するかを會得することが緊要である。委員は第一に答案を認めるには如何なる注意を要するかを語られ、暗々裡に一般受驗者の通弊を指摘されてゐる。曰く『私は明治二十三年頃から委員をしてゐます。簿記の方は私が主任をしてゐますが商業の方は補助をしてゐるだけです。簿記の受驗者は毎年六十人位で合格する者はその一割ほどです。實をいふと今のところ檢定試驗に依て教員を補充する必要はあまりないのです。それが爲めに合格者を少くするといふのではありませんが予備試驗に於て惡いものは落します。然し本試驗にはあまり落さぬ方針でやつてをります。實際豫備試驗で十分選擇してありますからそんなに惡い者はありませんが、時々これはどうだらうかといふ樣な者がありますが、落第させればその人を殺すことになるから東京まで呼んだ以上は大抵及第させます。これ迄の經歷をきき尙も該科の教師を實際にやつて來たならばそんなに分らない筈はありませんから通過させます。一人の人間を三日も四日も費して試したならば分りますが、さうでなければ本科の如きは英語などゝ違つて實際の力は正確にわかるものではありません。近年は此の科に於ては檢定試驗に依て補充する必要がだん〳〵なくなつて來ますので試驗の程度も漸次高くする積りであります。

併し受驗者は年々增す樣です。予備試驗に於ては可なり嚴重にやりますから相當によく出來なければ及第出來ません。よく手紙などでどうして落第したのか敎へてくれといふ樣な人がありますが一々返事を出す譯には參りません。簿記の方は可なり出來てゐても、字が間違つてをつたり同じとでも餘りまはりくどい樣なことを書いたりしてあると通過さすとが出來ません。簿記の原理ばかり出來てゐても役に立たない。答案ではそれを見るのは勿論ですか文字や文章も中々重大に見ます。規則の則の字を約束の束の字など書いてゐては、束は束縛するのだから規束でもよいなどいつても習慣がありますからいけません。そんな疎漏な字の使い方をしてゐるものはとりません。又餘りまはりくどい事を書いたりするのもとりません。頭の善い悪いといふ樣なことも答案によつて見ます。受驗者は此の邊のことを注意して置く必要があると思ひます。併し當人は故意に字を間違へたりまはりくどいことを書いたりするのではありまんから平生から餘程注意してゐないといけない。私はこれは檢定試驗ばかりでなく學校の方でもやかましく云つてます。』と。然るにお覽の通り下野委員その人のお話もまはりくどくは無いかも知れんが隨分とくどい樣である。その點は受驗者に於て眞似られぬことを希望する。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　實際問題を最も重く見る

下野委員は本科の出題方針を詳細に說き實際問題に最も重きをおく所以を明かにされてゐる。曰く『簿記の如きは實際と離れては何の意味もありませんから只理屈で知つてゐるだけではいけません。此の科に限りませんが東洋では何んでも文章で答へる傾向があります。簿記などの試驗問題も文章で答へられるのが多くであります。歐米はこれと反對で文章で答へられる樣な問題はあまり出ません。殆ど數字ばかり並べた樣な非常に面倒な實際の問題が多く出ます。實際の力はこれでなければ分らぬと思ひます。私などもなるべくかういふ問題を多く出し

たいと思つてるのですが、それは答案を調べるのに非常に骨が折れると同時に問題を作るのが困難であります。それでも近頃は一題か二題必ず實際の問題を出してゐます。そしてこれに最も重きをおいてゐる。答案でも一番先にこれを見これが出來てゐなければ後のが如何によく出來て居つてもとりません。かういふ問題を種々多くして行きたいと思つてゐるのであるが何しろ問題を作るのが非常に困難なのです。空なものではつまらない。海外などの檢定の問題は餘程選んであつてよい問題が多い。それを採ればよいといふかも知れぬが事情が違うのでそれも出來ない。特に作らねばならぬ。併し一題は必ず出すことにしてゐます。歐米の方は日本と反對に少しづゝ文章で答へる樣な問題を出す樣になつて來ました。以前には全部實際の問題ばかりであつたが、實際が出來るばかりでなくその理論も分つてゐる必要があるといふ風に考へて來たのでせう。』と。これを一讀する時は受驗者は如何なる點に力を入れて準備しなければならぬかを明瞭に了解し得ると思ふ。

同委員は語をついで問題作製の困難を述べてをられるがこれ亦受驗者を稗益する所があると思ふから併せて茲に紹介して置かう。曰く『實際の問題を作ることは中々困難なのです。中々いゝ問題が思ひつかない。例年出す問題でも一朝一夕に出來るものではありません。空想で作つたのではなく實際にあつた事である。容易に手に入らぬ尊い問題である。かういふ問題が澤山あるとよいのであるが教育界に入るとどうしても實際界に於ける問題を耳にする機會が少くなる。我々では年一年實際問題を手に入れることが出來なくなりつゝあつて非常に殘念に思つてゐる。何とかしてさういふ問題が得たいと思つてゐる。簿記の方の問題はまだよいが商業の方の問題はまるでよい問題とは云はれない。これは自分等も責任があるのである。よい問題があるらしいのであるが中々見付かならぬのである。實際界に於てはいろ〳〵新しい面白い問題にぶつかるのであるが忙しい爲に別に研究もしないでよい加減にごまかしてしまふ。そして忘れてしまふ。重ねて同じ問題に遭遇した時には又よい加減にごまかして通す。そ

の問題を學校に持つて來て吳れゝばよいのであるが、卒業生など隨分あるのであるから常に持つて來るやうに賴んであるのであるがどうも持つて來ない。例年の實際的試驗問題なども私が多少關係してゐる所から直接とつたのである。』と。

ロ　一般的學問が必要　簿記を徹底的に研究するには一般的の學問殊にそれと關係ある諸學科の知識を有することが必要である。然らば如何なる學科が簿記と關係を有するか。下野委員曰く『簿記をもつと進歩さすにはもつと一般の學問をしつかりやつた人が研究して吳れなければ困る。法律經濟なども可なりやつた人でなければならぬ。所がそういふ人が一向指を染めて吳れない。大學の法科の卒業生などがもつと研究して吳れなければ此の學問の發展は期せられない。然るに簿記は卑近に思はれて仕舞つて學問のある人が研究して吳れない。名前でも更へれば研究して見ようと思ふ人も出來るかと思つて會計學計理學など更へたりしたゝめ稍々顧みる人が出來て來た。實際も少し根底のある人にやつて貰はねばならぬ。先年大學に商科が設けられた時はじめて簿記が大學に入つた。昨年から經濟科にも入る樣になつた。（註此の談話は數年前のものである）私はどうしても法律科政治科にまで入らねばならぬと思ふ。又徐々にさうなることゝ思ふ。實際やつて見れば面白い。大學の人ならば高等學校もやつてゐるので基礎學が出來てゐる。數學も一通り出來るし法律經濟もやつてゐる。簿記一點張りでは少しも進歩しない。簿記はすぐに法律とか經濟とかに關係して來る。法律經濟の素養の無い人は直ぐに行き詰つてしまふ。然るに文檢の受驗者などは皆一點張りで數學なども二次方程式以上の算盤になるとうまく出來ない。簿記を本當に研究するには微積分までやらねばならぬ。文檢の試驗問題なども法律經濟の關係してゐるものとか數學の關係してゐるものは出さぬといふ有樣でそんな點でも制限されるのである。只簿記の試驗ばかりしてゐても仕方がない。しかし受驗者の方には研究するたよりが無いのである。參考書は陳腐な似たり寄つたりのものばかりである。それで今度私等の企てゝゐる日本會計學會なるものは受驗

者を教へる唯一の方法だと思ふ。受驗者などは全く多方面の素養が缺けてゐる。それは答案でよく分る。若し少し氣の利いた問題を出したら總落第になることはきまつてゐる。しかしこれは一方に於ては研究のつてが無いのであるから受驗者ばかり責める事は出來ない。實際我々は研究の便宜も考へないで試驗ばかりするのが能でない。多年よい方法もがなと思つてゐたのであるが今度漸く出來かゝつてゐるのである。こちらでかういふ設備をすれば從て試驗の程度もあがる譯である。學問の爲にはよいが受驗者にとつては或は苦しいかも知れない。從來は試驗をしつぱなしで後で解答を示す樣なことをしなかつた。失敗してもどこが惡いか分らない。海外に於ては後で解答が出來る。これからはなるな事らその雜誌に年々の問題の解答を揭げる積りである。これは受驗者の好參考となるであらうと思ふ。十年二十年續けて行けば殆ど重要な問題は試驗に出るのであるから、此の解答だけ讀んでも大抵見當がつく樣になると思ふ』と。(註。此の雜誌は數年前より發行せられ文檢問題の模範的解答も揭げられてゐる。尙此の雜誌に就ては次項を參照せよ。)

ハ　參考書に就て

下野委員は受驗參考書に就て『簿記に關する書物は中々多くあるが實際を知らぬ人が書いたものばかりであるから本當のよい書物はない。原理などは極めて單純なもので極端に云へば二と二と足して四になる位の事より以上の事は無いと云つてもよい位である。併し應用問題となると隨分頭をしぼらねばならぬものがある。原理だけでは學問にならない。もつと進んで實際問題を研究して行かなければならぬ。それにも拘はらずます〳〵反對の方向に進んで行きつゝあるは實に遺憾なことである。世に出てゐる書物は皆似たり寄つたりのものばかりである。もつと研究の積んだ實際問題と接觸したものが出來なければならないのであるが、それは日本は勿論外國にもない。私も書物を著して居らぬ。多忙な爲めと書物を書く以上は研究が全部出來てしまはねばならぬからである。それで今度日本會計學會といふものを設立し新しい研究の結果をどし

〳〵發表して行き度いと思ひいま會員を募つてをる。出來て見ねば果して我々の理想が達せられるかどうかは分らないけれども、必ず面白いありふれたものばかりでなく新しい研究がして行かれることと思ふ。かういふ企は東京にはまだ無かつたのであるが地方にはちよい〳〵ある。神戸にも大阪にもあつて年に二回雜誌を出してゐる。然しどうも感心が出來ない。見るに足るものが無い。東京はお膝許であるから必ずよいものが出來るであらうと思つて始めたのです。今までのものは凡て燒直しの陳腐なるものばかりであつたが此によつて新しい方面を研究し發表して行くことが出來ると思つてゐる。一體現在行はれてゐる複式簿記がよいかどうかといふことも問題だと思つてゐる。根底から日本式に改良する必要はないかどうか。もつと簡單にして而も同一の目的を達することは出來ないだらうか。私はたしかに新法を發見する餘地があるる様に思はれます。併しまだ研究して見ねば出來るか出來ぬかは分りません。兎に角此の企が成功したならば似たりよつたりのものが腐るほどある中に少しは新しいものが出來ると思ふ。今出來てゐる書物などは何冊讀んでも駄目である。』と語られてゐるこれによると役に立つ受驗參考書は一冊も無いやうに思はれるが、それは一段高い標準から見ての話であつて、實際に於ては相當役に立つものがあることは次節に述べるが如くである。尚委員の話された雜誌に就ても次節に於て述べてあるから參照せられたい。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【商業簿記及會計】

◎吉田良三著　最新商業簿記　同　文　館

簿記入門書はその數少くないが、本書は最も多く受驗者より讀まるゝ良書である。

受驗者は本書で確實なる基礎を作り、次に

◎吉田良三著　近世簿記精義　同　文　館

に入るがよい。反覆精讀して例題は一つ殘さずやり全卷を眞に自己のものとなすべきである。

◎中村茂男著　商業簿記及會計　實業之日本社

本書は簿記及會計に關する重要なる事項を明細に說明せるものである。一讀して以て簿記會計兩者を組織的綜合的に會得しておくことが必要である。

◎鹿野清次郎著　計理學提要　上　大倉書店

著者は試驗委員であつて年々本書によつて解答し得る問題が出ないことは無いのであるから、この意味からしても必ず精讀すべきである。

◎下野直太郎著　計算學　巖松堂

本書は下野氏獨得の簿記原理を講述せる謄寫版刷の本である。本書の一字一句が本統に了解出來れば合格疑ないが、他の書をいくら讀んでも本書を見なければ合格がむづかしいと受驗者に信ぜられてゐるほど重要なものである。實際從來本書によつて解答し得る問題が少からず提出されてをり、且つ演習問題中には過去の試驗問題そのものにつき說明を與へられてゐるのもある。反覆熟讀して徹底的に理解すべきである。

【銀行簿記】

◎吉田良三著　最新銀行簿記　同　文　館

◎下野直太郎著　銀行經營及簿記　巖　松　堂

銀行簿記は商業簿記を仕上げてから此の兩書をしつかり研究しておけば十分である。後者は殊にしつかりやつておくがよい。

【其　他】

記帳計算の練習は吉田氏の近世簿記精義中のものと、過去の文檢問題とをやつておけばその上他の參考書によつてまでやる必要はあるまい。

雜誌では

◎日本會計學會編纂　雜誌會計

を必讀しなければならぬことは第一節の下野委員の談話によつて明かであらう。その他『國民經濟雜誌』『會計學論叢』等も受驗者にとつて有益な記事が少くない。

二　如何なる研究法をとるべきか

參考書の研究法については第二章第二節の二に述べたる所を參照するがよい。

記帳計算練習は徒に數多くやるよりも前項に述べたるものを一箇所も訂正の箇所が無い樣にやれるまで練習すべきである。結局間違が無いにしても訂正の箇所が幾つもある樣では記帳術としては不合格たるを免れないのである。

尙本科は出題の範圍が狹いため年々過去の問題が繰返されることが多いから、記帳計算の問題に限らず原理の問題をも悉く擬答練習しておけば受驗上大に益するのであ

る。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三を參照せよ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

第二十六章　商業科

本科の試驗委員は鹿野、下野兩氏で鹿野委員は主任下野委員は補助といふことになつてゐる。然るに鹿野主任は從來本科の試驗に關して略んど何事も語られたことがなく、下野委員が簿記科に關する談話をされる際に僅かに本科に就て述べられたことがあるだけである。されば本科の受驗者は次節に依て研究法と受驗法とを學ばれ、かた〳〵前章を參照せられたい。聊か物足りなく思ふかも知れぬがそれで十分なのである。尙本科受驗にはあまり直接の關係は無いが左に下野委員の談話を掲げて見よう。

イ　實際界と關係をつけよ　下野委員曰く『もう少し研究者が實際界と關係をつけておかぬと商業の樣な衣食住學は進歩しない。哲學とか文學とかと違つて實際をはなれていくら議論したとて何の役にもたゝぬ。然るに官吏には服務規律といふものがあつて實業界の顧問さへしてならぬことになつてゐる。少し例外を設け報酬を受けぬとも實地がのぞける樣にしたらどうかと思ひます。官吏になると下手に實業界等に出入して變に思はれるよりも學問の研究は犧牲にしても服務規律に從ふといふ樣になります。しかも此の服務規則の改正といふ事は容易に望まれないのである。商業學校などに於ては實際問題を捉へてこれを教へるといふ樣でなければいけないのであるがしかもその教師は實業界に出入することを禁ぜられてをるのである。又一方に於ては實業界のことは秘密を守り容易にあかさない。外へ出さない、又外から知れるのを嫌ふのである。かくの如く學校では實業界に出入する事を嫌ひ實業界では秘密主義をかたくとつてをる樣な有樣では到底此の學問が實際的になるのは不可能だと云はなければならぬ。』と。

ロ　商業と簿記　下野委員はまた商業と簿記との關係に就て『私は商業は簿記の中にこもつてゐると思ふ。商業の本體で論ずることは大抵簿記計算學に入つて居る

商業から簿記をとり法律をとつて行つたならば後に何が殘るであらう。經營の方面と云つてもこれは簿記でもやれることである。それで簿記の出來る人は商業も出來るといつてよい。受驗者も多くは兩方受ける樣である』と云つておられる。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【商事要項】

◎佐野善作著　新撰商業提要　三省堂

本科に於てもまた中等教科書を研究の出發點とし且つ歸着點とすることが必要である。卽ち必ずしも本書とは限らないが少く共現行教科書一種は暗記するまで反覆熟讀して而る後專門的研究に入り、研究成れる後再び教科書にかへつて之を確實に教授し得るや否やをたしかめなければならぬのである。これと同時に明治三十九年一月二十九日官報所載

◎商事要項教授要目

は是非見ておかねばならぬ。圖書館にあることは勿論であるが町村役場等にもあるであらうから借覽するがよい。

【商業通論】

◎內池廉吉著　增訂改版　商業學通論　同文館

通論では本書を中心參考書として次の二冊を以て補へば十分である。

◎坂本陶一著　最新商業通論　同文館

◎石川文吾著　改訂商業通論　大倉書店

各書共大體に於て內容に大なる相違はないが、著者各その得意とする所を異にし、或書は總論がよく、或書は海運がすぐれてゐるといふ風に一長一短あるを免れないか

ら、徹底的に研究するには一書を中心としてその足らざる所を以て補ふがよいのである。從來の合格者中には坂本氏の通論一冊だけで間に合つたといふ人もあるが、それはおそらくは本統に辛じて間に合つただけであらうと思ふ。通論は各論に入る基礎であるから右の二冊だけは是非やつておきたい。」

【商業各論】

(1)賣買

◎石川文吾著　賣買論　大倉書店

通論の賣買論を基礎として本書を以て補つておけば十分である。

(2)倉庫

◎內池廉吉著　增訂倉庫經營論　同文館

同氏の通論中の倉庫論を參照し本書を熟讀するがよい。

(3)取引所

◎佐野善作著　取引所投機論　同文館

本書は取引所論中の最良書である。精讀を要する。

(4)銀行及外國爲替

◎佐野高垣著　銀行論　同文館

◎水島鐵也著　改訂銀行及外國爲替　同上

前書及び後書の外國爲替の部を熟讀しておけば十分である。兩書共定評あるもので

ある。

(5)海運

◎窪川眞澄著　海上運送　丸善書店

本書は大部なものではあるが海運は受驗上重要な部分であるから精讀しておくこと

が必要である。

(6)鐵道

◎關　一著　鐵道講義要領　同文館

鐵道では本書一冊を讀でおけばよい。」

(7)保　險

栗津清亮著　保險學綱要　嚴松堂

保險經營の組織と海上保險の部を熟讀し他は通讀したゝけでよからう。

【其　他】

◎關　一著　商業經濟綱要　同文館

◎青木徹二著　新商法釋義　同　上

右の二書は受驗上直接間接に必要なものであから必ず見ておかなければならぬ。

次に辭書としては

◎同文館編　商業大辭典　同文館

等がよい。又本科の試驗には必ず原語が出るから原書を十分に讀めない人は次の書によつて覺えておくべきである。

◎武田瀧名共著　英和商業辭典　實文館

尙雜誌を一二種購讀するは勿論官報新聞の經濟記事にも注意を忘らぬやうにすることは極めて肝要である。

二　如何なる研究法をとるべきか

第二章第二節の二を參照せよ。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三を參照せよ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

第二十七章　農業科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　非實際的　本科もまたその性質上實際的のものなることは勿論であるが、受驗者の準備は一般に甚しく非實際的であるといふことである。これ横井委員が『社會の進歩に伴ひ教師の實力が益々重要になつて來た。從つて本科の試驗程度も少しは高めてもよいのであるが受驗者の實力は一向增進してゐない樣に感ずる。けれども流石に時代の要求に應じて志願者の數は年々歲々殖えて來るのは喜ばしい現象である。然るに此等の人々は多くは机の上で勉强するといふ丈で自ら鍬を以て實習するといふ

態度が欠けてゐて、本當に農業科の教師としてどうであらうかといふ疑問が起るのである。これは是非反省して貰ひたいと思ふ。予備試驗は筆記試驗であるが、本試驗になると東京高等師範學校の農業實習地に引き出して與へられた問題に就て實地試驗を檢定するのである。此の際實習の積まない者は如何にも見苦しい成績を示しつゝ失敗する者も少くない。』と注意されてゐる所以である。

㈡　師範出と實業學校出の長短　横井委員は師範出と實業學校出の長短を下の如く批評されてゐる。曰く『受驗者には勿論いろ〳〵の人が集つて來るであらうが大體に於て師範學校出と實業學校出の二種に分れる。師範學校出身者は學校時代一二の教科書の狹い範圍で一通纏つた知識を得てゐる爲か答案は頗る要領よく纏めて居るのであるが、實業學校から來る人々は學校時代種々雜多の農業科の知識を注ぎ込まれるものだから知識が十分に消化されて居らぬと見えて答案は一向纏つて居ない。それが文檢に現はれる二つの現象である。然し比較して見ると一利一害ではあるが、概して一見要領よく書いてあつても知識内容の豐でないものは何となく味はない。要領惡く粗雜であるが知識の豐富な人のは何となく味がある。此の點からいふと實業學校出身の人は他日望を囑される譯である。併し之も概評であつて人それ〳〵によつて何處の出身だからどうだといふことは決定出來るものでないことはいふ迄もない。教師となる者は知識が豐富でなければ教授の場合ぎごちないものであること苟も教壇に立つた者の何人も經驗する事實である。語れども盡きない豐富な知識を有つてゐると生徒は全く教師に魅せられて時間の經過を忘るゝが如きものである。而してこれに教授の面白味と教授効果の增大さがあるのであるから、師範出身の人々は知識の豐富に志し實業學校出身者は知識の統一てふことに十分氣をつけねばならぬと思ふ。更に此の二種の受驗者の各自の欠點として、師範出身の人は實地の力に乏しく實業出身の人は教授法に拙劣の嫌があると思はれる。實地試驗の場合前者は實地の力無き爲め後者は教授法の拙いためそれ〳〵失敗しないやうに努力して欲しい。』と。これはひとり兩校

出身者のみならず全然獨學で進む人にとつてもまた有益な注意であると思ふ。

ハ　教授法の成績が悪い　横井委員曰く『受驗者は知識が淺薄であるばかりでなくまた教授法も甚だ不成績である。教案を作らせて見ると予備提示の意味さへ分らん者が多い。これは一つは師範學校の教育科なるもの丶教へ方が當を得てないのと、もう一つは附屬小學校の訓練が不十分であるのとに歸因すると思ふ。私は年々の受驗者や農業教員養成所へ來る生徒の成績を見てかく判斷するものである』と。實業學校出身者や獨學者は此の點に於て一層の努力を要することは云ふまでもないと思ふ。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　參考書は自ら選べ　受驗者は參考書を自ら選び得るやうでなければならぬと横井委員が云つてゐる。いまその言を紹介すれば『時々參考書や程度の質問を受けるのであるがそれがどうして明確に云へやう。中等教師として十分な知識といふよりほかないではないか。從て程度もどうだと云へるものではない。教員養成所卒業の程度とも云へないこともないが、さりとて教員養成所の卒業生が必しも文檢に及第出來るものではない。私に云はすれば苟も中等教員ともならうと志す者が自分で參考書位選べない位で何になるものかと思ふのである。圖書館などへ行つて農業に關する著書を調べて自ら選擇してミッシリ勉强しなくては駄目である。それ位の氣慨がなくてはいけないと思ふ。と云つたとて先輩の意見を無視しろと云ふのではないが、とにかくにも餘り人の力計り賴りにしてゐると先輩の意見も實際に役立つものではない。宗教的言葉で云ふと自力に徹底してこそ始めて他力を感じ得るのである。飜て農業科の教授に於て最も大切なことは應用の力である。それも常識的應用でなく學理に基く應用力が十分でないと實地試驗に不利である。それには教材の豐富といふことが問題になる。されば參考書の如きも餘り少いことも感心出來ない。成るべく讀むといふことが大切である。しかしながら只無闇に讀むだけではいけないことは云ふ迄もない。尚應

用のことに就ては應用化學農藝化學を十分研究しておくべきである。或る意味に於ては純正化學よりも難しいものであるからそのつもりで研究を望むのである。參考書を自ら選べといふことは一般受驗者殊に地方の在住受驗者にとつては無理な注文であると思ふのであるが、それ位の意氣込があることは望ましいことであると言はなければならぬ。

ロ　**應用自在たれ**　農業の知識は自由に應用が利くまでに至らなければならぬことは既に述べた所で明かであると思ふが、尙橫井委員がこのことを詳細に說明してをられるからしてこゝにそれを紹介しておかう。委員曰く『要領を得材料を豐富に有つた上に應用變化の妙を極めることが必要である。農學の困難はこゝにある。相當應用の才ある者も專門が分れるだけ應用に於てはとかく一方面になり易い。農學はかたよつてはいけない。一體應用といふことは學問上から低い仕事の如く考へられて居るがこれは大なる誤である。併し此の應用は常識的に應用することではない。應用化學等の如きは難しい點に於て純正化學と選ぶ所はない。或はより難しいかも知れぬ。又常識的の應用もなか〳〵容易ではない。若し教員といふ點から云へばこれが最も大切であるかも知れぬ。此の應用が出來なかつたならば到底きてんのきいた教育は出來ない。中には只教育上の原理などは眼中におかず氣轉のきいた變化ばかりの教育をして居る者もある。之でも生徒に力がつく樣な教授が出來ればよい譯であるけれども、吾々の經驗から云へば矢張り一通りの法則があつてその中で變化しなければならぬ。卽ち一通りの教授法も心得て居る必要がある。而して立派な教授をなすのは教ゆべき教材知識が十分こなれて居なければならぬ。教師に十分呑みこまれてゐなければ生徒に呑み込ますことは出來ない。知識が應用されなければ只注入したゞけでは何にもならぬ。又如何に教授が老練にいつても材料の上に於て消化されて居なければ結局教授の目的を達する事は出來ぬ。故に教師たる者は教ゆべき材料が十分腹に入つて居ると同時に、それを應用自在にする事が出來ねばならぬ。卽ち僅かなる材料をひき伸して幾

時間も教授することが出來ると同時に、又非常な大きな材料を極く短かく纏めるといふ事が出來ねば教育家にはなれない。之を要するに中等學校教員にならうといふのであるから、只覺えてゐる事柄が分つてゐるといふ事だけでは試驗の通過はむづかしい。』と。

ハ　問題は諸方面より考へよ

農業科の問題は諸種の方面から見て解釋を下すことが必要である。佐藤委員曰く『農業科は問題を出す範圍が廣いものだから受驗者は餘程困難であらうと思ふ。今年などは殊にいまゝでに出たことのない問題も出たことであるから全體から見て困難であつたと思ふ。範圍が廣いだけこれに合格した人はどこへ出しても役に立つと思ふ。これは他の學科と違ふ點である。自然科學から經濟からありとあらゆる事項が試驗の問題に出るのであるから餘程困難なのである。受驗者としては出來るだけ正確な知識を得ることは最も大切なことであるが、殊に農業に關することはいろ〳〵な條件で大きな影響を受けるから、或る問題を解釋する時に各種の方面から考へて見なければならない。然るに本年の試驗などに就て見ると只一方面ばかりから見て廣い方面から考へぬのが多少あつた。この點は將來改良して行かねばならぬと思ふ。』と。極めて當を得た注意であると思ふ。

ニ　學問の進歩に留意せよ

いろ〳〵な注文をする樣であるが本科の受驗者は平常新刊書や雜誌類に親しんで學問の進歩や經濟界の變動等に注意する必要があると委員の方で注意してゐる。卽ち佐藤委員は『受驗者は書物の上の研究が多くして、學問の進歩とか經濟界の變動とかいふ方面に多少不注意の傾きがある。さういふことになると農業科の教へとなる上に於ては世間より重んじられないことになると思ふ。單に書物の上のみで研究することなく、常に學問の進歩とか經濟界の變動とかに注意して居らねばなるまいと思ふ。かう云つたからといつて只新奇なことだけ追うて學問の根本を忘れる樣なことがあつてはならない。兩方相伴つて十分に準備しないと中々合格することは困難と思ふ。』と云はれ、また橫井委員も『どういふ本を見れば宜しいか

などゝ本の選擇をきく樣なことでは試驗なんか受らない。試驗官でも全然本から出す樣なヘボ試驗官はあるまい。本を賴りにする樣な人は到底駄目である。だから教員となる人は本を讀んでも本を當にのみせず、平常世間の新しい說時々の問題を知り雜誌のやうなものに對しても注意を拂つて少く共當時の進步までに追ひついて居らなければならぬ。』と說かれてゐる。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【土　壤　學】

◎佐々木祐太郎著　土壤學教科書　成美堂

◎麻布村松共著　土地叢書土壤學　裳華房

前者で基礎を作つてから後者で肉をつけるがよい。尙

◎上野英太郎著　土地改良教科書　成美堂

も一讀の價値がある本である。

【肥　料　學】

◎佐々木祐太郎著　肥料學教科書　成美堂

本書を熟讀して基礎を作り次に

◎吉村清間著　最新肥料學　弘道館

を精讀すればよい。定評のある好著である。

【作　物】

(1)汎　論

◎佐々木祐太郎著　作物汎論教科書　成美堂

◎宗正雄著　栽培學講義　養賢堂

◎横井時敬著　栽培汎論　博文館　上

一と二若くは一と三を精讀しなければならぬ。

(3)各　論

◎佐々木祐太郎著　作物各論教科書　成美堂　上

◎吉川祐輝著　改訂食用作物各論　同　上

◎同　人　改訂特用作物各論　同　上

右三書はすべて精讀を要する。

【園　藝】

◎佐々木祐太郎著　改訂果樹教科書　成美堂　上

◎同　人　改訂蔬菜教科書　同　上

◎草野計起著　實驗果樹剪定整枝法　同　上

◎柘植六郎著　實驗蔬菜園藝新書　同　上

◎佐々木祐太郎著　花卉園藝　同　上

◎柘植六郎著　實驗果樹園藝新書　同　上

◎吉田義一郎著　蔬菜園藝全書　嵩山堂　上

二、三を精讀し以下の諸書を以て補つておけばよからう。

【養蠶栽桑】

◎窪田賴太郎著　大正蠶業教科書　明文堂　上

◎石渡繁胤著　蠶體解剖教科書　同　上

◎池田榮太郎著　蠶體生理教科書　同　上

◎岩淵平介著　蠶體病理教科書　同　上

◎池田榮太郎著　桑樹栽培教科書　同　上

右は皆精讀を要する。

畜　產　學

◎岩住良治著　畜産學通論教科書　三友書院
◎同　人　同　各論教科書　同上
◎石塚鐵平著　家畜の飼料と飼方　嵩山堂
◎澤村眞著　牛乳論　興文社

前二書を熟讀し後の二書を通讀しておくがよい。

【昆　虫　學】

◎鈴木眞吉著　農用昆蟲學教科書　成美堂
◎小貫信太郎著　實用昆蟲學　成美堂
◎桑名伊之助著　實驗害蟲驅除法　同上

右の中鈴木氏の教科書は最も重要である。

【病　理　學】

◎出田新著　改訂植物病理教科書　成美堂

◎堀正太郎著　農作物病理教科書　成美堂

右は二書とも通讀しておけばよい。

【品種改良】

◎明峰正夫著　增訂改版　作物育種學　養華房
◎池野成一郎著　實驗遺傳學　成美堂

後者は殊に有益な本である。

【經濟及簿記】

◎横井時敬著　農政經濟要論　成美堂
◎澤村眞著　農業經濟學　興文社
◎佐藤寛次著　農業簿記教科書　成美堂
◎石坂橘樹著　農業法規教科書　同上

右は何れも精讀しておかねばならぬ。

【農　具】

◎上野英三郎　農具教科書　成美堂

【農業製造】

◎高橋鈴木共著　農産製造教科書　博文館

農具及農業製造に關しては左の書を一讀しておけばよい。

【農藝化學】

◎大塚孫市著　農藝化學實驗法　成美堂

◎澤村眞著　農藝化學實驗法　興文社

◎岡崎寅吉著　新式農藝化學實驗書　目黒書店

◎吉村清尙著　農用化學分析　有隣堂

右は何れもよい本である。何れか一種を精讀して他を參照するがよい。

【植物生理學】

◎菊池謹彌著　植物生理教科書　震華房

【氣　象　學】

◎稻垣乙丙著　氣象學教科書　博文館

【土　木】

◎上野英三郎著　農業土木教科書　成美堂

【林　學】

◎本多靜六著　修訂林學教科書　春秋堂

以上三書は通讀だけでよからう。

【其　他】

◎横井佐々木共著　農業原論　成美堂

◎横井時敬著　農業新論　同上

◎佐々木祐太郎著　學校園の內容　同上

佐藤寛治著　産業組合法講話　大日本圖書會社
前二書は精讀を要するが、後二者は通讀だけでよい。又左の書によつて教授法を研究しておくことが必要である。
◎文部省著　小學校農業教科書教師用　同　上
◎横井時敬著　小學校農業教授法　寶文館
◎矢田神戸共著　農業教授資料　六盟館
尚新刊書、雜誌、新聞等に注意して新研究をのがさぬやうにしなければならぬ。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　理論

(1)參考書研究の經路　某合格者曰く『予の研究の徑路は之を三つに分つことが出來る。第一基礎時代には農學校程度の教科書を本とし十分精讀して農學に關する根底を作つた。第二は多讀時代とも云はんか成るべく多くの書を出來るだけ讀んで、その特徴を發見し足らざる所を補ふたのである。第三の精讀時代には中心となるべき參考書を定めて根掘り葉掘り研究し、一方不足の點は之を他の參考書に仰ぎて記入し、些細の疑問もこれを忽にせず幾度となく讀んだのである。いま一つの方法は筆記法である。昆蟲病理畜產の如きものはカードに記入して暇の時間を利用して之を研究した。近年は隨分應用問題が出るやうであるから、廣く各方面の參考書に眼を通して十分消化し實地應用と連關して研究しておく必要がある』と。
尚これを第二章第二節の二と參照せば得る所が大であらう。
(2)主要なる科目　某合格者曰く『すべて專門と云へば一寸範圍が狹そうであるが入つて見ると中々そうでない。殊に農學は幾多の基礎學科の上に立てられこれに關係ある學科が多いので實にはじめは多岐亡羊の嘆を發するが常である。而して農學全般に亘つて平等に深く究めるといふとは甚だ問題である。しかしながら農學諸學科の中に

は極めて必要な學科もあれば比較的緣の遠いどちらかと云へば餘り重要でない學科もある。勿論學科に輕重の別がある筈はないが農學を修める上に是非共研究しなければならぬ學科は主力を盡して十分研究して置かなければならぬ。とは云へ其の他の學科を全然捨てゝしまつてはいけない。時間の許す限りは研究すべきである。扨てその主要科目とは作物汎論、土壤、肥料、經濟の四科であつて、畜產、養蠶、品種改良、作物各論、園藝、病理、昆蟲はその次に位し、農業簿記、農產製造、林學、農具及びその他の科目は第三位に屬するものである。』と。

(3)主要科目の研究は後に廻せ　某合格者曰く『作物汎論、農業經濟、土壤學、肥料學は農學上極めて必要な學科であり、且問題としても一番多く出てゐるので、初めから此等の學科に力を入れて試驗期日の近づいた時には尙更捨ておけぬといふのでこれに熱中する爲めに、補助的學科乃至は應用的の學科を省みる暇が無い場合があつたり、又必要な學科に就て多くの參考書を集めて深く研究したゝめに他の學科を研究することが出來なくなる場合がある。よし出來ても十分にのみ込めないで終つたりして思はぬ不覺をとるやうなことがある。故に私は初めの半期は餘り必要が無いと思ふ樣な學科や、必要な學科の中でも必讀書以外の參考書や雜誌の類を讀んで、後半期には基礎的學科に移つて最も必要な書籍を二冊位づゝを十分に暗誦するまで熟讀して、試驗の二週間位から全體のものに目を通したら充分であつた。』と。これも一方法ではあるが必ずしも最良法とは云へまい。ともかく參考までに揭げた次第である。

ロ　實地　本試驗では種々の實驗實地を課せられるが、その中最も主要なるは、肥料鑑定法（肉眼的及化學的鑑定）、定性分析、種苗鑑定、器具機械の名稱取扱法並に播種及び整地の實地等である。此等の研究は勿論小學校や自宅では到底出來ないから、農事試驗場農學校等を事情の許す限り度々見學して實習をやらして貰ひ、又は休暇を利用して講習を受ける等して十分にやつておかなければならない。筆記試驗の成績がどんなに優良でも此の實地試驗が拙ければいふまでもなく合格が出來ない

のであるから。

尙實地の研究に就て某合格者は下の如く述べてゐる。曰く『元來農學そのものは學理と實地と相俟つて初めて効を奏するものであるから、本の上の研究をすると共に實地の研究を忘つてはならぬ。私は農場で仕事をする場合には、着手前參考書を研究してから仕事をはじめた。そうすれば仕事に趣味があるばかりでなく理論と實際とを比較對照することが出來て容易に忘却することはない』と。これ實に何人にもすゝめたき研究法である。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三を參照せよ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　實地及び口答試驗に對する準備と注意

某合格者は本試驗に對する準備を如何にせしかを下の如く語つてゐる。曰く『本試驗には實地と口答試問があるから中々樂觀を許さない。私は主として農藝化學器械、試藥、種子、肥料其の他農業關係の實物、器械、藥品等につき、その鑑定名稱使用法及び農業教授法を研究した。或は縣立農學校の化學室を訪うて說明をきゝ或時は農事試驗場の分析室で實驗をやらせて貰つた。そして奉職校長の親切によつて試驗一週間前に上京し、農科大學の標本室、附屬教員養成所の化學實驗室に於て縱覽を許され或は實驗することを許されその指導をさへ賜つた。實驗に於て粗忽なことをしたり又誤りはなく共その操作の熟練を欠いてゐてはつまらない。此の實驗室で利益を受けたとは實に多大なものである。尙試驗前農業教員養成所の練習校たる豐多摩農學校で授業の研

究があつたのでこれにも參觀を許され敎授法についての實際的知識を得て益する所があつた。』と。

尙某合格者は本試驗の際に於ける注意として下の如く述べてゐる。曰く『本試驗に於ける實驗は主として化學は肥料定性分析にして實物鑑定は化學試驗用具又は農具農作物種子なり。此の時は試驗官との間の口答試問なれば殆どすべての人は事々に躊躇し不斷知りをるものと雖も異名を答ふる樣の間違を生ずる場合あれば、靜かに氣を落ちつかしめ十分熟視しこれにて大丈夫なる所にて返答せざるべからず。輕薄にして一言遠ふ事も重大なればなり。化學實驗にありても試驗管の振方藥瓶及蓋の持方藥の入れ方等小さき所まで綿密に注意しおくべし。或る人可檢品に水を入れ溶解せしめて水を濾過すべきものを、あわてゝ濾過することなく直に試藥を投入せるが如きことありたりと。かくの如きは大禁物なれば平時より十分練習をつみ些少の過なき樣注意せざるべからず。』と。尙第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

第二十八章　體操(普通・兵式)科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　理論の研究が不十分　本科も亦理論と實地との兩方面があつて、豫備試驗で不合格となるのは理論が不出來のため、本試驗で不合格となるものは主として實地が不出來の爲めであるといふことが出來る。而して例年豫備の不合格者が本試の不格者より著しく多いところを見ると、受驗者は一般に理論の研究が不十分であることが明かである。可兒委員曰く『學力が十分でない、體育の理論の方の研究が割合に出來てゐないといふことを數年來つゞけて感ずる。書物は澤山あるのであるから先づ學

理の方をよく研究して來て貰はないと、徒に僥倖を目的に受驗してゐるのではないかと思はれる人が隨分多い。成績を調べて見ると何等の用意もして來てゐない人が居る。生理解剖上の知識、體操といふことに關する學問を教育上から研究すること、男子女子の心理等體育の範圍は極めて廣いのであるからいろ〳〵さういふ方面から研究して來ねばならぬ。」と。今後の受驗者は此の方面を十分研究してから試驗場に臨み少く共豫備試驗に於て見苦しき失敗を招くやうのことがないことを切望する。

ロ　研究の順序を顚倒してゐる　多くの受驗者は先づ參考書に依て理論の研究をしてから實地研究に着手する。然るに永井委員の説による時はこれは研究の順序を顚倒せるものである。曰く『檢定試驗を受ける人々に限らずすべて體育を研究する人々にとつて大切なとは實地の練習と理論の研究の順序を誤らないことである。此の科の如き實際的の事柄ではどうしても先づ實際的から入らなければ嘘である。然るに東洋流の學者的態度我が國教育者の机上研究の弊は、此の體操科にもあらはれて書物の研究を先にして實地の練習を後にする者が隨分少くない。これは一寸初めは入り易い樣に見えるけれども、それは皮相の感であつて書物から先に入つた者はうすつぺらで徹底せず、その上初めに不徹底に入つた者を本當に徹底させるといふことは却て骨が折れて結局誤れる迂遠のやり方となるのである。此の見地からいふと體操科の試驗法の如きも出來得べくんば從來の豫備試驗と本試驗を逆にしたい位のものである。卽ち豫備試驗の際に實地を試みて其の不成績のものはどし〳〵不合格としてしまつて、その實地に合格した者だけに就て理論及び本試驗を行ふ方が正當の順序であると思ふ。只これは種々の關係から今日さういふ手順をとることが出來ない事情があるから、試驗の方法は從來通りになつて居つた所で、受驗者の研究の方法は必ず本末を顚倒しないやうに切望する。』研究の順序がその當を得ない時は勞多くして功少いはいふまでもない。讀者にして若しもその順序を顚倒してゐる者があるならば早速改めらるべきである。

ハ　女子は男子より不成績

勿論中には男子を凌駕するほどの人もあると思ふが、一般的に云へば女子受驗者は男子受驗者に比して理論實際共不成績であるといふことである。永井委員曰く『特に女子希望者に對して云ふ時は、何れの事情も男子よりは大層困難で從て受驗者の覺悟勉強も一層の努力を望まれねばならぬ。然るに近來の實狀を見るに不幸にして女子希望者の方に實地理論共に研究の成績不徹底の者が男子によりも多く認められるのは、事情には同情するけれども誠に殘念なことである。今後の受驗者は此の點に就て數層倍の奮勵をして貰ひたいと思ふ。』と。編者もまた委員と共に女子の大奮發を望んで止まない。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　普通體操本試の準備に就て

豫備試驗は理論の研究さへ十分に出來てゐれば通過することが出來るけれども、本試驗はさう簡單にはゆかない。然らば如何なる準備を以てこれに臨むことが必要であらうか。受驗者はこれを可兒委員の口からきくことが出來る。曰く『本試驗には口頭試問もして此の人はどの位の研究をしてゐる人であるかも見るから力の無い人は直ぐ分る。其の場合に人物も見るのであるからそのつもりでなければならぬ。又實地の試驗は今日體育上必要なものは體操でも競技でも遊戲でも皆試みて見るのであるからそれ等に就て可なり熟練してゐなければならぬ。と同時に體力も練つておく必要があらう。凡ての運動を一通りやつて見るのであるから弱い人では困る。それから試驗場に臨んでは落ちついてやることが大切である。ずるい考を起して僥倖を望む樣なことは絶對にやめて貰ひたい。時々口頭試問などに於てごまかさうといふ樣な態度の人がないでもないが、それは直ぐ分るから誠實でなければならないと思ふ。それから女子には行進的運動なども課するからそういふ類の研究も必要である。』と。

ロ　競技遊戲をも重く視る理由

數年前から競技遊戲が重く視られて從來より

も問題の數が多くなり隨て時間も增されるやうになつた。近來文檢に於て何故にかくの如く競技遊戲が重視せらるゝやうになつたかは受驗者の是非心得ておかねばならぬことである。此の方面を擔任せらるゝ野口委員の『體操と競技との關係は今更說明する必要もない。これを一言で表現すれば體操は恰も文法の如く、遊戲競技は正しき文法の應用に依て作られた文章の如く、二者は唇齒輔車の關係にあることは今日體育に理解ある人の誰しも否定することの出來ない所である。然るに過去に於ては體育指導者は所謂體操そのものゝ教師であつて、體操を指導し得ると共に其の應用である遊戲競技といふものを深く理解し十分に指導し得る素養の缺けて居たことは遺憾であつたが、時運の趨勢に從つて今回は遊戲競技の方面にも理解あらしめる點に重きをおいて問題の數も增しその解答の時間も今迄よりは增して此の方面の實力と知識とを知らんとしたのである』と云ふ談話は卽ちこれが理由を明かに示せるものである。

ハ　競技遊戲の問題に就て

野口委員は前年の競技遊戲に關する問題は如何なる趣意の下に選擇せるかを語つてをられる。依て以て例年の問題選定の方針を窺ふことが出來て受驗者を裨益することが少くないと思ふからこゝに採錄することにした。委員曰く『最も相應しき問題を選定するために關係委員協議の上問題を選定した。その中の一題は所謂國際オリンピック大會に就ての常識を知らんが爲めの目的であつた。他の二つ卽ち陸上競技の出發合圖法に關する問題と走り高飛びとに關する問題とは、今日一般青年學生間に行はれてをる競技そのものを選擇したのであつて、夫等の點に對しその要領其の審判の方法規則等を知るのが目的であつた。最後の一問はバレーボールの問題であつて之れは團體競技としての教育的價値を知るのが目的であつた。以上の問題は何れも今日學校青年指導に直接必要なる問題であり今日の場合に對しては適當なる選擇と考へたのである。但女子に對しては走り高飛び及び出發企圖法に關する問題に代へるに女子に相應した他の問題を選擇した。そは勿論男子女子が指導上に於ても相違せる點を參酌したのである。』と。

ニ　競技遊戯の豫備試驗成績はよい　扨て右の如き趣意の下に選擇した問題に對する受驗者の成績はどうであつたか。野口委員曰く『約四百人に近き豫備試驗の成績を拜見したのであるが、未だ競技の方面に於ては適當の參考書も日本には少く又地方に於ては獨自の研究も甚だ困難の狀態であるから、その成績は定めて豫想以下のものであらうと思つて居たのに、時運の然らしめる爲めか案外によい成績を見たることは私共の愉快に感じた所である。殊に國際オリンピック大會に就てもバレーボールに就ても中々精密なる知識と觀察とを有する者が多かつた樣である。しかしながら青年學生等に十分の指導を與へ得る點に於て競技會の審判長又は審判員としての理解に於ては不十分であるのである。此等は緊急に研究を要する問題である。但總體から觀察するに私共の豫想以上の成績であつたといふことは事實である。』と。

ホ　競技遊戯の本試驗の内容と成績　競技遊戯の豫備試驗の内容と成績とは上述せるが如くであるか、然らばその本試驗の成績と内容とはどうであつた。これに就ては木村委員の談話を紹介して見よう。委員曰く『四百人に近き豫備試驗受驗者中から體操競技教練の各班に通じて相當の成績の方約八十名を本試驗受驗資格者として十一月上旬から東京に於て試驗を行つた。御承知の通り豫備試驗は筆答であるが本試驗は大體技術の試驗である。此の本試驗に於ては跳躍方面の體力と技術とを見る爲めにホップステップ、アンド、ジャンプと走高飛とを行つた。此の二つに於ては正確なる歩測と正しき踏切りと、空間の要領の外、その人の氣力勇氣果斷等の精神面方面の現はれを見たいと考へたのである。此の方面に於ては天賦の體力を有するものとの間には大なる差が現出せられるものであるが、私共は所謂技術家の試驗でなく體育指導者としての試驗であるから、必ずしも高く飛び得なくとも、常人としての成績を擧げるならば結構であると考へた。投擲方面に於ては圓盤投げを行つた。これは他の砲彈投げ槍投げ等も行ひたかつたのであるが、時間の許さゝる關係上最も精神と體力との密接なる關係を有する圓盤投げ一つを

以て此の方面を代表せしめた。此の競技は遺憾ながら、他の二つと比較すれば幾分劣る傾向を有して居つた。其の他はローハードルの飛び方、スタートの要領、出發々走法中距離競爭法、長距離競爭法等を行つたが、此等はあからさまに云へば概して成績は良き方ではなかつた。以上本試驗の成績を概評すれば中には優秀なる成績の人も居たが體育指導者の缺乏せる今日に於ては可なり讓歩した方も多かつたのである』と。卽ちこれによつて見る時は競技遊戲は一般に理論方面の研究は比較的よく行つてゐるが、實際方面はまだ〳〵遺憾であることが明かである。實際の研究は中々困難には相違ないが平素十分の心掛がありさへすればいくらも練習の好機を得られることであるから、今後の受驗者は此の方面に於ても遺憾なき準備を以て試驗に臨まれるやうにせられん事を希望する。

ヘ　競技遊戲の研究に就て　競技遊戲はもと外國に發達したもので我が國に於て盛んに行はれる樣になつたのは比較的近年のことであるから、これを十分に研究せんがためにはどうしても外國の參考書をもひもとかなければならない。一般の受驗者に對して外國書を讀むことを求めるのは今日のところ無理な注文かは知れないけれども、今後の受驗者は是非それ位の意氣込があつてほしい。木村委員曰く『日本に於ける競技の研究は時運の趨勢と共に最近に起つたものであつて、彼のアメリカの如く又かのイギリス、スウエーデン、フランス等の如く精細なる研究は出來て居ない。文檢受驗者の參考書としては現在日本にある幾つかの參考書の外、少く共米人Murphey氏のAthletic training 英國の Musabini 氏の The Complete Athletic trainer 等を讀む必要がある。此等の本は前者は比較的身體の修練の要領に秀で後者は技術の方面に於て勝れ共に競技研究の入門に於ては參考となるべきものである。時間の不足なる關係から受驗者がとれだけ參考書を讀破しどれだけ理解を有して居るか、その程度を尋ね知ることを得なかつたのは甚だ遺憾であつたが、若し今後私共が檢定委員を任命せられることがあつたならば、競技そのものの性質が有效であり又完全なる注意と理解とを

持たなかつたならば往々危險も伴ふことであるから、以上の諸點に就てもお會していろ〳〵きくことが必要だと思つた』と。雜誌等にしても外國出版のものは我國のそれに比して異常に進歩してゐるから英語その他の外國語を讀める人は是非購讀されることをお勸めする。

ト　兵式教練の成績とその準備に就て

從來の兵式教練の成績はどうであるか、今後の受驗者は如何なる方面に主力を注いで研究すべきであるか等に就て水足擔任委員が試みられた談話は男子受驗者の必讀を要するものである。委員曰く『私の分擔は體操科の兵式教練であるが受驗者の中には玄人も遠く及ばぬ位實力の確かなのだとも云へないことはない。全く受驗者の告白によると一番難しいのは兵式教練であると。けれども事實兵式教練で失敗する人は割合に少い。かゝる點から見れば反て一番易いふ人は多くは軍隊の味を知つてゐる樣である。さうかと思ふと中には怪しいのがある。その教養を根本的に疑りたくなる者もないではない。併し例外は別として大體に於て良好と見做される。元來受驗者は大部分中等教員志望と見なければならないであらうが、さうだとすれば何より先づ第一番に中等學校で教へる教授事項の會得が主眼でなければならぬ。中等學校に於ては大部隊の隊形に關する教練よりも最も基礎的な各個教練の動諸作の方面が重要な譯である。所でかうした方面は十分研究してゐないのである。例へば動令と動作との關係は無茶苦茶の者がある。よし理論的には知つてゐたところで、實際がなつてゐないから何にもならない。たとへば行進間の方向變換の場合何れの足に動令をかけていゝか分らない。或は惑ふ、何といつても實際上の修練が足りない。此等は今後の受驗者の注意すべき點の一つであらうと思ふ。今日のところ大抵の學校では軍人に兵式教練をやらせておくが軍人でなければ兵式教練は出來ぬといふ樣では面白くない。普通體操の教師でも兵式教練は十分出來るといふ意氣をもつて研究して貰ひたい。現に青山師範では完全にやつてゐる。前述の如く完全なる

示範をなすには動作の形式ばかりよくやつたとて十分ではない。動作に內在する訓練の精神を十分會得してゐなければならない。所で受驗者は此の精神方的面がとかく粗雜な嫌がある。從て號令なども活々としてゐない。必ずしも音聲の良否に關係しない。力の籠つた精神の充實した號令は如何なる危機に於ても卑怯なる個人的觀念から超越せしめる。それだけの信念の下に敎練を行はねばならない。敎練の眞の興味はかうしたところに實は存在するものである。それから兵式敎練を受ける準備としては別に澤山の書物を讀む必要はない。軍事上の專門に入つた高尙な本を讀んでどうも分らんといふ樣なことをいつた人があつたがそれは餘り必要はない。それよりむしろ軍隊に入つて實際の指導を受けるが一番よい。師範學校でやつた位では不十分である。軍隊に行かない人は將校あたりについて研究するがよいと思ふ。しかるに極く淺薄な研究でやつて來る人がある。それかと云つてそんなに難しいことを要求するのではない。敎練の精神が了解出來て居るかどうかを見るのである。』と。

ナ　合格の秘訣

編者は最後に永井委員の言葉を借りて本科合格の秘訣を說かう。『檢定試驗を受ける人に最も希望する所のことは、檢定の資格を得るため有資格といふ看板を得るために必死に勉强するのでなく、此の科の敎師たるに堪へる所の十分なる身體と精神とを我が身そのものに鍛へ上るつもりで勉强せねばならぬといふことである。此の眞面目なる覺悟が最も成功の秘訣でしかもそれは單に檢定試驗に合格する秘訣たるに止らず將來永く此の科の敎師として大成する秘訣である。今日まで遭遇した所の多くの受驗者の中にも此覺悟の不十分で投機的に受驗して一時の僥倖を得んと徒に苦勞して居る者が少からずあつた樣に感ぜられた。又合格者の中にも合格したといふ看板に滿足してその科の研究を止めてしまふ爲に有名無實の有資格者に退化する者も少くない樣に思ふ。本科研究の困難なる我が國の事情を以てして、しかもさういふよい加減な思ひ付きでは到底成功する筈もなく、又かういふ思ひつきをすることそれ自身既に敎師として不合格のものであるといつてよい。從來體育が輕視され體操科

の教師亦極めて低く視られ、從つて此れが修業も他の科が三四年かゝるならば一年か二年で足りる如く思ひ、從てその檢定試驗も容易に受けられる樣に思はれてゐた時代もあつたか知れぬが、今日に於てはそんな積りでは斯の道に對して相すまぬのみならず到底合格などは出來るものでない。』と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【普通體操】

◎文部省　學校體操教授要目　寶文館
◎永井道明著　學校體操教授要目の精神及實施上の注意　同文館
◎同　人　學校體操要義　大日本圖書會社

一と三とは反覆熟讀、實地練習と相伴つて眞に徹底的に研究しなければならぬ。二は一研究の參考として必要な本である。

普通體操の試驗準備としては右の二書だけでも十分であるが、尙左記の諸書によつてその知識を廣むることは大に望ましいことである。

◎二宮文右衛門著　新時代の要求に應ずる小學校體操　目黑書店
◎廣瀨齋藤共著　體操教授の實際的新主張　大日本學術協會
◎二階堂とくよ著　體操通俗講話　寶文館

【競技遊戲】

◎可知南北著　小學校に於ける陸上競技之理論及實際　目黑書店
◎野口源三郎著　オリンピック陸上競技法　寶文館
◎可兒早島共著　小學校遊戲の理論及實際　目黑書店
◎木下藤作著　日本體育叢書　健康堂

◎盛山智利編　運動競技辭典

右の中二は最も重要で理論と實際とを十分に研究して置かなければならぬ。

【兵式體操】

◎歩兵操典

◎陣中要務令

◎歩兵射撃教範

右三書を精細綿密に研究して略んど全文を暗記する位までになれば兵式は占めたものである。右の參考書としては次の如きものがある。

◎河村大佐著　歩兵操典の研究　川流堂

◎歩兵學校著　陣中要務令要解　兵林館

◎同　上　教練實施上犯し易き過失　川流堂

◎陸　軍　省　第一期に於ける各個教練及教育要領　同　上

◎同　上　第二期に於ける中隊教練及教育要領　同　上

【生理衛生】

◎川瀬元九郎著　解剖生理及體育　內田老鶴圃

◎宮地滿治著　解剖生理及衛生　南江堂

◎井上金輔外三名著　生理衛生教授の理論及實際　大同館

中等教科書を熟讀せる後、右の何れか一冊を中心書とし、他を參考としてその不足を補つておけば十分である。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　理論　某合格者曰く『理論の研究に就て肝要なことは中心書物を定め繰返し〳〵精讀して、血となし肉となし眞に自己のものとなすことである。而して操典要務令等は成るべく原文を暗記することをつとめる。これ豫備筆答の際短時間にて主眼

點を失はず簡單明瞭に認めることが出來るからである。體操や競技遊戲の理論は實地練習と並行して研究しなるべく簡單にし記憶することに努めるがよいと思ふ。理論は精密に研究し、何故にと云ふ理由をよく研究してをくことが大切である。又時々問題集によつて解答を試みたり自分で問題を作ることも肝要である。』と。尙第二章第二節の二を參照せよ。

ロ實地　某合格者曰く『體操受驗の難關は理論よりも實地にあると思ふ。技術は一朝一夕で急に進歩するものではない。豫備の成績を見て初めて驚く樣では合格は覺束ない。實に絶えざる努力が大切なるは練習仲間を作ることである。一人では跳越臺等の如き器械を出すにも不便であるし亦練習に張合もなく且つ面白味もつかない。かゝるところから自然練習が怠り勝になつて來る。又一人で如何に邁進の氣象を以てやつたところで、自己の缺陷は自分では分らない。でやつたほどの價値が無い。ところが練習仲間が二三人も居たら練習に張合もつき元氣も出て自己の缺陷も十分矯正して貰ふことが出來るから非常に效果が多いと思ふ。二三人の仲間を求めることが出來なければ一人だけは必ず求めなければならぬ。次に器械を用ふる運動で右と左とあるもの例へば下向橫跳の如きは左右何れにても十分出來るやうに練習しなければならぬ。而して器械は試驗場のものと同一寸法位のもので練習しておくことが甚だ必要である。小さい器械で日頃練習してゐて急に大きなものでは中々うまく行かぬ。是非何とか工夫して同一寸法位のもので練習することが肝要であると思ふ。又器械を用ゐない技も練習しなければならぬことは勿論であるが、これには友人から自己の姿勢を十分矯正して貰ひ無意識でも正しい姿勢をとり得る樣に練習しなければならぬ。』と。

また一合格者曰く『私が主として練習したのは鐵棒の上からの振跳び、えび上り橫振飛、三節の尻上り、三節の足掛上り、バックの直立跳（開閉脚とも）跳臺の水平跳スプリング使用の跳上跳下、跳臺使用の下向橫跳、倒立、轉廻。懸垂では水平棒の仲

轉向横行、屈臂轉向横行。競技では圓盤、槍、鐵丸投射、走高跳、ポップステップジャンプ、走巾跳發走法等である。體操の大勢はパック、鐵棒、水平跳、倒立で決定せられます。これが不得手では合格しません。』と。

右は共に極めて有益なる注意であると思ふ。尙地方にありて師友を有せざる人は體育會主催の體操講習會に出席して教授を受けることは大に結構なことである。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三を參照せよ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　實地又は口答試驗に對する準備と注意

某合格者曰く「本試受驗には必ず一二週間以前に上京し、試驗委員の授業を參觀し又試驗場の器具をかりて練習し器械に慣れておくことが大切である。練習には一人ではことが大切だ。すべて引込主義になつてお互に練習したり矯正したり疑を質す生に教を乞ふことが大切である。試驗の時は動作は思ひ切つて活潑にすること、特に前後の姿勢を確實に行ふことが大切である。又一二の運動に失敗したからとて落膽せず眞面目に終りまでやり通すことが大切である。尙試驗場にはよく服裝を正して行かねばならぬ。次に兵式教練の本試驗に就ては是非一度軍隊の見學が必要である。實地及び口述問題では十分熟慮して答へ且つ實行し決して曖昧なることをしてはいけぬ。各個教練の教授は分解教育を用ひ長々と說明を試みるが如きは不可、一歩々々教授す

べきである。號令の間違つたものをかけてはならぬ。自己の威信に關する。で十分練習記憶しておくことが大切である。又不動の姿勢は軍人基本の姿勢であるから、何れの動作をなさしむるにも先づ不動の姿勢に正してから動作をなさしめねばならぬ。』と。尙第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

第二十九章　劍道科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　劍道科試驗の內容　劍道と次章に揭げる柔道とは體操科の一部分ではあるが各別々に受驗して免許狀を得ることが出來るから便宜章を異にして說くことにしたのである。

さて本科の試驗に於ては大體如何なることが課せられるか、受驗者は第一にそれを知らなければならない。山本委員の談話はこれを明かに示すものである。曰く『豫備試驗は大體普通の知識があるか無いかを見るのであるから、劍道の方に於ても大體劍

道の理論は一通り分つて居るかどうかといふことを見てゐる。それに附帶して一般的の生理衞生體育の立場から見ての解剖衞生を課して居る。今後の劍道教師たる者は靑年を取扱ふのであるから。是非共一通りの生理學衞生學の素養がなければ劍道を教育上に課して有效に行ふといふことは困難で、之を豫備試驗に加へられたことは誠に結構のことと思ふ。要するに豫備試驗に合格した人は先づ頭の方に於ては劍道教育家として立つに差支へないと見てよい譯である。しかしながらこれだけでは劍道の教師としては不十分である。豫備試驗を合格した者は進んで本試驗を受けなければならぬ。本試驗の大體の分ちとして實力、型、教授法の三つがある。實力といふのは教師がもとになつて生徒を實際に指導する力があるかどうかといふことを見るのである。型は教師としての姿勢態度心の修練等が十分出來てゐるかどうかといふことを見るのである。尙進んで教授法の實際を調査して見るのであるが、これは一人の教師が多數の生徒を取扱ふことが出來るかどうかといふことを實際にもやらして見、又いろ〳〵教授上の諸要件につき試問もして見て、中等學校の教員としての資格のあるかないかといふことを考査することになつて居るのである。以上實力型教授法に於て一通りの教師としての素養のあるのを認めて合格者とする譯である。

ロ　實力がない　今日までの試驗の結果に就て云へば受驗者は一般に實力が甚だ不十分であるといふことである。本科の如き性質のものに於ては他の方面のことも必要には相違無いが先づ十分の實力が具つて居るでなければ到底教師たる資格を得ることが出來ないことが明かである。山本委員曰く『試驗の結果から見ると最も實力に於て不十分なものが多いのである。それで型と教授法に就て稍々研究して居る所も見受けられるが、最も教師の資格に於て大切なる實力が不十分だといふことでは教師となる資格がない譯で、今後受驗する者は此の點に一層奮勵努力しなければならぬと思ふ。單に實力と申しましても只勝負が强いといふことが實力がよいといふ譯ではないので、教師の姿勢態度氣合氣位引立の要領すべて生徒の模範として恥しからん程度の

ものでなければならぬ。どうも地方の人々は此の點に欠けてゐるのである。』と。又永井（利胤）委員も『受驗者一般に實力が乏しい。劍道教師となるには何よりも技術の實力が必要であることはいふまでもない。實力がないと第一生徒は馬鹿にするであらう。故に十分修練を積まなければならぬ。昔ならば免許獲得の力位に今ならば三級以上の實力がないと中等教員の資格がないと見て差支へなからう。』と云はれてゐる。いふまでもないことであるが今後の受驗者は飽くまでも實力養成に心を用ゐなければならぬ。

ハ　その他の欠點　受驗者の第一欠點は實力の欠點にあることは前項に於て述べた通りであるが、試驗委員より見る時は尚幾多の欠陷があるとは左記永井委員の談話によつて知ることが出來る。

『第一に型の練習が十分でない――型の稽古は中々侮り難いもので殊に教師となるには十分やつておかねばならぬものである。こは姿勢氣合態度の矯正などに非常に効果の多いものである。第二に氣合に力が足りない。氣合は精神の全的內容であり膽氣の量的威力である。昔は氣合の術などと云つて隨分工夫もし努力もしたものであるらしい。而して此の氣合の完成は要するに實力の完成に伴ふものであらうけれども、しかし又技術的實力進歩だけで獲得出來るものではない。やはり特別に精神の修養を待たねばなるまい。武術の心得のある荒武者でも日蓮上人の一睨に近寄ることは出來なかつたといふ昔物語は決して嘘ではないと思ふ。第三に劍道家としての心的鍛練が足りない。――昔は心の鍛練をなすために薄氣味の悪い不動明王の岩窟に立籠り或は深山幽谷に夜猿を友として修行し或は禪學を學んで劍道極意を悟らうと苦心慘憺したものだ。或は然らん、生死を超越したる禪妙味は劍道の極意と合致しなければならぬ譯だ心命を投げ出した人間の强さは又格別のものである。かゝる心的鍛練の出發點としては義人潔士の人格完成が內容とならねばならぬと思ふ。竹刀の一振りにも正義の閃きがなければならぬ心懸がほしいと思ふ。所謂人劍の心得である。劍道教師たらん者は

こんな點にも注意を拂はなければならぬと思ふ。第四に理的論方面の研究をもつと實際的にしなければいけない。理論は實際の場合に研究的態度で修練を積まないと理論が自得とならないものである。古人の理論先輩の理論を實地に研究して應用して見なければ自分の血となり肉とならない。劍道は全く實際的のものであるだけ理論を實際化しなければいけない。』以上の缺陷は何れも根本的のものであるからして今後の受驗者は夫等の點に特に十分に注意することが肝要である。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　**流派に拘泥せず精神修養を主眼とせよ**　中等教員として最も望ましき劍道は如何なる流派の劍道であらうか、又中等教育に於て劍道を課する本旨は何處にあるであらうか。受驗者は下記山本委員の談話を一讀する時はこれを明瞭に會得することが出來る。曰く『劍道の歷史關係上いろ〳〵の流派があるが各流の方法にのみ偏して居るといふことでは十分でない。今後の教師たる者は何流を問はず最もよい所を採つて惡い所を捨て流派に拘泥しないで所謂日本劍道といふ大きな立場から考へて研究工夫することが大切である。一地方の流派に拘泥する樣なことでは今後劍道教師としての立場を失ふ譯である。特に私の希望することは精神の修練であつて、文部省の趣意にもある通り勝負といふことにのみ重きを置いて居るといふと劍道の最も尊い精神の修練がおろそかになるので、劍道の精神としては何處迄も精神教育に重きをおかなければ劍道の立場を失ふ譯である。故に教授法もまた此の點に留意して工夫しなければならぬ。前年の試驗の結果を見るのに或る一部の教へ方に於ては多少研究工夫をして居る樣であるが、大きな目的を度外視して居る樣な感じがする。よつて教授法の大切な所は前に述べた精神的の方面であるから此の點に注意して工夫研究を望む次第である。』と。

ロ　**日本帝國劍道型**　受驗者は何流の型を學ぶが最もよいのであらうか。之れ亦

受驗者にとつて大切な問題である。山本委員は『型は何流の型を演ずるも差支無いのであるけれども、數年前日本劍道統一上大日本帝國の劍道の型を制定せられたからして、受驗者も出來得るならば此の型を練習し研究することが大切であると思ふ。此の型は實地試合に最も活用される樣に組織せられたもので他の流派の型とはその趣を異にして居るのである。何故ならば各派の最もよい所のみを選んで組織された十本ではあるが、之を實地に活用する場合には幾本にも變化し得るのでその理合等に於ては最も適切に研究されたものであるからである』と日本劍道型を推奨され、又永井委員も私の流儀は直心影流であるが今日の劍道教育家としては一流一派に偏しない方がいゝと思ふ。十分上達した上でないと以苦しい我流に流れ易い。都合の宜しいことには日本劍道の流派を統一する爲めに日本帝國劍道型が制定されてゐるからそれによつたら一番よいと思ふ』と同樣にこれをすゝめられてゐる。されば受驗者は何等迷ふことなく此の型を學べばよい譯である。

ハ　劍道の研究及練習に對する注意

最後に劍道の理論を研究し實地の練習をするには如何なる注意を要するかを說明しておかう。山本委員曰く『日頃地方で練習されてゐる人は休暇或は各自の都合をつけて、都會の道場或は主だつた諸學校等に於て數週間或は數ケ月間の修養をする樣な機會を作ることが最も大切の樣に思ふ。なほ理論等に就ては數種の著書もないではないが、先輩或は大家に接して種々なる講說をして貰ひ、或は自己の研究を披露してその教を乞ふといふ樣なことは最も緊要のことであると思ふ。學校としては東京高等師範學校京都武術專門學校等は最も適當と考へる。なほ著書に就ては高野佐三郎氏の「劍道」などは斯道の書物の中でも最も平易に詳細に編纂されて居る樣に考へる。又劍道と禪といふことは誠に當を得たことであると思ふ。古の名人宮本武藏先生の傳書等は斯道を研究するに最も奥義の所を示されて居る點が少くない。要するに無形の心をもつて有形にあらはす所の修業であるから短日

月の研究短日月の苦しみでは十分な研究が出來ない。日々の研究を重ねて終生研究す
るの態度で此の道に從はねば滿足した結果を得ることが出來ぬのである。』と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【劍道理論】

◎高野佐三郎著　劍　道　劍道發行所
◎山本兵治著　劍道要義　健　康　堂

以上の二書は反覆精讀し、實地に伴ふものは實地もやつて徹底的に研究しなければならぬ。試驗準備としてはこれだけで十分であるが、香川輝氏の『劍道極意』千葉周作氏の『國民劍道教範』加藤咄堂氏の『劍道禪話』等も讀んでおけば益する所がある

であらう。尙

◎武德會　武德會雜誌　京都武德會

は有益な記事が極めて多いから每號講讀しなければならぬ。」

【生理衛生】

前章體操の部に揭げたものを讀めばよい。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　理　論　某合格者曰く『劍道理論に於ては參考書によつて攻究し、實地の伴ふものは何時も木刀或は竹刀をとつて聯絡せしめて記憶を正確にし、理論だけのものは時々これを書きて答案の練習をなしたのである』と。理論の研究としてはこれ以上の方法は無いと思ふ。

ロ　實　地　實地は是非相當な師に就て十分に練習を積み少く共武德會、

講道館又は高等師範の階級三段に相當する位の實力をつけることが必要である。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三を見よ。

四　筆記試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　實地及び口答試驗に對する準備と注意

某合格者曰く『少く共一週間前に上京し高等師範の體育科の生徒諸員にお願して型の惡るい所を矯正して貰ひ且つ說明もさゝ自分で研究もして受驗せらるゝ方が宜しからうかと思ひます』と。

尙第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

第三十章　柔道科

第一節　試驗委員より受驗者へ

イ　柔道の眞精神を理解することが肝要

劍道同樣生徒の精神修養にあるのであるから、これが教師たらんとする者はその方面に於て遺憾無き修養を有せねばならぬことはいふまでもない。然るに受驗者の多くは此の最も大切なる方面を閑却して徒に形式的方面の研究にのみ力を用ひる傾があるといふことであるがこれは全く本末を顚倒せるものと云はなければならぬ。村上委員の「先年の豫備試驗に「講道館柔道と在來の柔術の區別を述べよ」といふ問題を出して見た。所がこれに對する解答の多くは其の兩者の形式的方面に現はれた差異點のみを指摘するに止まり、最も主要とする精神的方面が全く閑却されてゐたのは遺憾であつた元來柔道は柔術を母體として生れて來た强敵を倒すための技術を學びながら而も術と云はずして道といつたところに深い意味があるのである。勿論在來の柔術と雖も己が妙技を徒に弄び罪なき者に暴威を振ふことはその精神として許すべからざるよである に違いない。乍併初めより精神敎育や體育てふ問題を意識的に强き目的として起つたのではなかつた。爲に動もすれば驕慢嫉妬卑劣な心象が生じて來て單に腕節が强くなれば何んでもよいと云つた氣分が充滿してゐた。これに反し柔道は道に立脚しない腕力は最も惡むべきものとして起つた。人道が中核である。筋肉の一つ〳〵の運動は悉く道德的意味を有つたもので、道德的意味なくしての技は柔道でないといふところに柔道の精神があることとなつた。これが爲めに道と殊更に改變したものであつた。然るに柔道を學ぶ者の此の精神を全く理解せずに、柔道を亂川し暴行をなすものが少くないといふことは余等の甚だ遺憾とする點であつて何等かの機會に於て十分述べたい

と思つてゐるのである。されば柔道教師として立つ人には是非此の精神の理解が必要なことと思ひ前述の如き問題を選んだ譯である。卽ち柔道の教師は柔道の眞の精神を知らないでは、單なる技術の修練、卽ち攻撃防禦防衞の外何も教へることは出來ぬのである。かくて教育てふことと沒交渉なものになつてしまふのである。今後は勿論かうした同一問題は提供される筈もなからうが、此の意味を十分理解してゐない時は實地試驗の場合にその人の技に現はれる精神無理解のところから合格を許さぬこともあるであらうから注意すべきことである。』といふ談話を一讀する時はこのことの益々重要なることを覺り得るであらうと思ふ。

〃　精神教育の機會を捕へんとする用意　上述せるが如く柔道の本旨は生徒の精神修養にある。而して柔道教師は實に他科の教師よりも、より多くの而してよりよき教育機會を捉へ得るものである。かうして、平素これを見のがさぬやうにする用意が必要である。村上委員はこれに就て更に語をついで『それは妙なもので人間の卑怯な心は眞の自己を何等かの姿を以て隱さうとする。正直さうに見せて不正直なもの、、豪膽に見せかけて卑怯な者、淡白に見せて陰險な者、殊に佞奸な奴になると自己の行爲を赤裸々に公開することによつて寧ろ自己の本質を隱すことになる巧妙な術を知つてゐる者もある。此の種の者になると寧ろ彼奴は面白い奴だといふ風に感ぜしめて苦もなく彼の手中に陷入れてしまふ天才的自己掩蔽者がある。併し乍ら一度道場に引き出して見ると、その筋肉を通じて現はれて來るとても包み切れぬ個性を感知し得るのである。平常度々喧嘩などをする者で其實頗る憶病な者や、平常頗る柔順の如くして而もいざといふ時に持久力のある沈着な人を見るが、此等の點を利用して教育に力を注いだなら今迄暗闇に葬られてゐた新しい教育機會を隨分捉へ得ることと思ふ。されば今後の柔道教師を志望するものは柔道の精神を理解してゐないと、その無理解が彼の筋肉を通じて他に影響する有害な意味を知らねばならない。卽ち精神の修養を忘れるとたとへ技は三段でも四段でも必ずしも教師として合格出來ると限らないことを併

せて知らねばならない。』と說いて受驗者に警告を與へられてゐる。

ハ　理論と實際とに十分通ぜねばならぬ　完全なる教師たらんが爲には理論實際兩方面に十分に通じなければならぬ。實地に上達しても理論にくらき者理論に通じても實地の未熟なものは教師たるの資格無きこと勿論である。これに就てもまた玆に村上委員の談話を紹介しなければならぬ。曰く『技の實地が出來てゐても技の說明の出來ないものは教師の資格を缺く。最近文化の程度が進んで來るにつれてその說明も全く科學的基礎に立脚しないと生徒の方でも承知しない樣になつた。それには力學の知識も必要となる。前年の豫備試驗に「巴投を說明せよ」といふ問題を出した。然るに巴投が出來ても說明の出來ない人が不思議なほどあつた。巴投を十分に說明するには是非共槓杆の理を知らなくては不可能である。最も少き力で最も多き能率を出すといふ所に巴投の理論がある。而して此の理論を實際に行ふ場合は丁度自分の腰が相手の股間を支點とすることになるといつた風に理論と實際の兩方面を明確に知らねばならぬのである。事實此の理論と實際を十分に知つてゐないと技の進步は望まれない。此の二方面を科學的に知つてゐる者と知らないで殆ど我流的にやつてゐる人とはその進步に著しい相違がある。教師としては此の二方面を知悉してゐないと惜しや天分をもつた生徒の腕を延し得ずに終ることがあるのである。すべて人間には天分があり素質がある。體質如何によつて各人の進步の程度が極つてゐる。併しながら理論及理論適用の實際は限りなく深められるものである。されば四段の教師が必ずしも三段の教師よりも優秀な成績を擧げ得ると限らぬ。此の點を十分に考へておくべきである。技の力としては先づ二段以上で十分であらう。尤も大都市になると中等學校の生徒に初段の者も少くはないから此の意味に於て都市の教師は三段以上の實力の必要があらうと思ふ。』と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【柔道に關するもの】

◎磯貝　一著　柔道手引草　杉本江陽堂
◎横山大島共著　柔道教範　二松堂
◎有馬純臣著　有馬柔道教範　岡崎屋書店

以上三冊を實地と關連して十分に研究すれば十分である。而してまた

◎柔道會　雜誌柔道（今は有効の活動）　柔道會本部

は柔道、生理衞生兩方面に亘つて毎號試驗委員その他知名の士が執筆せられ受驗上極めて有益な記事に富むから是非購讀することが必要である。

【生理衞生に關するもの】

第二十八章體操科の部に示せるものを見よ。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　**理　論**　前章劍道の理論研究法を參照せよ。

ロ　**實　地**　某合格者曰く『受驗者中には形で落される人があるから十分に練習しておかなければならぬ。形は柔の形が第一、亂捕の形が第二、極めの形が第三であると思ふ。何れも必要だけれ共前二者は特にしつかりやつておかねばならぬといふことである。夏休にある東京高師の講習に出席して諸先生の講義を熱心にきゝ練習して置けば十分でこれが一番よいと思ふ。亂捕の强味は三段標準であるといふことであるが、私の受驗の際に二段の人も合格したから二段でもよいのかも知れぬ。あまり歩合でポン〳〵やつてはいけぬ。といつて頑張つてやると稽古の風が惡くなるのでいけぬから中を難かしい。先づ思切つて姿勢をよくして行くときに行き餘りやられぬ樣にして稽古する事が良と思ふ。中學の教師としては强いのみでなく稽古が正し

くないといかんから正しい稽古を比較的凡ての方面の圓滿に出來てゐる人を採用する、方針であるといふことであるから注意しなければならぬ」と。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三を見よ

四　筆記試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　實地及び口答試驗に對する準備と注意

前章劒道の受驗者同樣試驗前一週間前位に上京して高等師範に於て稽古することが必要である。尚第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

第三十一章　音樂科

第三十一章　音樂科

第一節　試驗委員より受驗者へ

一　受驗者の通弊

イ　技術で落第する人が多い　音樂科檢定試驗の目的は云ふまでもなく師範學校中學校高等女學校に於ける音樂を敎授し得る程度にあるのであるから試驗の凡てがこれから割出される。隨つて問題は音樂の理論及音樂の技術の三方面に亘つて課され、その中前二者は主として豫備試驗の筆答に於て試みられ、後者は本試驗に於て驗されるやうになつてをる。而して他の科目にある所謂口頭試驗の如きは特に時間を設けず技術檢定の際隨時これを行ふこともある位のものである。然らば以

上の中如何なる方面が最も不成績であるかといふにそれは技術の方面であつて、他の方面が相當に出來ても技術の未熟な爲めに失敗する人が中々多い。受驗者は先づ次に記す島崎委員の談話を熟讀するを要する。

試驗の『成績を見るに豫備試驗の筆答は毎年さう惡いことはない。どちらかと云へば近年は大變に進んで來てをるやうである。が本試驗の技術となるとどうもまだ勉强が足らん所がある。それ故筆答の成績が非常によいにも拘はらず遺憾ながら技術の點で落第するやうな人も少くない。尤もこれにはそれ〴〵原因もある。例へば音樂の歷史や理論は參考書さへあれば何處にゐても勉强出來るが技術はさうは行かない。殊に地方に居ては斯道の大家の實際に接するやうなことは中々困難である所から肝心な呼吸が判らない。此の點は實に本科受驗者の爲めに氣の毒である。東京音樂學校の甲種師範科のものゝ如きも年により多少相違のあることは免れぬ所であるが、大體から云つて年々少しづゝ進步してゐるのである。その人達の現在やる樣なことを試驗しなければ

ならぬとすると職を有つて居て側ら準備をしてゐる人には隨分困難な事と思ふ。私共もその困難は隨分察して同情してゐるのであるが、併しまた受驗者の中にもその困難の中に努力してよく準備してゐる人もあるのであるから、學校以外の者はどうしても中等教員の免狀をとり得ないといふことは言へない。全體音樂の試驗は理論だからと云つてさう輕視する譯ではないが、その性質上何と云つても實技の方が大事である。故に試驗も此の方面を重視することは云ふまでもない。かやうな次第故本科の受驗者は機會ある毎に注意して實技を練ることに努むるが肝要である』のである。

ロ　應用力が無い　前項と結局同一なることではあるが受驗者は技術に十分熟達しない結果として應用力といふものがまるつきり無い。然るに此の應用力は中等教師として極めて必要なもので、應用力が不十分であればとても完全に教授することが出來ないと云はなければならぬ。岡野委員が『音樂科受驗者が年々增加の傾向あるは喜ばしい。しかしその學力は增加に比例して進歩しないのは遺憾である。一體受驗者は試驗に捉れて只合格しようとばかり考へてそれ以上の努力をしない樣である。例へば或る樂曲を習得するにそれを間違ひなく奏するに止つて、その樂曲の精神作風を一向顧みないのはその曲に對して了解が出來てゐないからではあるまいか。それから概して應用の力が缺けてゐる。例へば新曲に出合ふと單に間違なく奏する者が殆どないと云つてよい位であるが、これはその人の平素の修養が足りない爲めである。これは殊に中等教員には困る。といふのは中等教員はその應用の力が一番必要であるのはいふまでもない現在の中等學校に於ける音樂の教科書は一定してゐない。從て教師は種々の教材を自分で統一し編纂する必要がある。されば應用力・學力二つながら揃つてゐなければ決してよい結果は得られない。』と云はれてゐるのは卽ち此の意義を明かにせるものである。

同委員は更に語をついでその他の缺陷に就ても下の如く述べられてゐる。曰く『尙ほ部分的に批評すると發聲發音の練習が不完全の樣に思はれる。殊に發音のことは地

方的關係があつてその矯正が困難なる點もあるが、しかし此等は唱歌によつて矯正することが出來る。その他記譜法などもいかがはしい者があつた。これらも實際教授に當らんとする者には注意を要する。』と。

二　受驗者に對する注意と希望

イ　先づ自己の素質を考へよ

如何なる學科にせよそれに上達せんとするには先づ自己の素質を考慮する必要のあるとは云ふまでもないが、本科の如きは殊に大に然りであると云はなければならぬ。普通の學科であるならば幾分天分に於て缺くる所があつても努力によつてこれを補つて行くことが出來るけれども、本科の如きは天分が乏しき時は如何に努力するも中々上達することがむづかしい。殊に試驗委員の方針として單に表面に現はれた試驗成績ばかりでなくその天分をも斟酌して合格不合格を決定するといふことであるから、此の科は天分の豐でない人は受驗を斷念した方がよ

いと云はなければならない。今後本科に志す人は須く下記島崎委員の談話を一讀して先づ自己の天分如何を考慮すべきであると思ふ。委員曰く『本試驗に於て出來榮えが相當よくても、その人の將來なほ研究したならば進歩するといふ見込が立たなければ合格は不可能と思ふ。從來その方針でやつて來多少準備が不完全でも將來伸るかといふことを餘程酌量してゐる。その人の音樂に對する才能所謂たちがよくなければいけないのである。無論中等教員の檢定試驗であるから只技藝ばかり出來ればよいといふ譯ではない。一二回の試驗ではよく分らぬが人間として敎員となる資格を具へて居らねばならぬことは受驗者もよく心得て居ることと思ふ。』と。

ロ　受驗準備に對する一般的注意

島崎委員は受驗準備に對して下の如き一般的注意を與へられてゐる。曰く『樂器試驗に就て言ふと日本今日の樂器は何と云つてもオルガンが一番廣く行はれてをるから、檢定試驗に於てもオルガンを以て試驗することとなつてをる。中にピアノやバイオリンなど希望するものもあるがそれらは先づ

異數と云つてよい。故に受驗者は此のオルガンを十分に練習しておくべきである。參考書は成るべく廣く邦書原書等に亘つて見ておくにましたことはないが、併しなか〳〵これを手に入れることは困難であるから先づ最少限度の勉强として、東京音樂學校甲種師範科一年乃至三年の教科書なり何なりをよく見ておくことが必要である。殊に三年あたりのものは十分調べておくがよい。それから本試驗の時に聽音書取といふものをやるが、これは耳の聽音能力がどうであるかを檢定するので、豫め作つておいた曲を樂器でひいて之を靜かにきかせて書取らせるのである。これもちよい〳〵隙ある毎に準備として練習しておくがよからうと思ふ。男の受驗者と女の受驗者と兩者を通じて見るに筆答は男の方が女の方よりも優つてをるやうである。が技術は敢て差異は無い。此の點からすれば女の受驗者はもう少し筆答に關する方面を男に負けず研究する必要がある。最後に一言しておきたいのは、音樂の問題として歷史とか理論とかの外に、かういふ教材は何年あたりから課するを適當とするとか、又時局から見て音樂教授の如何なる點を改善する必要があるかとか云ふ樣な應用問題も偶には出ることがあるといふことである。それは別に今新しく云ふまでもないことでこれ迄出てをるのである。從て此の種の應用問題として時局と關係する樣なことも研究しておくのは教育者としては極めて大切であるといふのである。』と。受驗者にとつて極めて有益なる注意であると思ふ。

ハ　理論の研究法　受驗準備上心得なければならぬ一般的注意は上述の通りであるが、更に進んで理論と技術との勉强の仕方を述べて受驗者の參考に供しやうと思ふ。一體勉强の仕方はいふまでもなく如何なる學問でも注意しなければならぬものでその方法を誤る時は徒に多くの時間と勞力とを費すばかり結局得る所の少いものである。音樂の如き技藝に關するものは殊に然りであつて、あせつては反て進歩せず、さればとて落ちつき過ぎては尙進歩しないからして巧みに勉强しなければならぬのである。

先づ第一に理論の勉強の仕方を說明しよう。弘田委員曰く『音樂理論とは音樂に直接關係ある理論、卽ち音そのものを取扱ふ理論例へば音樂通論、和聲樂學、式學等の如きものです。而して通論とは音樂全般に對する理論で、樂典に始まり和聲學樂式學器樂編制法節奏等に亘るもので可なり廣いものですが、日本で出版されて居るものの中まだよいものを見ません。原書にはよいものがいろ〳〵あります。ヤダスゾーン氏著「音樂通論」リヒター氏著「音樂要素の知識」等もよい書の一つです。樂語の一致せぬには眞に困ります。どれでもさうですが殊に困るのは樂典です。只今東京音樂學校で樂語を調査しつゝありますから之が發表されゝば凡て一致するでせうが只今の所ではまち〳〵で困ります。原語で云ふのが最もよいのですが、と云つて一語一語原語で話されるのも嫌味になります。そこら邊りの加減は音樂學校の在校生又は卒業生にきくのが最も宜しい。和聲學は可なり精密に研究しなければなりません。一字一句もかりそめにしない樣にしてそして常に其の基礎になる原則を忘れぬ樣にすることです。たとへば三音を重ねない方がよいとあればそれを嚴守し已むを得ない場合又は前後の關係上最も自然な場合にのみ重複します。原則をかりそめにして細則にこだはると何だかわけの分らぬ事になります。常に原則を基礎として考へる事が大切です。樂式はいろ〳〵の曲を分解して見る事です。大曲も必要ですが小さい唱歌たとへば中等唱歌集の曲等が宜しい。樂式は原書か音樂學校の者のノートを借りて勉强するのです。要するに音樂の理論は眞面目な精密な研究が大切です。』と。

ニ　技術の勉强法　次に技術の勉强の仕方に關しても亦弘田委員の談話を紹介する。曰く『技術は何と云つても良教師に就て學習しなければなりません。中には獨學で檢定に通過した人もありませうが、それは極めて稀であると共にそれは一時のことで眞に無限に進まうといふ事は出來ません。第一良教師の指導がないから非常な無駄な勞力を費し、正式でないから餘りよい成績を擧げ得ず、而も行きつまつて或る程度以上の進步は困難です。かゝる人が良教師に就てかゝる努力を以てしたならば如何

に進歩したことでせう。後に大きな悔を殘さぬ樣注意しなければなりません。そして熱心な練習が最も必要です。熱心な――練習は此の一語に盡きるので深い意味を含んで居ります。粗雜な練習注意の散漫な練習は何時間つゞけても無駄です。與へられた時間には熱心に練習することです。練習してをる時他の事を考へ出して困るといふことを度々きゝますが、それは未だ熱心さが足りないので火の樣な練習にそんな事を考へるときは無い筈です。かういふ人は教師に思ひ切りどなられると宜しい。そして練習して居て疲れたら止めるとです。二時間なり三時間なり熱心な練習をして疲れたら休んで暫くして又ひくことです。五時間も六時間もつゞけたところで疲れゝば注意が粗雜になるばかりで何にもなりません。そして力に相當した曲を完全に練習することで、所謂有名なむづかしい曲をよい加減にひくことは最も愼まねばならぬのです。之は音樂的虛榮であり音樂的墮落であります。之と共に簡易な曲を澤山練習してみるのです。之は譜を見る力を增します。此の場合粗雜にならぬ樣にする注意がなければな

りません。要するに先づ技術を勉強する。それに並行して理論の研究をする。そして技術は熱心に理論は明確に研究する。かくして次第〳〵に進んで行く。藝術の殿堂の奥へ〳〵と入り込んで行く。單に檢定試驗の爲めの勉強でなしに藝術の爲めの研究となつていたゞき度い。それでこそ檢定にも通過し且つ益々進歩し藝術を理解する事になる。そしてかく考へることによつてその勉強は一々悉く深い意味となるに至るのである。』と。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

【聲樂に關するもの】

◎東京音樂學校編　中等唱歌

◎コーアーユーブンゲン第一卷（Chorale Ubungen）

◎コンコニー聲樂書（Concone: Edition Peter saorb）

聲樂では右の三種は是非しつかりやつておかねばならぬ。これが十分に出來てゐなければ合格は到底覺束ないのである。尙試驗中でも聲樂は重きを置かれる方であるから餘力を以て右のほかなるべく多くの中等學校教材に當つておくことが望ましい。殊に

◎リーデルシエッツ

◎ブッフ　デル、リーデル

兩書からはよく教授法の問題がよく出るからこれは必ずやつておくべきである。

【器　樂】

◎島崎赤太郎著　オルガン教則本

本書は初步の練習書として最も適當なもので續篇は特に主要であるから大に力を

◎ベンダ教則本（Ernst Felix Benda）

に移る。これは是非やつておかねばならぬもので續篇は特に主要であるから大に力を入れてやるがよい。これがすめば次に

◎ラインハード　スチューデン（August Reinhard: Harmonium Studen 50 Lessons）

◎ラインハード、ソナチネ（Drei Sonatinen）

に移り、前者によつて譜と鍵盤との關係及び運指法の研究を十分にやつて、後者の中の一曲は少く共やつておくことが必要である。次にやつておくべきは

◎小さいレーメンス（J. Lemmens: Horceaux Pour Orgue Melodium）

◎ノエル、ペリー編　オルガン、ピアノ練習書　　共益商社

の二冊である。

器學としては右に掲げたものをしつかりやつておけば立派なものである。」

【樂　理】

(1)音樂總論（樂典）

◎石原重雄著　新定樂典教科書　富山房

◎田村虎造著　樂典教科書　開成館

石原氏のを先にやり次に田村氏のを研究するがよい。同時に次の書によつて術語を正確に知ることは第一節の試驗委員の談話中にもある通り甚だ重要なことである。

◎吉田恒三著　音樂辭書　開成館

(2)和聲學

◎山田耕作著　近世和聲學講話　開成館

和聲學中最新のもので必讀の好參考書である。次に

◎淺田泰順著　律氏和聲學　共益商社

も必ず研究しておくがよい。第三篇は殊に肝要である。

(3)音樂史

◎田邊尚雄著　通俗西洋音樂講話　岩波書店

◎宮尾木知佳著　西洋音樂史綱　共益商社

前者を精讀し後者を以て補つておけば十分である。」

(4)樂式

◎山田耕作著　簡易作曲法　開成館

樂式には右のほか邦語の參考書が無い。音樂學校甲種師範科生徒のノートを借りて研究することが必要である。

【教授法】

◎山田正夫著　唱歌教授法通論　音樂社

右の一冊を讀んでおけばよからう。」

【其　他】

雜誌としては少く共

◎東京音樂學校　音　樂

◎音樂社　音樂界

の二種は必ず講讀し、種々の新刊書も成るべく廣く讀んで音樂一般に關する常識を養つておくことが極めて大切である。

尙右の參考書中發行所の記入なきものは共益商社等の音樂店に申込めば求めることが出來るであらう。

二　如何なる研究法をとるべきか

イ　聲樂に就て　・　以下音樂研究に就て述べる注意は悉く某合格者の談によれるものである。

聲樂は試驗科目中最も重きを置かれるものであるあるから特に力を入れてやつておかねばならぬ。然るに受驗者中にはこれをあまり重視せず自然練習を粗略にするためにこれで落第する人が多いといふことであるから注意せねばならぬ。

次にこの中には新譜の試驗がある。新譜とははじめて見る曲を直に唱ふことである。これは練習した人とそうで無い人とは確然差があるからよく練習して行くべきである。しかしこの練習は相當に力がついてから後にやるべきことは勿論である。

ロ　器樂に就て　器樂の研究上の着眼點は聲樂と同じく調子と拍子を正しくすることで、多くの教則本は要するに此の目的を達せんがための準備的のもので、如何にそれ自身がよく彈けても一樂曲奏演上にその實技を表さねば教則本としては何等の價値が無いのである。音階レコード練習もその通りである。

次に新譜の練習は少く共レーメンスを上げる時分に始めぬと曲を彈く時のレガートが崩れる虞がある。新譜練習とは何んでもあるものを見て直ぐ彈くことで、これをや

ると譜を見ることが非常に早くなる。從つて早い曲を彈く場合でもあわてずに彈くことが出るし第一が實用的の仕事である。これも聲樂と同じく同じものを二度彈き直す必要が無い。又後に彈くとしても彈けないでも一回で止めることが大切だ。尙これは自分の技術より低いものからはじめるがよい。

ハ　聽音練習に就て　聽音練習は試驗には二重音まで出るからそのつもりで練習しなければならぬ。方法は二小節位區切つて彈いて貰ひそれを聽き覺えて後書くのがよい。音をきゝながらは到底書き切れぬ。やはりやさしいものから順次に進め、二重音ははじめの中は一音部づゝ書取る樣にするが上達したら二音部同時にきゝ取る樣にせねばならぬ。

ニ　理論の研究に就て　何學科でもさうであるが理論は常に實際に後れて發達するものであるから、個人に於ても亦實地が相當に進んでから學習するのが順序である。さうでないと取扱ふ材料によつては材料そのものをさへ知らぬことを生じる。そんなことで理論の研究が出來やう筈は無いのである。

ホ　師につくことが必要　聲樂にせよ器樂にせよ全然獨學ではどんな天才でも決して物にならぬから必らず相當な師に就て學ばなければならぬ、音樂は得意だから出來ぬことはあるまいなど自惚れて獨習でやつたのでは何年やつたとて合格することが出來るものではないのである。

三　時間を如何に利用すべきか

第二章第二節の三を參照せよ。

四　筆答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せよ。

五　實地及び口答試驗に對する準備と注意

第一章第二節及び第二章第二節の五を參照せよ。

尙本科の如き實地と口答の多い科目に於ては殊に落ちつきといふよりはむしろ度胸のよいことが必要であるから、多くの場數をふんで度胸を練つておくことが極めて大切なのである。

第三十二章　教育大意

第一節　試驗委員より受驗者へ

イ　教育大意を受けねばならぬ受驗者　『教員檢定ニ關スル規定』第五條及び第九條による時は左記六項に該當する者は出願科目のほかに教育大意をも受驗しなければならぬ。

一　中學校卒業者

二　高等女學校及高等女學校實科若くは實科高等女學校卒業者

三　專門學校入學者規定に依る試驗檢定に合格したる者

四　專門學校入學者檢定規定第八條第一號により專門學校入學に關し指定を受けたる者

五　徴兵令第十三號又は文官任用令第六條に依り中學校と同等以上と認定せられたる學校を卒業したる者

六　尋常小學校本科正教員、小學校專科正教員及小學校準教員

但し以上の者にても『教育科』を出願した場合には『教育大意』の受驗は不必要な規定である。

此の試驗の行はれるのは豫備試驗の際であつて、例年三問題乃至四問題提出せられ時間は二時間が普通である。

尚本科の成績は如何に取扱はれるかと云ふに、たとへ出願科目で及第點をとつても教育大意が不成績な時は不合格となるのである。森岡委員の談による時は、『各科の不合格者中には專門の學科は出來てゐても教育大意や國民道徳で不合格となる人が大分ある』といふことである。されば受驗者は出願科目ばかりでなく本科にも相當に力を注がなければならぬのである。

ロ　教育大意を課する理由

前項に述べた如く『教員免許令ニヨリ授與セラレタル教員免許狀ヲ有スル者』及び小學校本科正教員』以外の受驗者は悉く、出願科目の外に教育大意をも併せ課せられるのであるが、これは如何なる理由によるのであらうか。一體教育大意の加へられたのは十餘年前からであつてそれ以前には誰でも出願科目だけ受驗すればよかつたのである。さればその時代の受驗者は只受驗科目の研究にのみ心血を注いで敢て他を顧みる者が無かつたものである。その當然の結果として專門學科には精通してゐるが中等教員として必要な教育思想は皆無であつて、非教育的で沒常識な教員が少からず出たのである。當局に於てもこれがために何科の擔任教師と雖も一通りの教育思想を有することの必要なるを覺つて、おそまき乍らも十餘前からはじめて此の科を新に加へ以て今日に及んでゐるのである。

以上によつて教育大意の加へられた理由は明瞭であると思ふが、尚これに關する吉田委員の談話を紹介して一層その趣旨を明かならしめ様と思ふ。博士白く『一體教育

大意を檢定の條件として入れるからには教育者として一通の教育眼を具へて置くべきものである。殊に中等教員としては自分の受持の學科を教育的に授けその學科の全きを期すると同時に學校教育全體からも調和を計ることを努めなければならね。之を換言すれば學校全體の德育を計る爲めには各教師は極めて教授を教育的ならしむることが大切である。教育大意の加つたのは此の趣意からであると思ふ』と。

前述せるが如く本科は中等教員として必要なる教育思想の有無を見んが爲めに課するものであつて、受驗者に對して專門の教育學的知識を要求するものではない。さればその程度は師範學校の教育科の程度とほゞ同一のものと見て差支ない。而して例年の問題を見れば分る樣にその出題範圍は教育學、教授法及心理論理の初步といふことになつてゐる。但し近年は論理學的問題はほとんど出されないやうである。

常識的知識ではいかぬ　教育大意の例年の問題を見ると極めて平易なものばかりなので、これなら格別參考書を讀んで居らんでも常識をもつて十分に答へると思ひ込み、特別の準備をせずに受驗する者が少くないらしい。しかし試驗委員の要求する所は程度は高くなくも確實なる學問的根底のある答案であつて、決して常識的の解答を求めてゐるのではないのである。されば常識を以て間に合ふと思ふが如きは大なる心得違と云はなければならぬ。試驗委員の目を以て見れば相當根底のある答案であるか常識的の答案であるかゞ決して分らぬ筈がないのである。故に受驗者は信賴し得る參考書に就て確實なる知識を養つておくでなければ思はぬ不覺をとらぬとも限らぬのである。乙竹委員も『教育大意は本科とは違ひ教育學を專門的に調べなくともよいから確實なる知識を有つて居ることが望ましい。それにはたゞ〳〵試驗のみをパスしようとして一夜作的に教育の本を讀んで來て受ける樣では駄目である』と注意されてゐる。豈んや一冊の參考書をも讀まずして試驗場に臨むが如きは無謀の至りなること明かであるのである。

二　中等教育本位の研究の必要

であるが、受驗者は中等教員を目的とするものであるからして、その研究の着眼點は云ふまでもなく中等教育本位でなければならぬ。此の點から云ふと既刊の參考書の多くは初等教育本位に書かれてゐるので研究上幾分困難な點もあることであらうか、受驗者に於て自ら多少工夫を凝らす時はすべてを中等教育本位に研究することは必ずしも不可能ではなからうと思ふ。吉田委員はこれに就て『教育大意は主に中等教育に從事する人としての根本概念を養ふにあらうと思ふ。其の趣意から行けばも少し中等教育本位に考を練つてほしい。尤も之は參考書が乏しいといふこともあらうけれども、そこまで進むでなければ教育大意を試驗する趣意は徹底しないと思ふ。この方は別に教育學の教師になるのでないから、教育の發達の大體、一般の原理、その基礎となる心理學等の要旨を調べればよいのであるが凡てのことが中等教育本位になるやうにしたい』と述べられてゐる。此のことは各學科の受驗者が教育大意を研究する際に一刻も念頭より離されざることを望んでおく。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

◎明治教育社編　文檢受驗用　教育大意　大同館

本書は檢定委員及び著名なる學者の説を巧に綜合して説いたものである。師範學校の教科書を基礎として本書を精讀しておけば教育大意としては十分である。尚次の本を參考として擬答を試みるときはその知識を確實にして受驗上大に有益であらう。

◎教育學術會編　文檢教育大意ト民道徳　問題解答　大同館

第一回以來の問題を悉く解答し兩科の研究法受驗法をも懇切に説述してある。研究法や答案の認め方に就ては第一章第二節及び第二章第二節の四を參照せられ

たい。」

第三十三章　國民道德要領

第一節　試驗委員より受驗者へ

イ　國民道德要領を受けねばならぬ受驗者　前章に述べた教育大意を受驗しなければならぬ受驗者は、悉皆國民道德要領をも受驗しなければならぬ。但、此等の受驗者と雖も『修身科』出願の場合に限り『國民道德要領』の受驗は不必要な規定である。

本科の試驗は教育大意同樣豫備試驗の際に行はれ、例年四問題で三時間と云ふのが普通である。

尙出願科目で及第點をとつても本科の成績の不良なる者は合格の出來ぬことは教育大意の場合と同樣である。されば本科も亦決して輕視すべからざるものなることいふ

生でもなく明かである。

ロ　國民道德要領を課する理由　國民道德が大部分の受驗者に課せらるゝことになつたのは僅々八九年前からのことである。然らば何故に特に新にこれを課するやうになつたのであらうか。思ふに文檢合格者は最も大切なる高等普通教育に從事するものであるからして、何科を擔任する教師たるにせよ我が國民道德の大本を誤りなく會得してをつて、教室內に於ては勿論教室外に於ても生徒を訓化して立派な中等國民となし得るやうでなければならぬ。それには從前の樣に單に出願科目のみに就て檢定して各受驗者の有する國民道德觀を不問に附するが如きは全く不合理であると云はねばならぬ。實際中等教員中には生徒に對して反國家的思想を鼓吹して問題を惹き起す者なども無いではないからして、本科を受驗者の大部分に對して課することは誠に必要なことと云ふべきである。國民道德の加へられたのはかゝる趣意に他ならないと思ふ。

國民道德は上述せるが如き趣意に依て課せらるゝのであるからして、修身科受驗者の如くそれに關する深遠なる專門的知識を要しない。卽ちその名稱の示すが如くに只『要領』を確實に會得してをれば十分なのである。

ハ　國民道德の意義と研究法　國民道德の解釋に關しては廣狹二義あつて學者の意見が一致してゐないから受驗者は何れに就くべきかに迷はされることと思ふ。しかしながら下記亘理委員の說の如く廣義の解釋に從ふが穩當であらうと信ずる。委員曰く『國民道德といふことに關しては種々の解釋があるが私はなるべくそれを廣義に解釋したいと思ふ。そこで今日中等教育に於て取扱つて居る修身科の各德目はすべて廣義の國民道德に屬するものと見ることが出來る。故に國民道德を研究するには先づ現行の中等學校の修身教科書を熟讀玩味して十分これを體得する樣にし、其の上國民道德に關する參考書を涉獵したならば先づ一通國民道德を修めたものと云つてよい』と。受驗者は此の談話によつて啻に國民道德の意義のみならず其の研究法の

大要をも會得することが出來るのであらうと思ふ。

尙前述の如く國民道は中等修身教科書を中心書として研究するを要するとしたならば、その根本精髓たる『教育ニ關スル勅語』の御趣旨はこれを徹底的に研究しておかなければならぬことは云ふまでもない。森岡委員はこれに就て『國民道德要領は倫理學の深い知識を要する譯ではないが我が國民として守るべき道の據り所については一通りは心得て居らなければいけない。勅語の御趣意を深く研究して居ることは教育者として極めて必要なことで、之が出來なければ如何に專門の學科に通じてゐても、或は學者とすることは出來るかも知れないが教育者とすることは斷じて出來ない。國民道德を研究するには勅語の御趣意を理解することが第一着で、又それと聯關した實踐方面のことに就ても研究して行かなければならぬと思ふ。』と注意されてゐる。

二　根本的信念を有つことが必要

本科はこれを課するに至つた趣意から見ても決して受驗者の國民道德に關する知識の深淺を試驗するものではなく、受驗者自各

が如何ほどまでこれをその身に體得してゐるかを檢定せんとするものなることが明かである。然るに受驗者中には之の趣意を誤解して單なる知識的試驗と心得徒に器械的暗記をことゝして試驗に臨む者が少なくないといふことである。されば吉田亘理兩委員は一般受驗者に對して左の如く誡められてゐるのである。

吉田委員曰く『國民道德要領は近頃一般に一通りの用意をして來る樣になつたので概して成績がよくなつて來てゐる。しかし概して云へば讀んだ本を器械的に呑込んで來る者が多い。或る問題に就ては殆ど互に相談したのではないかと思ふ位似寄つた答案を見る。縣を異にして其の答案の集つて來るのを見ると參考書を暗記的に記憶して書いたものと思はれる。いふまでもなく此の試驗をなす趣意は國民道德の一貫した心念を强固ならしめるのであるから暗記などを要求して居らぬ。將來に於てはだん〳〵に明治以前と明治以後とに於ける國民道德の意義の變遷とその批判といふ樣なことも考へて行くやうにしたいと自分一人は思つてゐる。とにかく中等教育は國民の中堅を

養成するのであつて國民の精神を陶冶する最も重大な機關であるといふ趣意から行けば、之を以て單なる暗記的の試驗と思はず根本的な心念を有つ機會にしたいものだと思ふ。』と。

亘理委員も亦『何科に限らず試驗の爲めの學問は困るのであるが國民道德の學問に於ては殊に然りと云はねばならぬ。故に國民道德要領の試驗を受けるにしても、只器械的に準備の學問をしてそれを試驗の答案に書くといふ樣なことではよい答案の出來る筈がない。先づ道德を我が身に體得しその道德を體得した人格そのものが答案にあらはれて來る樣でなければならぬ。只知識と文章とが秀でゝ居る爲めに上手に出來てゐる答案と、道德的の人格があらはれてゐる答案とは、少し答案を見慣れた者には見別けがつくのである。』と。

今後の受驗者は上述せる所を熟讀し本科の準備に着手するならば、從來の受驗者のなせるが如き見當違の準備に無駄骨を折るが如きことは無からうかと思ふ。

第二節　合格者より受驗者へ

一　如何なる參考書を讀むべきか

◎明治教育社編　文驗受驗用　國民道德要領　大同館
◎教育學術會編　文驗受驗用　教育勅語解義　同上

右は大多數の合格者の參考とせるもので國民道德は此の二冊を精讀すれば他を見るに及ばない。

尚左記の新刊書を讀んでおけば益する所があるであらう。

◎山田孝雄著　國民精神振作に關する詔書解義（大正十二年十一月十日の）　寶文館

研究法及答案の認め方に就ては第一章第二節及び第二章第二節の四に就て會得せられたい。

文部檢定中等教員 各科受驗者の手引 終

附錄

第一 教員免許令

（明治三十三年三月三十日勅令）
（大正五年三月十五日勅令第二十二號）

第一條　特別の規定ある場合を除くの外教員免許狀を授與するは本令の定むる所に依る。

第二條　特別の規定ある場合を除く外本例に依り免許狀を有するものにあらざれば教員たることを得ず。但し文部大臣の定むる所に依り免許狀を有せざるものを以て教員に充つることを得。

第三條　教員免許狀は教員養成の目的を以て設置したる官立學校の卒業者又は教員檢定に合格したる者に文部大臣之を授與す。

第四條　教員檢定は試驗檢定及無試驗檢定として教員檢定委員之を行ふ。

第五條　左の各號の一に該當する者は教員檢定を受くることを得す。

一　禁錮以上の刑に處せられたる者。

二、破產者は家資分散の宣告を受け復權せざる者又は身代限りの處分を受け債務の辨償を終へざる者。

第六條　教員檢定を出願するものは手數料として一科目毎に金五圓を納付すべし。

第七條　教員檢定に關する規定は文部大臣之を定む。

第八條　教員免許狀を受けたる者の氏名族籍及免許の學科は官報を以て之を公告す。

第九條　教員免許狀を有するも其の氏名族籍を變更し又は免許狀を毀損亡失したるときは其の事由を記し免許狀の書換若は再渡を文部大臣に出願することを得。前項に依り免許狀の書換若は再渡を文部大臣に出願するときは手數料金壹圓を納付すべし。

第十條　教員免許狀を有する者第五號各條の一に該當したるときは免許狀は其の效力を失ふ。

第十一條　教員免許狀を有する者不正の所爲其他教員たるべき體面を汚辱するの所爲ありて其の情狀重しと認むるときは文部大臣は其の免許狀を褫奪す。

第十二條　本令により納付すべき手數料は收入印紙を用ひ之を願書に貼付すべし其の既に納めたる後は何等の事情ありとも之を還付せず。

附　則

第十三條　本令は明治三十三年四月一日より之を施行す。

第十四條　本令施行前文部大臣に於て授與したる師範學校、中學校、高等女學校の教員免許狀及舊東京師範學校に於て授與したる中學師範學科卒業證書は本令に依り授與したる教員免許狀と同一效力を有す。

本令は大正五年四月一日より之を施行す（大正五年三月勅令附則）

第二　教員檢定に關する規定

明治四十一年十一月二十六日文部省令第三十二號　明治四十三年文部省令第三十二號改正　明治四十五年文部省令第七號改正　大正三年文部省令第十二號改正　大正五年文部省令第十四號改正　大正九年文部省令第八號改正　大正九年文部省令第九號改正　大正十年部文省令第十四號改正

第一條　教員檢定は受驗人の學力、性行、身體に就き之を行ふ。

第二條　檢定を爲すべき學科目左の如し。

修身、教育、國語、漢文、英語、佛語、獨語、歷史、地理、數學、物理、化學、博物、理科、法制及經濟、習字、圖畫、家事、裁縫、體操、音樂、簿記、農業、商業、手工、手藝。

歷史は日本史東洋史、西洋史の二部に。博物は動物植物、鑛物、生理及衛生の四部に。圖畫は毛筆畫用器畫、鉛筆畫用器畫の二部に。體操は體操、擊劍、柔術の三部に。手藝は刺繡、造花、組物、染色、機織の五部に分ちて檢定を出願することを得。此の場合に於て一學科目の一部若は數部の檢定を出願するも其の手數料に關しては一學科目と看做す。

手藝は染色若は機織を出願する者、裁縫と併せ出願する者又は裁縫若は手藝の免許狀を有する者の外二部以上に就きて檢定を出願するにあらざれば試驗を行はず。但し染色、機織に就きては當分の內試驗檢定を行はず。

前項の規定に依り裁縫と手藝の一部とを併せ出願する場合に於て、其の手數料に關しては一學科目と看做す。

數學は算術、代數、幾何、三角法及高等數學初歩に就き檢定す。

第三條　試驗檢定は每年少くも一回之を行ひ無試驗檢定は隨時之を行ふ。

試驗檢定の出願期限及試驗を爲すべき學科目は、文部大臣に於て之を告示し、試驗施行の期日は敎員檢定委員會に於て之を公告す。

第四條　檢定を受けむとする者は、第一號書式の願書に左の書類を添へ試驗檢定に在りては豫備試驗を受くべき者は其の受驗地の地方廳、其の他の者は便宜の地方廳を經由し、無試驗檢定に在りては地方廳若は當該學校を經由して文部大臣に出願すべし。

一、第二號書式の履歷書及受驗資格に關する學校卒業證書若は敎員免許狀の寫。

二、第五條第一號、第二號、第四號、第五號及第九號に該當する者に在りては第三號書式の當該學校長證明書同條第三號に該當する者に在りては第四號書式の試驗檢定合格證明書、同條第六號に該當する者にして敎員免許狀授與地方廳以外の地方廳を經由する場合に在りては第五號書式の授與地方廳證明書、第十一條第一項第二號に該當する者に在りては第六號書式の相當官署の證明書。

三、第七號書式の學校醫の身體檢査書。但し學校醫の設置なき地に在りては醫師法に依る醫師の身體檢査書を以てするも妨なし。

地方長官又は當該學校長は本人の性行に就き意見を具申することを要す。

第五條　左の各號の一に該當するものは試驗檢定を受くることを得。但し第二號及第九號に該當する者に在りては一ケ年以上在學し卒業したる者に限る。

一、中學校卒業者。

二、高等女學校及高等女學校實科若は實科高等女學校卒業者。

三、專門學校入學者檢定規程第八條第一號に依り專門學校入學に關し指定を受けたる者。

四、專門學校入學者檢定規程第八條第一號に依り專門學校と同等以上と認定せられたる學校を卒業したる者。

五、徵兵令第十三條又は文官任用令第六條に依り中學校と同等以上と認定せられたる學校を卒業したる者。

六、小學校本科正敎員、尋常小學校本科正敎員、小學校專科正敎員若は小學校準敎員の免許狀を有する者。

七、敎員免許令に依り授與せられたる敎員免許狀を有する者、

八、外國に於て師範學校、中學校、高等女學校に準ずべき學校を卒業したる者。

九、文部大臣に於て某學科目に關し適當と認定したる學校を卒業したる者。

第六條　左の各號の一に該當する者は文部大臣の適當と認めたる學科目に關し無試驗檢定を受くることを得。

一、文部大臣の指定したる學校の卒業者及選科修了者。

二、第五條第一號乃至第八號に該當する者にして卒業者の敎員無試驗檢定に關し文部大臣の許可を受けたる公立、私立學校に入り三箇年以上在學して卒業したる者。但し修業年限四箇年の高等女學校、高等女學校實科若は實科高等女學校卒業者に在りては家事裁縫、手藝の一科目又は數科目を修むる場合の外四箇年以上とす。

三、高等學校高等科教員免許狀を有する者。

四、第五條第一號乃至第四號に該當する者にして外國の大學又は之に準ずべき學校に於て修學し學位若は卒業證書を受領したる者。

五、相當の學歷を有し師範學校、官立、公立中學校、高等女學校及之と同等以上の官立、公立學校に於て五箇年以上檢定を受けんとする、學科目の教授を擔任し其の成績優良なる者。

第七條　試驗檢定を分ちて豫備試驗及本試驗とす。但し學科目の種類に依り豫備試驗を行はざることあるべし

豫備試驗を施行する學科目に在りては豫備試驗に合格したる者にあらざれば本試驗を受くることを得ず。

國語科の豫備試驗に於ては漢文、漢文科の豫備試驗に於ては國語を併せ課す。

豫備試驗に合格したる者は次の試驗檢定に同一學科目に付出願する場合に限り豫備試驗を免ず。

第二條第三項の規定に依り裁縫と手藝の一部とを併せ出願したる者に對する手藝科の本試驗は裁縫の本試驗に合格するにあらざれば之を行はず。

第八條　試驗は受驗人出願の學科目に就き其の教員たらむとする學校の學科目を教授するに足るべき程度を標準とし、國民道德要領、教育大意及教授法を併せて之を行ふものとす、但し教員免許令に依り授與せられたる教員免許狀を有する者若は小學校本科正教員に對しては本文國民道德要領及教育大意、修身科出願者に對しては國民道德要領、教育科出願者に對しては教育大意の試驗を行はず。

第九條　豫備試驗は願書經由の地方廳所在地に於て之を行ふ。

前項試驗の施行は東京府を除くの外地方長官之を監督す。

本試驗を行ふべき場所は教員檢定委員會長に於て公告す。

第十條　體操科中體操の試驗檢定を出願したる者にして左の各號の一に該當する者に就きては特に兵式に關する教練の試驗を行はず。

體操科中擊劍及柔術の試驗は女子に對しては之を行はず。

一、陸軍步兵科士官。

二、陸軍步兵科下士任官後滿四箇年以上現役に服したる者。

三、女子

第十一條　日本史東洋史科の檢定を受けたる者にして日本史、東洋史の一に關し成績佳良なるときは教員檢定委員會長は其の部分の成績に關し證明書を授與すべし。

前項の證明書を受けたる者にして更に同一學科目に就き試驗檢定を出願したるときは其證明書に記載せざる部分に附本試驗を行ふ。

第十二條　不正の方法に依り試驗を受けむとしたる者及試驗に關する規定に違背したる者は試驗を受くることを得ず。

檢定に合格したる後前項の事實發覺したるときは其の合格を無效とすることあるべし。

第十三條　本令は明治四十二年三月一日より之を施行す。

第十四條　明治三十二年文部省令第二十五號第二條に依り許可を受けたる學校に現に在學する生徒に對しては其の修業年限は第七條第二號に依らざることを得。

第十五條　左の各號の一に該當する者は第五條及第六條の規定に拘らず試驗檢定を受くることを得但し第一號に該當する者に關しては本令施行後三箇年間に限る。

一、明治四十年四月二十五日に現に師範學校、中學校、高等女學校又は徵兵令第十三條に依り中學校と同等以上と認定せられたる實業學校の教員の職に在りたる者。

二、前項に該當する者にして試驗檢定を受け數員免許狀を授與せられたる者。

第十六條　明治四十年文部省令十三號は之を廢止す。

明治四十三年文部省令第三十二號附則

本令は明治四十四年四月一日より之を施行す。

本令施行前、高等女學校の技藝專修科を卒業したる者又は本令施行の際現に高等女學校の技藝專修科に在學する者の檢定に關しては仍從前の規定に依る。

明治四十五年四月以前の各種學校卒業者にして文部大臣に於て第五條第二號及第六條第二號に該當するものと同等の學力ありと指定したる者は明治四十八年三月まで試驗檢定を受くることを得。

（明治四十三年文部省令第三十二號に依り改正前の第六條第三號規定）

三、高等女學校の修業年限三ヶ年以上の技藝專修科に於て主として裁縫又は手藝を學修したる者に在りては裁縫科又は手藝科

明治四十五年文部省令第七號附則

本令は明治四十五年四月一日より之を施行す但し第十一條及第一號書式は明治四十六年四月一日より之を施行す

大正五年文部省令第八號附則

本令は公布の日より之を施行す。

大正九年文部省令第九號附則

本令は大正十年一月一日より施行す。

本令施行前算術代數幾何の免許狀を授與せられたる者に對する數學科の試驗檢定は三角法及高等數學初步、三角若は解析幾何の免許狀を授與せられたる者に對する數學科の試驗檢定は高等數學初步に就き本試驗を行ふ。

前項の本試驗に合格したる者に對しては數學科の免許狀を授與す。

大正十年文部省令第十四號附則

本令は公布の日より之を施行す。

本令施行前に於て國語、漢文の一に關し成績佳良の證明書を授與せられたる者に對しては國語科若は漢文科の免許狀を授與す。

第一號書式】（用紙美濃紙）

附　錄

教員檢定願

印	
收入印紙	

本籍地
現住所
受驗資格

學科目

私儀師範學校中學校高等女學校教員志願ニ付前記學科目ニ就キ試驗(無試驗)檢定相受度書類ヲ具シ此ノ段相願候也

年　月　日

族稱
氏名　年　月　日生

文部大臣　宛

右　氏名印

(記載注意)(一) 族稱ハ華士族ニ限リ記載スヘシ
(二) 受驗資格ハ最主要ノ事項ノミヲ記載スヘシ
(三) 二科目以上併願ノ場合ト雖モ願書ハ必ス一通ニ認ムヘシ
(四) 出願者氏名ノ漢字ニハ振假名ヲ付スヘシ

【第二號書式】(用紙美濃紙)

履歷書

學業
一、年月日何學校何科第何學年ニ入學、年月日卒業
一、年月日何　員免許狀受領
業務
一、年月日何官職拜命又ハ何業ニ從事、年月日何事由ニ依リ退官職若ハ廢業
賞罰
一、年月日何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受ク
身上ニ關スル事項
一、年月日何事由ニ依リ何ト名氏ヲ改ム等

以上

年　月　日

氏名
年　月　日生

右

附錄

（記載注意一）　學業ハ受驗資格ニ關係アル事項ニ限リ記載スヘシ　二、教員免許狀ハ別紙ニ其寫ヲ添付スヘシ　三、業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限リ記載スヘシ　四、賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限リ記載スヘシ　五、身上ニ關スル事項ハ族稱氏名ノ變更等身上ノ異同ヲ詳記スヘシ

（記載注意二）　教員檢定ニ關スル規定第七條第五號ノ無試驗檢定出願者ニ在リテハ本書式ニ準シ學業、業務、賞罰ニ關スル事項ヲ詳記スヘシ

【第三號書式】

證　明　書

本　籍
氏　名　　年　月　日生

右ハ年月日本校何科第何學年ニ入學シ年月日同科ヲ卒業セシ者ナルコトヲ證明ス

年　月　日

何學校長氏名印

（記載注意）　學科ノ區別ナキ場合ニ在リテハ科名ヲ記載スルニ及ハス

【第四號書式】

證　明　書

本　籍
氏　名　　年　月　日生

右ハ年月日本校ニ於テ施行ノ專門學校入學者檢定規定ニ依ル試驗檢定ニ合格セシ者ナルコトヲ證明ス

年　月　日

何學校長氏名印

【第五號書式】

證　明　書

本　籍
氏　名　　年　月　日生

右ハ年月日當廳ニ於テ何教員免許狀ヲ授與セシ者ナルコトヲ證明ス

年　月　日

地方長官氏名印

【第六號書式】

附　錄

證明書

本籍

右ハ年月日陸軍歩兵下士任官後滿四箇年以上現役ニ服セシ者ナルコトヲ證明ス

年月日

氏名

年月日生

【第七號書式】（用紙美濃紙記載方は別記身體檢査書記載方心得に依るへし）

身體檢査書.

族籍

何某

年月日生

官職氏名印

一、體格

一、身長

一、體重

一、胸圍

一、中心視力、色盲、眼病

一、聽力、耳疾

一、呼吸器

一、神經系

一、皮膚

一、言語

一、既往現在ノ疾病又ハ畸形

右檢査候處相違無之候也

年月日檢査

住所

何學校醫

何某印

（學校醫ニアラザル者ナルトキハ學位若クハ其資格ヲ記載スヘシ）

【別記】

身體檢査書記載方心得

一、檢査の表記及身長體重胸圍聽力等の檢査方法は明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢査規定に準すべ

し。

一、體格の强健と稱する者は發育營養共に佳良ににして其の身長(糎)を以て體重(瓩)を除したる商 〇、三二以上且無病健全の者を指す。

中等と稱するは發育營養共に通常にして其の身長(瓩)を以て體重(瓩)を除したる商 〇、二六以上且無病の者を指す。

薄弱と稱するは發育營養共に不十分なるか或は身長(糎)を以て體重(瓩)を除したる商 〇、二六未滿なるか或は强度の脊柱彎曲、扁平胸狹小胸若は全身の健康に直接の關係ある慢性の疾患ある者を指す。

一、中心視力は「スネルレン」氏の試視力表に依りて其記載方は20/xと記すべし但し遠視者は近視にありては二十尺の距離に於て二十號を、明視し得る目鏡の度を記載すべし。色盲は其の有無、若し其の患あるものは何色盲と記載すへし。

一、呼吸器は理學的診斷の成績を記載すべし。

一、神經系は中樞若は末梢神經に障害の有無を記載すべし若し顏面等に現はれたる皮膚病あるときは之を記載すべし。

一、皮膚は主として傳染症皮膚病の有無を記載すべし著し。

一、言語は明朗吃喃聾等を記載すべし。

一、既往現在の疾病又は畸形、腦病、肺病、肋膜病、脚氣等の失患肺病、心臟病、胃腸病等の現在及顯著なる畸形を記載すべし。

大正拾三年九月壹日印刷
大正拾三年九月五日發行

不許複製

檢印

大同舘發行證

各科受驗者の手引
正價金參圓五拾錢

著作者　文檢研究會
東京市神田區表神保町七番地

發行所　阪本眞三
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷者　吉田松次
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所　株式會社秀英舍

發行所
東京市神田區表神保町七番地
振替貯金口座東京八七貳番
大同館書店

大同館發行書目錄

小林榮子著 ■ 源氏物語活釋 四六判 全壹冊 正價四圓八拾錢 送料廿四錢

小林榮子著 ■ 同 後編 四六判 全壹冊 正價四圓八拾錢 送料廿四錢

小林榮子著 ■ 近松世話淨瑠璃集成 四六判 全壹冊 正價參圓五拾錢 送料廿四錢

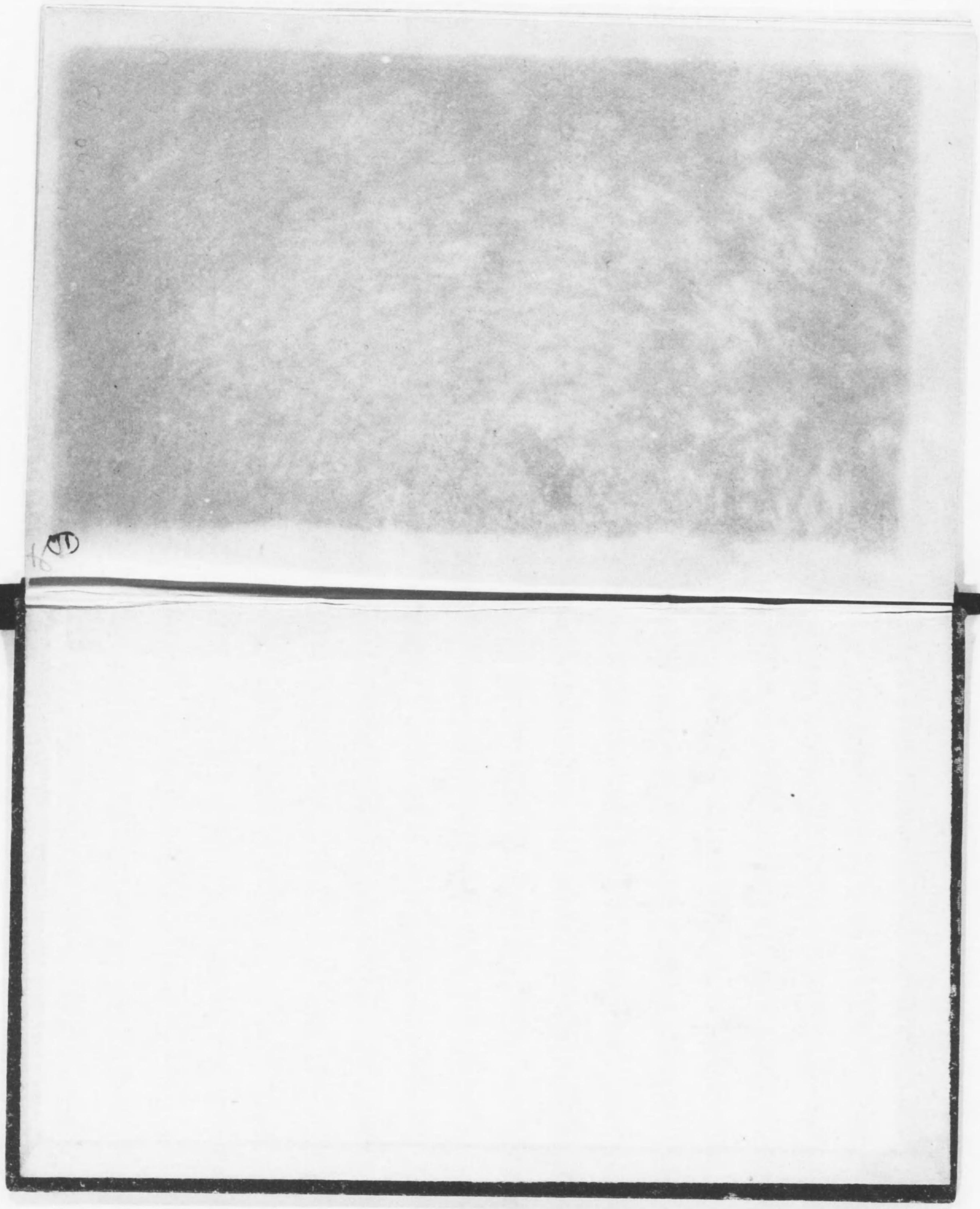
小林榮子著 ■ 近松時代淨瑠璃集成 四六判 全壹冊 正價參圓五拾錢 送料廿四錢

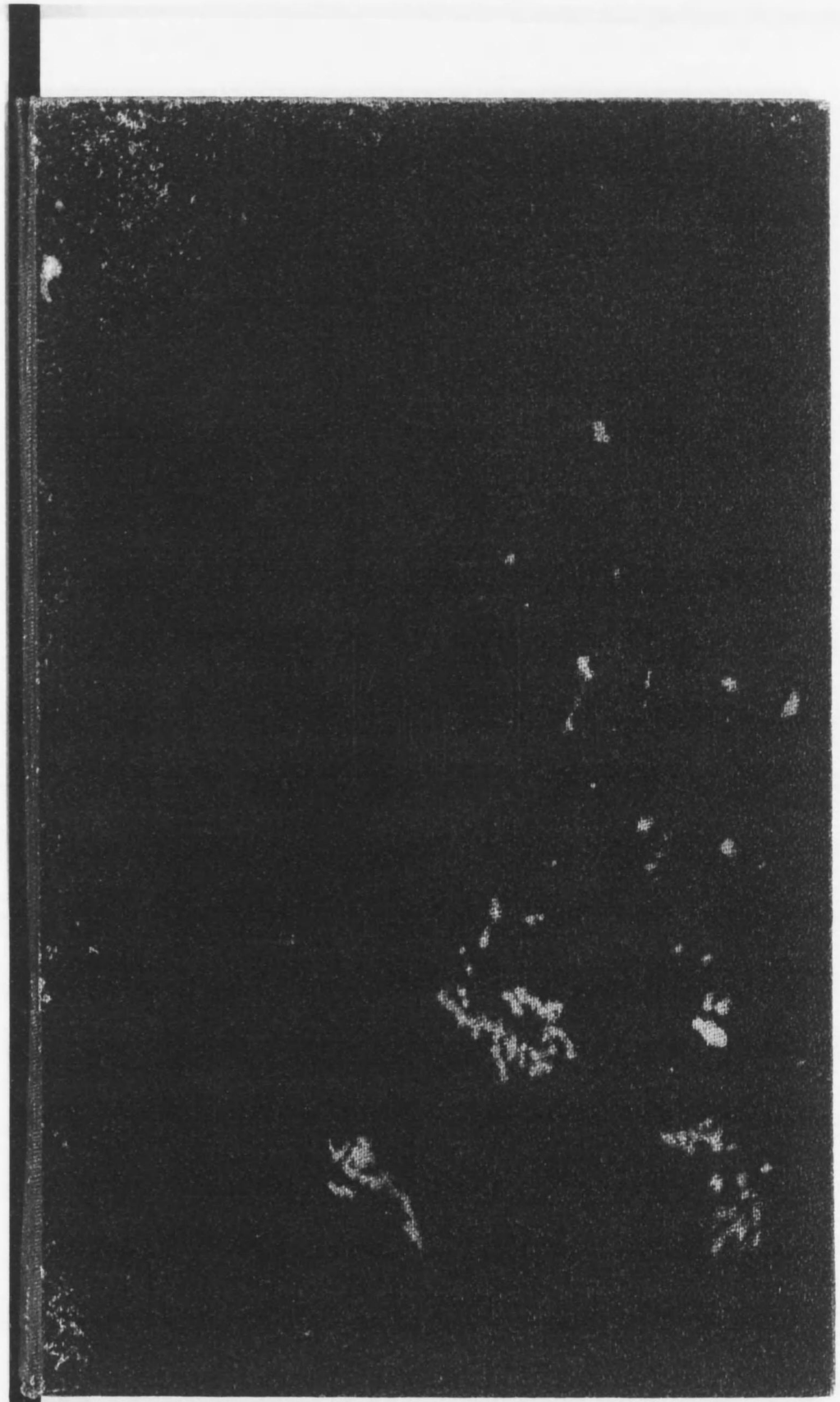
小林一郎著 ■ 芭蕉名句評釋 四六判 全壹冊 正價金貳圓 送料十八錢

小林一郎著 ■ 奥の細道評釋（附紀行文集） 正價壹圓參拾錢 送料十二錢

小林一郎著 ■ 七部集連句評釋 四六判 全壹冊 正價參圓八拾錢 送料廿四錢

小林一郎著 ■ 芭蕉翁の一生 四六判 全壹冊 正價貳圓八拾錢 送料十八錢





終